

女性と男性がともに暮らしやすい
豊中市をつくるためのアンケート
結果報告書

令和8年（2026年）3月

豊 中 市

目次

I. 調査の概要	2
1. 調査の目的	3
2. 調査の設計	3
(1) 調査対象	3
(2) 調査方法	3
(3) 調査期間	3
(4) 調査内容	3
3. 回収状況	4
4. 報告書の見方	4
5. 標本誤差	5
II. 回答者の属性（市民調査）	6
1. 性別	7
2. 年齢	8
3. 配偶者・パートナーの有無	9
4. 同居家族	11
5. 末子年齢	13
6. 職業	13
7. 雇用形態	15
8. 配偶者・パートナーの職業	17
9. 配偶者・パートナーの雇用形態	19
III. 結果の概要（市民調査）	21
IV. 調査結果（市民調査）	33
1. 日常生活や社会全般について	34
(1) 男女の平等感	34
(2) 日常生活や社会全般についての考え方	44
2. 家庭生活について	49
(1) 性別役割分担意識について	49
(2) 性別役割分担意識について賛成の理由	52
(3) 性別役割分担意識について反対の理由	55
(4) 家庭での分担	58
3. 地域活動について	72
(1) 地域活動の参加状況	72
(2) 地域活動に参加したくない理由	78
4. 男性の家事・子育て・介護・地域活動の参加について	81
(1) 男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくために必要なこと	81
5. 仕事について	85
(1) 女性の働き方について	85
(2) 仕事における平等感	89

(3) 仕事や家事・育児・介護に要する時間.....	97
(4) 希望する暮らし方	108
(5) 現実の生活	111
(6) 今後の就労意向	116
(7) 働いていない理由	118
(8) 仕事につく上での不安	121
(9) 働く上で大切なこと	124
6. 男女の人権について	127
(1) 配偶者や交際相手からの暴力に関する相談窓口の認知状況.....	127
(2) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）に対する認識.....	130
(3) 配偶者等への暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）に対する認識.....	136
(4) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）の経験の有無.....	141
(5) 配偶者等への暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）の経験の有無.....	150
(6) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）を受けたときの相談状況..	156
(7) 相談してよかったと感じたこと.....	159
(8) 相談しなかった理由.....	162
(9) セクシュアル・ハラスメントの認識	166
(10) セクシュアル・ハラスメントの経験.....	169
(11) 男性で「男性はつらい」と感じる理由	178
7. LGBTをはじめとする性的少数者について.....	180
(1) LGBTをはじめとする性的少数者の認知状況.....	180
(2) 身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験	183
(3) LGBTをはじめとする性的少数者にとっての社会の生活のしづらさ.....	185
(4) 生活がしづらい社会になっている理由.....	188
(5) 性の多様性理解の促進や支援のために必要だと思うこと	191
8. 男女共同参画社会の実現について	193
(1) 市が力をいれていくべきこと	193
(2) 防災対策において、性別に配慮した対応が必要だと思う事.....	198
(3) 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」利用状況.....	201
(4) 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら利用したいもの	204
(5) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の認知状況	207
(6) 困難な状況から回復するために必要だと思うこと	209
(7) 自由回答一覧.....	211
V. 回答者の属性（事業所調査）	215
1. 業種.....	216
2. 法人形態	217
3. 事業所形態.....	217
4. 従業員数	218
(1) 正規・非正規雇用者数計.....	218
(2) 雇用形態別の女性割合	219

5. 役職別の女性割合	221
VI. 結果の概要（事業所調査）	222
VII. 調査結果（事業所調査）	227
1. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	228
(1) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する取り組み状況	228
(2) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の取り組みを進める上での阻害要因	230
(3) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の取り組みを進める上で重要だと思うこと	232
(4) 育児休業・介護休業取得状況	234
(5) 育児や介護と仕事の両立を支援するために取り組んでいること	239
(6) 育児休業や介護休業を定着させる上での問題点	241
2. LGBTをはじめとする性的少数者の人権問題について	243
(1) LGBTをはじめとする性的少数者の人権問題の認識状況	243
(2) LGBTをはじめとする性的少数者への配慮に関して取り組んでいること	244
3. 各種ハラスメント（嫌がらせ）の対策について	246
(1) ハラスメント（嫌がらせ）対策実施状況	246
(2) ハラスメント（嫌がらせ）対策として取り組んでいるもの	248
4. 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）について	250
(1) 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）に関する取り組み状況	250
(2) 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）に関する取り組みの成果	255
(3) 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）に関する取り組みにあたる問題点	256
(4) 一般事業主行動計画策定状況	258
5. 男女共同参画の推進について	261
(1) 認証制度の認知状況	261
(2) 男女共同参画に関する支援意向	263
(3) 利用したい男女共同参画支援内容	264
(4) 関心のある講座・研修内容	266
(5) 自由回答一覧	267
VIII. 調査票	268

I . 調査の概要

1. 調査の目的

令和3年度（2021年度）に策定した「第3次豊中市男女共同参画計画」の中間見直しにあたり、市民の性別役割分担の状況や男女共同参画、女性活躍推進、ワーク・ライフ・バランスに関する意識、DV等の実態や事業所の意識などを把握し、今後の男女共同参画施策の推進及び次期計画策定のための基礎資料とすることを目的に実施した。

2. 調査の設計

（1）調査対象

- ・住民基本台帳から無作為抽出した、豊中市に居住する満18歳以上の市民計2,000人
- ・経済センサスから無作為抽出した、豊中市に所在する従業員数10名以上の事業所900社
- ・調査基準日 令和7年(2025年)9月1日

（2）調査方法

郵送による配布・回収（インターネットによる回答を併用）
※調査期間中に、はがきによる督促を1回実施

（3）調査期間

令和7年(2025年)9月10日～9月26日

（4）調査内容

【市民意識調査】

1. 日常生活や社会全般について
2. 家庭生活について
3. 地域活動について
4. 男性の家事、子育て、介護、地域活動の参加について
5. 仕事について
6. 男女の人権について
7. LGBTをはじめとする性的少数者について
8. 男女共同参画社会の実現について



【事業所調査】

1. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
2. LGBTをはじめとする性的少数者の人権問題について
3. 各種ハラスメント（嫌がらせ）対策について
4. 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）について
5. 男女共同参画の推進について

3. 回収状況

調査種別	配布数	回収数	有効回収数				有効回収率
市民調査	2,000 票	708 票 (内、Web 回答222 票)	708 票 (内、Web 回答222票)				35.4%
			女性	男性	その他	無回答	
			431 票 60.9%	264 票 37.3%	4 票 0.6%	9 票 1.3%	
事業所 調査	900 票	249票 (内、Web 回答92 票)	249 票 (内、Web 回答92票)				27.7%

4. 報告書の見方

- 1 図表の n (number of case) は、設問に対する回答者数のことである。
- 2 回答比率 (%) は回答者数 (n) を 100%として算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがある。また、一人の対象者に複数の回答を求める設問では、回答比率 (%) の計は 100.0%を超える。
- 3 図表中の「MA%」(Multiple Answer の略) という表示は、複数回答形式の設問 (回答選択肢の中から「○はいくつでも」選択する形式の設問) である。
- 4 クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、及び「その他」「不明 (無回答)」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。
- 5 表の単位については、二段の場合は上段が実数、下段が構成比 (%) とし、一段の場合は構成比 (%) とする。また、三段の場合は上段が今回調査の構成比 (%)、中段が前回調査の構成比 (%)、下段が今回調査と前回調査のスコア差とする。
- 6 表の網掛けについては、 は全体に比べて 10%以上高い項目を示し、全体に比べて 5%以上高い項目を  で示している。

5. 標本誤差

本調査の主な回答率における標本誤差の幅は次のとおりである。

【標本誤差の1/2幅を求める公式】（信頼度95%の場合）

$$\text{誤差率} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (100-P)}{n}}$$

	N = 母集団数	n = 標本数	P = 回答率
女性	182,328	431	
男性	159,069	264	

※令和7年（2025年）9月1日現在

P (%)	標本誤差	
	女性	男性
50%	±4.7	±6.0
45%または55%	±4.7	±6.0
40%または60%	±4.6	±5.9
35%または65%	±4.5	±5.8
30%または70%	±4.3	±5.5
25%または75%	±4.1	±5.2
20%または80%	±3.8	±4.8
15%または85%	±3.4	±4.3
10%または90%	±2.8	±3.6
5%または95%	±2.1	±2.6

Ⅱ. 回答者の属性（市民調査）

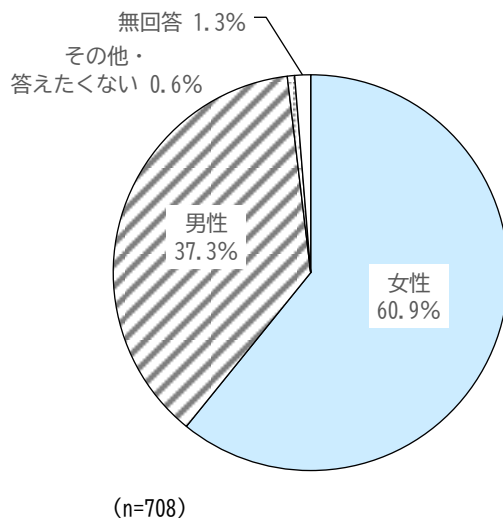
データを解釈するうえでの留意点

本調査の回答者集団は、本市の母集団に比べて、女性は50～69歳、男性は60歳以上の年齢層が多く、その結果、これらの年代の意識がより多く反映されている。また、本調査の調査対象数についても前回調査（3,000人）から1,000人（男女各500人）減らし2,000人となっている。

このことから本調査結果については、以上の点を考慮のうえ、解釈することが必要である。

1. 性別

【回答者の性別】



【参考】 母集団（令和7年（2025年）9月1日現在）と
前回調査の回答率

		女性	男性	その他 無回答	計
母 集 団	人口（人）	182,328	159,069	—	341,397
	構成比	53.4%	46.6%	—	100.0%
前回調査 回答率・構成比		59.9%	37.8%	2.3%	100.0%

回答者の性別では、「女性」が60.9%、「男性」は37.3%で、女性の回答者の方が多くなっている。「その他」は0.6%、無回答は1.3%となっている。

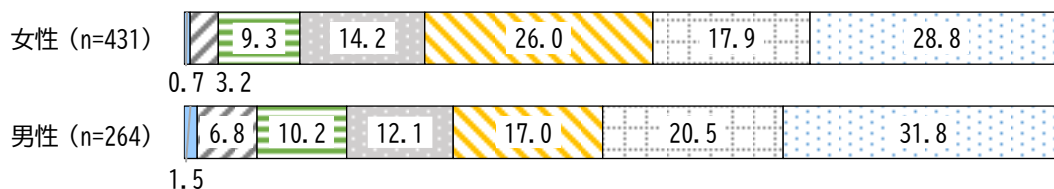
令和7年（2025年）9月1日現在の母集団人口の構成比同様、男性に比べ女性の割合が上回っている。また、母集団に比べ、今回調査回答者は女性が7.5ポイント高く、男性が9.3ポイント低くなっている。

2. 年齢

【回答者の年齢】

(単位：%)

 18～19歳	 20～29歳	 30～39歳
 40～49歳	 50～59歳	 60～69歳
 70歳以上	 無回答	



【参考】 母集団（令和7年（2025年）9月1日現在）と前回調査の回答率

		18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答	計
母 集 団	女性（人）	3,756	20,382	22,876	28,414	32,841	23,480	50,579	—	182,328
	構成比	2.1%	11.2%	12.5%	15.6%	18.0%	12.9%	27.7%	—	100.0%
	男性（人）	3,828	19,641	21,398	26,860	31,370	21,715	34,257	—	159,069
	構成比	2.4%	12.3%	13.5%	16.9%	19.7%	13.7%	21.5%	—	100.0%
前 回 調 査 回 答 率	女性・構成比	1.5%	6.2%	13.6%	20.9%	15.9%	15.6%	26.1%	0.1%	100.0%
	男性・構成比	2.0%	8.6%	10.1%	17.3%	12.5%	17.5%	32.0%	—	100.0%

<性別>

回答者の年齢では、女性は「70歳以上」が28.8%で最も高く、次いで「50～59歳」が26.0%、「60～69歳」が17.9%となっている。男性は「70歳以上」が31.8%で最も高く、次いで「60～69歳」が20.5%、「50～59歳」が17.0%となっている。

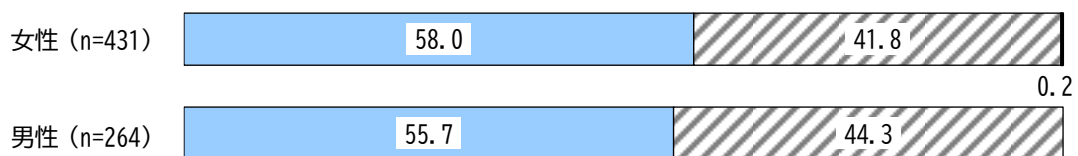
令和7年（2025年）9月1日現在の母集団人口の構成比に比べ、男女とも20歳代の割合が5ポイント以上低く、女性では50～69歳、男性では60歳以上の割合が5ポイント以上高くなっている。

3. 配偶者・パートナーの有無

【配偶者・パートナーの有無】

(単位：%)

- 配偶者・パートナーがいる
- 配偶者・パートナーはいない（離別・死別を含む）
- 無回答



<性別>

「配偶者・パートナーがいる」割合は、女性 58.0%、男性 55.7%である。

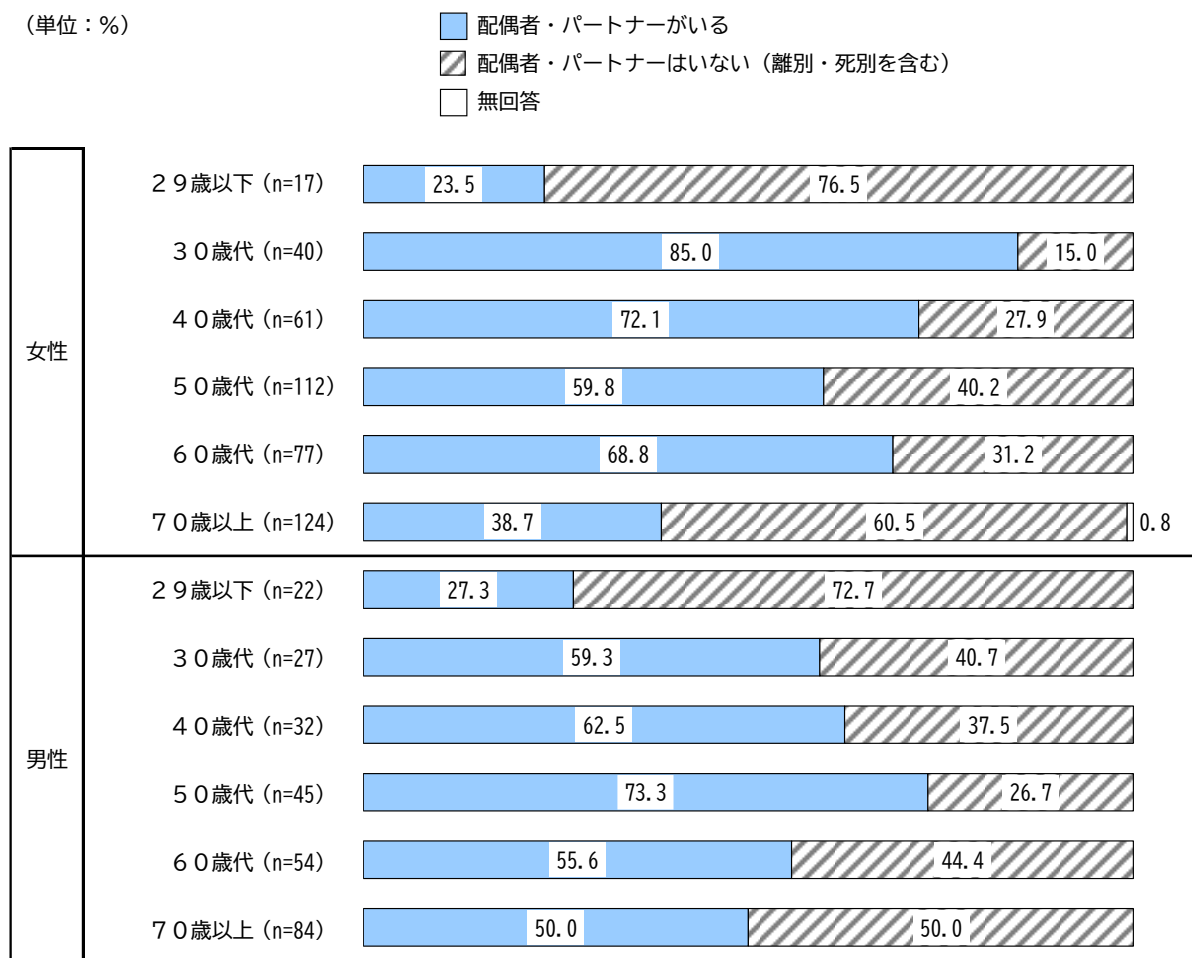
<性・年代別>

女性は30～60歳代、男性は30歳代以上で「配偶者・パートナーがいる」が50%以上を占めている。女性では30歳代、男性では50歳代で「配偶者・パートナーがいる」が高くなっている。

30歳代では、「配偶者・パートナーがいる」が、女性85.0%、男性59.3%と、20ポイント以上の差がみられた。

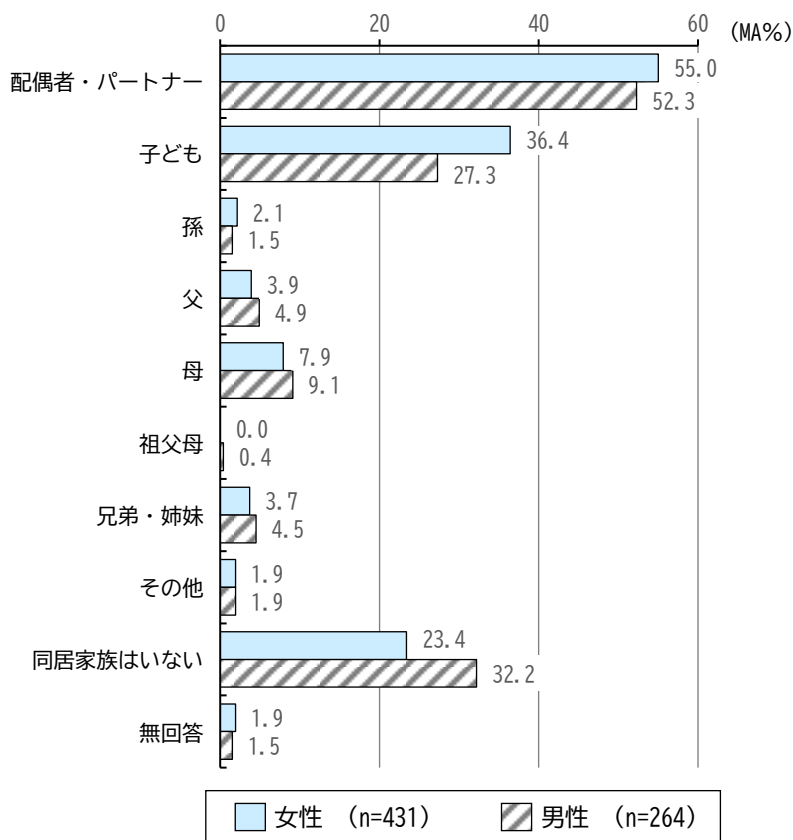
【性・年代別 配偶者・パートナーの有無】

(単位：%)



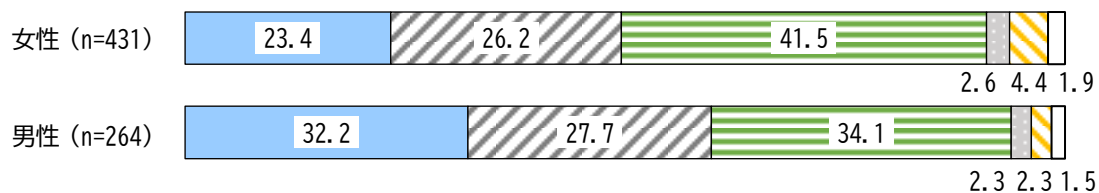
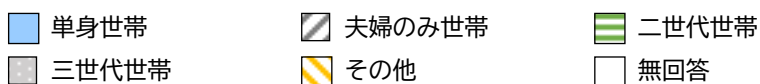
4. 同居家族

【同居家族】



【家族構成】

(単位：%)



<性別>

同居している家族では、男女とも「配偶者・パートナー」が5割台で最も高く、以下、女性では「子ども」が36.4%、「同居家族はいない」が23.4%、男性では「同居家族はいない」が32.2%、「子ども」が27.3%と続いている。

家族構成では、男女とも「二世帯世帯」が最も高く、女性で41.5%、男性で34.1%となっている。以下、女性では「夫婦のみ世帯」が26.2%、「単身世帯」が23.4%、男性では「単身世帯」が32.2%、「夫婦のみ世帯」が27.7%と続いている。

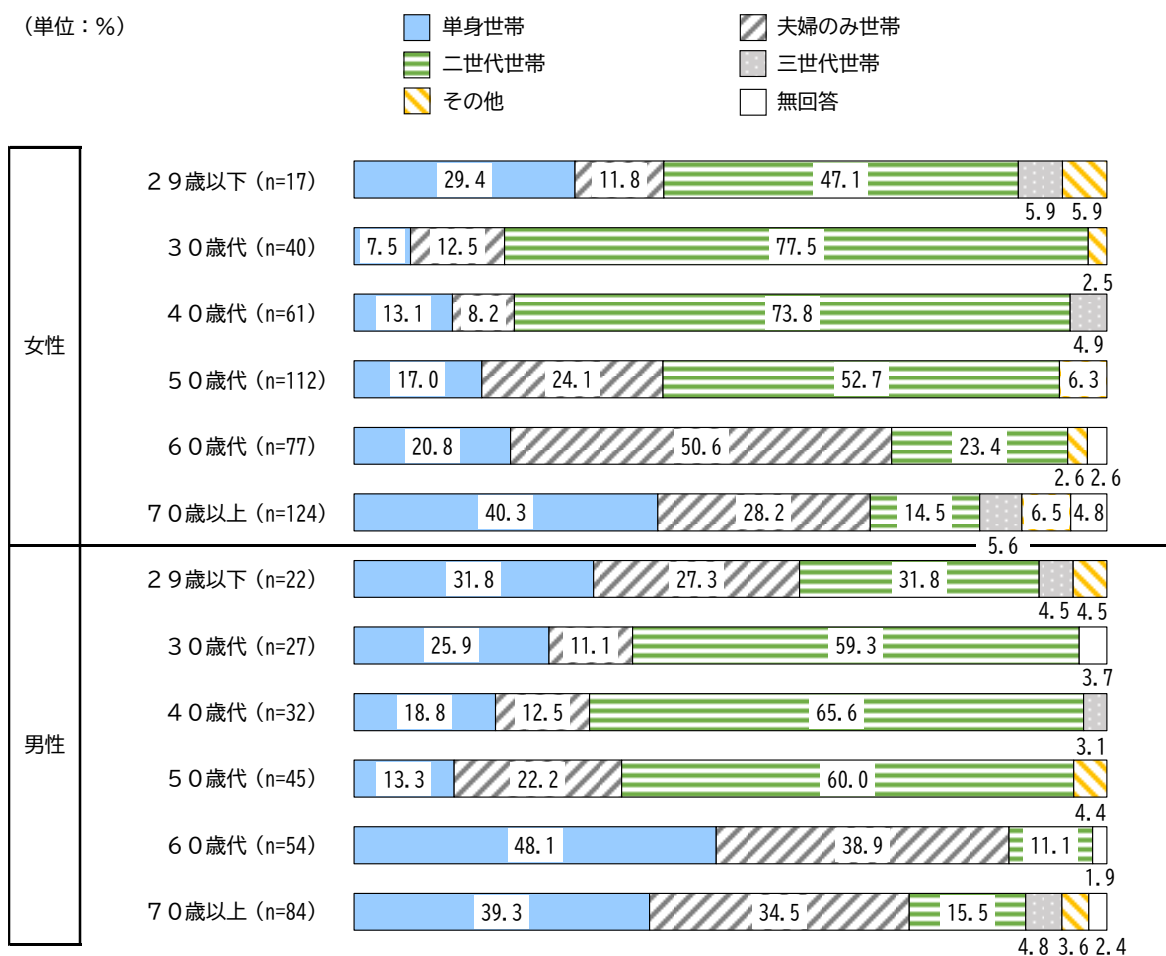
<性・年代別>

女性では、「二世帯世帯」が30～40歳代で7割台、50歳代で52.7%、29歳以下で47.1%とそれぞれ最も割合が高い。60歳代では「夫婦のみ世帯」が50.6%、70歳以上では「単身世帯」が40.3%で最も高くなっている。

男性では、「二世帯世帯」が40～50歳代で6割台、30歳代で59.3%とそれぞれ最も割合が高い。60歳代以上では「単身世帯」が最も高く、29歳以下では「単身世帯」と「二世帯世帯」が同率で最も高くなっている。

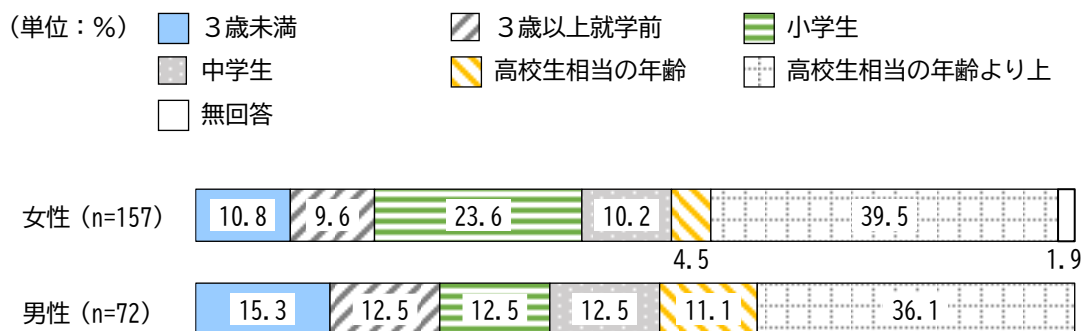
30歳代と60歳代では、女性の「二世帯世帯」の割合が男性に比べて10ポイント以上高く、男性の「単身世帯」の割合が女性に比べて10ポイント以上高くなっている。

【性・年代別 家族構成】



5. 末子年齢

【末子年齢】

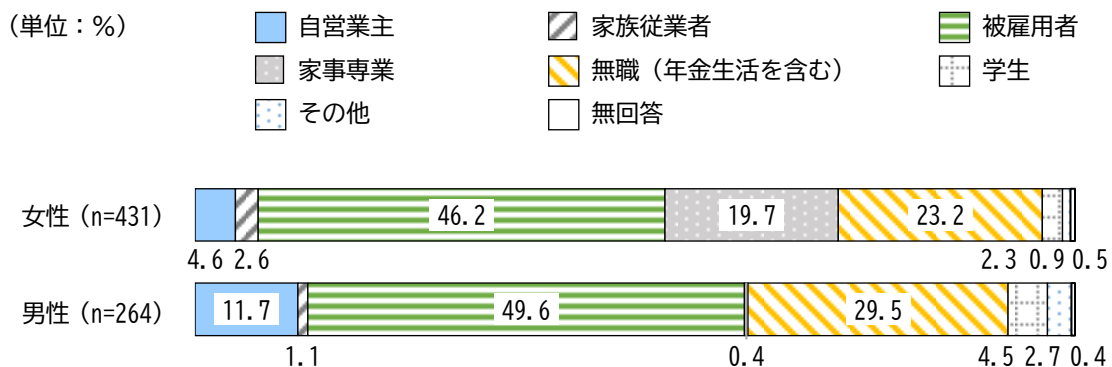


<性別>

子どもと同居している人に、一番下の子どもの状況をたずねたところ、「高校生相当の年齢より上」が男女とも3割台で最も高くなっている。女性では、「小学生」(23.6%)、男性では「3歳未満」(15.3%)が続いている。

6. 職業

【回答者の職業】



<性別>

女性の職業では、「被雇用者」が46.2%で最も高く、「自営業主」(4.6%)と「家族従業者」(2.6%)を含めた就労者が53.4%である。次いで、「無職(年金生活を含む)」が23.2%、「家事専業」が19.7%となっている。

男性の職業では、「被雇用者」が49.6%で最も高く、「自営業主」(11.7%)と「家族従業者」(1.1%)を含めた就労者が62.4%である。次いで、「無職(年金生活を含む)」が29.5%となっている。

<性・年代別>

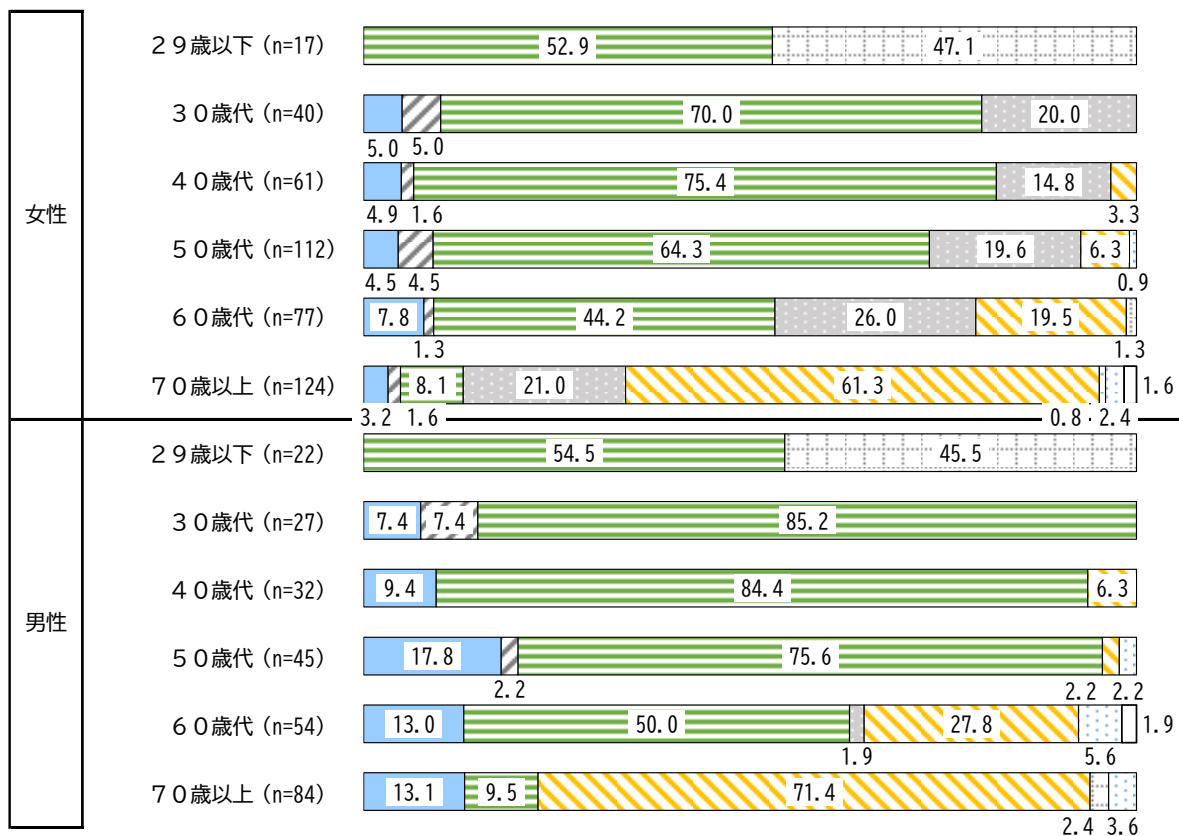
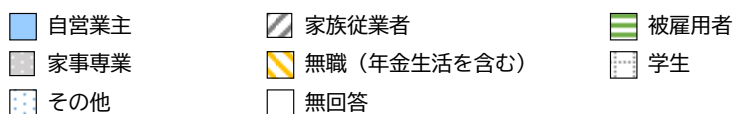
女性では、30～40歳代で「被雇用者」が7割台となっている。29歳以下や50～60歳代で「被雇用者」、70歳以上で「無職」が最も多くなっている。また、30歳代、60歳代で「家事専業」が20%以上を占めている。

男性では、30～50歳代で「被雇用者」が7～8割を占めている。60歳代で「被雇用者」、70歳以上で「無職」が最も多くなっている。

30歳代や50歳代で、女性の「被雇用者」が男性に比べて10ポイント以上低く、30歳代や60歳以上で女性の「家事専業」の割合が男性に比べて20ポイント以上高くなっている。

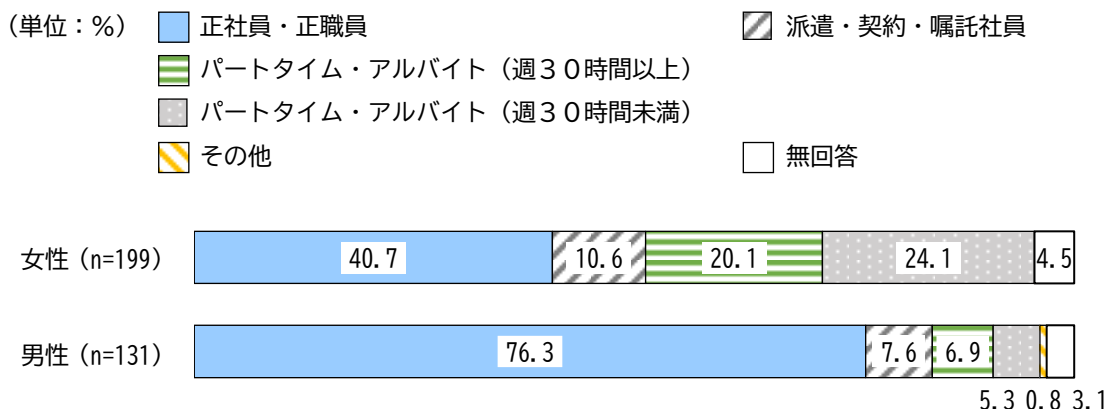
【性・年代別 回答者の職業】

(単位：%)



7. 雇用形態

【回答者の雇用形態】



<性別>

職業を被雇用者と回答した人に、雇用形態をたずねたところ、男女とも「正社員・正職員」が最も高くなっているが、女性は40.7%で男性（76.3%）に比べ35.6ポイント低くなっている。次いで、女性では「パートタイム・アルバイト（週30時間未満）」が24.1%、「パートタイム・アルバイト（週30時間以上）」が20.1%、「派遣・契約・嘱託社員」が10.6%となっており、これら非正規雇用の割合は54.8%で、男性（19.8%）に比べ35.0ポイント高くなっている。

<性・年代別>

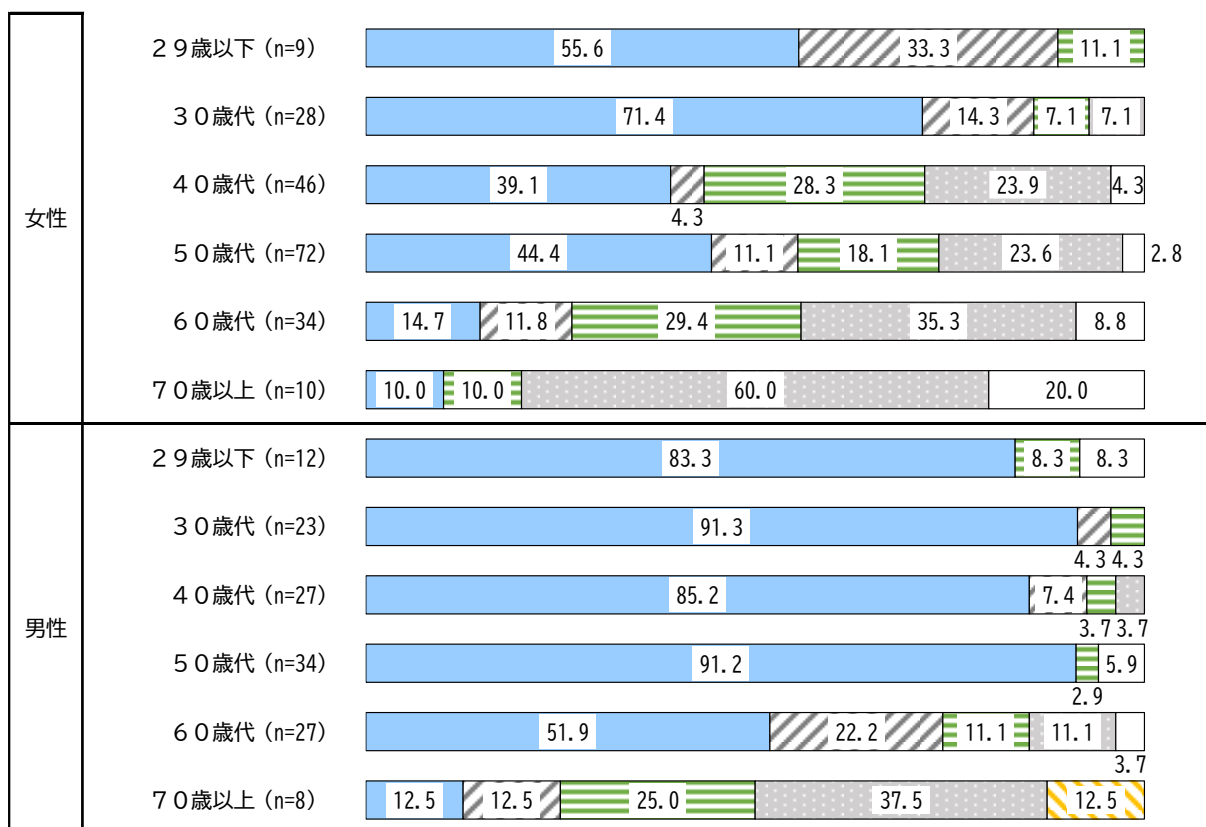
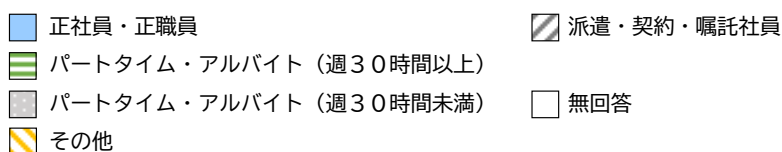
女性では、「正社員・正職員」は30歳代で71.4%と最も高く、40歳代で39.1%、50歳代で44.4%と低下している。60歳代以上では「パートタイム・アルバイト（週30時間未満）」が最も多くなっている。

男性では、50歳代以下で「正社員・正職員」が80%以上を占めている。

40～50歳代では、女性の「正社員・正職員」が男性に比べて40ポイント以上低くなっている。

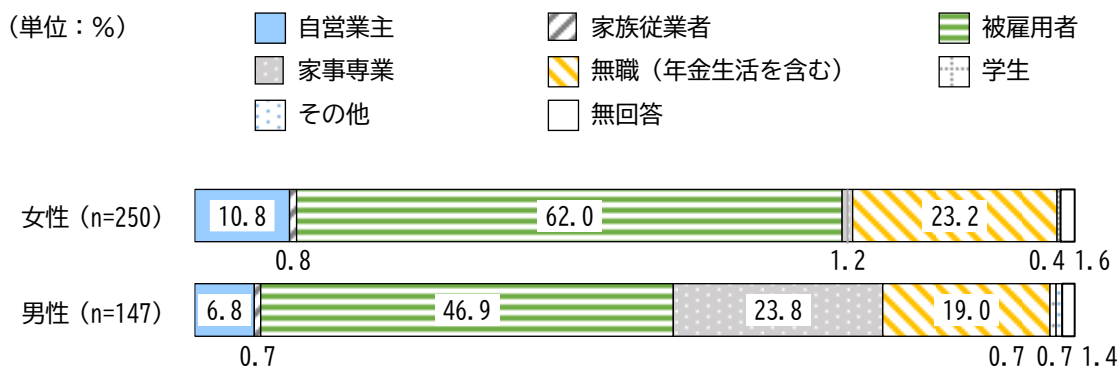
【性・年代別 回答者の雇用形態】

(単位：%)



8. 配偶者・パートナーの職業

【配偶者・パートナーの職業】



<性別>

女性の配偶者・パートナーの職業では、「被雇用者」が62.0%で最も高く、次いで「無職（年金生活を含む）」が23.2%、「自営業主」が10.8%となっている。男性の配偶者・パートナーの職業では、「被雇用者」が46.9%で最も高く、次いで「家事専業」が23.8%、「無職（年金生活を含む）」が19.0%となっている。

女性の配偶者・パートナーの「被雇用者」の割合は男性に比べて15.1ポイント高く、男性の配偶者・パートナーの「家事専業」の割合は女性に比べて22.6ポイント高くなっている。

<性・年代別>

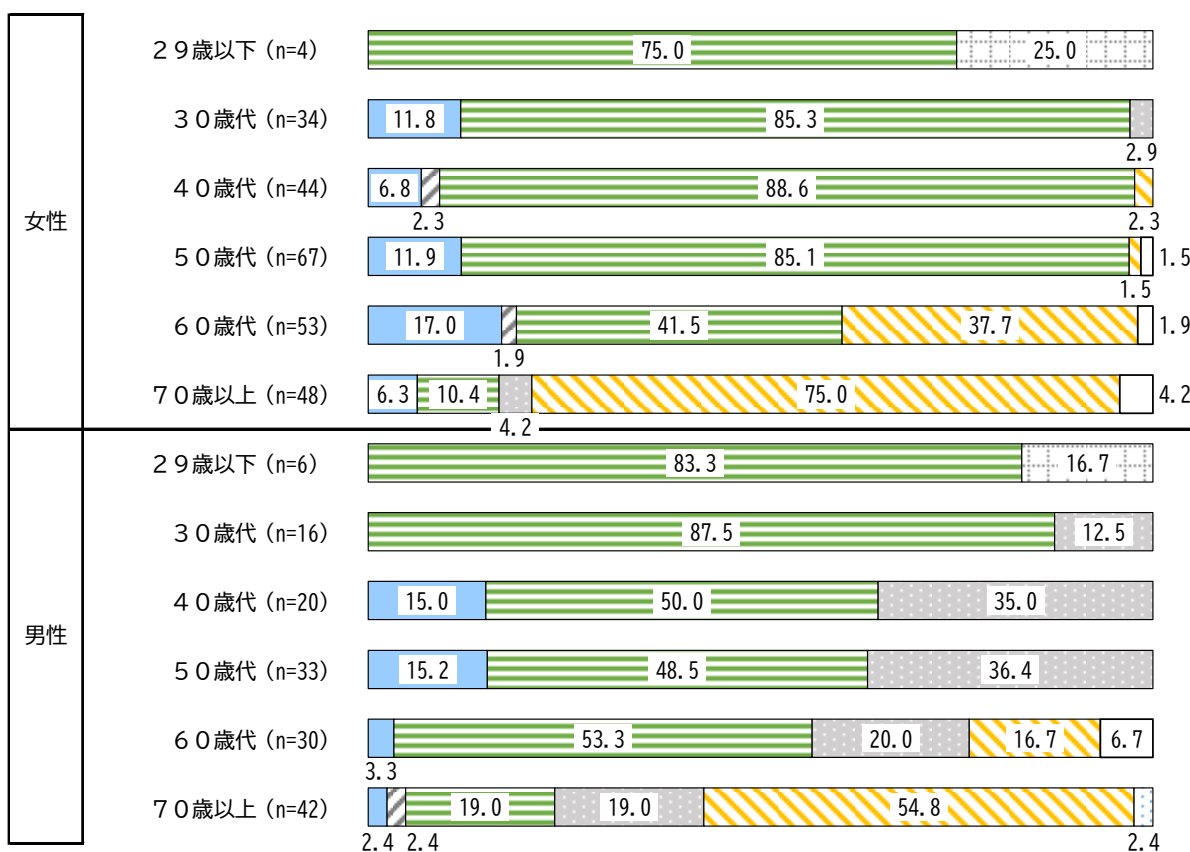
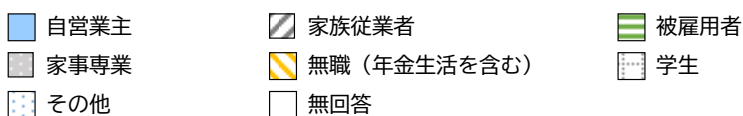
女性では、50歳代以下で「被雇用者」が70%以上を占めている。60歳代で「被雇用者」、70歳以上で「無職」が最も多くなっている。

男性では、30歳代以下で「被雇用者」が80%以上を占めている。40～60歳代では「被雇用者」、70歳以上では「無職」が最も多くなっている。

40～50歳代で、女性の「被雇用者」は男性と比べて30ポイント以上高く、「家事専業」が30ポイント以上低くなっている。

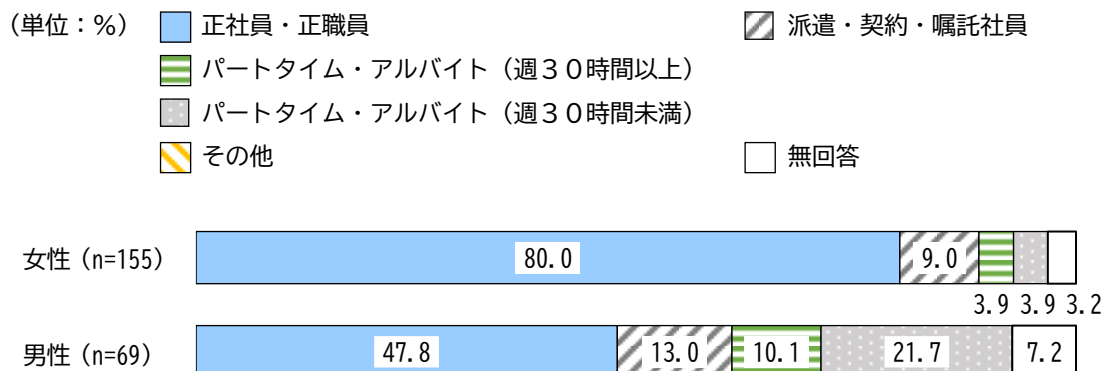
【性・年代別 配偶者・パートナーの職業】

(単位：%)



9. 配偶者・パートナーの雇用形態

【配偶者・パートナーの雇用形態】



<性別>

配偶者・パートナーの職業が被雇用者と回答した人に、配偶者・パートナーの雇用形態をたずねたところ、女性の配偶者・パートナーでは「正社員・正職員」が80.0%を占めている。

男性の配偶者・パートナーでは「正社員・正職員」が47.8%で最も高くなっているものの、「パートタイム・アルバイト (週30時間未満)」(21.7%)、「派遣・契約・嘱託社員」(13.0%)、「パートタイム・アルバイト (週30時間以上)」(10.1%)をあわせた非正規雇用の割合が44.8%と「正社員・正職員」に近い割合となっている。

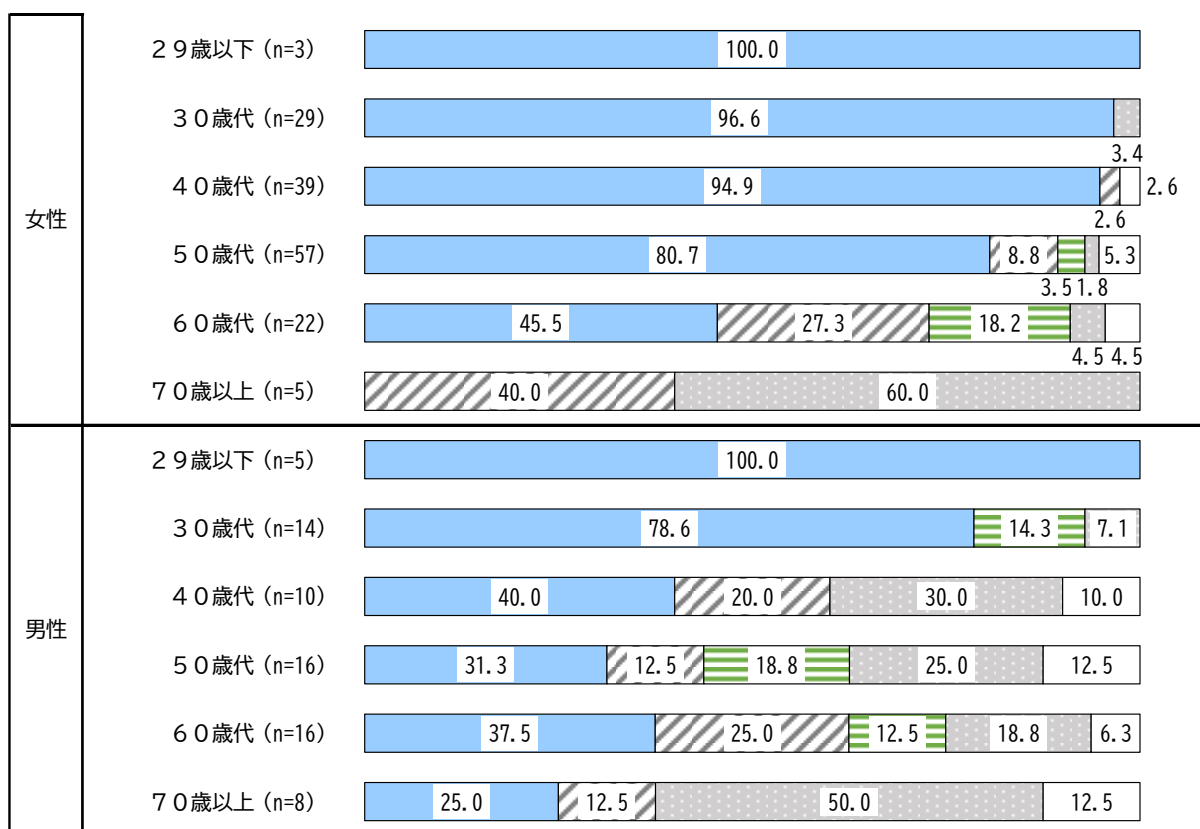
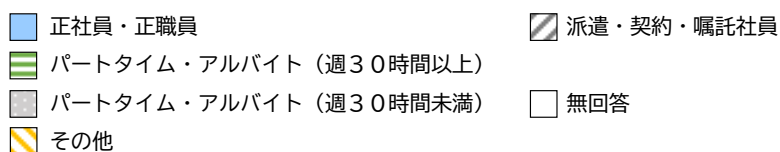
<性・年代別>

女性では、「正社員・正職員」が40歳代以下で90%以上を占めている。50～60歳代で「正社員・正職員」、70歳以上で「パートタイム・アルバイト（週30時間未満）」が最も多くなっている。

男性の年代別の回答者数が少なく、参考値ではあるものの、60歳代以下で「正社員・正職員」が最も多く、70歳以上では「パートタイム・アルバイト（週30時間未満）」が最も多くなっている。

【性・年代別 配偶者・パートナーの雇用形態】

(単位：%)



Ⅲ. 結果の概要（市民調査）

1 男女の平等感【問6】

- 社会全体の男女の平等感について、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』は女性で75.5%、男性で58.4%である。前回調査（令和2年度）の結果と比べると『男性優遇』の男女間の認識の差が増大している。
- 各領域の中で、男女とも「平等」が『男性優遇』を上回っているのは、教育のみである。男女とも4～5割が「平等」であると答えており、『男性優遇』は男女とも1割程度となっている。
- 「政治の場」および「社会通念・慣習・しきたり」では、『男性優遇』が高く、女性7割、男性5～6割台となっている。
- すべての領域で、男性の「平等」の割合が女性より高くなっている。認識の差が10ポイントを超えているのは、家庭生活、法律や制度、社会通念・慣習・しきたり、職場である。

2 日常生活や社会全般についての考え方【問7】

- 前回調査の結果と比べ、全体的に男女の固定的な性別役割を肯定する考えより固定的な考え方にとられない考え方に変化してきている。
- 「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」はほぼすべての年代で、男性の『肯定派』の割合が女性を20ポイント以上上回っており、男性でより固定的な性別役割分担意識がうかがえる。
- 結婚について、「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい」はすべての年代で『肯定派』が多く、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」も60歳代以下で『肯定派』が多くなっている。「結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」は前回調査と比較して男女ともに『否定派』の割合が高くなっている。
- 子どもを育てることについて、「自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育や学歴を身につけさせたい」は男女とも『肯定派』が8割台であり、教育においては男女平等の意識が共通していることがうかがえる。一方子育ての過程について、「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がいい」は男女とも40歳代以上の年代で『肯定派』が最も多くなっており、3歳までの子育てについて固定的な役割意識が強いことがうかがえる。ただし、男女とも30歳代では意見が分散傾向にあることがうかがえる。
- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がいい」については、女性では、60歳代以下のすべての年代で『否定派』の割合が高くなっているが、男性では40歳代以上の年代で『肯定派』の割合が高く、男女間の意見に相違が見られる。

3 家庭生活について

（1）性別役割分担意識【問8】

- 「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、女性は『反対派』が56.2%と『賛成派』を30ポイント以上上回るが、男性は『賛成派』と『反対派』との差が0.4ポイントと意見が分散している。前回調査と比べて大きな変化はみられない。

（2）性別役割分担意識について賛成の理由【問8-1】

- 女性では「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」（63.2%）、男性では「子どもの成長にとってよいと思うから」（54.3%）が最も高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、「子どもの成長にとってよいと思うから」は、女性で13.7ポイント低下しているのに対し、男性では7.6ポイント上昇している。

(3) 性別役割分担意識について反対の理由【問8-2】

- 男女とも「男女がともに仕事と家庭に関わる方が、各個人や家庭にとってよいと思うから」が最も高く、次いで「仕事に適した女性や、家事・育児に適した男性もいるから」となっている。いずれの項目も女性の方が10ポイント以上高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、女性では大きな変化はみられないが、男性では「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとっていいと思うから」「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が5ポイント以上上昇している。

(4) 家庭での分担

①理想【問9】

- 「生活費を得る」以外のすべての項目で男女ともに「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が最も高くなっている。
- 「生活費を得る」では、女性では「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高いが、男性では「主に夫・パートナー」が最も高くなっている。40歳代以下の男性は「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高くなっている。
- 「家計の管理」「日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」「育児」では、女性ではすべての年代で、男性では60歳代以下で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高くなっており、男性70歳以上では「主に妻・パートナー」が最も高くなっている。
- 「高齢者、病人の介護・看護」「自治会、町内会など地域活動への参加」では、男女とも、すべての年代で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、女性では「高齢者、病人の介護・看護」以外のすべての項目で「夫婦・カップルで同じくらい」が5ポイント以上上昇している。男性では「日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」「高齢者、病人の介護・看護」で「夫婦・カップルで同じくらい」が5ポイント以上上昇している。

②現実【問9】

- 「生活費を得る」では、男女とも「主に夫・パートナー」が最も高くなっている。
- 「家計の管理」「日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」「育児」では、男女とも「主に妻・パートナー」が最も高くなっている。
- 「高齢者、病人の介護・看護」では、女性は「主に妻・パートナー」が最も高いが、男性は「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高く、認識に差がみられる。
- 「自治会、町内会など地域活動への参加」は、女性は「主に妻・パートナー」が63.8%で最も高いが、男性は「夫婦・カップルで同じくらい」「主に夫・パートナー」「主に妻・パートナー」がそれぞれ3割程と意見が分散している。
- 前回調査の結果に比べ、男女ともに「生活費を得る」では「夫婦・カップルで同じくらい」、「育児」「自治会、町内会など地域活動への参加」では「主に妻・パートナー」の割合が上昇している。
- 理想と現実を比較すると、男女ともに家庭生活で同等の役割分担を理想としながら、現実的にはどちらかのパートナー、夫あるいは妻に役割が偏っていることがうかがえる。

4 地域活動について

(1) 地域活動の参加状況【問 10】

①現在参加している活動

- 現在参加している活動は、男女とも「自治会・町内会の活動」が最も高く、次いで「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」となっている。
- 「特にない」が男女ともに6割を占めている。年代別にみると30歳代以下の女性や50歳代以下の男性で地域活動に参加していない割合が高めである。

②今後参加したい活動

- 今後(または引き続き)参加したい活動は、男女とも「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」が最も高く、次いで、女性は「自治会・町内会の活動」、男性は「清掃・美化や環境保全のための活動」が続いている。
- 全体では「特にない」が男女ともに5割台を占めている。29歳以下の男女や50～60歳代の男性では参加したい地域活動がない割合が高めとなっている。

(2) 地域活動に参加したくない理由【問 10-1】

- 男女ともに「仕事が忙しいから」が最も高く、女性では「参加するきっかけがないから」、男性では「あまり関心がないから」が続いている。
- 男女ともに若年層で「参加するきっかけがないから」、30～50歳代で「仕事が忙しいから」の割合が高めとなっている。
- 前回調査の結果に比べ、男女ともに「人間関係がわずらわしいから」が5ポイント以上上昇している。

5 男性の家事・子育て・介護・地域活動の参加について

(1) 男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくために必要なこと【問 11】

- 男女とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高くなっており、次いで「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」となっている。
- ほぼすべての項目で女性の割合が男性より高くなっているが、「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する」では10ポイント以上高くなっている。

6 仕事について

(1) 女性の働き方について【問 12】

- 男女とも「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が女性 42.0%、男性 35.6%で最も高い。女性では、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」、男性では、「育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」が続いている。
- 前回調査の結果に比べ、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が男女ともに5ポイント以上上昇している。

(2) 仕事における平等感【問 13】

- 「昇給や賃金水準」「昇進・昇格・管理職への登用」以外のすべての項目で男女ともに「平等」の割合が最も高い。「昇給や賃金水準」では女性の『男性優遇』と「平等」が同率となっている。
- 男女ともに、「出産・育児・介護休暇のとりやすさ」以外のすべての項目で『男性優遇』の割合が『女性優遇』より高くなっている。
- 女性では、「研修の機会・内容」「昇給や賃金水準」「能力評価（業績評価・人事考課など）」における『男性優遇』の割合が男性に比べて10ポイント以上高い。
- 雇用形態別では、女性の正規/非正規雇用と男性の正規雇用で「昇進・昇格・管理職への登用」における『男性優遇』が最も高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、「平等」の割合は女性では5ポイント以上上昇した項目はみられない。男性では「研修の機会・内容」で8.4ポイント上昇している。

(3) 仕事や家事・育児・介護に要する時間【問 16】

①仕事

- 平日は、男女ともに「なし」が最も高く、女性で45.9%、男性で35.6%。次いで、「8時間～10時間未満」で女性18.3%、男性20.8%が続いている。この結果は今回調査の回答者の年齢分布を反映していると思われる。
- 休日も、男女ともに「なし」が最も高く、女性で78.0%、男性で66.3%。男性より女性の方が11.7ポイント高い。次いで、男女とも「4時間未満」で女性8.1%、男性16.7%である。
- 前回調査の結果に比べ、男女ともに平日・休日の仕事の時間に大きな変化はみられない。
- 雇用形態別では、平日は男女とも正規雇用で「8時間～10時間未満」が最も高いが、女性で51.9%、男性で36.0%と男女差がみられ、男性では「10時間～12時間未満」「12時間以上」など長時間の割合が女性に比べて高くなっている。
- 休日は正規雇用で、男女ともに「なし」が最も高いが、その割合は男性の方が低く、男性は「4時間未満」の割合が女性に比べて高くなっている。非正規雇用では、男女ともに「なし」が6割台である。

②家事・育児・介護など

- 平日は、女性では「1時間～2時間未満」が19.3%で最も高く、「3時間～4時間未満」「5時間以上」が続いている。男性では「ほとんどない」が28.0%で最も高く、「1時間～2時間未満」「30分～1時間未満」が続いている。
- 休日は、女性では「5時間以上」が19.5%で最も高く、「1時間～2時間未満」「3時間～4時間未満」が続いており、順位は異なるが平日と大きな差はみられない。男性では「ほとんどない」が

23.5%で最も高く、次いで「1時間～2時間未満」「30分～1時間未満」である。平日と比べて「5時間以上」が5ポイント以上上昇している。

- 雇用形態別では、平日は、女性の正規雇用では「1時間～2時間未満」、非正規雇用では「3時間～4時間未満」が最も高くなっている。男性の正規雇用では「30分～1時間未満」と「1時間～2時間未満」がともに24.0%で最も高く、非正規雇用と非就労者では「ほとんどない」が3割台である。
- 休日は、女性の正規雇用では「5時間以上」が28.4%で最も高くなっている。非正規雇用では「3時間～4時間未満」が22.9%で最も高く「5時間以上」が21.1%と僅差で続いている。
- 男性は正規雇用では「1時間～2時間未満」が24.0%で最も高く、非正規雇用では「ほとんどない」と「1時間～2時間未満」がともに30.8%で最も高くなっている。

(4) 希望する暮らし方【問17】

- 男女ともに「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も高く、次いで、「家庭生活を優先したい」であり、その後「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」が続いている。
- 男女ともに、正規雇用、非正規雇用では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も高く、非就労者では「家庭生活を優先したい」が最も高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、女性では大きな変化はみられない。男性では、「仕事と家庭生活を優先したい」が5.3ポイント低下しており、「地域・個人の生活を優先したい」「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」がそれぞれわずかながら上昇している。

(5) 現実の生活【問18】

- 女性では「家庭生活を優先している」が最も高く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先している」、「仕事を優先している」の順で続いている。男性では「仕事を優先している」が最も高く、次いで「家庭生活を優先している」、「仕事と家庭生活をともに優先している」の順で続いている。
- 前回調査の結果に比べ、男女ともに大きな変化はみられない。
- 正規雇用では、男女とも、「仕事を優先している」が4割台で最も高く、「仕事と家庭生活をともに優先している」が続いている。非正規雇用では、女性では「仕事と家庭生活をともに優先している」が39.4%で最も高く、男性では「仕事を優先している」が38.5%で最も高い。非就労者では、男女とも、「家庭生活を優先している」が最も高く、女性で62.2%、男性で49.4%となっている。
- 希望と現実を比較すると、男女ともに60歳代以下では「仕事を優先している」割合が希望を大きく上回っており、希望する以上に仕事を優先せざるを得ない状況がうかがえる。また、30～50歳代女性では「家庭生活を優先している」割合が希望を大きく上回っており、希望する以上に家庭を優先している。

(6) 今後の就労意向【問14】

- 男女とも、「仕事につきたいと思わない」が女性39.5%、男性62.0%。この結果は今回調査の回答者の年齢分布を反映していると思われる。
- 「ぜひ仕事につきたい」と「できれば仕事につきたい」を合わせた「仕事につきたい」の割合は、女性29.7%、男性21.6%で、女性の方が高くなっている。

(7) 働いていない理由【問 14-1】

- 男女ともに「健康上の理由で」が最も高く、女性 27.3%、男性 47.1%。女性では「家事や育児をしているから」、男性では「定年退職したから」が続いている。
- 年代別でみると、いずれの層も回答者が少ないため参考値ではあるが、女性は 30～40 歳代は「家事や育児をしているから」、50 歳代や 70 歳代以上で「健康上の理由で」、60 歳代で「定年退職したから」が最も高くなっている。

(8) 仕事につく上での不安【問 14-2】

- 男女とも「自分の健康状態や体力」が最も高く、「年齢制限に適合するか」が続いている。
- 女性は男性に比べて「賃金や通勤距離など、望む労働条件が得られるか」が 20 ポイント以上、「家事・育児・介護との両立ができるか」「職場の人間関係がうまくいくか」が 10 ポイント以上高くなっている。
- 年代別でみると、いずれの層も回答者が少ないため参考値ではあるが、女性では 30 歳代で「賃金や通勤距離など、望む労働条件が得られるか」、40 歳代で「家事・育児・介護との両立ができるか」、50 歳以上で「自分の健康状態や体力」の割合が最も高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、男女ともに「自分の健康状態や体力」が 5 ポイント以上上昇している。女性では「自分のしたい仕事につけるか」「年齢制限に適合するか」「自分の資格や能力が通用するか」も 5 ポイント以上上昇している。

(9) 働く上で大切なこと【問 15】

- 男女とも「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」が最も高く、女性では「男女が協力して家事や育児・介護などをする」、男性では「社会保障が整っている（厚生年金など）」が続いている。
- 男女を比較すると、女性では「男女が協力して家事や育児・介護などをする」「介護・育児休業がとりやすい職場の雰囲気がある」「働きながら介護ができるようにホームヘルパーや施設などのサービスが充実している」の割合が、男性に比べて 10 ポイント以上高くなっている。
- 女性の 40 歳代以下では「保育所・幼稚園・こども園や学童保育などの保育環境が整っている」「職場に介護・育児休業制度がある」「残業がない、あるいは少ない」が全体に比べて 10 ポイント以上高くなっている。男性の 29 歳以下で「職場での男女間の格差がない（募集・採用や配置・昇進など）」、30 歳代で「社会保障が整っている（厚生年金など）」の割合が全体に比べて 10 ポイント以上高い。40 歳代では「保育所・幼稚園・こども園や学童保育などの保育環境が整っている」、50 歳代で「社会保障が整っている（厚生年金など）」の割合が全体に比べて 10 ポイント以上高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、男性で「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」が 11.1 ポイント、「職場に介護・育児休業制度がある」が 5.8 ポイント上昇している。女性では大きな変化はみられない。

7 男女の人権について

(1) 配偶者や交際相手からの暴力に関する相談窓口の認知状況【問 19】

- 男女とも「警察署、交番」がそれぞれ 6 割台で最も高く、「具体的な名称は知らないが、相談窓口があることは知っている」が続いている。
- 「豊中市配偶者暴力相談支援センター」の認知率は女性 11.1%、男性 8.0%となっている。

(2) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）に対する認識

【問 20】

- 女性はすべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっているが、男性では「何を言っても長期間無視される」で「暴力の場合とそうでない場合がある」が「どんな場合でも暴力にあたると思う」を上回っている。
- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高いのは、多少順位に差はあるものの、男女とも「骨折させられたり、鼓膜をやぶられたりする」「命の危険を感じるようなことをされる」「子どもが見ている前であなたに暴力をふるう」「あなたを脅すために子どもに暴力をふるう」といった身体的暴力と子どもを使った暴力に関する項目である。
- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が50%を下回る項目は、女性では「何を言っても長期間無視される」の1項目、男性では「何を言っても長期間無視される」、「大声でどなられる」、「実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」の3項目である。
- 女性の「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合はいずれも男性に比べて高いが、「実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」は女性の割合が男性に比べて23.9ポイント高く、認識の差が特に大きい。
- 前回調査の結果に比べると全ての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が上昇している。特に女性では精神的暴力、社会的暴力、経済的暴力、男性では身体的暴力、子どもを使った暴力に関する項目で、10ポイント以上上昇している。

(3) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）の経験【問 20】

- 女性の30.9%、男性の22.3%はいずれかの暴力の被害経験がある。
- 被害経験のある暴力の種類では、男女とも精神的暴力（女性26.0%、男性20.1%）が最も高く、身体的暴力（女性10.9%、男性6.8%）が続いている。
- 前回調査の結果に比べると、男女ともに被害経験のある割合が10ポイント程上昇している。暴力の種類をみると、男女ともに精神的暴力が5ポイント以上上昇している。
- 暴力被害経験がある割合は30歳代や50歳代の女性、40歳代男性で3割台である。

(4) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）を受けたときの相談状況【問 20-1】

- 女性は、相談先として「家族や親族」が31.6%と最も高く、次いで「友人・知人」が28.6%、男性では、「家族や親族」が23.7%と最も高く、次いで「友人・知人」が13.6%である。
- 「相談しようと思わなかった」は男性で47.5%と、女性に比べて9.9ポイント高くなっている。
- 前回調査の結果に比べると、女性は大きな変化はみられないが、男性では「相談しようと思わなかった」が11.8ポイント低下しており、「家族や親族」「配偶者暴力相談支援センター・DV専門相談機関」が5ポイント以上上昇している。男性では「相談したかったが、しなかった（できなかった）」も6.8ポイント上昇している。

(5) 配偶者等への暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）に対する認識

【問 21】

- 女性はすべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっているが、男性では「何を言われても長期間無視する」で「暴力の場合とそうでない場合がある」が最も高くなっている。
- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高いのは、多少順位に差はあるものの、配偶者等か

らの暴力の認識と同様に、男女とも身体的暴力と子どもを使った暴力に関する項目が上位である。

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が50%を下回る項目は、女性では「何を言われても長期間無視する」の1項目、男性では「何を言われても長期間無視する」「大声でどなる」の2項目である。
- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合はほとんどの項目で女性の割合が男性に比べて高く、特に「何を言われても長期間無視する」「大声でどなる」「実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがったり禁止する」では10ポイント以上高くなっている。
- 配偶者等からの暴力の認識と比較すると、女性はすべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合に大きな差はみられない。男性は「何を言われても長期間無視する」「交友関係や電話・メール・SNSを監視したり、外出を制限する」「実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがったり禁止する」「十分な生活費を渡さない」「子どもと仲良くするのを嫌う」の項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が配偶者等からの暴力の認識に比べて5ポイント以上高くなっている。

(6) 配偶者等への暴力（ドメスティック・バイオレンス/DV）の経験【問21】

- 女性は15.8%、男性は19.7%に経験がある。
- 経験のある暴力の種類では、男女とも精神的暴力（女性14.4%、男性17.8%）が最も高く、身体的暴力（女性3.0%、男性3.8%）が続いている。

(7) 相談してよかったと感じたこと【問20-2】

- 女性では、「気持ちが楽になった」が最も高く、「一人ではないと感じられた」が続いている。男性では、「気持ちが楽になった」が最も高く、「自分に何が起きているのかが理解できた」が続いている。
- 前回調査の結果に比べ、「相談してよかったことはない」が女性では7.5ポイント、男性では11.0ポイント上昇している。女性では、「具体的な対応や方法の提示をしてくれた」「自分の強さに気付いたり、強い人間だと思えるようになった」が10ポイント以上、男性では「気持ちが楽になった」「具体的な対応や方法の提示をしてくれた」が20ポイント以上低下している。

(8) 相談しなかった理由【問20-3】

- 相談しなかった理由は、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、次いで、女性では「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」となっている。
- 男女で比較すると、男性は女性に比べて「自分にも悪いところがあると思ったから」「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が10ポイント以上高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、女性では「自分が受けている行為が暴力とは認識していなかったから」、男性では「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」「他人を巻き込みたくなかったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」の割合が10ポイント以上上昇している。

(9) セクシュアル・ハラスメントの認識【問22】

- 男女とも「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」（女性87.0%、男性85.6%）が最も高くなっている。その他、女性では「故意に身体にふれられる」「着替え中の更衣室に、異性に入られる」「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」も80%を超えているが、男性では80%を超えているのは「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」のみである。

- 女性では「身体をじろじろ見られる」「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」の割合が男性に比べて10ポイント以上高く、男女間の認識に差がみられる。
- 前回調査の結果に比べ、女性では多くの項目で上昇している。男性では「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」「職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどをはられる」「故意に身体にふれられる」「着替え中の更衣室に、異性に入られる」が5ポイント以上上昇している。

(10) セクシュアル・ハラスメントの経験【問 22-1】

- 職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験については、女性では、「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が20.4%で最も高く、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」「故意に身体にふれられる」が10%を超えている。男性は、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が9.1%で最も高く、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が続いている。
- 学校でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験については、男女とも「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が最も高く、女性で7.0%、男性で5.7%となっている。
- 地域等でのセクシュアル・ハラスメントの経験については、女性で「身体をじろじろ見られる」が5.8%で最も高く、男性で「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が1.9%で最も高くなっている。

(11) 男性で「男性はつらい」と感じる理由【問 26】

- 「なにかにつけ『男だから』『男のくせに』と言われる」が19.7%で最も高く、「仕事の責任が大きい、仕事できて当たり前と言われる」「『妻子を養うのは男の責任だ』と言われる」「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」が続いている。
- 47.0%が、『男性はつらい』と感じたことはない』と答えた。年代別にみると30～40歳代では他の年代と比べてつらいと感じる割合が高くなっている。

8 LGBTをはじめとする性的少数者について

(1) LGBTをはじめとする性的少数者の認知状況【問 23】

- 男女とも「言葉も意味も両方知っている」が6割台、次いで「言葉だけは知っている」が2割台となっている。「言葉も知らない」は男女とも10%を下回る。
- 女性では「言葉も意味も両方知っている」は、年代が若いほど高く、30歳代以下で8割台、40～50歳で7割台、60歳代で63.6%と続いている。男性では、「言葉も意味も両方知っている」は40歳代で最も高く87.5%となっている。30歳代と50歳代で7割台、29歳以下と60歳代で6割台と続いている。

(2) 身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験【問 24】

- 身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験は、「ある」が女性で3.9%、男性で3.4%である。
- 悩んだ経験がある割合は、女性では29歳以下で11.8%とその他の年代に比べて最も高く、30歳代が10.0%で続いている。男性では40歳代で6.3%とその他の年代に比べて最も高い。

(3) LGBTをはじめとする性的少数者にとっての社会の生活のしづらさ【問 25】

- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』は、女性が 77.9%、男性が 65.1%で、女性の方が 12.8 ポイント高い。
- 女性では 60 歳代以下のすべての年代で「そう思う」が 8 割台である。男性では 80%以上の年代はみられず、30 歳代、50 歳代、60 歳代で 7 割台である。
- 前回調査の結果に比べ、『思う』の割合は女性で 5.7 ポイント、男性で 15.0 ポイント低下している。

(4) 生活がしづらい社会になっている理由【問 25-1】

- 男女とも、「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」が最も高く、次いで女性では「自認する性として利用できる施設・設備が少ない（トイレ・更衣室など）」、男性では「法整備が進んでいない」が続いている。
- 女性では「夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない」が男性に比べて 10 ポイント以上高い。

(5) 性の多様性理解の促進や支援のために必要だと思うこと【問 25-2】

- 女性では「職場や学校等における理解の促進」が最も高く、「幼少期からの教育の充実」「悩みや情報が共有できる居場所づくり」が続いている。男性では「相談窓口の設置」が最も高く、「職場や学校等における理解の促進」「悩みや情報が共有できる居場所づくり」が続いている。
- 女性では「幼少期からの教育の充実」が男性に比べて 18.0 ポイント、「悩みや情報が共有できる居場所づくり」「職場や学校等における理解の促進」「書類やアンケートにおける性別欄の見直し」が男性に比べて 5 ポイント以上高くなっている。男性では「特に必要なことはない」が女性に比べて 5 ポイント以上高くなっている。

9 男女共同参画社会の実現について

(1) 市が力をいれていくべきこと【問 27】

- 女性では、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が最も高く、次いで、「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「保育の施設・サービスを充実させる」が続いている。
- 男性においても、女性の上位 4 位に挙げた項目が、順位は異なるものの上位を占めている。
- 男女差をみると、ほとんどの項目において女性の割合が上回っており、特に「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」で 20 ポイント以上、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」「男性の育児や介護への参加、地域活動などが進むように取組みを充実させる」でも 10 ポイント以上男性に比べて高くなっている。
- 男性では、「市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる」で 5 ポイント以上高くなっている。
- 前回調査の結果に比べ、女性では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が 5.7 ポイント上昇している。男性では 5 ポイント以上上昇した項目はみられない。

(2) 防災対策において、性別に配慮した対応が必要だと思う事【問 28】

- 男女とも「避難所の設備（男女別のトイレ・更衣室・授乳室・洗濯干場など）」が最も高く、次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児・高齢者・障害者・妊産婦のサポート体制）」、「避難所運営責任者に男女がともに配置され、運営や被災者対応に両方の視点が入ること」が続いている。
- 男女差をみると、女性では「避難所運営責任者に男女がともに配置され、運営や被災者対応に両方の視点が入ること」が男性に比べて10ポイント以上高くなっている。

(3) 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」利用状況【問 29】

- 「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『認知率』は、女性46.6%、男性25.0%である。そのうち、「利用したことがある」は女性で11.1%、男性で4.5%である。
- 『認知率』は、女性は50～60歳代で5割台、それ以外の年代では4割台と年代で大きな差はみられないが、男性は30歳代で40.7%に対して、その他の年代は1～2割となっている。D
- 前回調査の結果に比べ、『認知率』は、女性では7.5ポイント上昇しているが、男性では4.0ポイントとわずかながら低下している。「利用したことがある」は、男女ともに大きな変化はみられない。

(4) 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら利用したいもの【問 30】

- 女性では「女性の就業支援（再就職に向けてのパソコン講座など）」が最も高く、「相談サービス」が続いている。年代別にみると、女性は50歳代以下で「女性の就業支援（再就職に向けてのパソコン講座など）」、60歳代では「講演会・シンポジウム・フォーラム」が全体に比べて高くなっている。
- 男性では、「相談サービス」が最も高く、「交流の場」が続いている。年代別にみると、男性は29歳以下では「交流の場」「学習活動・NPO・ボランティアの活動支援」、30歳代では「相談サービス」、50歳代では「学習活動・NPO・ボランティアの活動支援」「男性向け講座」などの割合が全体に比べて高くなっている。

(5) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の認知状況【問 31】

- 「知っている」が女性で6.5%、男性で6.1%である。

(6) 「困難な状況から回復するために必要だと思うこと【問 32】

- 男女とも「経済的な自立」が最も高く、次いで「安心してすごせる場所（家・職場・学校以外の場所）」、「困難な状況に気づいてくれる人の存在」となっている。
- いずれの項目も女性の方が高く、そのうち「安心してすごせる場所（家・職場・学校以外の場所）」「経済的な自立」は10ポイント以上女性の割合が高くなっている。

IV. 調查結果（市民調查）

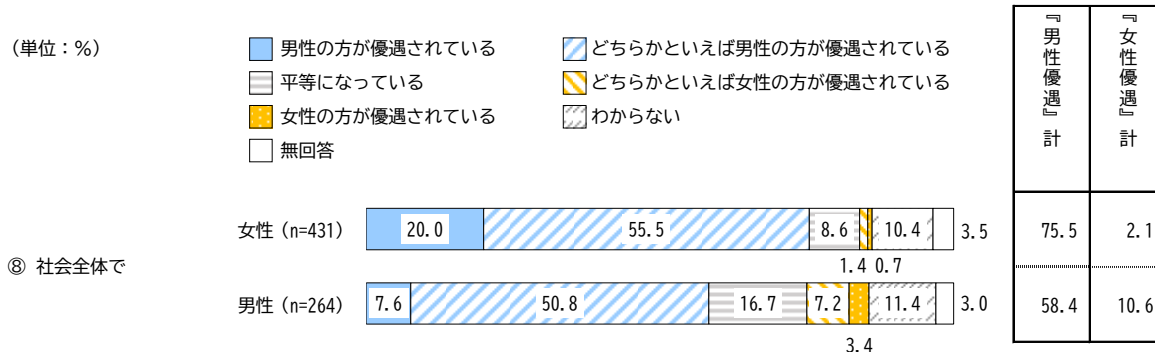
1. 日常生活や社会全般について

(1) 男女の平等感

① 社会全体で

問6 一般的に、次の①～⑧の各分野で男女は平等になっていると思いますか。
(それぞれ〇はひとつずつ)

【図表 1-1① 社会全体で】



<性別> (図表 1-1①)

社会全体の男女の平等感について、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が男女ともに5割台で最も高くなっている。「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した『男性優遇』は、女性で75.5%、男性で58.4%と、女性の割合が男性より17.1ポイント高くなっている。

「平等」は男性で16.7%なのに対し、女性では8.6%と、男性の割合が女性より8.1ポイント高く、平等感に男女差がみられる。

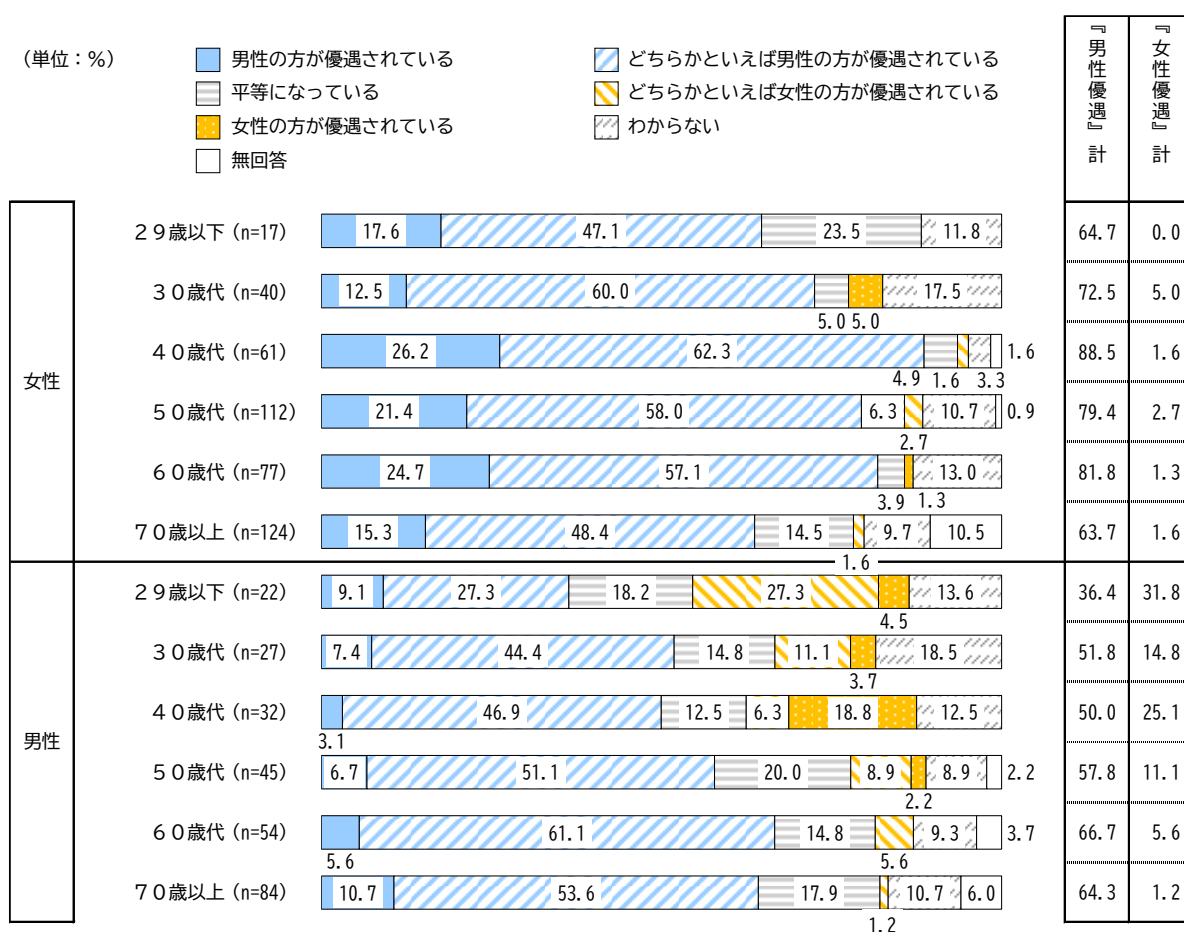
<性・年代別> (図表 1-1①-1)

女性では、いずれの年代でも『男性優遇』が60%を超えており、40歳代で88.5%と特に高い。

男性では、60歳代以上で『男性優遇』が60%を超えており、30～60歳代で5割、29歳以下で36.4%と、おおむね年代が若くなるほど割合が低くなっている。

60歳代以下のすべての年代で女性の『男性優遇』が男性を10ポイント以上上回っており、その差は40歳代で38.5ポイントと最も高くなっている。男性の『女性優遇』は50歳代以下のすべての年代で女性より5ポイント以上高く、29歳以下と40歳代で20ポイント以上高くなっている。

【図表 1-1①-1 性・年代別 社会全体で】



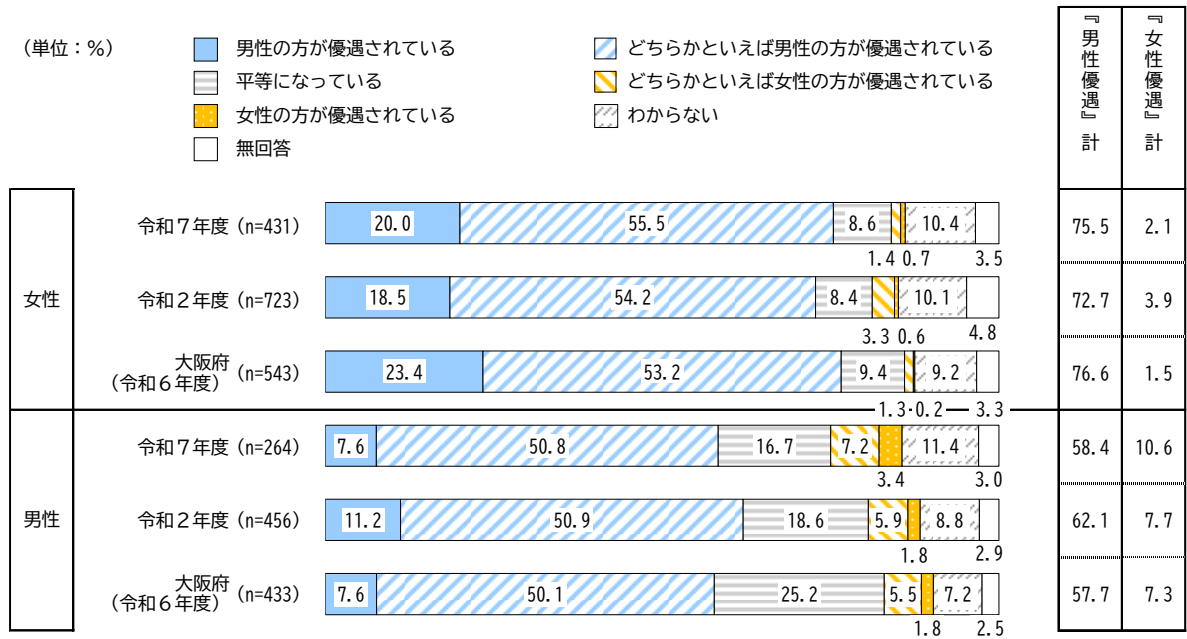
<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 1-1①-2）

前回調査の結果に比べて、『男性優遇』は女性で2.8ポイント上昇、男性では3.7ポイント低下しており、男女間の『男性優遇』の差が増大（前回 10.6ポイント差→今回 17.1ポイント差）している。

<他調査（大阪府：令和6年度男女共同参画に関する府民意識調査）との比較>（図表 1-1①-2）

大阪府民意識調査の結果に比べ、男女ともに『男性優遇』『女性優遇』に大きな差はみられない。

【図表 1-1①-2 前回調査との比較／他調査との比較 社会全体で】



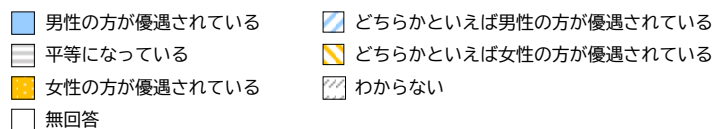
②各分野別の平等感

問6 一般的に、次の①～⑧の各分野で男女は平等になっていると思いますか。

(それぞれ〇はひとつずつ)

【図表 1-1② 各分野別の平等感】

(単位：%)



分野	性別	平等感の割合 (%)						『男性優遇』計	『女性優遇』計
		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない		
① 家庭生活で	女性 (n=431)	19.0	41.3	21.3	10.9	2.6	3.0	60.3	4.5
	男性 (n=264)	6.8	26.9	37.9	8.3	13.6	3.4	33.7	11.7
② 職場で	女性 (n=431)	18.3	34.3	19.7	15.8	4.9	1.4	52.6	6.3
	男性 (n=264)	9.1	32.2	31.8	9.5	10.6	2.3	41.3	11.8
③ 学校教育の場で (児童・生徒の立場から)	女性 (n=431)	7.4	43.9	35.3	10.2	1.4	0.7	8.8	1.9
	男性 (n=264)	6.4	50.0	26.1	11.0	0.8	4.9	7.2	5.7
④ 法律や制度で	女性 (n=431)	14.8	36.2	20.2	19.3	3.0	0.9	51.0	3.9
	男性 (n=264)	29.5	36.0	8.3	13.6	4.2	4.2	33.7	12.5
⑤ 政治の場で	女性 (n=431)	36.2	39.9	7.7	10.2	0.2	0.2	76.1	0.4
	男性 (n=264)	20.5	43.6	16.7	11.0	2.3	2.3	64.1	4.6
⑥ 地域活動・社会活動の場で (自治会、PTA、NPO、ボランティアなど)	女性 (n=431)	9.3	24.6	30.9	26.7	3.0	0.2	33.9	3.2
	男性 (n=264)	14.4	40.2	9.8	25.0	3.8	2.3	18.2	12.1
⑦ 社会通念・慣習・しきたりで	女性 (n=431)	30.6	49.0	7.0	8.1	0.9	0.2	79.6	1.1
	男性 (n=264)	11.7	48.1	19.7	10.6	5.3	1.1	59.8	6.4

<性別> (図表 1-1②)

各分野での男女平等感について、男女とも「平等」の割合が『男性優遇』を上回っているのは「③学校教育の場で（児童・生徒の立場から）」のみで、「②職場で」「⑤政治の場で」「⑦社会通念・慣習・しきたりで」では男女ともに『男性優遇』が「平等」を上回っている。「①家庭生活で」「④法律や制度で」「⑥地域活動・社会活動の場で（自治会、PTA、NPO、ボランティアなど）」では女性は『男性優遇』の割合が「平等」を上回るのに対し、男性は「平等」の割合が『男性優遇』を上回っている。

『男性優遇』の割合は、女性では「⑦社会通念・慣習・しきたりで」（79.6%）、男性では「⑤政治の場で」（64.1%）が最も高く、次いで女性では「⑤政治の場で」（76.1%）、男性では「⑦社会通念・慣習・しきたりで」（59.8%）となっている。

いずれの分野でも『男性優遇』は女性の割合が男性より高くなっており、特に「①家庭生活で」で差が26.6ポイントと最も大きい。

いずれの分野でも「平等」は男性の割合が女性より高くなっており、「①家庭生活で」「②職場で」「④法律や制度で」「⑦社会通念・慣習・しきたりで」で10ポイント以上高くなっている。

<性・年代別> (図表 1-1②-1)

① 家庭生活で

女性では、29歳以下のみ「平等」の割合が最も高いが、30歳代以上のすべての年代では『男性優遇』が最も高くなっている。男性では、40歳代では『女性優遇』、70歳以上では『男性優遇』が高く、それ以外の年代では「平等」の割合が最も高い。いずれの世代においても同年代の女性とは10ポイント以上の差がみられる。

② 職場で

男性では、50歳代では「平等」が、それ以外のすべての性・年代で『男性優遇』が最も高くなっている(29歳以下男性は『男性優遇』と「平等」が同率)。30～60歳代の年代で、女性の『男性優遇』が男性を10ポイント以上上回っている。

③ 学校教育の場で(児童・生徒の立場から)

女性70歳以上を除くすべての性・年代で「平等」が最も高くなっている(60歳代女性は「平等」と「わからない」が同率)。

④ 法律や制度で

女性では、すべての年代で『男性優遇』が最も高い(29歳以下では『男性優遇』と「わからない」が同率)。男性では、29歳以下、50歳代、70歳以上では「平等」が、40歳代では『女性優遇』が最も高くなっており、いずれの世代においても同年代の女性とは10ポイント以上の差がみられる。

⑤ 政治の場で

男女とも、すべての年代で『男性優遇』が最も高くなっている。特に、女性40～50歳代では、『男性優遇』が8割台と男性に比べて20ポイント以上高い。

⑥ 地域活動・社会活動の場で(自治会、PTA、NPO、ボランティアなど)

女性では、30歳代で「わからない」、29歳以下、40歳代、70歳以上で「平等」、50～60歳代で『男性優遇』がそれぞれ最も高くなっている。男性では、30歳～40歳代で「わからない」、その他の年代で「平等」が最も高くなっている。50～60歳代の女性は同年代の男性に比べて『男性優遇』が20ポイント以上高くなっている。

⑦ 社会通念・慣習・しきたりで

女性では、30～60歳代で『男性優遇』が8割台、29歳以下では64.7%、70歳以上で71.8%である。男性では50歳代以下で『男性優遇』が5割台、60歳代で72.2%、70歳以上で60.7%と、30～50歳代の女性は同年代の男性に比べて『男性優遇』が20ポイント以上高く、平等感の認識に大きな差がみられる。

【図表 1-1②-1 性・年代別 各分野別の平等感①】

	n	①家庭生活で					②職場で					③学校教育の場で (児童・生徒の立場から)					
		計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	353 49.9	197 27.8	50 7.1	87 12.3	21 3.0	345 48.7	170 24.0	60 8.5	97 13.7	36 5.1	57 8.1	325 45.9	23 3.2	227 32.1	76 10.7
女性	29歳以下	17 100.0	5 29.4	8 47.1	2 11.8	2 11.8	-	6 35.3	5 29.4	3 17.6	3 17.6	-	-	10 58.8	-	7 41.2	-
	30歳代	40 100.0	23 57.5	12 30.0	2 5.0	3 7.5	-	21 52.5	11 27.5	3 7.5	5 12.5	-	1 2.5	19 47.5	1 2.5	18 45.0	1 2.5
	40歳代	61 100.0	35 57.4	15 24.6	4 6.6	7 11.5	-	32 52.5	17 27.9	7 11.5	5 8.2	-	2 3.3	43 70.5	3 4.9	12 19.7	1 1.6
	50歳代	112 100.0	79 70.5	16 14.3	4 3.6	12 10.7	1 0.9	61 54.5	27 24.1	11 9.8	12 10.7	1 0.9	13 11.6	54 48.2	4 3.6	34 30.4	7 6.3
	60歳代	77 100.0	51 66.2	19 24.7	1 1.3	6 7.8	-	47 61.0	17 22.1	1 1.3	11 14.3	1 1.3	10 13.0	31 40.3	-	31 40.3	5 6.5
	70歳以上	124 100.0	67 54.0	22 17.7	6 4.8	17 13.7	12 9.7	60 48.4	8 6.5	2 1.6	32 25.8	22 17.7	12 9.7	32 25.8	-	50 40.3	30 24.2
	70歳以上	124 100.0	67 54.0	22 17.7	6 4.8	17 13.7	12 9.7	60 48.4	8 6.5	2 1.6	32 25.8	22 17.7	12 9.7	32 25.8	-	50 40.3	30 24.2
男性	29歳以下	22 100.0	6 27.3	15 68.2	-	1 4.5	-	8 36.4	8 36.4	4 18.2	2 9.1	-	3 13.6	9 40.9	6 27.3	4 18.2	-
	30歳代	27 100.0	8 29.6	11 40.7	5 18.5	3 11.1	-	11 40.7	10 37.0	4 14.8	2 7.4	-	-	13 48.1	2 7.4	11 40.7	1 3.7
	40歳代	32 100.0	8 25.0	7 21.9	9 28.1	8 25.0	-	12 37.5	9 28.1	9 28.1	2 6.3	-	1 3.1	20 62.5	2 6.3	9 28.1	-
	50歳代	45 100.0	12 26.7	22 48.9	7 15.6	4 8.9	-	13 28.9	23 51.1	8 17.8	1 2.2	-	1 2.2	27 60.0	2 4.4	11 24.4	4 8.9
	60歳代	54 100.0	18 33.3	19 35.2	7 13.0	8 14.8	2 3.7	22 40.7	17 31.5	3 5.6	11 20.4	1 1.9	3 5.6	26 48.1	2 3.7	19 35.2	4 7.4
	70歳以上	84 100.0	37 44.0	26 31.0	3 3.6	12 14.3	6 7.1	43 51.2	17 20.2	3 3.6	10 11.9	11 13.1	11 13.1	37 44.0	1 1.2	15 17.9	20 23.8
	70歳以上	84 100.0	37 44.0	26 31.0	3 3.6	12 14.3	6 7.1	43 51.2	17 20.2	3 3.6	10 11.9	11 13.1	11 13.1	37 44.0	1 1.2	15 17.9	20 23.8

	n	④法律や制度で					⑤政治の場で					⑥地域活動・社会活動の場で (自治会、PTA、NPO、ボランティアなど)					
		計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	319 45.1	184 26.0	50 7.1	120 16.9	35 4.9	509 71.9	78 11.0	14 2.0	73 10.3	34 4.8	196 27.7	244 34.5	47 6.6	186 26.3	35 4.9
女性	29歳以下	17 100.0	7 41.2	3 17.6	-	7 41.2	-	13 76.5	2 11.8	-	2 11.8	-	2 11.8	7 41.2	2 11.8	6 35.3	-
	30歳代	40 100.0	19 47.5	9 22.5	5 12.5	7 17.5	-	29 72.5	3 7.5	-	7 17.5	1 2.5	8 20.0	10 25.0	2 5.0	19 47.5	1 2.5
	40歳代	61 100.0	38 62.3	12 19.7	6 9.8	4 6.6	1 1.6	52 85.2	5 8.2	1 1.6	2 3.3	1 1.6	21 34.4	22 36.1	4 6.6	13 21.3	1 1.6
	50歳代	112 100.0	69 61.6	16 14.3	2 1.8	24 21.4	1 0.9	99 88.4	2 1.8	-	8 7.1	3 2.7	46 41.1	30 26.8	4 3.6	31 27.7	1 0.9
	60歳代	77 100.0	41 53.2	13 16.9	3 3.9	19 24.7	1 1.3	59 76.6	5 6.5	1 1.3	11 14.3	1 1.3	34 44.2	19 24.7	-	23 29.9	1 1.3
	70歳以上	124 100.0	46 37.1	34 27.4	1 0.8	22 17.7	21 16.9	76 61.3	16 12.9	-	14 11.3	18 14.5	35 28.2	45 36.3	2 1.6	23 18.5	19 15.3
	70歳以上	124 100.0	46 37.1	34 27.4	1 0.8	22 17.7	21 16.9	76 61.3	16 12.9	-	14 11.3	18 14.5	35 28.2	45 36.3	2 1.6	23 18.5	19 15.3
男性	29歳以下	22 100.0	4 18.2	11 50.0	5 22.7	2 9.1	-	13 59.1	6 27.3	1 4.5	2 9.1	-	3 13.6	12 54.5	1 4.5	6 27.3	-
	30歳代	27 100.0	10 37.0	6 22.2	7 25.9	4 14.8	-	18 66.7	5 18.5	1 3.7	3 11.1	-	4 14.8	8 29.6	4 14.8	11 40.7	-
	40歳代	32 100.0	9 28.1	7 21.9	12 37.5	4 12.5	-	19 59.4	2 6.3	7 21.9	4 12.5	-	7 21.9	6 18.8	9 28.1	10 31.3	-
	50歳代	45 100.0	13 28.9	18 40.0	6 13.3	7 15.6	2 2.2	28 62.2	9 20.0	1 2.2	6 13.3	1 2.2	11 11.1	24 53.3	6 13.3	9 20.0	1 2.2
	60歳代	54 100.0	27 50.0	18 33.3	1 1.9	6 11.1	2 3.7	38 70.4	5 9.3	2 3.7	7 13.0	2 3.7	11 20.4	20 37.0	4 7.4	16 29.6	3 5.6
	70歳以上	84 100.0	26 31.0	35 41.7	2 2.4	13 15.5	8 9.5	53 63.1	17 20.2	-	7 8.3	7 8.3	18 21.4	36 42.9	8 9.5	14 16.7	8 9.5
	70歳以上	84 100.0	26 31.0	35 41.7	2 2.4	13 15.5	8 9.5	53 63.1	17 20.2	-	7 8.3	7 8.3	18 21.4	36 42.9	8 9.5	14 16.7	8 9.5

【図表 1-1②-1 性・年代別 各分野別の平等感②】

		n	⑦社会通念・慣習・しきたりで				
			計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答
全体 上段/実数		708	511	83	22	65	27
下段/%		100.0	72.2	11.7	3.1	9.2	3.8
女性	29歳以下	17 100.0	11 64.7	4 23.5	1 5.9	1 5.9	- -
	30歳代	40 100.0	34 85.0	2 5.0	1 2.5	3 7.5	- -
	40歳代	61 100.0	50 82.0	4 6.6	1 1.6	5 8.2	1 1.6
	50歳代	112 100.0	96 85.7	5 4.5	1 0.9	9 8.0	1 0.9
	60歳代	77 100.0	63 81.8	5 6.5	1 1.3	8 10.4	- -
	70歳以上	124 100.0	89 71.8	10 8.1	-	9 7.3	16 12.9
	男性	29歳以下	22 100.0	11 50.0	4 18.2	5 22.7	2 9.1
30歳代		27 100.0	14 51.9	4 14.8	4 14.8	5 18.5	- -
40歳代		32 100.0	18 56.3	6 18.8	3 9.4	5 15.6	- -
50歳代		45 100.0	25 55.6	14 31.1	1 2.2	4 8.9	1 2.2
60歳代		54 100.0	39 72.2	7 13.0	2 3.7	4 7.4	2 3.7
70歳以上		84 100.0	51 60.7	17 20.2	2 2.4	8 9.5	6 7.1

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 1-1②-2）

前回調査の結果に比べ、女性では「①家庭生活で」で『男性優遇』の割合で7.0ポイント上昇しているのに対し、男性では『女性優遇』が5.3ポイント上昇している。また、男性では「②職場で」では「平等」が5.9ポイント上昇している。

【図表 1-1②-2 前回調査との比較 各分野別の平等感】

(%)

		女 性						男 性					
		n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答
①家庭生活で	今回調査	431	60.3	21.3	4.4	10.9	3.0	264	33.7	37.9	11.7	13.6	3.0
	前回調査	723	53.3	25.7	5.0	11.6	4.4	456	35.1	41.9	6.4	12.9	3.7
	スコア差		+7.0	-4.4	-0.6	-0.7	-1.4		-1.4	-4.0	+5.3	+0.7	-0.7
②職場で	今回調査	431	52.7	19.7	6.3	15.8	5.6	264	41.3	31.8	11.7	10.6	4.5
	前回調査	723	53.9	18.5	2.9	15.5	9.1	456	45.2	25.9	9.4	12.7	6.8
	スコア差		-1.2	+1.2	+3.4	+0.3	-3.5		-3.9	+5.9	+2.3	-2.1	-2.3
③学校教育の場で （児童・生徒の立場から）	今回調査	431	8.8	43.9	1.9	35.3	10.2	264	7.2	50.0	5.7	26.1	11.0
	前回調査	723	12.9	42.7	2.6	28.1	13.7	456	9.9	47.8	4.6	25.4	12.3
	スコア差		-4.1	+1.2	-0.7	+7.2	-3.5		-2.7	+2.2	+1.1	+0.7	-1.3
④法律や制度で	今回調査	431	51.0	20.2	3.9	19.3	5.6	264	33.7	36.0	12.5	13.6	4.2
	前回調査	723	50.8	18.8	4.3	19.8	6.4	456	36.4	37.1	9.4	13.2	3.9
	スコア差		+0.2	+1.4	-0.4	-0.5	-0.8		-2.7	-1.1	+3.1	+0.4	+0.3
⑤政治の場で	今回調査	431	76.1	7.7	0.5	10.2	5.6	264	64.0	16.7	4.5	11.0	3.8
	前回調査	723	76.2	5.8	0.8	11.1	6.1	456	63.6	20.0	2.0	10.7	3.7
	スコア差		-0.1	+1.9	-0.3	-0.9	-0.5		+0.4	-3.3	+2.5	+0.3	+0.1
⑥地域活動・社会活動の場で （自治会、PTA、NPO、ボランティアなど）	今回調査	431	33.9	30.9	3.2	26.7	5.3	264	18.2	40.2	12.1	25.0	4.5
	前回調査	723	30.3	27.9	4.7	30.6	6.5	456	21.7	42.8	8.3	21.7	5.5
	スコア差		+3.6	+3.0	-1.5	-3.9	-1.2		-3.5	-2.6	+3.8	+3.3	-1.0
⑦社会通念・慣習・しきたりで	今回調査	431	79.6	7.0	1.2	8.1	4.2	264	59.8	19.7	6.4	10.6	3.4
	前回調査	723	76.3	7.1	1.9	9.7	5.0	456	64.3	16.2	4.2	11.8	3.5
	スコア差		+3.3	-0.1	-0.7	-1.6	-0.8		-4.5	+3.5	+2.2	-1.2	-0.1

<他調査（大阪府：令和6年度男女共同参画に関する府民意識調査）との比較>（図表 1-1②-3）

大阪府民意識調査の結果に比べ、『男性優遇』の割合は、「③学校教育の場で」「④法律や制度で」では女性で10ポイント以上、男性で5ポイント以上低くなっているものの、「わからない」や無回答の割合が高くなっている。また、「⑥地域活動・社会活動の場で（自治会、PTA、NPO、ボランティアなど）」では、女性の「平等」が6.6ポイント高くなっている。

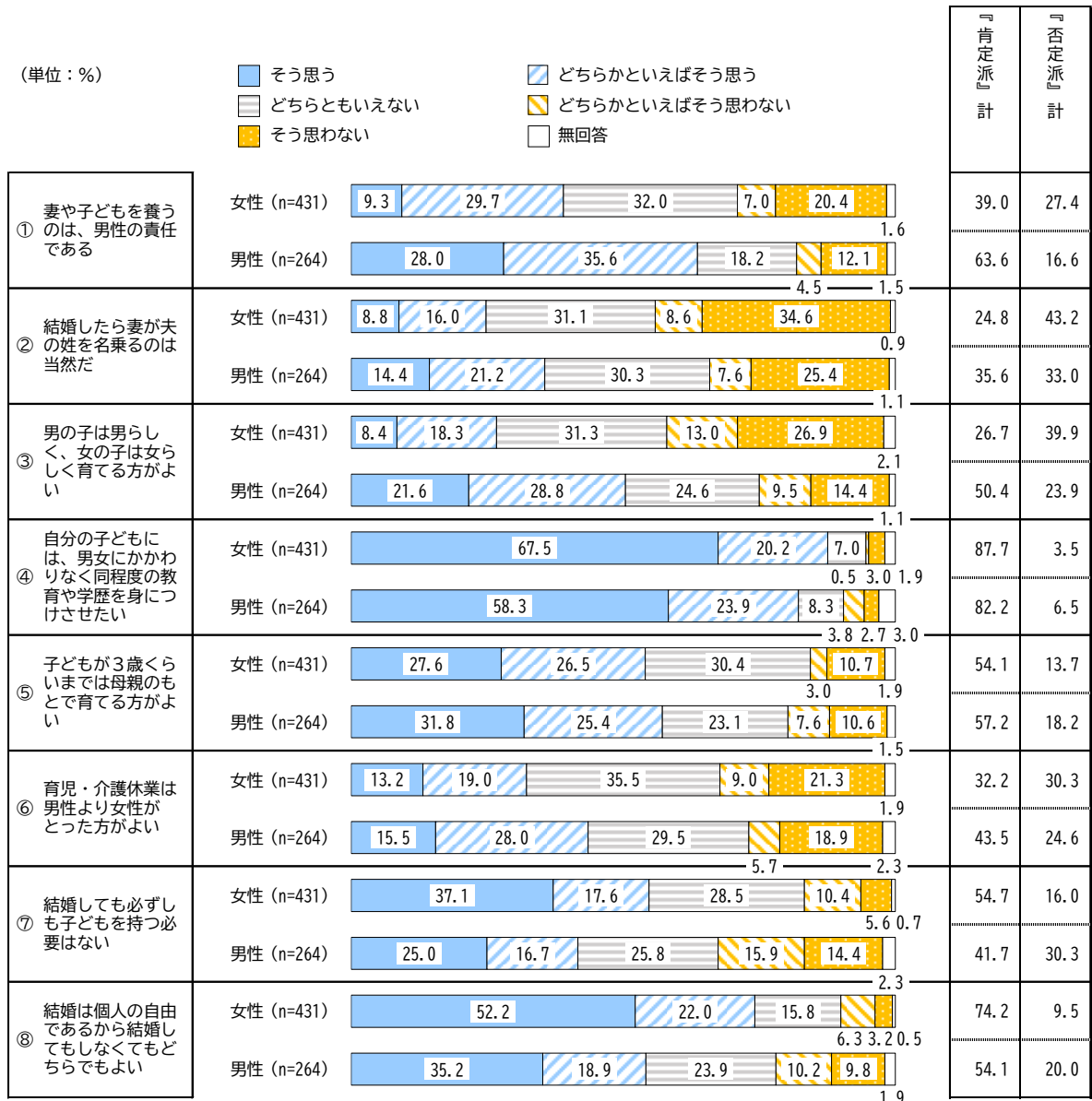
【図表 1-1②-3 他調査との比較 各分野別の平等感】

		女 性						男 性					
		n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答
①家庭生活で	今回調査	431	60.3	21.3	4.4	10.9	3.0	264	33.7	37.9	11.7	13.6	3.0
	他調査	543	57.1	28.2	5.2	7.7	1.8	433	31.6	50.1	12.2	4.8	1.2
	スコア差		+3.2	-6.9	-0.8	+3.2	+1.2		+2.1	-12.2	-0.5	+8.8	+1.8
②職場で	今回調査	431	52.7	19.7	6.3	15.8	5.6	264	41.3	31.8	11.7	10.6	4.5
	他調査	543	54.0	23.6	4.7	12.3	5.5	433	42.7	37.2	10.2	6.2	3.7
	スコア差		-1.3	-3.9	+1.6	+3.5	+0.1		-1.4	-5.4	+1.5	+4.4	+0.8
③学校教育の場で （児童・生徒の立場から）	今回調査	431	8.8	43.9	1.9	35.3	10.2	264	7.2	50.0	5.7	26.1	11.0
	他調査	543	26.9	43.1	1.7	22.7	5.7	433	12.7	55.2	5.1	22.2	4.8
	スコア差		-18.1	+0.8	+0.2	+12.6	+4.5		-5.5	-5.2	+0.6	+3.9	+6.2
④法律や制度で	今回調査	431	51.0	20.2	3.9	19.3	5.6	264	33.7	36.0	12.5	13.6	4.2
	他調査	543	61.7	16.2	2.7	15.8	3.5	433	40.6	36.0	10.2	10.9	2.3
	スコア差		-10.7	+4.0	+1.2	+3.5	+2.1		-6.9	0.0	+2.3	+2.7	+1.9
⑤政治の場で	今回調査	431	76.1	7.7	0.5	10.2	5.6	264	64.0	16.7	4.5	11.0	3.8
	他調査	543	83.1	4.6	-	8.5	3.9	433	70.5	15.5	3.0	7.6	3.5
	スコア差		-7.0	+3.1	+0.5	+1.7	+1.7		-6.5	+1.2	+1.5	+3.4	+0.3
⑥地域活動・社会活動の場で （自治会、PTA、NPO、ボランティアなど）	今回調査	431	33.9	30.9	3.2	26.7	5.3	264	18.2	40.2	12.1	25.0	4.5
	他調査	543	43.2	24.3	4.3	24.5	3.7	433	24.0	42.5	10.1	20.1	3.2
	スコア差		-9.3	+6.6	-1.1	+2.2	+1.6		-5.8	-2.3	+2.0	+4.9	+1.3
⑦社会通念・慣習・しきたりで	今回調査	431	79.6	7.0	1.2	8.1	4.2	264	59.8	19.7	6.4	10.6	3.4
	他調査	543	79.3	6.3	1.3	10.3	2.8	433	66.2	16.9	7.9	6.9	2.1
	スコア差		+0.3	+0.7	-0.1	-2.2	+1.4		-6.4	+2.8	-1.5	+3.7	+1.3

(2) 日常生活や社会全般についての考え方

問7. 次の①～⑧の項目についてどのように思いますか。(それぞれ〇はひとつずつ)

【図表 1-2 日常生活や社会全般についての考え方】



<性別> (図表 1-2)

日常生活や社会全般についての考え方について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『肯定派』の割合は、男女とも「④自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育や学歴を身につけさせたい」が8割台で最も高くなっている。以下、女性では「⑧結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい」(74.2%)、「⑦結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」(54.7%)が、男性では「①妻や子どもを養うのは、男性の責任である」(63.6%)、「⑤子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」(57.2%)が続いている。

女性の『肯定派』の割合は、「⑧結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい」「⑦結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」の割合が男性に比べて10ポイント以

上高いのに対し、男性の『肯定派』の割合は「①妻や子どもを養うのは、男性の責任である」「③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」「⑥育児・介護休業は男性より女性がとった方がよい」「②結婚したら妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」など固定役割分担を肯定する割合が女性に比べて10ポイント以上高くなっている。

<性・年代別> (図表 1-2-1)

① 妻や子どもを養うのは、男性の責任である

女性では、30歳代以下では『否定派』が、40歳代以上では『肯定派』が最も高くなっており、年代による差がみられる。一方男性では、すべての年代で『肯定派』が最も高くなっており、特に50歳代以上では6割台となっている。40歳代以外のすべての年代で、男性の『肯定派』の割合が同年代の女性に比べて20ポイント以上高くなっている。

② 結婚したら、妻が夫の姓を名乗るのは当然だ

女性では60歳代以下、男性では50歳代以下で『否定派』が最も高くなっており、特に30歳代女性で72.5%と高い。男性60歳代では、「どちらともいえない」が、70歳以上は男女ともに『肯定派』が最も高くなっている。

③ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい

女性では60歳代以下のいずれの年代でも『否定派』が最も高く、70歳以上でのみ『肯定派』が最も高い。ただし、40歳代では『肯定派』『どちらともいえない』『否定派』がいずれも3割台で意見は分散傾向である。一方、男性では30歳代以下では『否定派』が最も高いが、40歳代以上では『肯定派』が最も高くなっている。

④ 自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育や学歴を身につけさせたい

男女とも、すべての年代で『肯定派』が高くなっており、女性は80%以上、男性で70%以上となっている。女性30歳代以下、男性29歳以下では90%を超えている。また、『肯定派』の割合は、すべての年代で女性が男性を上回っている。

⑤ 子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい

40歳代以上では男女ともすべての年代で『肯定派』が最も高くなっている。女性の30歳代以下では「どちらともいえない」が最も高く、男性では29歳以下は『否定派』、30歳代ではどちらともいえないが最も高くなっている。

⑥ 育児・介護休業は、男性より女性がとった方がよい

男女ともに30歳代以下では『否定派』の割合が最も高く、40歳代では意見が分散しており、70歳以上は『肯定派』が最も高くなっている。50~60歳代は男女で傾向が異なっており、女性では50歳代は「どちらともいえない」、60歳代は『否定派』が最も高いのに対して、男性では50~60歳代は『肯定派』が最も高くなっている。

⑦ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

男女とも、60歳代以下のすべての年代で『肯定派』が最も高いが、40歳代の男性は『否定派』の割合も34.4%と全体に比べて高くなっている。女性70歳以上では「どちらともいえない」、男性70歳以上で『否定派』が最も高くなっている。女性はいずれの年代でも『肯定派』の割合が男性を上回っている。

⑧ 結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい

男女とも、いずれの年代でも『肯定派』が最も高いが、40歳代や70歳以上の男性は『否定派』の割合が2割台と全体に比べて高くなっている。女性はいずれの年代でも『肯定派』の割合が男性を上回っている。

【図表 1-2-1 性・年代別 日常生活や社会全般についての考え方①】

	n	①妻や子どもを養うのは、男性の責任である				②結婚したら妻が夫の姓を名乗るのは当然だ				③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい				
		計『肯定派』	いどちらないとも	計『否定派』	無回答	計『肯定派』	いどちらないとも	計『否定派』	無回答	計『肯定派』	いどちらないとも	計『否定派』	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	340 48.0	190 26.8	166 23.4	12 1.7	204 28.8	218 30.8	279 39.4	7 1.0	254 35.9	202 28.5	240 33.9	12 1.7
女性	29歳以下	17 100.0	4 23.5	6 35.3	7 41.2	-	2 11.8	6 35.3	9 52.9	-	1 5.9	3 17.6	13 76.5	-
	30歳代	40 100.0	10 25.0	11 27.5	19 47.5	-	9 22.5	2 5.0	29 72.5	-	8 20.0	6 15.0	25 62.5	1 2.5
	40歳代	61 100.0	24 39.3	18 29.5	19 31.1	-	13 21.3	14 23.0	34 55.7	-	19 31.1	20 32.8	22 36.1	-
	50歳代	112 100.0	42 37.5	37 33.0	33 29.5	-	19 17.0	43 38.4	50 44.6	-	26 23.2	37 33.0	49 43.8	-
	60歳代	77 100.0	31 40.3	24 31.2	22 28.6	-	14 18.2	27 35.1	35 45.5	1 1.3	16 20.8	27 35.1	32 41.6	2 2.6
	70歳以上	124 100.0	57 46.0	42 33.9	18 14.5	7 5.6	50 40.3	42 33.9	29 23.4	3 2.4	45 36.3	42 33.9	31 25.0	6 4.8
	男性	29歳以下	22 100.0	11 50.0	4 18.2	7 31.8	-	5 22.7	4 18.2	13 59.1	-	9 40.9	2 9.1	11 50.0
30歳代		27 100.0	16 59.3	6 22.2	5 18.5	-	7 25.9	7 25.9	13 48.1	-	8 29.6	9 33.3	10 37.0	-
40歳代		32 100.0	18 56.3	8 25.0	6 18.8	-	10 31.3	8 25.0	14 43.8	-	13 40.6	11 34.4	8 25.0	-
50歳代		45 100.0	30 66.7	6 13.3	9 20.0	-	14 31.1	13 28.9	18 40.0	-	24 53.3	9 20.0	12 26.7	-
60歳代		54 100.0	35 64.8	10 18.5	8 14.8	1 1.9	15 27.8	22 40.7	16 29.6	1 1.9	29 53.7	13 24.1	11 20.4	1 1.9
70歳以上		84 100.0	58 69.0	14 16.7	9 10.7	3 3.6	43 51.2	26 31.0	13 15.5	2 2.4	50 59.5	21 25.0	11 13.1	2 2.4

	n	④自分の子どもには、男女にかかわらずに同程度の教育や学歴を身につけさせたい				⑤子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい				⑥育児・介護休業は男性より女性がとった方がよい				
		計『肯定派』	いどちらないとも	計『否定派』	無回答	計『肯定派』	いどちらないとも	計『否定派』	無回答	計『肯定派』	いどちらないとも	計『否定派』	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	604 85.3	54 7.6	34 4.8	16 2.3	391 55.2	195 27.5	110 15.5	12 1.7	258 36.4	237 33.5	199 28.1	14 2.0
女性	29歳以下	17 100.0	17 100.0	-	-	-	2 11.8	10 58.8	5 29.4	-	3 17.6	6 35.3	8 47.1	-
	30歳代	40 100.0	39 97.5	-	1 2.5	-	13 32.5	16 40.0	11 27.5	-	10 25.0	10 25.0	20 50.0	-
	40歳代	61 100.0	54 88.5	6 9.8	1 1.6	-	32 52.5	16 26.2	13 21.3	-	21 34.4	19 31.1	21 34.4	-
	50歳代	112 100.0	97 86.6	12 10.7	1 0.9	2 1.8	59 52.7	40 35.7	12 10.7	1 0.9	27 24.1	49 43.8	35 31.3	1 0.9
	60歳代	77 100.0	69 89.6	4 5.2	3 3.9	1 1.3	43 55.8	22 28.6	11 14.3	1 1.3	24 31.2	21 27.3	31 40.3	1 1.3
	70歳以上	124 100.0	102 82.3	8 6.5	9 7.3	5 4.0	84 67.7	27 21.8	7 5.6	6 4.8	54 43.5	48 38.7	16 12.9	6 4.8
	男性	29歳以下	22 100.0	20 90.9	-	2 9.1	-	5 22.7	7 31.8	10 45.5	-	6 27.3	6 27.3	10 45.5
30歳代		27 100.0	24 88.9	2 7.4	1 3.7	-	7 25.9	12 44.4	8 29.6	-	7 25.9	10 37.0	10 37.0	-
40歳代		32 100.0	25 78.1	5 15.6	2 6.3	-	14 43.8	7 21.9	11 34.4	-	11 34.4	13 40.6	8 25.0	-
50歳代		45 100.0	37 82.2	5 11.1	3 6.7	-	25 55.6	14 31.1	6 13.3	-	19 42.2	12 26.7	14 31.1	-
60歳代		54 100.0	43 79.6	6 11.1	4 7.4	1 1.9	39 72.2	8 14.8	6 11.1	1 1.9	22 40.7	18 33.3	13 24.1	1 1.9
70歳以上		84 100.0	68 81.0	4 4.8	5 6.0	7 8.3	61 72.6	13 15.5	7 8.3	3 3.6	50 59.5	19 22.6	10 11.9	5 6.0

【図表 1-2-1 性・年代別 日常生活や社会全般についての考え方②】

	n	⑦結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない				⑧結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい				
		計『肯定派』	いどちらとも	計『否定派』	無回答	計『肯定派』	いどちらとも	計『否定派』	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	351 49.6	196 27.7	152 21.5	9 1.3	469 66.2	135 19.1	97 13.7	7 1.0
女性	29歳以下	17 100.0	15 88.2	1 5.9	1 5.9	-	15 88.2	2 11.8	-	-
	30歳代	40 100.0	32 80.0	4 10.0	4 10.0	-	36 90.0	2 5.0	2 5.0	-
	40歳代	61 100.0	43 70.5	7 11.5	11 18.0	-	53 86.9	3 4.9	5 8.2	-
	50歳代	112 100.0	68 60.7	26 23.2	17 15.2	1 0.9	91 81.3	15 13.4	6 5.4	-
	60歳代	77 100.0	37 48.1	33 42.9	7 9.1	-	51 66.2	17 22.1	9 11.7	-
	70歳以上	124 100.0	41 33.1	52 41.9	29 23.4	2 1.6	74 59.7	29 23.4	19 15.3	2 1.6
	男性	29歳以下	22 100.0	15 68.2	1 4.5	6 27.3	-	17 77.3	2 9.1	3 13.6
30歳代		27 100.0	19 70.4	5 18.5	3 11.1	-	20 74.1	4 14.8	3 11.1	-
40歳代		32 100.0	17 53.1	4 12.5	11 34.4	-	20 62.5	4 12.5	8 25.0	-
50歳代		45 100.0	21 46.7	14 31.1	10 22.2	-	26 57.8	11 24.4	8 17.8	-
60歳代		54 100.0	21 38.9	19 35.2	13 24.1	1 1.9	31 57.4	14 25.9	8 14.8	1 1.9
70歳以上		84 100.0	17 20.2	25 29.8	37 44.0	5 6.0	29 34.5	28 33.3	23 27.4	4 4.8

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 1-2-2）

前回調査の結果に比べ、男女ともに「①妻や子どもを養うのは、男性の責任である」「⑥育児・介護休業は男性より女性がとった方がよい」の『否定派』が5ポイント以上上昇している。女性では「②結婚したら妻が夫の姓を名乗るのは当然だ」「③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」の『否定派』が、男性では「⑤子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」の『否定派』の割合が5ポイント以上上昇している。

【図表 1-2-2 前回調査との比較 日常生活や社会全般についての考え方】

(%)

		女 性					男 性				
		n	計『肯定派』	いどえちらないとも	計『否定派』	無回答	n	計『肯定派』	いどえちらないとも	計『否定派』	無回答
①妻や子どもを養うのは、男性の責任である	今回調査	431	39.0	32.0	27.4	1.6	264	63.6	18.2	16.7	1.5
	前回調査	723	43.6	32.5	22.4	1.5	456	66.9	20.4	10.7	2.0
	スコア差		-4.6	-0.5	+5.0	+0.1		-3.3	-2.2	+6.0	-0.5
②結婚したら妻が夫の姓を名乗るのは当然だ	今回調査	431	24.8	31.1	43.2	0.9	264	35.6	30.3	33.0	1.1
	前回調査	723	26.8	38.2	33.2	1.8	456	34.6	34.2	29.2	2.0
	スコア差		-2.0	-7.1	+10.0	-0.9		+1.0	-3.9	+3.8	-0.9
③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい	今回調査	431	26.7	31.3	39.9	2.1	264	50.4	24.6	23.9	1.1
	前回調査	723	31.3	31.1	34.6	3.0	456	52.2	25.4	19.7	2.6
	スコア差		-4.6	+0.2	+5.3	-0.9		-1.8	-0.8	+4.2	-1.5
④自分の子どもには、男女にかかわらず同程度の教育や学歴を身につけさせたい	今回調査	431	87.7	7.0	3.5	1.9	264	82.2	8.3	6.4	3.0
	前回調査	723	87.1	7.6	2.9	2.4	456	87.3	8.3	1.5	2.9
	スコア差		+0.6	-0.6	+0.6	-0.5		-5.1	0.0	+4.9	+0.1
⑤子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい	今回調査	431	54.1	30.4	13.7	1.9	264	57.2	23.1	18.2	1.5
	前回調査	723	59.1	24.9	13.7	2.4	456	61.8	23.0	12.9	2.2
	スコア差		-5.0	+5.5	0.0	-0.5		-4.6	+0.1	+5.3	-0.7
⑥育児・介護休業は男性より女性がとった方がよい	今回調査	431	32.3	35.5	30.4	1.9	264	43.6	29.5	24.6	2.3
	前回調査	723	37.2	36.8	23.8	2.2	456	46.7	34.0	17.1	2.2
	スコア差		-4.9	-1.3	+6.6	-0.3		-3.1	-4.5	+7.5	+0.1
⑦結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	今回調査	431	54.8	28.5	16.0	0.7	264	41.7	25.8	30.3	2.3
	前回調査	723	51.5	31.0	15.8	1.8	456	40.8	27.9	29.4	2.0
	スコア差		+3.3	-2.5	+0.2	-1.1		+0.9	-2.1	+0.9	+0.3
⑧結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい	今回調査	431	74.2	15.8	9.5	0.5	264	54.2	23.9	20.1	1.9
	前回調査	723	71.1	17.7	9.7	1.5	456	60.1	21.5	16.7	1.8
	スコア差		+3.1	-1.9	-0.2	-1.0		-5.9	+2.4	+3.4	+0.1

2. 家庭生活について

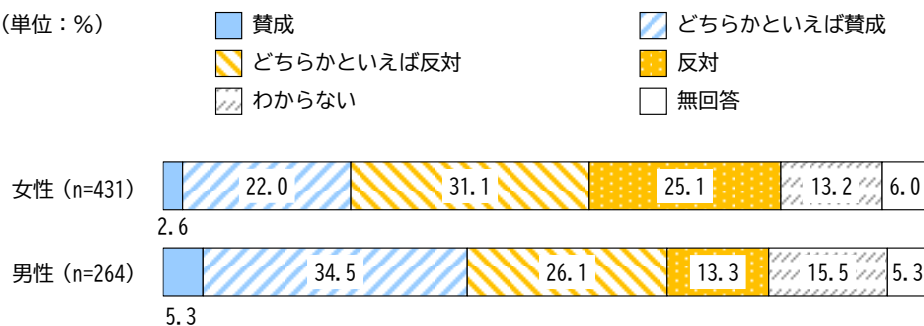
(1) 性別役割分担意識について

問8 「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どう思いますか。

(○はひとつ)

【図表 2-1 性別役割分担意識について】

(単位：%)



『賛成派』計	『反対派』計
24.6	56.2
39.8	39.4

<性別> (図表 2-1)

性別役割分担意識については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成派』の割合は、女性 24.6%、男性 39.8%で、男性の方が 15.2 ポイント高くなっている。「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた『反対派』の割合は、女性 56.2%、男性 39.4%となっており、女性の方が 16.8 ポイント高くなっている。

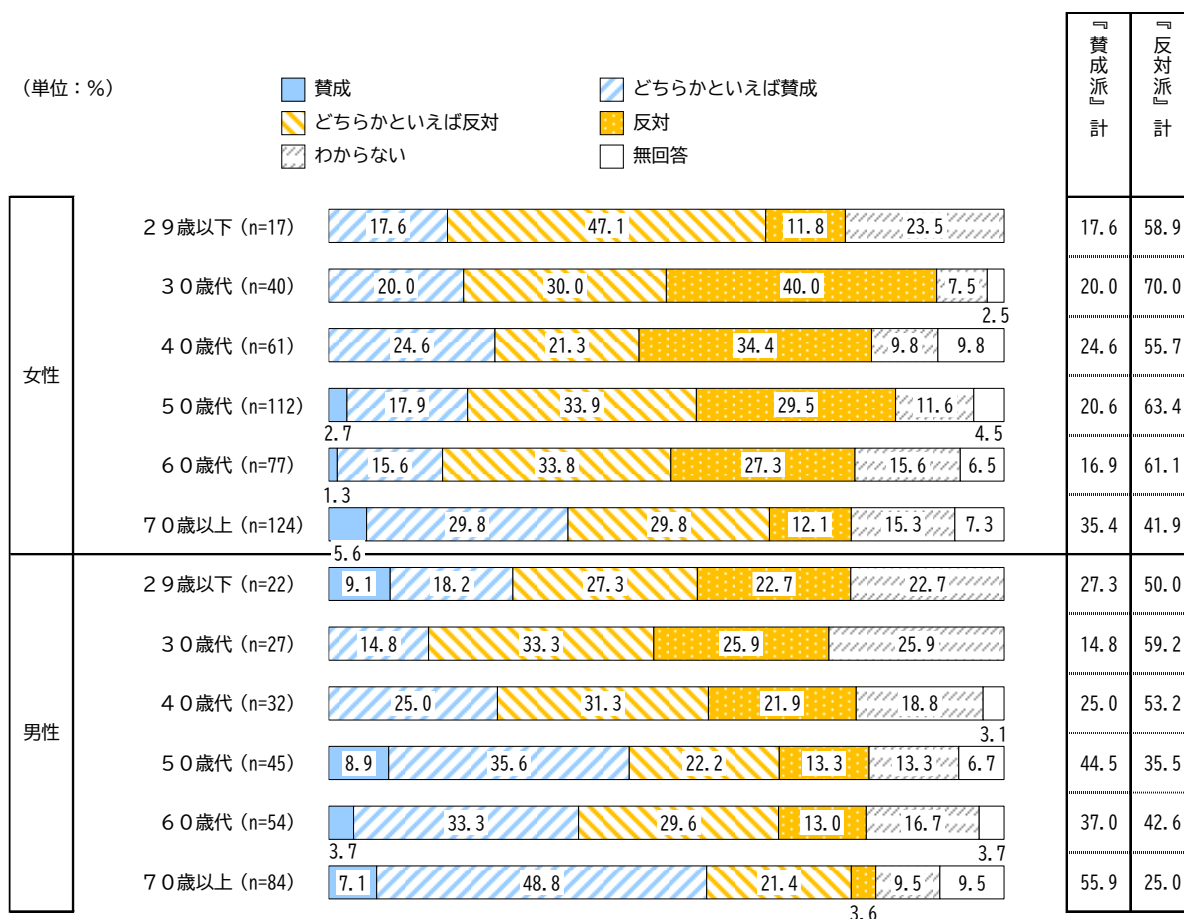
女性では『反対派』が『賛成派』より 31.6 ポイント高くなっているのに比べ、男性では『反対派』(39.8%)と『賛成派』(39.4%)の差はわずか 0.4 ポイントと意見が分散している。

<性・年代別> (図表 2-1-1)

女性では、いずれの年代でも『反対派』が最も高くなっており、その割合は30歳代で70.0%と特に高い。男性では、40歳代以下と60歳代では『反対派』が、50歳代と70歳以上では『賛成派』が最も高くなっている。

30歳代を除いて『賛成派』の割合は女性より男性の方が高く、50歳代以上では20ポイント以上の差がみられる。

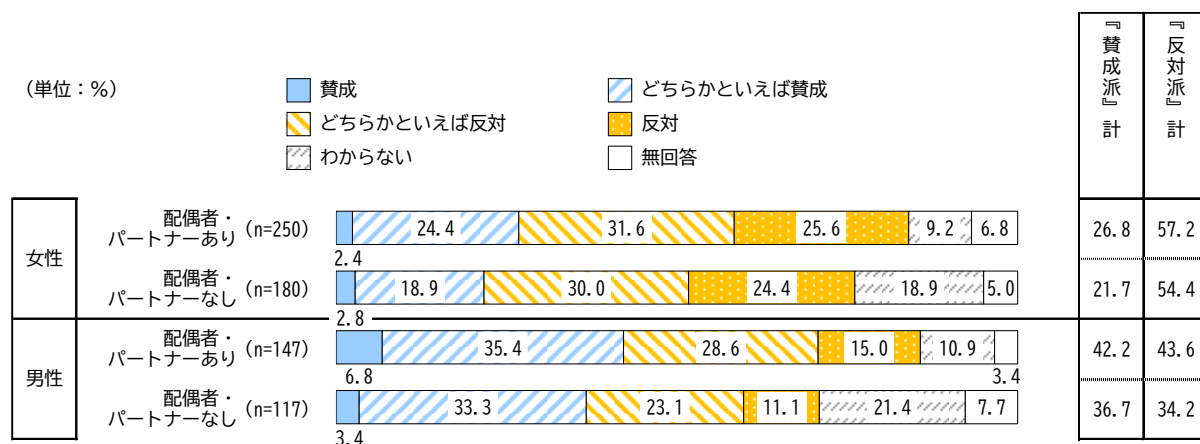
【図表 2-1-1 性・年代別 性別役割分担意識について】



<性・配偶者の有無別> (図表 2-1-2)

女性では、配偶者・パートナーの有無に関わらず『反対派』が5割台、賛成派が2割台となっている。男性では、配偶者・パートナーの有無に関わらず『賛成派』と『反対派』が同程度で意見が分散している。

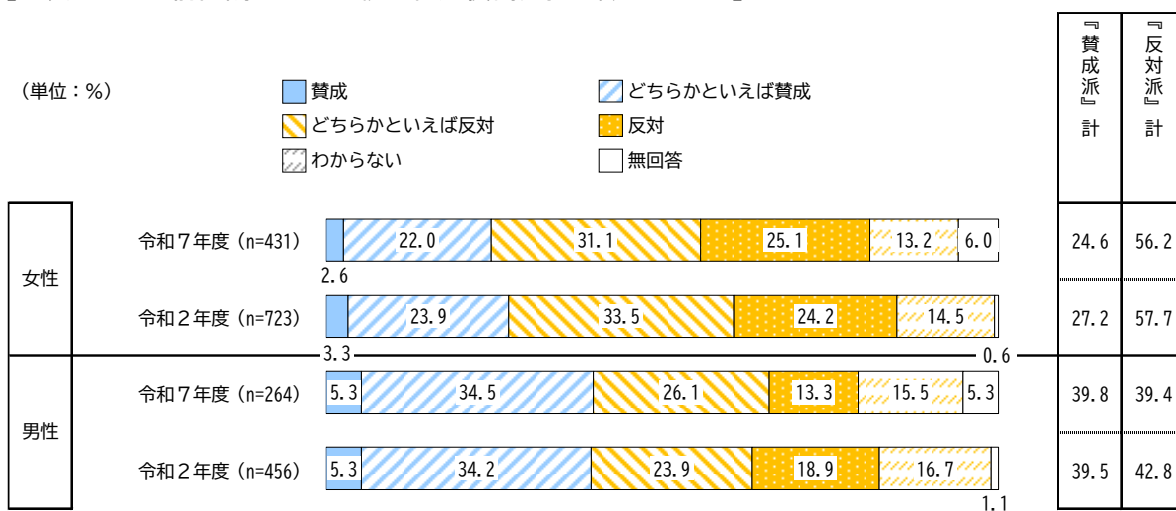
【図表 2-1-2 性・配偶者の有無別 性別役割分担意識について】



<前回調査（令和2年（2020年））との比較> (図表 2-1-3)

前回調査の結果に比べて大きな変化はみられない。

【図表 2-1-3 前回調査との比較 性別役割分担意識について】

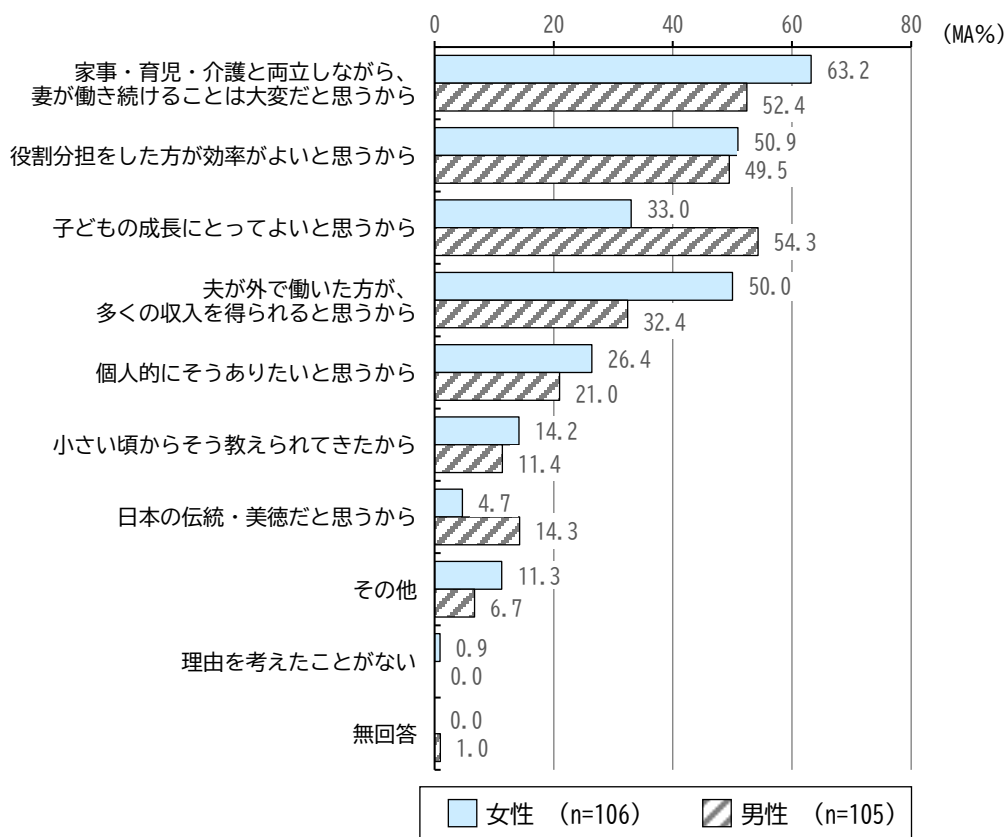


(2) 性別役割分担意識について賛成の理由

【問8で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方にお聞きします。】

問8-1 その理由をお聞かせください。(〇はいくつでも)

【図表 2-2 性別役割分担意識について賛成の理由】



<性別> (図表 2-2)

性別役割分担意識について「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した人に、その理由をたずねたところ、女性では「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」(63.2%)が最も高く、「役割分担をした方が効率がよいと思うから」(50.9%)が続いている。男性では「子どもの成長にとってよいと思うから」(54.3%)が最も高く、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」(52.4%)が続いている。

女性では「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が男性に比べて10ポイント以上高く、男性では「子どもの成長にとってよいと思うから」が女性に比べて20ポイント以上高くなっている。

<性・年代別> (図表 2-2-1)

男女ともに年代別の回答数が少ないため、参考値ではあるが、70歳以上では男女ともに「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が最も高くなっている。

【図表 2-2-1 性・年代別 性別役割分担意識について賛成の理由】

		n	家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから	役割分担を考えた方が効率よく思える	子どもが成長にとってよいと思うから	夫が外で働いてくれる方が、多く収入を得られると思えるから	個人的にそうありたいと思うから	小さい頃からそう教えられてきたから	日本の伝統・美徳だと思うから	その他	理由を考えたことがない	無回答
全体	上段/実数 下段/MA%	213 100.0	124 58.2	107 50.2	94 44.1	89 41.8	51 23.9	27 12.7	20 9.4	19 8.9	1 0.5	1 0.5
女性	29歳以下	3 100.0	1 33.3	3 100.0	- -	- -	2 66.7	- -	- -	- -	- -	- -
	30歳代	8 100.0	5 62.5	6 75.0	3 37.5	4 50.0	2 25.0	- -	- -	4 50.0	- -	- -
	40歳代	15 100.0	12 80.0	7 46.7	8 53.3	7 46.7	1 6.7	- -	- -	3 20.0	- -	- -
	50歳代	23 100.0	15 65.2	14 60.9	5 21.7	12 52.2	5 21.7	3 13.0	- -	3 13.0	- -	- -
	60歳代	13 100.0	6 46.2	3 23.1	6 46.2	8 61.5	3 23.1	2 15.4	2 15.4	1 7.7	1 7.7	- -
	70歳以上	44 100.0	28 63.6	21 47.7	13 29.5	22 50.0	15 34.1	10 22.7	3 6.8	1 2.3	- -	- -
男性	29歳以下	6 100.0	4 66.7	5 83.3	2 33.3	3 50.0	- -	1 16.7	1 16.7	- -	- -	1 16.7
	30歳代	4 100.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	- -	1 25.0	- -	- -	- -	- -
	40歳代	8 100.0	3 37.5	4 50.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	- -	2 25.0	- -	- -
	50歳代	20 100.0	10 50.0	9 45.0	10 50.0	10 50.0	4 20.0	3 15.0	3 15.0	1 5.0	- -	- -
	60歳代	20 100.0	12 60.0	8 40.0	16 80.0	5 25.0	7 35.0	2 10.0	4 20.0	2 10.0	- -	- -
	70歳以上	47 100.0	25 53.2	24 51.1	25 53.2	14 29.8	9 19.1	4 8.5	7 14.9	2 4.3	- -	- -

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 2-2-2）

前回調査の結果に比べ、「子どもの成長にとってよいと思うから」は、女性で13.7ポイント低下しているが、男性では7.6ポイント上昇している。女性では「役割分担をした方が効率がよいと思うから」が6.7ポイント上昇している。

【図表 2-2-2 前回調査との比較 性別役割分担意識について賛成の理由】

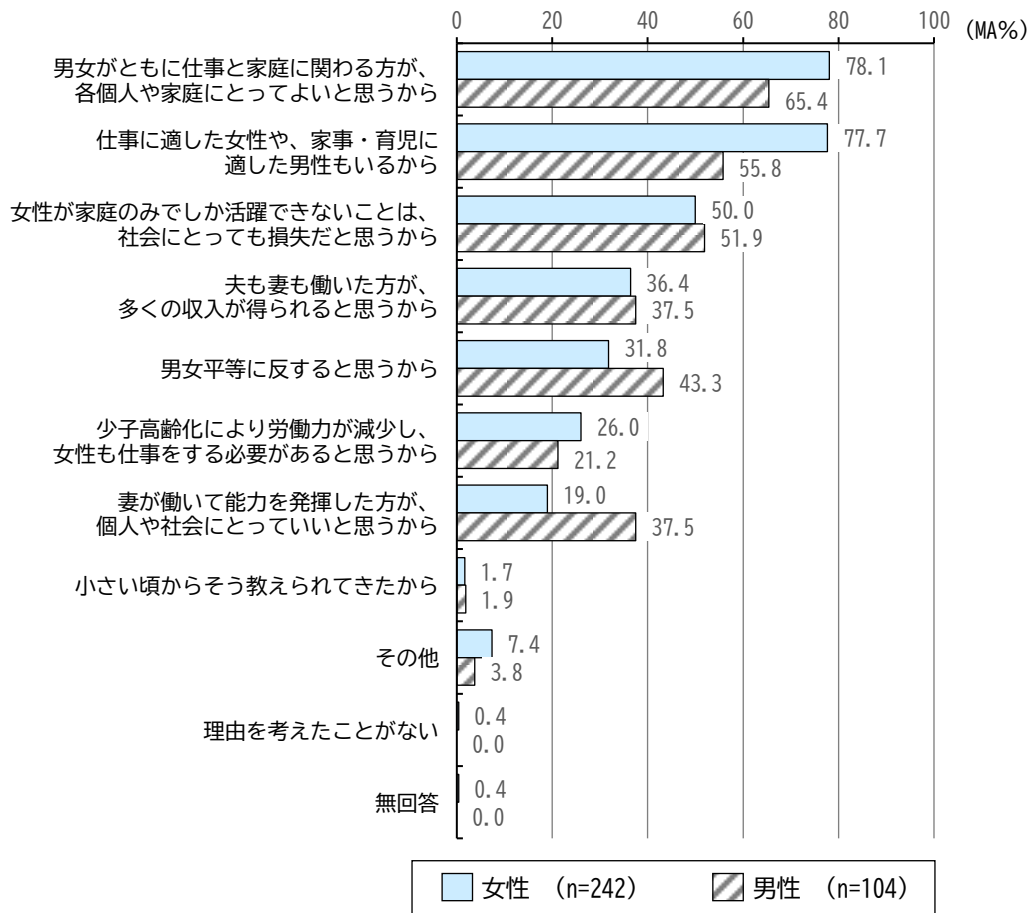
		(MA%)										
		n	らるし家事が役 ることながら、育 は大変妻が介 だと思き働護 う統と かけ立	がよ いと思 うか ら	い子 と思 うか ら	うく から の収 入で 働 得 た 方 が 、 思 多	思 個 人 的 に そ う あ り た い と	れ小 さい 頃 か ら そ う 教 え ら	う日 本 の 伝 統 ・ 美 徳 だ と 思	そ 他	理 由 を 考 え た こ と が な い	無 回 答
女性	今回調査	106	63.2	50.9	33.0	50.0	26.4	14.2	4.7	11.3	0.9	-
	前回調査	197	60.9	44.2	46.7	45.7	29.4	17.3	6.6	4.1	2.0	-
	スコア差		+2.3	+6.7	-13.7	+4.3	-3.0	-3.1	-1.9	+7.2	-1.1	0.0
男性	今回調査	105	52.4	49.5	54.3	32.4	21.0	11.4	14.3	6.7	-	1.0
	前回調査	180	52.2	47.2	46.7	38.3	29.4	15.0	11.7	5.6	1.1	1.1
	スコア差		+0.2	+2.3	+7.6	-5.9	-8.4	-3.6	+2.6	+1.1	-1.1	-0.1

(3) 性別役割分担意識について反対の理由

【問8で「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と答えた方にお聞きします。】

問8-2 その理由をお聞かせください。(〇はいくつでも)

【図表 2-3 性別役割分担意識について反対の理由】



<性別> (図表 2-3)

性別役割分担意識について「反対」「どちらかといえば反対」と回答した人に、その理由をたずねたところ、男女とも「男女がともに仕事と家庭に関わる方が、各個人や家庭にとってよいと思うから」が最も高く、女性で78.1%、男性で65.4%である。次いで「仕事に適した女性や、家事・育児に適した男性もいるから」が女性で77.7%、男性で55.8%となっている。これらの項目は女性の方が男性に比べて10ポイント以上高くなっている。男性では「男女平等に反すると思うから」「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとっていいと思うから」の割合が女性より10ポイント以上高くなっている。

<性・年代別> (図表 2-3-1)

女性では、50 歳代以外のすべての年代で「男女がともに仕事と家庭に関わる方が、各個人や家庭にとってよいと思うから」が最も高くなっており、50 歳代では「仕事に適した女性や、家事・育児に適した男性もいるから」が最も高くなっている (30 歳代では「男女がともに仕事と家庭に関わる方が、各個人や家庭にとってよいと思うから」と「仕事に適した女性や、家事・育児に適した男性もいるから」が同率)。

男性では、年代別の回答数が少ないため、参考値ではあるものの、60 歳代以下は「男女がともに仕事と家庭に関わる方が、各個人や家庭にとってよいと思うから」、70 歳以上では「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから」が最も高くなっている。

【図表 2-3-1 性・年代別 性別役割分担意識について反対の理由】

		n	とわ男 つる女 方がと よが、 も各 に思 う人 事や 家 庭に 関	育 児に 適 した 男 性 も い る 家 事 ・	も 損 失 だ と 思 う か ら	女 性 が 家 庭 の み で し か 活 躍 で な い こ と は 、 社 会 に と っ て も 損 失 だ と 思 う か ら	収 入 も 得 ら れ る と 思 う か ら	夫 も 働 け る と 思 う か ら	男 女 平 等 に 反 す る と 思 う か ら	少 子 高 齢 化 に よ り 労 働 力 が 要 減 す る こ と は 、 社 会 に と っ て も 損 失 だ と 思 う か ら	と 思 う か ら	妻 が 個 人 の 社 会 に と っ て の 能 力 を 発 揮 し て い た ら い い 方 だ と 思 う か ら	小 さ い 頃 か ら そ う 教 え ら れ て	そ の 他	理 由 を 考 え た こ と が 	無 回 答
全体	上段/実数 下段/MA%	354 100.0	264 74.6	249 70.3	179 50.6	129 36.4	127 35.9	88 24.9	88 24.9	6 1.7	23 6.5	1 0.3	2 0.6			
女 性	29歳以下	10 100.0	8 80.0	6 60.0	4 40.0	4 40.0	3 30.0	- -	3 30.0	- -	- -	- -	- -			
	30歳代	28 100.0	24 85.7	24 85.7	11 39.3	10 35.7	10 35.7	7 25.0	6 21.4	- -	4 14.3	- -	- -			
	40歳代	34 100.0	22 64.7	21 61.8	12 35.3	13 38.2	10 29.4	5 14.7	6 17.6	- -	2 5.9	- -	- -			
	50歳代	71 100.0	50 70.4	63 88.7	35 49.3	31 43.7	25 35.2	24 33.8	13 18.3	1 1.4	6 8.5	- -	- -			
	60歳代	47 100.0	40 85.1	36 76.6	26 55.3	16 34.0	16 34.0	8 17.0	9 19.1	1 2.1	5 10.6	- -	- -			
	70歳以上	52 100.0	45 86.5	38 73.1	33 63.5	14 26.9	13 25.0	19 36.5	9 17.3	2 3.8	1 1.9	1 1.9	1 1.9			
男 性	29歳以下	11 100.0	9 81.8	8 72.7	5 45.5	4 36.4	7 63.6	1 9.1	4 36.4	2 18.2	- -	- -	- -			
	30歳代	16 100.0	8 50.0	8 50.0	5 31.3	6 37.5	7 43.8	- -	4 25.0	- -	2 12.5	- -	- -			
	40歳代	17 100.0	11 64.7	7 41.2	10 58.8	5 29.4	4 23.5	4 23.5	4 23.5	- -	1 5.9	- -	- -			
	50歳代	16 100.0	9 56.3	9 56.3	8 50.0	6 37.5	7 43.8	4 25.0	4 25.0	- -	1 6.3	- -	- -			
	60歳代	23 100.0	18 78.3	13 56.5	12 52.2	8 34.8	8 34.8	4 17.4	10 43.5	- -	- -	- -	- -			
	70歳以上	21 100.0	13 61.9	13 61.9	14 66.7	10 47.6	12 57.1	9 42.9	13 61.9	- -	- -	- -	- -			

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 2-3-2）

前回調査の結果に比べ、男性では「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとっていいと思うから」が11.9ポイント、「女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから」が8.3ポイント上昇している。女性では大きな変化はみられない。

【図表 2-3-2 前回調査との比較 性別役割分担意識について反対の理由】

		(MA%)														
		n	関男 と女 わが つる 方 が よ い と 思 う か ら 各 人 や 家 庭 に	る事 か・ 育 児 に 適 し た 女 性 や 家 庭 に	仕 事 に 適 し た 女 性 や 家 庭 に	と つ て も い こ と は 、 社 会 に 活 躍	で 女 性 が 家 庭 の み で し か 活 躍	ら の 夫 も 働 い た 方 が 、 多 く	ら 男 女 平 等 に 反 す る と 思 う か	必 減 少 し 、 女 性 も し し 事 を 働 か す が	い 方 が 、 働 い て 能 力 を 発 揮 し た	妻 が 、 個 人 や 社 会 に と つ て	て 小 さ い 頃 か ら そ う 教 え ら れ	そ の 他	理 由 を 考 え た こ と が な い	無 回 答
女性	今回調査	242	78.1	77.7	50.0	36.4	31.8	26.0	19.0	1.7	7.4	0.4	0.4			
	前回調査	417	74.1	77.5	48.0	35.0	29.3	25.2	22.8	1.0	5.3	-	1.0			
	スコア差		+4.0	+0.2	+2.0	+1.4	+2.5	+0.8	-3.8	+0.7	+2.1	+0.4	-0.6			
男性	今回調査	104	65.4	55.8	51.9	37.5	43.3	21.2	37.5	1.9	3.8	-	-			
	前回調査	195	63.6	63.1	43.6	35.4	39.0	22.1	25.6	1.5	3.1	-	0.5			
	スコア差		+1.8	-7.3	+8.3	+2.1	+4.3	-0.9	+11.9	+0.4	+0.7	0.0	-0.5			

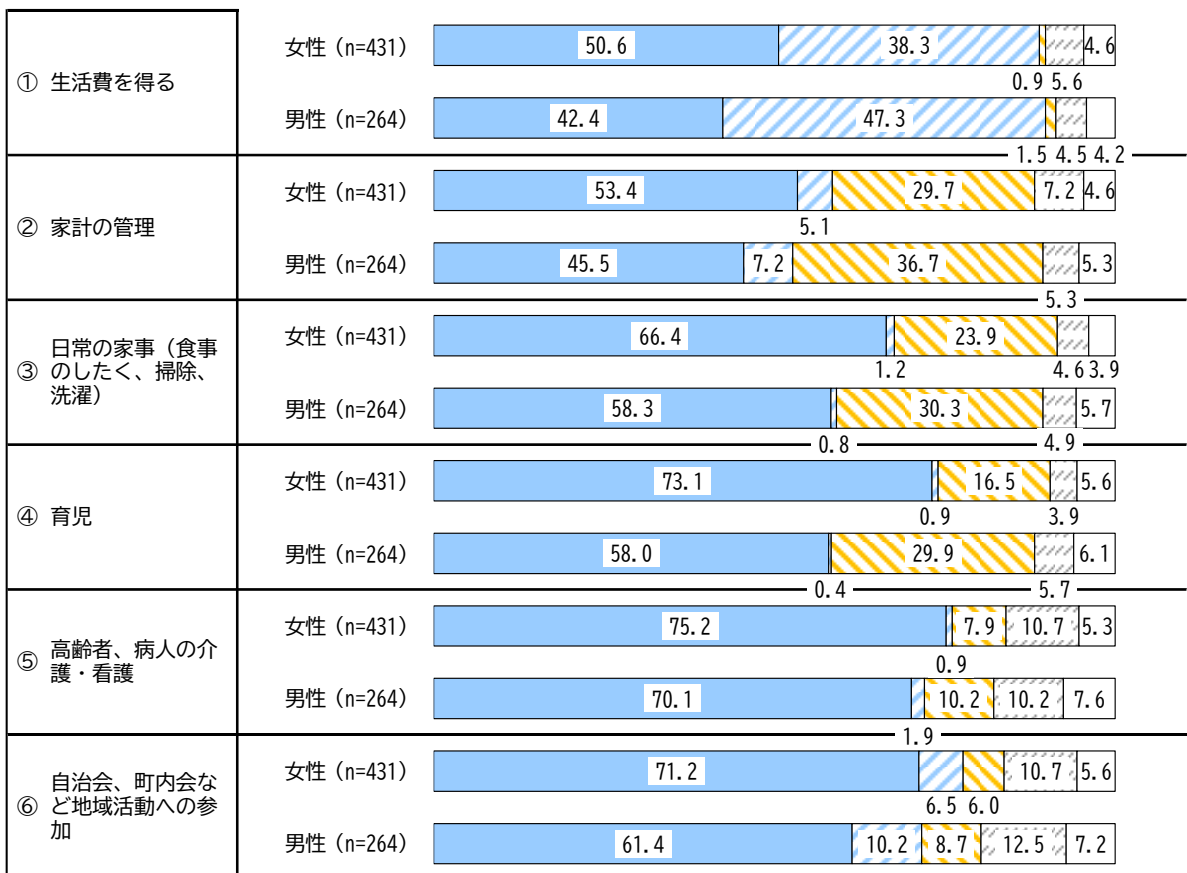
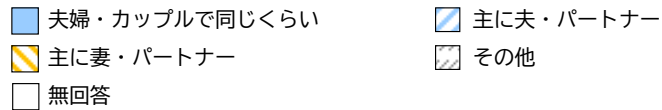
(4) 家庭での分担

①理想

問9 家庭での分担について、あなたはどのようにするのが望ましいと思いますか。また、実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。(①～⑥の項目について、理想と現実それぞれ各項目に○はひとつずつ)

【図表 2-4① 理想】

(単位：%)



<性別> (図表 2-4①)

理想とする家庭での分担について、「①生活費を得る」以外のすべての項目で男女ともに「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高くなっている。「①生活費を得る」では、女性は「夫婦・カップルで同じくらい」(50.6%)、男性は、「主に夫・パートナー」(47.3%)が最も高くなっている。

すべての項目で、女性の「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が、男性に比べて高くなっており、「④育児」でその差が15.1ポイントと最も大きい。

<性・年代別> (図表 2-4①-1)

① 生活費を得る

女性では、60歳代以下で「夫婦・カップルで同じくらい」が、70歳以上で「主に夫・パートナー」が最も高くなっている。男性では、40歳代以下で「夫婦・カップルで同じくらい」、50歳代以上で「主に夫・パートナー」が最も多くなっている。特に、女性30歳代以下、男性29歳以下で「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が、全体と比較して10ポイント以上高くなっている。

② 家計の管理

女性ではすべての年代で、男性では60歳代以下で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高くなっており、男性70歳以上では「主に妻・パートナー」が最も高くなっている。

③ 日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）

女性ではすべての年代で、男性では60歳代以下で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高く、男性70歳以上では「主に妻・パートナー」が最も高くなっている。

④ 育児

女性ではすべての年代で、男性では60歳代以下で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高くなっており、男性70歳以上では「主に妻・パートナー」が最も高くなっている。「夫婦・カップルで同じくらい」は、女性の30歳代以下と男性の29歳以下、40歳代で80%を超えている。

⑤ 高齢者、病人の介護・看護

男女とも、すべての年代で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高くなっている。女性はいずれの年代も「夫婦・カップルで同じくらい」が男性の割合よりも高くなっている。「夫婦・カップルで同じくらい」は、女性60歳代以下、男性50歳代以下では大きな差はみられず、70歳以上でやや低い。

⑥ 自治会、町内会など地域活動への参加

男女とも、すべての年代で「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高くなっている。男女とも29歳以下で、「夫婦・カップルで同じくらい」が8割台と全体に比べて10ポイント以上高い。

<性・夫婦・パートナーの就労状況別> (図表 2-4①-1)

① 生活費を得る

男女とも自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高く、配偶者（パートナー）のみ有職者の層では「主に夫・パートナー」が最も高い。自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層の「夫婦・カップルで同じくらい」は、女性で57.8%、男性で49.3%と、女性が男性より8.5ポイント高くなっている。

② 家計の管理

男性の配偶者（パートナー）のみ有職者の層では「主に妻・パートナー」が最も高いが、その他の層では「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高い。男女とも、自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層の方が、配偶者（パートナー）のみ有職者の層に比べて「夫婦・カップルで同じくらい」が高くなっている。

③ 日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）

女性では、配偶者・パートナーの就労状況に関わらず「夫婦・カップルで同じくらい」が7割台となっており、配偶者・パートナーの就労状況での差はあまりみられない。男性では、自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、「夫婦・カップルで同じくらい」が74.6%と高いが、配偶者（パートナー）のみ有職者の層では「夫婦・カップルで同じくらい」と「主に妻・パートナー」が44.2%で同率となっている。

④ 育児

男女ともに配偶者・パートナーの就労状況に関わらず「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高くなっている。男性よりは女性、配偶者（パートナー）のみ有職者の層よりは自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層の方が「夫婦・カップルで同じくらい」が高い。女性の自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、「夫婦・カップルで同じくらい」が83.6%と特に高い。

⑤ 高齢者、病人の介護・看護

男女ともに配偶者・パートナーの就労状況に関わらず「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高く、女性で8割台、男性で7割台となっている。配偶者・パートナーの就労状況での差異はみられない。

⑥ 自治会、町内会など地域活動への参加

男女ともに配偶者・パートナーの就労状況に関わらず「夫婦・カップルで同じくらい」が最も高く、配偶者（パートナー）のみ有職者の層の方が高くなっている。また、女性の方が「夫婦・カップルで同じくらい」が男性より高くなっている。

【図表 2-4①-1 性・年代別/性・夫婦・パートナーの就労状況別 理想①】

	n	①生活費を得る			②家計の管理			③日常の家事（食事のし たく、掃除、洗濯）			
		で夫 同婦 じ・ くカ ツ プ ラ イ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	で夫 同婦 じ・ くカ ツ プ ラ イ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	で夫 同婦 じ・ くカ ツ プ ラ イ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	337 47.6	294 41.5	8 1.1	360 50.8	41 5.8	227 32.1	448 63.3	7 1.0	186 26.3
女性・年代別	29歳以下	17 100.0	11 64.7	5 29.4	- -	13 76.5	1 5.9	3 17.6	14 82.4	- -	2 11.8
	30歳代	40 100.0	26 65.0	11 27.5	1 2.5	24 60.0	4 10.0	8 20.0	32 80.0	- -	5 12.5
	40歳代	61 100.0	34 55.7	22 36.1	1 1.6	36 59.0	6 9.8	12 19.7	45 73.8	- -	13 21.3
	50歳代	112 100.0	56 50.0	46 41.1	1 0.9	67 59.8	5 4.5	30 26.8	81 72.3	2 1.8	21 18.8
	60歳代	77 100.0	40 51.9	27 35.1	- -	38 49.4	2 2.6	25 32.5	53 68.8	2 2.6	16 20.8
	70歳以上	124 100.0	51 41.1	54 43.5	1 0.8	52 41.9	4 3.2	50 40.3	61 49.2	1 0.8	46 37.1
男性・年代別	29歳以下	22 100.0	16 72.7	4 18.2	1 4.5	13 59.1	1 4.5	7 31.8	15 68.2	1 4.5	4 18.2
	30歳代	27 100.0	15 55.6	8 29.6	1 3.7	17 63.0	- -	7 25.9	20 74.1	- -	4 14.8
	40歳代	32 100.0	17 53.1	11 34.4	- -	21 65.6	2 6.3	5 15.6	19 59.4	- -	10 31.3
	50歳代	45 100.0	17 37.8	27 60.0	- -	20 44.4	4 8.9	18 40.0	29 64.4	- -	15 33.3
	60歳代	54 100.0	25 46.3	26 48.1	- -	24 44.4	5 9.3	20 37.0	36 66.7	- -	11 20.4
	70歳以上	84 100.0	22 26.2	49 58.3	2 2.4	25 29.8	7 8.3	40 47.6	35 41.7	1 1.2	36 42.9
女性・就労別	配偶者（パートナー）のみ有職者	70 100.0	31 44.3	36 51.4	- -	32 45.7	8 11.4	24 34.3	49 70.0	1 1.4	18 25.7
	自身・配偶者（パートナー）ともに有職者	128 100.0	74 57.8	46 35.9	2 1.6	74 57.8	8 6.3	37 28.9	92 71.9	2 1.6	28 21.9
男性・就労別	配偶者（パートナー）のみ有職者	43 100.0	17 39.5	24 55.8	- -	16 37.2	5 11.6	18 41.9	19 44.2	- -	19 44.2
	自身・配偶者（パートナー）ともに有職者	67 100.0	33 49.3	28 41.8	2 3.0	38 56.7	5 7.5	20 29.9	50 74.6	1 1.5	12 17.9
女性・年齢別の子ども	小学生以下	69 100.0	40 58.0	24 34.8	2 2.9	39 56.5	9 13.0	14 20.3	50 72.5	- -	15 21.7
	中学生～高校生相当の年齢	23 100.0	12 52.2	10 43.5	- -	13 56.5	- -	9 39.1	20 87.0	- -	3 13.0
	高校生相当の年齢より上	62 100.0	22 35.5	33 53.2	1 1.6	32 51.6	3 4.8	22 35.5	34 54.8	3 4.8	21 33.9
男性・年齢別の子ども	小学生以下	29 100.0	14 48.3	11 37.9	1 3.4	17 58.6	2 6.9	7 24.1	19 65.5	- -	8 27.6
	中学生～高校生相当の年齢	17 100.0	4 23.5	12 70.6	- -	8 47.1	1 5.9	7 41.2	9 52.9	- -	7 41.2
	高校生相当の年齢より上	26 100.0	7 26.9	17 65.4	1 3.8	8 30.8	1 3.8	16 61.5	14 53.8	1 3.8	10 38.5

【図表 2-4①-1 性・年代別/性・夫婦・パートナーの就労状況別 理想②】

	n	④育児			⑤高齢者、病人の介護・看護			⑥自治会、町内会など地域活動への参加			
		で夫婦 じ・カ ツ プ ル	夫 主 ・ に パ ー ト ナ ー	妻 主 ・ に パ ー ト ナ ー	で夫婦 じ・カ ツ プ ル	夫 主 ・ に パ ー ト ナ ー	妻 主 ・ に パ ー ト ナ ー	で夫婦 じ・カ ツ プ ル	夫 主 ・ に パ ー ト ナ ー	妻 主 ・ に パ ー ト ナ ー	
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	479 67.7	5 0.7	151 21.3	519 73.3	9 1.3	62 8.8	476 67.2	57 8.1	49 6.9
女性・年代別	29歳以下	17 100.0	15 88.2	- -	1 5.9	14 82.4	- -	1 5.9	15 88.2	- -	1 5.9
	30歳代	40 100.0	36 90.0	- -	3 7.5	35 87.5	- -	1 2.5	31 77.5	- -	1 2.5
	40歳代	61 100.0	48 78.7	- -	10 16.4	49 80.3	- -	4 6.6	46 75.4	5 8.2	3 4.9
	50歳代	112 100.0	89 79.5	2 1.8	14 12.5	93 83.0	2 1.8	5 4.5	89 79.5	6 5.4	2 1.8
	60歳代	77 100.0	57 74.0	1 1.3	10 13.0	60 77.9	1 1.3	6 7.8	58 75.3	3 3.9	5 6.5
	70歳以上	124 100.0	70 56.5	1 0.8	33 26.6	73 58.9	1 0.8	17 13.7	68 54.8	14 11.3	14 11.3
男性・年代別	29歳以下	22 100.0	19 86.4	1 4.5	- -	18 81.8	1 4.5	1 4.5	18 81.8	2 9.1	1 4.5
	30歳代	27 100.0	20 74.1	- -	3 11.1	21 77.8	- -	4 14.8	18 66.7	2 7.4	3 11.1
	40歳代	32 100.0	26 81.3	- -	6 18.8	25 78.1	1 3.1	2 6.3	22 68.8	3 9.4	1 3.1
	50歳代	45 100.0	27 60.0	- -	15 33.3	36 80.0	- -	5 11.1	30 66.7	4 8.9	5 11.1
	60歳代	54 100.0	31 57.4	- -	15 27.8	35 64.8	2 3.7	4 7.4	30 55.6	6 11.1	5 9.3
	70歳以上	84 100.0	30 35.7	- -	40 47.6	50 59.5	1 1.2	11 13.1	44 52.4	10 11.9	8 9.5
女性 就労 状況 別	配偶者（パートナー） のみ有職者	70 100.0	53 75.7	1 1.4	12 17.1	56 80.0	1 1.4	5 7.1	56 80.0	4 5.7	3 4.3
	自身・配偶者（パート ナー）ともに有職者	128 100.0	107 83.6	1 0.8	14 10.9	103 80.5	1 0.8	9 7.0	97 75.8	7 5.5	7 5.5
男性 就労 状況 別	配偶者（パートナー） のみ有職者	43 100.0	24 55.8	- -	14 32.6	33 76.7	- -	4 9.3	29 67.4	5 11.6	2 4.7
	自身・配偶者（パート ナー）ともに有職者	67 100.0	46 68.7	- -	14 20.9	51 76.1	2 3.0	6 9.0	43 64.2	9 13.4	6 9.0
女性 年齢 別 子ども	小学生以下	69 100.0	58 84.1	- -	10 14.5	56 81.2	- -	5 7.2	53 76.8	3 4.3	4 5.8
	中学生～高校生相当の 年齢	23 100.0	21 91.3	- -	2 8.7	21 91.3	- -	1 4.3	21 91.3	2 8.7	- -
	高校生相当の年齢より 上	62 100.0	38 61.3	3 4.8	17 27.4	43 69.4	3 4.8	4 6.5	41 66.1	5 8.1	5 8.1
男性 年齢 別 子ども	小学生以下	29 100.0	23 79.3	- -	4 13.8	25 86.2	- -	2 6.9	19 65.5	4 13.8	2 6.9
	中学生～高校生相当の 年齢	17 100.0	10 58.8	- -	7 41.2	10 58.8	2 11.8	3 17.6	11 64.7	2 11.8	2 11.8
	高校生相当の年齢より 上	26 100.0	12 46.2	- -	11 42.3	21 80.8	- -	2 7.7	18 69.2	1 3.8	4 15.4

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 2-4①-2）

前回調査の結果に比べ、女性では「夫婦・カップルで同じくらい」は、「⑤高齢者、病人の介護・看護」以外のすべての項目で5ポイント以上上昇している。男性では「③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」「⑤高齢者、病人の介護・看護」で5ポイント以上上昇しており、それ以外のすべての項目もわずかながら上昇している。

【図表 2-4①-2 前回調査との比較 理想】

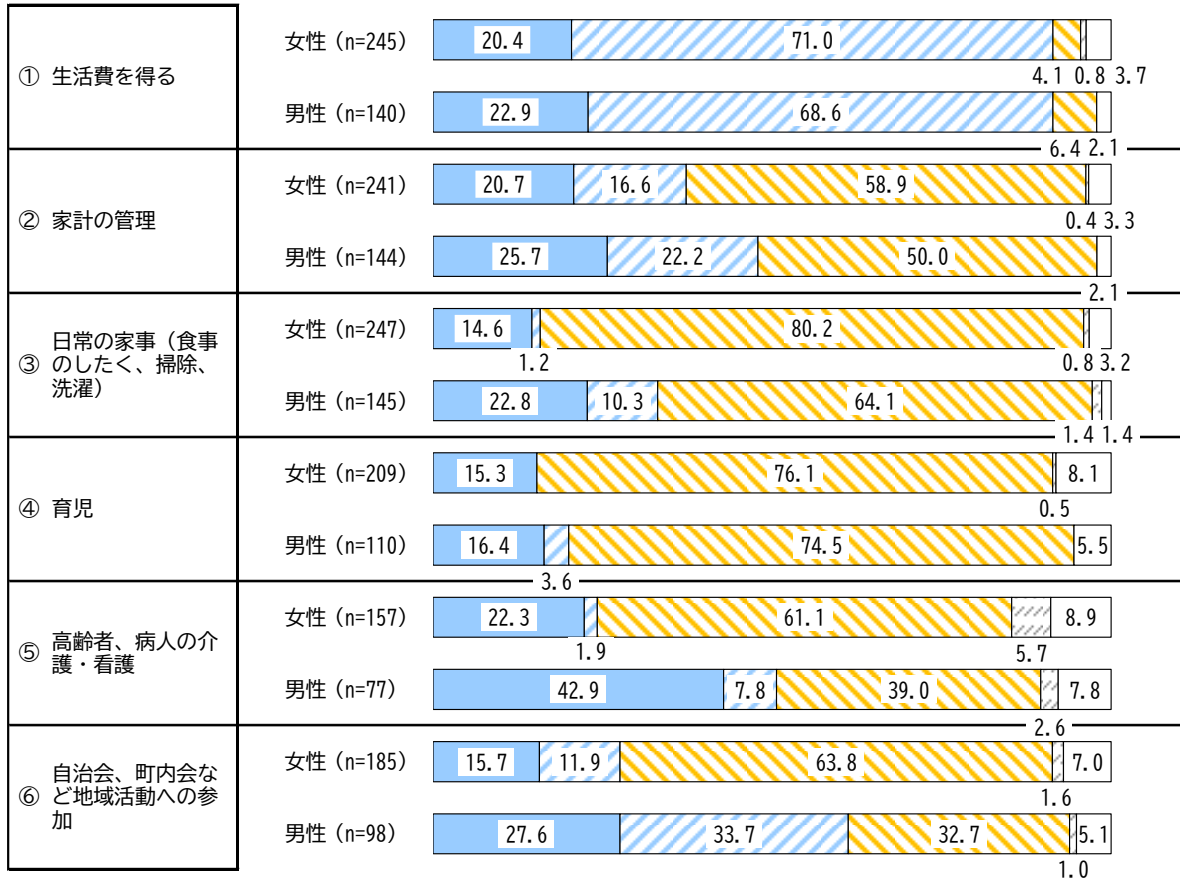
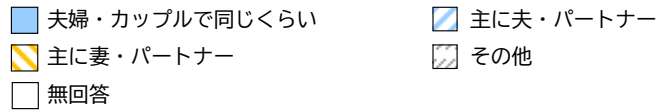
(%)

		女 性			男 性				
		n	で夫 同 婦 じ く カ ツ プ ル	夫 主 ・ に パ ー ト ナ ー	妻 主 ・ に パ ー ト ナ ー	n	で夫 同 婦 じ く カ ツ プ ル	夫 主 ・ に パ ー ト ナ ー	妻 主 ・ に パ ー ト ナ ー
①生活費を得る	今回調査	431	50.6	38.3	0.9	264	42.4	47.3	1.5
	前回調査	723	45.2	42.5	1.1	456	38.4	49.1	0.7
	スコア差		+5.4	-4.2	-0.2		+4.0	-1.8	+0.8
②家計の管理	今回調査	431	53.4	5.1	29.7	264	45.5	7.2	36.7
	前回調査	723	48.3	5.5	35.7	456	42.1	6.6	40.4
	スコア差		+5.1	-0.4	-6.0		+3.4	+0.6	-3.7
③日常の家事（食 事のしたく、掃 除、洗濯）	今回調査	431	66.4	1.2	23.9	264	58.3	0.8	30.3
	前回調査	723	59.1	0.6	30.8	456	50.4	1.3	35.5
	スコア差		+7.3	+0.6	-6.9		+7.9	-0.5	-5.2
④育児	今回調査	431	73.1	0.9	16.5	264	58.0	0.4	29.9
	前回調査	723	66.0	-	21.7	456	54.2	0.4	32.0
	スコア差		+7.1	+0.9	-5.2		+3.8	0.0	-2.1
⑤高齢者、病人の 介護・看護	今回調査	431	75.2	0.9	7.9	264	70.1	1.9	10.2
	前回調査	723	74.8	0.4	8.9	456	65.1	2.4	11.6
	スコア差		+0.4	+0.5	-1.0		+5.0	-0.5	-1.4
⑥自治会、町内会 など地域活動への 参加	今回調査	431	71.2	6.5	6.0	264	61.4	10.2	8.7
	前回調査	723	66.0	7.9	7.2	456	57.2	12.1	10.1
	スコア差		+5.2	-1.4	-1.2		+4.2	-1.9	-1.4

②現実

【図表 2-4② 現実】

(単位：％)



<性別> (図表 2-4②)

現実での家庭での分担について、「①生活費を得る」では、男女とも「主に夫・パートナー」が最も高く、女性で71.0%、男性で68.6%を占めている。

しかし、「②家計の管理」「③日常の家事 (食事のしたく、掃除、洗濯)」「④育児」では、男女とも「主に妻・パートナー」が最も高くなっている。特に、「③日常の家事 (食事のしたく、掃除、洗濯)」では女性、「④育児」では男女ともに「主に妻・パートナー」が70%を超えている。

「⑤高齢者、病人の介護・看護」は、女性では「主に妻・パートナー」が最も高いのに対して、男性では「夫婦・カップルで同じくらい」が、「⑥自治会、町内会など地域活動への参加」は、女性では「主に妻・パートナー」が最も高いのに対して、男性では「主に夫・パートナー」が最も高くなっている。

また、「主に妻・パートナー」は、「⑤高齢者、病人の介護・看護」では、女性で61.1%、男性で39.0%と22.1ポイントの差、「③日常の家事 (食事のしたく、掃除、洗濯)」では、女性で80.2%、男性で64.1%と16.1ポイントの差がみられた。

<性・年代別> (図表 2-4②-1)

① 生活費を得る

女性 29 歳以下、男性は回答者数が少ないため、参考値ではあるが、男女とも、すべての年代で「主に夫・パートナー」が最も高く、女性の 50 歳代、男性の 40～50 歳代で 8 割台と特に高くなっている。

② 家計の管理

30 歳代女性以外、「主に妻・パートナー」が最も高くなっており、特に 60 歳代女性で 75.0% と高くなっている。30 歳代女性では、「夫婦・カップルで同じくらい」が 40.6% で、全体と比して 10 ポイント以上高くなっている。

③ 日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）

男女とも、すべての年代で「主に妻・パートナー」が最も高くなっている。いずれの年代でも「主に妻・パートナー」は男性より女性の方が高く、特に 60 歳代で女性 80.8%、男性 58.6% と差が大きい (22.2 ポイント差)。

④ 育児

男女とも、すべての年代で「主に妻・パートナー」が最も高く、特に女性 50 歳代、男性 30 歳代や 60 歳代で 80% を超えている。

⑤ 高齢者、病人の介護・看護

女性では、すべての年代で「主に妻・パートナー」が最も高く、特に 30 歳代で 75.0% と高い。男性では、50 歳代で「夫婦・カップルで同じくらい」、60 歳代で「主に妻・パートナー」が最も高く、70 歳以上では「夫婦・カップルで同じくらい」と「主に妻・パートナー」が同率で最も高くなっている。

⑥ 自治会、町内会など地域活動への参加

女性では、すべての年代で「主に妻・パートナー」が最も高く、特に 50 歳代で 75.5% と高い。男性では、50 歳代で「夫婦・カップルで同じくらい」、60 歳以上で「主に夫・パートナー」が最も高くなっている。

<性・夫婦・パートナーの就労状況別> (図表 2-4②-1)

① 生活費を得る

配偶者（パートナー）のみ有職者の層では、男女ともに「主に夫・パートナー」の割合が高く、8割台となっている。自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層でも、割合はやや低くなるが、男女ともに「主に夫・パートナー」の割合が最も高く、女性で66.7%、男性で59.1%となっている。

② 家計の管理

配偶者・パートナーの就労状況に関わらず、男女ともに「主に妻・パートナー」が最も高いが、女性の配偶者（パートナー）のみ有職者の層では、「主に夫・パートナー」が全体と比べて10ポイント以上高くなっている。

③ 日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）

配偶者・パートナーの就労状況に関わらず、男女ともに「主に妻・パートナー」が最も高く、自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層より配偶者（パートナー）のみ有職者の層の方が高くなっている。また、男女間では、いずれも20ポイント以上の差がみられた。

④ 育児

配偶者・パートナーの就労状況に関わらず、男女ともに「主に妻・パートナー」が最も高く、7割を超えている。女性では、配偶者（パートナー）のみ有職者の方が「主に妻・パートナー」の割合が高くなっているが、男性では自身が有職か否かによる差があまりみられない。

⑤ 高齢者、病人の介護・看護

女性では配偶者・パートナーの就労状況に関わらず、「主に妻・パートナー」が6割台で最も高くなっている。一方、男性では自身が有職か否かに関わらず、「夫婦・カップルで同じくらい」が4～5割で最も高く、女性との認識の差がみられる。

⑥ 自治会、町内会など地域活動への参加

女性では配偶者・パートナーの就労状況に関わらず、「主に妻・パートナー」が6割台で最も高くなっている。男性では、自身・配偶者（パートナー）ともに有職者の層では、「主に妻・パートナー」が最も高いが、割合は35.0%と女性に比べて低く、また、配偶者（パートナー）のみ有職者の層では、「主に夫・パートナー」が46.4%で最も高く、女性との認識の差がみられる。

【図表 2-4②-1 性・年代別/性・夫婦・パートナーの就労状況別 現実①】

		①生活費を得る				②家計の管理				③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）			
		n	で夫婦・カップル	主に夫・パート	主に妻・パート	n	で夫婦・カップル	主に夫・パート	主に妻・パート	n	で夫婦・カップル	主に夫・パート	主に妻・パート
全体	上段/実数	391	83	275	19	391	88	74	217	398	72	19	293
	下段/%	100.0	21.2	70.3	4.9	100.0	22.5	18.9	55.5	100.0	18.1	4.8	73.6
女性・年代別	29歳以下	3	2	1	-	2	1	1	-	3	1	-	2
		100.0	66.7	33.3	-	100.0	50.0	50.0	-	100.0	33.3	-	66.7
	30歳代	33	7	24	1	32	13	6	12	34	6	1	27
		100.0	21.2	72.7	3.0	100.0	40.6	18.8	37.5	100.0	17.6	2.9	79.4
	40歳代	44	10	33	1	41	11	10	20	44	7	2	34
		100.0	22.7	75.0	2.3	100.0	26.8	24.4	48.8	100.0	15.9	4.5	77.3
	50歳代	66	8	54	3	66	12	13	40	66	9	-	55
	100.0	12.1	81.8	4.5	100.0	18.2	19.7	60.6	100.0	13.6	-	83.3	
60歳代	51	8	34	4	52	6	4	39	52	7	-	42	
	100.0	15.7	66.7	7.8	100.0	11.5	7.7	75.0	100.0	13.5	-	80.8	
70歳以上	48	15	28	1	48	7	6	31	48	6	-	38	
	100.0	31.3	58.3	2.1	100.0	14.6	12.5	64.6	100.0	12.5	-	79.2	
男性・年代別	29歳以下	5	4	-	1	5	2	2	1	6	2	3	1
		100.0	80.0	-	20.0	100.0	40.0	40.0	20.0	100.0	33.3	50.0	16.7
	30歳代	16	7	8	1	15	8	1	6	15	4	-	11
		100.0	43.8	50.0	6.3	100.0	53.3	6.7	40.0	100.0	26.7	-	73.3
	40歳代	19	2	17	-	20	4	8	8	20	6	4	10
		100.0	10.5	89.5	-	100.0	20.0	40.0	40.0	100.0	30.0	20.0	50.0
	50歳代	33	5	27	1	32	9	9	14	33	8	2	23
	100.0	15.2	81.8	3.0	100.0	28.1	28.1	43.8	100.0	24.2	6.1	69.7	
60歳代	30	6	19	4	30	7	6	16	29	7	4	17	
	100.0	20.0	63.3	13.3	100.0	23.3	20.0	53.3	100.0	24.1	13.8	58.6	
70歳以上	37	8	25	2	42	7	6	27	42	6	2	31	
	100.0	21.6	67.6	5.4	100.0	16.7	14.3	64.3	100.0	14.3	4.8	73.8	
女性・就労状況別	配偶者（パートナー）のみ有職者	69	5	59	1	70	8	22	37	70	5	-	63
		100.0	7.2	85.5	1.4	100.0	11.4	31.4	52.9	100.0	7.1	-	90.0
男性・就労状況別	自身・配偶者（パートナー）ともに有職者	126	32	84	7	121	36	14	69	127	25	3	95
		100.0	25.4	66.7	5.6	100.0	29.8	11.6	57.0	100.0	19.7	2.4	74.8
女性・就労状況別	配偶者（パートナー）のみ有職者	41	4	34	3	41	12	8	21	41	9	4	28
		100.0	9.8	82.9	7.3	100.0	29.3	19.5	51.2	100.0	22.0	9.8	68.3
男性・就労状況別	自身・配偶者（パートナー）ともに有職者	66	23	39	3	67	20	16	30	67	20	10	36
		100.0	34.8	59.1	4.5	100.0	29.9	23.9	44.8	100.0	29.9	14.9	53.7
未成年・子ども	小学生以下	61	13	45	2	61	18	17	22	61	10	-	50
		100.0	21.3	73.8	3.3	100.0	29.5	27.9	36.1	100.0	16.4	-	82.0
	中学生～高校生相当の年齢	21	1	20	-	21	1	5	15	21	2	1	18
	100.0	4.8	95.2	-	100.0	4.8	23.8	71.4	100.0	9.5	4.8	85.7	
高校生相当の年齢より上	40	9	30	1	40	7	5	27	40	9	-	30	
	100.0	22.5	75.0	2.5	100.0	17.5	12.5	67.5	100.0	22.5	-	75.0	
未成年・子ども	小学生以下	29	7	21	1	29	11	6	11	29	8	2	18
		100.0	24.1	72.4	3.4	100.0	37.9	20.7	37.9	100.0	27.6	6.9	62.1
	中学生～高校生相当の年齢	15	1	14	-	15	3	3	8	15	4	-	11
	100.0	6.7	93.3	-	100.0	20.0	20.0	53.3	100.0	26.7	-	73.3	
高校生相当の年齢より上	21	3	14	2	21	2	3	16	21	4	2	15	
	100.0	14.3	66.7	9.5	100.0	9.5	14.3	76.2	100.0	19.0	9.5	71.4	

【図表 2-4②-1 性・年代別/性・夫婦・パートナーの就労状況別 現実②】

		④育児				⑤高齢者、病人の介護・看護				⑥自治会、町内会など地域活動への参加				
		n	で夫婦 じ・カ ッ プ ル	ナ 主 に 夫 ・ パ ー ト	ナ 主 に 妻 ・ パ ー ト	n	で夫婦 じ・カ ッ プ ル	ナ 主 に 夫 ・ パ ー ト	ナ 主 に 妻 ・ パ ー ト	n	で夫婦 じ・カ ッ プ ル	ナ 主 に 夫 ・ パ ー ト	ナ 主 に 妻 ・ パ ー ト	
全体		上段/実数 下段/%	321 100.0	51 15.9	4 1.2	242 75.4	238 100.0	69 29.0	9 3.8	128 53.8	287 100.0	58 20.2	57 19.9	150 52.3
女性・年代別	29歳以下		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代		29 100.0	6 20.7	-	23 79.3	12 100.0	3 25.0	-	9 75.0	14 100.0	4 28.6	-	9 64.3
	40歳代		41 100.0	9 22.0	-	30 73.2	20 100.0	3 15.0	2 10.0	10 50.0	31 100.0	7 22.6	4 12.9	18 58.1
	50歳代		54 100.0	8 14.8	-	44 81.5	44 100.0	12 27.3	-	29 65.9	53 100.0	5 9.4	4 7.5	40 75.5
	60歳代		42 100.0	4 9.5	-	33 78.6	44 100.0	8 18.2	-	29 65.9	47 100.0	5 10.6	7 14.9	31 66.0
	70歳以上		43 100.0	5 11.6	-	29 67.4	37 100.0	9 24.3	1 2.7	19 51.4	40 100.0	8 20.0	7 17.5	20 50.0
男性・年代別	29歳以下		1 100.0	1 100.0	-	-	1 100.0	1 100.0	-	-	1 100.0	1 100.0	-	-
	30歳代		12 100.0	2 16.7	-	10 83.3	4 100.0	1 25.0	-	3 75.0	6 100.0	1 16.7	-	5 83.3
	40歳代		16 100.0	3 18.8	1 6.3	12 75.0	2 100.0	1 50.0	-	1 50.0	13 100.0	5 38.5	5 38.5	3 23.1
	50歳代		26 100.0	5 19.2	1 3.8	19 73.1	18 100.0	12 66.7	1 5.6	4 22.2	21 100.0	9 42.9	4 19.0	7 33.3
	60歳代		21 100.0	2 9.5	1 4.8	17 81.0	18 100.0	5 27.8	1 5.6	9 50.0	21 100.0	3 14.3	10 47.6	6 28.6
	70歳以上		34 100.0	5 14.7	1 2.9	24 70.6	34 100.0	13 38.2	4 11.8	13 38.2	36 100.0	8 22.2	14 38.9	11 30.6
状況別 女性 就労	配偶者（パートナー）のみ有職者		60 100.0	9 15.0	-	49 81.7	45 100.0	10 22.2	1 2.2	30 66.7	54 100.0	9 16.7	9 16.7	33 61.1
	自身・配偶者（パートナー）ともに有職者		106 100.0	19 17.9	-	81 76.4	71 100.0	17 23.9	1 1.4	45 63.4	89 100.0	15 16.9	8 9.0	59 66.3
状況別 男性 就労	配偶者（パートナー）のみ有職者		30 100.0	5 16.7	1 3.3	23 76.7	22 100.0	12 54.5	2 9.1	8 36.4	28 100.0	10 35.7	13 46.4	5 17.9
	自身・配偶者（パートナー）ともに有職者		52 100.0	10 19.2	2 3.8	38 73.1	28 100.0	13 46.4	1 3.6	11 39.3	40 100.0	11 27.5	11 27.5	14 35.0
未成年 女性 年齢 子ども	小学生以下		61 100.0	13 21.3	-	48 78.7	61 100.0	4 6.6	2 3.3	16 26.2	61 100.0	8 13.1	3 4.9	28 45.9
	中学生～高校生相当の年齢		21 100.0	2 9.5	-	19 90.5	21 100.0	1 4.8	-	11 52.4	21 100.0	2 9.5	-	13 61.9
	高校生相当の年齢より上		40 100.0	7 17.5	-	30 75.0	40 100.0	9 22.5	1 2.5	19 47.5	40 100.0	6 15.0	6 15.0	19 47.5
未成年 男性 年齢 子ども	小学生以下		29 100.0	6 20.7	1 3.4	21 72.4	29 100.0	2 6.9	-	4 13.8	29 100.0	6 20.7	3 10.3	7 24.1
	中学生～高校生相当の年齢		15 100.0	4 26.7	-	10 66.7	15 100.0	3 20.0	1 6.7	3 20.0	15 100.0	2 13.3	3 20.0	4 26.7
	高校生相当の年齢より上		21 100.0	2 9.5	2 9.5	15 71.4	21 100.0	8 38.1	2 9.5	5 23.8	21 100.0	4 19.0	7 33.3	7 33.3

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 2-4②-2）

前回調査の結果に比べ、女性では「①生活費を得る」は「夫婦・カップルで同じくらい」、「⑥自治会、町内会など地域活動への参加」は「主に妻・パートナー」の割合が上昇している。

男性では、「②家計の管理」「⑤高齢者、病人の介護・看護」は「夫婦・カップルで同じくらい」、「③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）」は「主に夫・パートナー」が、「④育児」「⑥自治会、町内会など地域活動への参加」は「主に妻・パートナー」の割合が5ポイント以上上昇している。

【図表 2-4②-2 前回調査との比較 現実】

(%)

		女 性				男 性			
		n	で夫 同婦 じ・カ ッ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	n	で夫 同婦 じ・カ ッ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー
①生活費を得る	今回調査	245	20.4	71.0	4.1	140	22.9	68.6	6.4
	前回調査	426	15.0	76.8	3.3	256	19.1	69.5	5.5
	スコア差		+5.4	-5.8	+0.8		+3.8	-0.9	+0.9
②家計の管理	今回調査	241	20.7	16.6	58.9	144	25.7	22.2	50.0
	前回調査	430	21.6	16.7	56.3	258	20.2	17.4	57.0
	スコア差		-0.9	-0.1	+2.6		+5.5	+4.8	-7.0
③日常の家事（食 事のしたく、掃 除、洗濯）	今回調査	247	14.6	1.2	80.2	145	22.8	10.3	64.1
	前回調査	436	12.6	3.0	79.8	260	18.8	5.0	70.0
	スコア差		+2.0	-1.8	+0.4		+4.0	+5.3	-5.9
④育児	今回調査	209	15.3	-	76.1	110	16.4	3.6	74.5
	前回調査	353	17.0	0.3	72.8	219	21.5	2.3	65.3
	スコア差		-1.7	-0.3	+3.3		-5.1	+1.3	+9.2
⑤高齢者、病人の 介護・看護	今回調査	157	22.3	1.9	61.1	77	42.9	7.8	39.0
	前回調査	240	26.7	2.9	56.7	163	32.5	6.7	42.9
	スコア差		-4.4	-1.0	+4.4		+10.4	+1.1	-3.9
⑥自治会、町内会 など地域活動への 参加	今回調査	185	15.7	11.9	63.8	98	27.6	33.7	32.7
	前回調査	306	19.6	15.4	54.6	194	28.9	30.4	26.8
	スコア差		-3.9	-3.5	+9.2		-1.3	+3.3	+5.9

<理想-現実のスコア差①> (図表 2-4②-3)

すべての項目で「夫婦・カップルで同じくらい」のスコアについて理想が現実を上回っており、特に女性では「③日常の家事」「④育児」「⑤高齢者、病人の介護・看護」「⑥自治会、町内会など地域活動への参加」では50ポイント以上となっている。

男女とも家庭生活での同等の役割分担を理想としながらも、現実的にはどちらかのパートナーや夫あるいは妻に役割が偏っている。

また上記の項目すべてで女性のスコア差が男性のスコア差を10ポイント以上上回っており、理想と現実の差が女性において顕著に意識されていることがうかがえる。

加えて男性では、自身・配偶者（パートナー）とも有職者で「①生活費を得る」以外の項目で「夫婦・カップルで同じくらい」のスコア差が大きくなっており、理想と現実の差が大きくなっている。

【図表 2-4②-3 性・年代別/性・夫婦・パートナーの就労状況別 理想-現実のスコア差①】

		①生活費を得る			②家計の管理			③日常の家事（食事のしたく、掃除、洗濯）		
		で夫 同婦 じ・ カ ツ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	で夫 同婦 じ・ カ ツ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー	で夫 同婦 じ・ カ ツ プ ル	夫主 ・に パ ー ト ナ ー	妻主 ・に パ ー ト ナ ー
全 体		+27.0	-26.7	-3.6	+29.0	-12.6	-21.7	+45.4	-3.7	-46.4
性別	女性	+30.6	-31.3	-3.1	+33.4	-10.9	-27.1	+52.0	0.0	-55.3
	男性	+20.6	-18.0	-4.6	+20.3	-14.6	-12.3	+35.9	-9.4	-33.0
女性・ 年代別	29歳以下	+14.7	+4.4	0.0	+51.5	-19.1	+17.6	+57.4	0.0	-38.2
	30歳代	+44.4	-43.1	-0.4	+21.8	-7.6	-15.3	+62.4	-2.9	-66.9
	40歳代	+33.0	-38.9	-0.7	+34.0	-12.9	-25.8	+57.9	-4.5	-56.0
	50歳代	+38.1	-39.5	-3.6	+41.9	-14.9	-32.9	+58.9	+1.8	-63.3
	60歳代	+36.8	-29.1	-7.5	+38.1	-4.9	-41.1	+55.6	+2.6	-58.4
	70歳以上	+9.8	-14.8	-1.3	+27.3	-9.3	-24.3	+36.7	+0.8	-42.1
男性・ 年代別	29歳以下	+6.0	+18.2	-12.2	+25.8	-28.8	+15.1	+34.9	-45.5	+1.5
	30歳代	+11.8	-20.4	-2.6	+13.0	-6.3	-11.6	+49.1	0.0	-54.0
	40歳代	+43.1	-50.6	0.0	+45.6	-33.7	-24.4	+29.4	-20.0	-18.7
	50歳代	+22.6	-21.8	-3.0	+17.1	-18.4	-2.4	+40.2	-6.1	-36.4
	60歳代	+26.3	-15.2	-13.3	+21.1	-10.7	-16.3	+43.4	-13.3	-36.3
	70歳以上	+7.2	-1.2	-2.4	+13.1	-6.0	-16.7	+27.4	-3.6	-30.9
女性・夫婦・配偶者 ・パートナーの 就労状況別	配偶者（パ-トナ-）のみ有職者	+37.2	-32.9	-1.4	+34.3	-20.0	-18.6	+62.9	+1.4	-64.3
	自身・配偶者（パ-トナ-）ともに有職者	+32.8	-29.7	-3.9	+29.7	-4.6	-25.0	+52.4	-0.7	-52.3
男性・夫婦・配偶者 ・パートナーの 就労状況別	配偶者（パ-トナ-）のみ有職者	+30.2	-23.3	-7.0	+9.3	-7.0	-6.9	+23.3	-9.3	-20.9
	自身・配偶者（パ-トナ-）ともに有職者	+15.0	-16.4	-1.5	+26.8	-16.4	-14.9	+44.7	-13.4	-35.8

【図表 2-4②-3 性・年代別/性・夫婦・パートナーの就労状況別 理想－現実のスコア差②】

		④育児			⑤高齢者、病人の介護・看護			⑥自治会、町内会など地域活動への参加		
		で夫婦・くわいぶる	夫主・にパートナ	妻主・にパートナ	で夫婦・くわいぶる	夫主・にパートナ	妻主・にパートナ	で夫婦・くわいぶる	夫主・にパートナ	妻主・にパートナ
全 体		+55.0	-0.3	-38.7	+56.2	-0.9	-23.0	+52.8	-6.0	-30.3
性別	女性	+60.3	+0.9	-47.1	+61.2	-0.3	-30.5	+59.6	-2.3	-41.2
	男性	+45.8	-2.3	-25.9	+47.7	-2.2	-10.2	+43.0	-12.2	-13.1
女性・年代別	29歳以下	+88.2	0.0	+5.9	+82.4	0.0	+5.9	+88.2	0.0	+5.9
	30歳代	+72.4	0.0	-60.1	+78.7	0.0	-24.0	+65.7	0.0	-24.0
	40歳代	+58.2	0.0	-51.8	+73.5	-4.5	-16.1	+59.5	-0.9	-36.0
	50歳代	+67.6	+1.8	-53.2	+65.1	+1.8	-38.8	+72.0	-0.6	-57.9
	60歳代	+66.5	+1.3	-49.3	+62.8	+1.3	-46.9	+65.9	-9.3	-52.0
	70歳以上	+46.1	+0.8	-33.8	+40.1	-1.3	-25.9	+38.1	-3.3	-30.4
男性・年代別	29歳以下	+69.7	+4.5	0.0	+65.1	+4.5	+4.5	+65.1	+9.1	+4.5
	30歳代	+61.6	0.0	-51.4	+71.5	0.0	-4.0	+60.4	+7.4	-20.2
	40歳代	+66.3	-5.0	-41.2	+73.1	+3.1	+1.3	+43.8	-15.6	-11.9
	50歳代	+44.8	-3.0	-24.3	+43.6	-3.0	-1.0	+39.4	-3.2	-10.1
	60歳代	+50.7	-3.3	-28.9	+48.1	+0.4	-22.6	+45.6	-22.2	-10.7
	70歳以上	+23.8	-2.4	-9.5	+28.5	-8.3	-17.9	+33.4	-21.4	-16.7
女性・夫婦・配偶者・パートナーの就労状況別	配偶者（パートナ）のみ有職者	+62.8	+1.4	-52.9	+65.7	0.0	-35.8	+67.1	-7.2	-42.8
	自身・配偶者（パートナ）ともに有職者	+68.8	+0.8	-52.4	+67.2	0.0	-28.2	+64.1	-0.8	-40.6
男性・夫婦・配偶者・パートナーの就労状況別	配偶者（パートナ）のみ有職者	+44.2	-2.3	-20.9	+48.8	-4.7	-9.3	+44.1	-18.6	-6.9
	自身・配偶者（パートナ）ともに有職者	+53.8	-3.0	-35.8	+56.7	+1.5	-7.4	+47.8	-3.0	-11.9

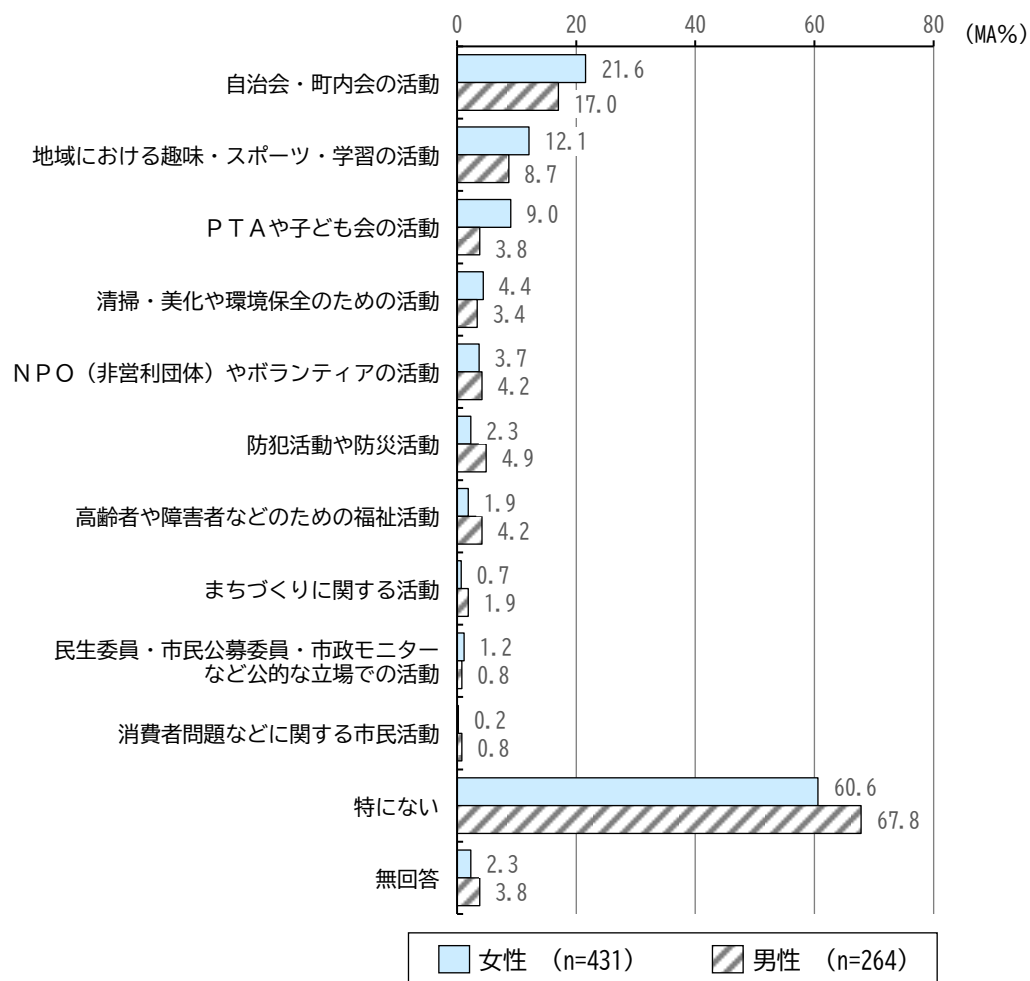
3. 地域活動について

(1) 地域活動の参加状況

①現在参加している活動

問 10 次の地域活動について、①現在参加している活動と、②今後（または引き続き）参加したい活動を、それぞれすべてお選びください。（それぞれ〇はいくつでも）

【図表 3-1① 現在参加している活動】



<性別> (図表 3-1①)

地域活動の参加状況について、現在参加している活動は、男女とも「自治会・町内会の活動」（女性 21.6%、男性 17.0%）が最も高く、次いで「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」（女性 12.1%、男性 8.7%）となっている。また、「特にない」が女性 60.6%、男性 67.8%と高くなっている。

<性・年代別> (図表 3-1①-1)

女性では、40歳代で「PTAや子ども会の活動」、60歳代で「自治会・町内会の活動」が3割台となっている。また、「自治会・町内会の活動」は40歳代と70歳以上、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」は70歳以上、「PTAや子ども会の活動」は30歳代でも、2割台となっている。

男性では、「自治会・町内会の活動」は60歳代以上で2割台となっているが、その他に2割を超える活動はみられない。

「PTAや子ども会の活動」は、40歳代の女性が31.1%なのに対し同年代男性は15.6%、30歳代の女性が25.0%なのに対し同年代の男性は11.1%と、子どもに関する地域活動では女性の方が担っていることがうかがえる。

また、男女とも29歳以下では「特にない」が9割台とすべての年代で最も高い割合を示している。また女性の30歳代、男性の30～50歳代では7割台となっている。

【図表 3-1①-1 性・年代別 現在参加している活動】

	n	自治会・町内会の活動	地域における趣味・スポーツ・学習の活動	PTAや子ども会の活動	清掃・美化や環境保全の活動	NPO(非営利団体)やボランティアの活動	防犯活動や防災活動	高齢者や障害者などのための福祉活動	まちづくりに関する活動	民生委員・市民公募委員・市政モニターなどの活動	消費者問題などに関する市民活動	特にない	無回答
全体	708	138	75	49	28	27	23	19	8	7	3	452	21
上段/実数	100.0	19.5	10.6	6.9	4.0	3.8	3.2	2.7	1.1	1.0	0.4	63.8	3.0
下段/MA%													
女性	29歳以下	17	-	1	-	-	-	-	-	-	-	16	-
		100.0	-	5.9	-	-	-	-	-	-	-	94.1	-
	30歳代	40	5	3	10	2	-	2	1	-	-	29	-
		100.0	12.5	7.5	25.0	5.0	-	5.0	2.5	-	-	72.5	-
	40歳代	61	14	5	19	-	1	1	-	2	-	31	-
		100.0	23.0	8.2	31.1	-	1.6	1.6	-	3.3	-	50.8	-
	50歳代	112	21	7	8	5	4	2	1	-	1	-	76
	100.0	18.8	6.3	7.1	4.5	3.6	1.8	0.9	-	0.9	-	67.9	0.9
60歳代	77	24	11	1	2	4	1	-	-	-	-	45	1
	100.0	31.2	14.3	1.3	2.6	5.2	1.3	-	-	-	-	58.4	1.3
70歳以上	124	29	25	1	10	7	4	7	2	2	1	64	8
	100.0	23.4	20.2	0.8	8.1	5.6	3.2	5.6	1.6	1.6	0.8	51.6	6.5
男性	29歳以下	22	1	-	1	1	-	-	1	-	-	20	1
		100.0	4.5	-	4.5	4.5	-	-	4.5	-	-	90.9	4.5
	30歳代	27	2	4	3	1	2	1	1	1	-	20	-
		100.0	7.4	14.8	11.1	3.7	7.4	3.7	3.7	3.7	-	74.1	-
	40歳代	32	3	2	5	-	2	1	-	-	-	23	-
		100.0	9.4	6.3	15.6	-	6.3	3.1	-	-	-	71.9	-
	50歳代	45	7	1	-	1	1	-	1	-	-	34	1
	100.0	15.6	2.2	-	2.2	2.2	-	2.2	-	-	75.6	2.2	
60歳代	54	11	3	1	2	3	3	3	1	1	-	37	3
	100.0	20.4	5.6	1.9	3.7	5.6	5.6	5.6	1.9	1.9	-	68.5	5.6
70歳以上	84	21	13	-	4	3	8	5	3	1	2	45	5
	100.0	25.0	15.5	-	4.8	3.6	9.5	6.0	3.6	1.2	2.4	53.6	6.0

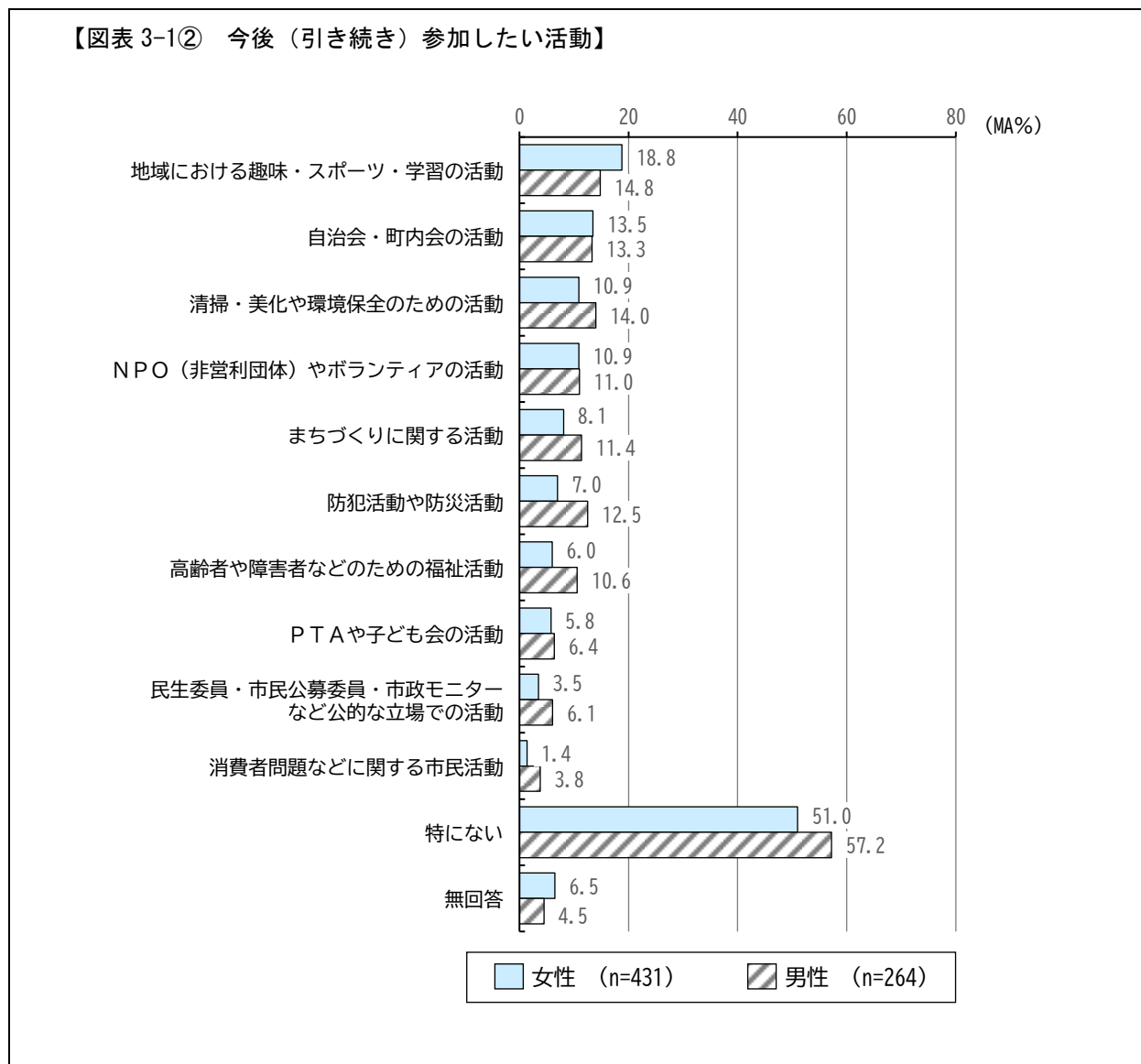
<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 3-1①-2）

前回調査の結果に比べて、「自治会・町内会の活動」が男女ともに5ポイント以上上昇している。

【図表 3-1①-2 前回調査との比較 現在参加している活動】

			自治会・町内会の活動	地域における趣味・スポーツ・学習の活動	PTAや子ども会の活動	清掃・美化や環境保全のための活動	NPO（非営利団体）やボランティアの活動	防犯活動や防災活動	高齢者や障害者などのための福祉活動	まちづくりに関する活動	民生委員・市民公募委員・市政モニターなどの公的な立場での活動	消費者問題などに関する市民活動	特になし	無回答
		n												
女性	今回調査	431	21.6	12.1	9.0	4.4	3.7	2.3	1.9	0.7	1.2	0.2	60.6	2.3
	前回調査	723	15.9	8.9	9.3	3.9	3.7	1.5	2.1	1.1	0.7	0.1	63.2	5.5
	スコア差		+5.7	+3.2	-0.3	+0.5	0.0	+0.8	-0.2	-0.4	+0.5	+0.1	-2.6	-3.2
男性	今回調査	264	17.0	8.7	3.8	3.4	4.2	4.9	4.2	1.9	0.8	0.8	67.8	3.8
	前回調査	456	11.2	9.2	3.9	3.7	2.6	3.3	1.8	1.1	0.7	-	69.7	5.5
	スコア差		+5.8	-0.5	-0.1	-0.3	+1.6	+1.6	+2.4	+0.8	+0.1	+0.8	-1.9	-1.7

②今後参加したい活動



<性別>（図表 3-1②）

今後（または引き続き）参加したい活動は、男女とも「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」が最も高く、女性 18.8%、男性 14.8%となっている。次いで、女性は「自治会・町内会の活動」が 13.5%、男性は「清掃・美化や環境保全のための活動」が 14.0%となっている。

「現在参加している活動」と比較すると、女性では「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」「清掃・美化や環境保全のための活動」「まちづくりに関する活動」が、男性では「自治会・町内会の活動」「P T A や子ども会の活動」以外で 5ポイント以上上回っている。

<性・年代別> (図表 3-1②-1)

今後（または引き続き）参加したい活動は、女性の29歳以下と60歳代、男性の29歳以下と40歳代で「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」、男性30歳代で「まちづくりに関する活動」が20%を超えている。

また、男女ともに29歳以下、男性の50～60歳代で「特にない」の割合が60%を超えている。

【図表 3-1②-1 性・年代別 今後参加したい活動】

	n	地域における趣味・スポーツ・学習の活動	自治会・町内会の活動	清掃・美化や環境保全の活動	NPO（非営利団体）やボランティアの活動	まちづくりに関する活動	防犯活動や防災活動	高齢者や障害者などのための福祉活動	PTAや子ども会の活動	民生委員・市民公募などの活動	消費者問題などに関する活動	特にない	無回答
全体	708	122	93	85	78	66	65	54	43	31	16	380	41
上段/実数	100.0	17.2	13.1	12.0	11.0	9.3	9.2	7.6	6.1	4.4	2.3	53.7	5.8
下段/MA%													
女性・年代別	29歳以下	17	5	-	1	1	-	2	2	-	-	11	-
		100.0	29.4	-	5.9	5.9	5.9	-	11.8	11.8	-	64.7	-
	30歳代	40	9	6	5	3	4	5	2	2	-	22	3
		100.0	22.5	15.0	12.5	7.5	10.0	12.5	5.0	20.0	5.0	55.0	7.5
	40歳代	61	4	5	4	4	6	7	-	11	2	36	1
		100.0	6.6	8.2	6.6	6.6	9.8	11.5	-	18.0	3.3	59.0	1.6
	50歳代	112	19	14	13	17	9	6	8	1	4	2	63
	100.0	17.0	12.5	11.6	15.2	8.0	5.4	7.1	0.9	3.6	1.8	56.3	1.8
60歳代	77	22	12	11	11	11	6	5	2	5	2	34	4
	100.0	28.6	15.6	14.3	14.3	14.3	7.8	6.5	2.6	6.5	2.6	44.2	5.2
70歳以上	124	22	21	13	11	4	6	9	1	2	1	54	18
	100.0	17.7	16.9	10.5	8.9	3.2	4.8	7.3	0.8	1.6	0.8	43.5	14.5
男性・年代別	29歳以下	22	6	3	3	5	4	3	3	3	2	16	-
		100.0	27.3	13.6	13.6	22.7	18.2	13.6	13.6	13.6	9.1	72.7	-
	30歳代	27	5	5	5	4	8	5	4	5	3	15	-
		100.0	18.5	18.5	18.5	14.8	29.6	18.5	14.8	18.5	11.1	55.6	-
	40歳代	32	8	3	5	4	4	2	3	5	1	17	1
		100.0	25.0	9.4	15.6	12.5	12.5	6.3	9.4	15.6	3.1	53.1	3.1
	50歳代	45	2	6	8	5	-	4	2	2	-	27	1
	100.0	4.4	13.3	17.8	11.1	-	8.9	4.4	4.4	2.2	60.0	2.2	
60歳代	54	7	2	9	6	7	10	6	2	5	3	34	2
	100.0	13.0	3.7	16.7	11.1	13.0	18.5	11.1	3.7	9.3	5.6	63.0	3.7
70歳以上	84	11	16	7	5	7	9	10	-	1	1	42	8
	100.0	13.1	19.0	8.3	6.0	8.3	10.7	11.9	-	1.2	1.2	50.0	9.5

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表3-1②-2）

前回調査の結果に比べ、女性では大きな変化はみられないが、男性では「高齢者や障害者などのための福祉活動」「NPOやボランティアの活動」「清掃・美化や環境保全のための活動」「まちづくりに関する活動」が5ポイント以上上昇している。

【図表3-1②-2 前回調査との比較 今後参加したい活動】

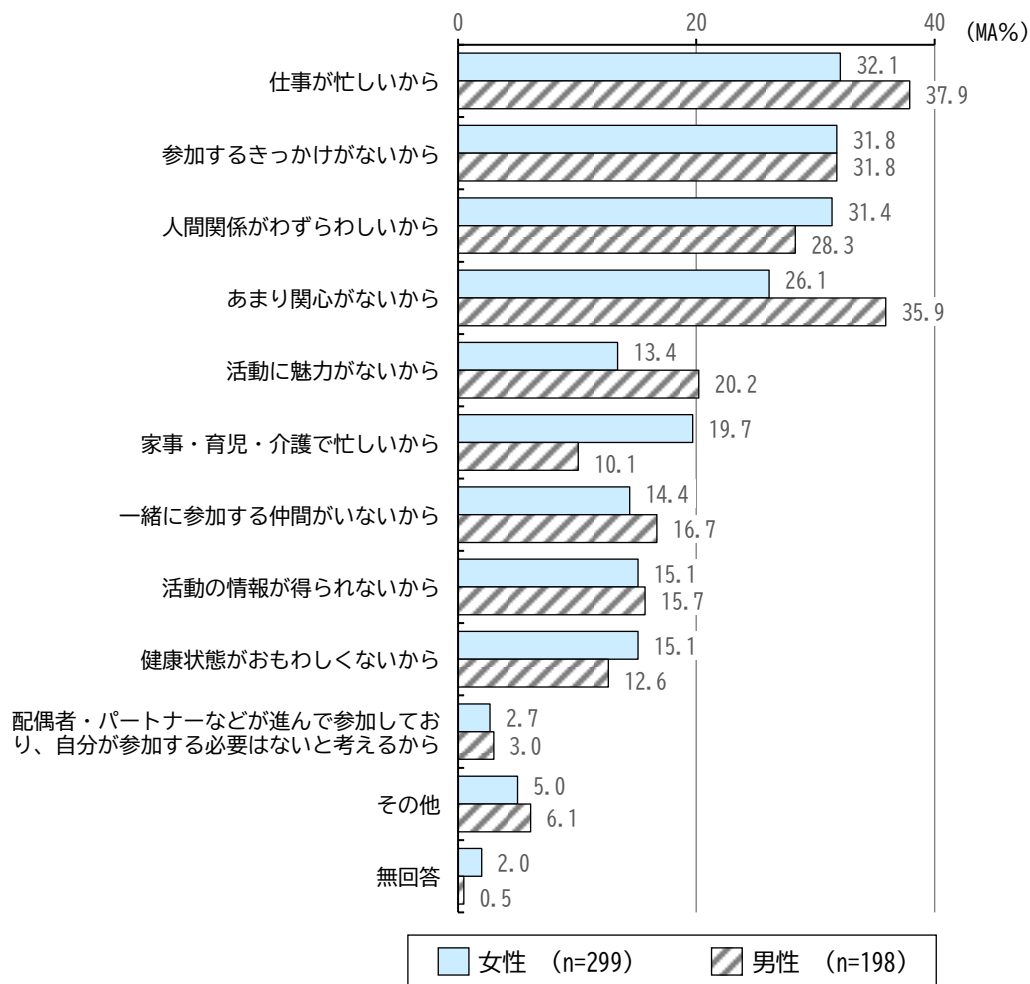
		(MA%)													
		n	地域における スポーツ・学習の 趣味・ス	自治会・町内会 の活動	清掃・美化や 環境保全の 活動	NPO（非営利 団体）や ボランティア の活動	まちづくりに 関する活動	防犯活動や 防災活動	高齢者や障 害者などの 福祉活動	PTAや子ど も会の活動	市民活動 （市民委員 ・市議員の 活動など）	民生委員・ 市民公募委 員会などの 活動	消費者問題 などに関する 活動	特にな い	無回 答
女性	今回調査	431	18.8	13.5	10.9	10.9	8.1	7.0	6.0	5.8	3.5	1.4	51.0	6.5	
	前回調査	723	17.6	11.6	10.0	10.9	5.5	4.6	7.5	6.9	2.5	1.7	53.9	7.6	
	スコア差		+1.2	+1.9	+0.9	0.0	+2.6	+2.4	-1.5	-1.1	+1.0	-0.3	-2.9	-1.1	
男性	今回調査	264	14.8	13.3	14.0	11.0	11.4	12.5	10.6	6.4	6.1	3.8	57.2	4.5	
	前回調査	456	14.7	11.2	8.6	5.5	6.1	8.3	3.5	4.4	2.6	1.3	59.0	6.6	
	スコア差		+0.1	+2.1	+5.4	+5.5	+5.3	+4.2	+7.1	+2.0	+3.5	+2.5	-1.8	-2.1	

(2) 地域活動に参加したくない理由

【問10で、ひとつでも「11. 特にない」と答えた方にお聞きします。】

問10-1 それはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

【図表 3-2 地域活動に参加したくない理由】



<性別> (図表 3-2)

地域活動に参加したくないと回答した人に、その理由をたずねたところ、男女とも「仕事が忙しいから」が最も高く、女性で32.1%、男性で37.9%となっている。次いで、女性では「参加するきっかけがないから」(31.8%)、男性では「あまり関心がないから」(35.9%)となっている。

また、女性は「家事・育児・介護で忙しいから」が男性に比べて9.6ポイント高くなっており、男性では「あまり関心がないから」「活動に魅力がないから」が女性に比べて5ポイント以上高くなっている。

<性・年代別> (図表 3-2-1)

女性では、29歳以下と60歳代で「参加するきっかけがないから」、40～50歳代で「仕事が忙しいから」、30歳代で「仕事が忙しいから」「参加するきっかけがないから」、70歳以上で「健康状態がおもしろくないから」が、それぞれ最も高くなっている。

男性では、29歳以下と60歳代以上で「あまり関心がないから」、30～50歳代で「仕事が忙しいから」が、それぞれ最も高くなっている。

30～50歳代においては、男女とも「仕事が忙しいから」が最も高くなっている。また、「参加するきっかけがないから」は、男女ともに比較的若年層の割合が高くなっている。

【図表 3-2-1 性・年代別 地域活動に参加したくない理由】

		n	仕事が忙しいから	参加するきっかけがないから	人間関係がわずらわしいから	あまり関心がないから	活動に魅力がないから	家事・育児・介護で忙しいから	一緒に参加する仲間がいないから	活動の情報が得られないから	健康状態がおもしろくないから	配偶者・パートナーなど参加する必要はないと考えるから	その他	無回答
全体	上段/実数	509	179	162	156	154	84	79	79	78	72	14	28	7
	下段/MA%	100.0	35.2	31.8	30.6	30.3	16.5	15.5	15.5	15.3	14.1	2.8	5.5	1.4
女性	29歳以下	16	7	11	-	6	2	1	2	3	-	-	1	-
		100.0	43.8	68.8	-	37.5	12.5	6.3	12.5	18.8	-	-	6.3	-
	30歳代	31	17	17	14	9	9	13	3	6	3	-	-	-
		100.0	54.8	54.8	45.2	29.0	29.0	41.9	9.7	19.4	9.7	-	-	-
	40歳代	43	21	13	18	12	8	17	9	8	2	3	-	-
		100.0	48.8	30.2	41.9	27.9	18.6	39.5	20.9	18.6	4.7	7.0	-	-
女性	50歳代	85	36	18	28	21	8	15	13	10	11	2	3	2
		100.0	42.4	21.2	32.9	24.7	9.4	17.6	15.3	11.8	12.9	2.4	3.5	2.4
	60歳代	53	10	20	18	16	8	9	12	13	6	1	1	1
		100.0	18.9	37.7	34.0	30.2	15.1	17.0	22.6	24.5	11.3	1.9	1.9	1.9
	70歳以上	71	5	16	16	14	5	4	4	5	23	2	10	3
		100.0	7.0	22.5	22.5	19.7	7.0	5.6	5.6	7.0	32.4	2.8	14.1	4.2
男性	29歳以下	20	5	9	5	11	5	-	4	2	-	1	-	-
		100.0	25.0	45.0	25.0	55.0	25.0	-	20.0	10.0	-	5.0	-	-
	30歳代	21	15	4	7	4	3	5	2	3	-	1	2	-
		100.0	71.4	19.0	33.3	19.0	14.3	23.8	9.5	14.3	-	4.8	9.5	-
	40歳代	27	18	9	10	10	7	8	8	4	2	2	3	-
		100.0	66.7	33.3	37.0	37.0	25.9	29.6	29.6	14.8	7.4	7.4	11.1	-
男性	50歳代	38	23	13	8	9	6	3	7	3	3	-	1	-
		100.0	60.5	34.2	21.1	23.7	15.8	7.9	18.4	7.9	7.9	-	2.6	-
	60歳代	42	10	15	11	21	13	3	6	12	6	-	2	-
		100.0	23.8	35.7	26.2	50.0	31.0	7.1	14.3	28.6	14.3	-	4.8	-
	70歳以上	50	4	13	15	16	6	1	6	7	14	2	4	1
		100.0	8.0	26.0	30.0	32.0	12.0	2.0	12.0	14.0	28.0	4.0	8.0	2.0

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表3-2-2）

前回調査の結果に比べ、「人間関係がわずらわしいから」が男女とも5ポイント以上上昇している。男性では、「仕事が忙しいから」「あまり関心がないから」も5ポイント以上上昇している。

【図表3-2-2 前回調査との比較 地域活動に参加したくない理由】

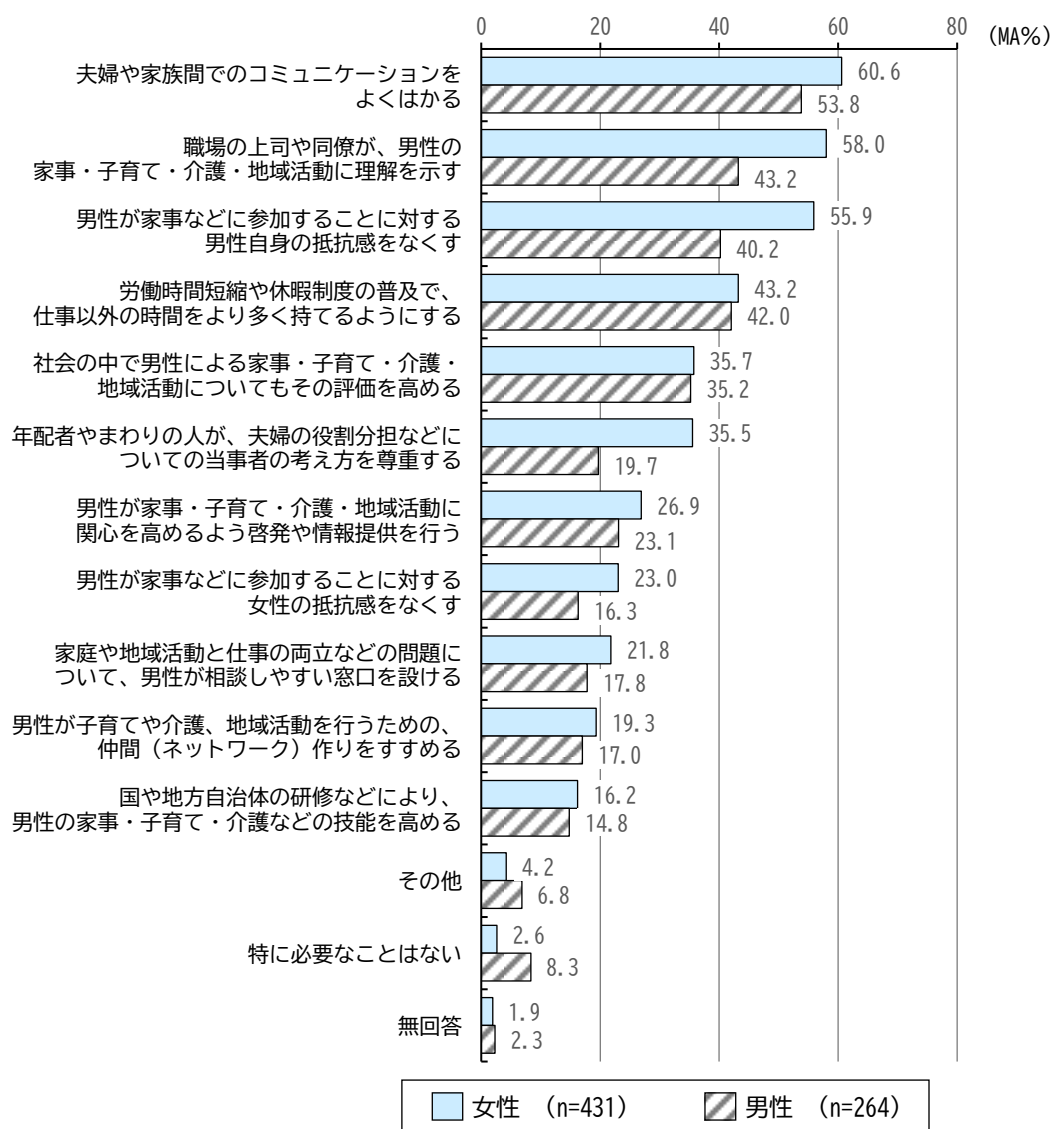
			(MA%)												
		n	仕事が忙しいから	参加するきっかけがないから	人間関係がわずらわしいから	あまり関心がないから	活動に魅力がないから	家事・育児・介護で忙しいから	一緒に参加する仲間がないから	活動の情報が得られないから	健康状態がおもわしくないから	要参加しており、自分が参加する必要はないと考えるから(※)	配偶者・パートナーなどが進んで	その他	無回答
女性	今回調査	299	32.1	31.8	31.4	26.1	13.4	19.7	14.4	15.1	15.1	2.7	5.0	2.0	
	前回調査	509	28.1	32.6	25.1	27.1	11.0	16.7	13.8	14.1	13.4	1.6	7.5	7.1	
	スコア差		+4.0	-0.8	+6.3	-1.0	+2.4	+3.0	+0.6	+1.0	+1.7	+1.1	-2.5	-5.1	
男性	今回調査	198	37.9	31.8	28.3	35.9	20.2	10.1	16.7	15.7	12.6	3.0	6.1	0.5	
	前回調査	339	32.2	29.8	22.1	30.4	16.2	8.3	12.7	14.2	14.5	0.6	6.8	4.4	
	スコア差		+5.7	+2.0	+6.2	+5.5	+4.0	+1.8	+4.0	+1.5	-1.9	+2.4	-0.7	-3.9	

4. 男性の家事・子育て・介護・地域活動の参加について

(1) 男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくために必要なこと

問 11 今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

【図表 4-1 男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくために必要なこと】



<性別> (図表 4-1)

男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、男女とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高く、女性が60.6%、男性が53.8%となっている。次いで「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」が女性は58.0%、男性は43.2%となっている。

「労働時間短縮や休暇制度の普及で、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」と「社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動についてもその評価を高める」で男女ほぼ同等となっている以外は、女性の方が高く、特に「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する」では10ポイント以上高くなっている。

<性・年代別> (図表 4-1-1)

女性では、29歳以下と40～50代、70歳以上で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」(29歳以下：82.4%、40歳代：59.0%、50歳代：64.3%、70歳以上：58.1%)が最も高く、30歳代では「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」(77.5%)が最も高くなっている。60歳代では、「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」と「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」がともに58.4%で最も高くなっている。

男性では、29歳以下、60歳代以上で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」(29歳以下：68.2%、60歳代：50.0%、70歳以上：60.7%)が最も高く、40歳代では「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」(50.0%)が最も高くなっている。30歳代では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」と「労働時間短縮や休暇制度の普及で、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」がともに59.3%で、50歳代では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」と「職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す」がともに42.2%で最も高くなっている。

<性・配偶者の有無別> (図表 4-1-1)

女性の配偶者・パートナーあり層は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高く、女性の配偶者・パートナーなし層では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が最も高くなっている。

男性はいずれの層でも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高くなっている。

女性の配偶者・パートナーなし層では、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する」が全体に比べて10ポイント以上高い。

【図表 4-1-1 性・年代別/性・配偶者の有無別

男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくために必要なこと】

		n	くはかる	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよ	て・介護・地域活動に理解を示す	職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て	男性が家事などに参加することに對する男	性自身の抵抗感をなくす	外労働時間をより多く持てるようにする	労働時間短縮や休暇制度の普及で、仕事以	護・地域活動についてもその評価を高める	社会の中で男性による家事・子育て・介	どについでにの当事者の考え方を尊重する	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担な	心が高めるよう啓発や情報提供を行う	男性が家事・子育て・介護・地域活動に関	性の抵抗感をなくす	男性が家事などに参加することに對する女	ついで、男性が相談しやすい窓口を設ける	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題に	の、仲間（ネットワーク）作りをすすめる	男性が子育てや介護、地域活動を行うため	家事・子育て・介護などの技能を高める	国や地方自治体の研修などにより、男性の	その他	特に必要なことはない	無回答				
全体	上段/実数 下段/MA%	708 100.0	412 58.2	373 52.7	355 50.1	305 43.1	256 36.2	213 30.1	182 25.7	147 20.8	147 20.8	131 18.5	113 16.0	36 5.1	34 4.8	14 2.0															
女性・年代別	29歳以下	17 100.0	14 82.4	9 52.9	9 52.9	11 64.7	5 29.4	10 58.8	4 23.5	4 23.5	6 35.3	5 29.4	3 17.6	1 5.9	-	-															
	30歳代	40 100.0	23 57.5	31 77.5	18 45.0	25 62.5	15 37.5	19 47.5	11 27.5	6 15.0	9 22.5	4 10.0	5 12.5	3 7.5	1 2.5	-															
	40歳代	61 100.0	36 59.0	33 54.1	34 55.7	32 52.5	18 29.5	20 32.8	16 26.2	14 23.0	9 14.8	10 16.4	9 14.8	6 9.8	3 4.9	-															
	50歳代	112 100.0	72 64.3	68 60.7	68 60.7	53 47.3	46 41.1	39 34.8	32 28.6	23 20.5	23 20.5	19 17.0	15 13.4	4 3.6	1 0.9	-															
	60歳代	77 100.0	44 57.1	45 58.4	45 58.4	33 42.9	26 33.8	28 36.4	22 28.6	19 24.7	19 24.7	24 31.2	20 26.0	17 22.1	1 1.3	1 1.3	2 2.6														
	70歳以上	124 100.0	72 58.1	64 51.6	67 54.0	32 25.8	44 35.5	37 29.8	31 25.0	33 26.6	23 18.5	23 20.2	25 16.9	3 2.4	5 4.0	6 4.8															
男性・年代別	29歳以下	22 100.0	15 68.2	14 63.6	12 54.5	14 63.6	12 54.5	8 36.4	9 40.9	8 36.4	6 27.3	6 27.3	9 40.9	1 4.5	1 4.5	-															
	30歳代	27 100.0	16 59.3	13 48.1	10 37.0	16 59.3	7 25.9	2 7.4	5 18.5	7 25.9	7 25.9	3 11.1	4 14.8	4 14.8	1 3.7	-															
	40歳代	32 100.0	14 43.8	16 50.0	14 43.8	14 43.8	11 34.4	6 18.8	5 15.6	6 18.8	3 9.4	7 21.9	2 6.3	4 12.5	2 6.3	-															
	50歳代	45 100.0	19 42.2	19 42.2	18 40.0	17 37.8	15 33.3	3 6.7	7 15.6	2 4.4	5 11.1	6 13.3	4 8.9	5 11.1	5 11.1	-															
	60歳代	54 100.0	27 50.0	22 40.7	16 29.6	19 35.2	22 40.7	11 20.4	11 20.4	5 9.3	8 14.8	7 13.0	8 14.8	2 3.7	6 11.1	-															
	70歳以上	84 100.0	51 60.7	30 35.7	36 42.9	31 36.9	26 31.0	22 26.2	24 28.6	15 17.9	18 21.4	16 19.0	12 14.3	2 2.4	7 8.3	6 7.1															
有無別 女性・ 配偶者の	配偶者・ パートナーあり	250 100.0	154 61.6	144 57.6	133 53.2	116 46.4	93 37.2	78 31.2	67 26.8	48 19.2	54 21.6	42 16.8	37 14.8	13 5.2	4 1.6	2 0.8															
	配偶者・ パートナーなし	180 100.0	106 58.9	105 58.3	107 59.4	70 38.9	61 33.9	75 41.7	49 27.2	51 28.3	40 22.2	41 22.8	33 18.3	5 2.8	7 3.9	6 3.3															
有無別 男性・ 配偶者の	配偶者・ パートナーあり	147 100.0	81 55.1	62 42.2	58 39.5	65 44.2	50 34.0	28 19.0	30 20.4	23 15.6	20 13.6	24 16.3	23 15.6	15 10.2	7 4.8	2 1.4															
	配偶者・ パートナーなし	117 100.0	61 52.1	52 44.4	48 41.0	46 39.3	43 36.8	24 20.5	31 26.5	20 17.1	27 23.1	21 17.9	16 13.7	3 2.6	15 12.8	4 3.4															

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 4-1-2）

前回調査の結果に比べ、女性では「社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動についてもその評価を高める」が8.1ポイント低下しており、男性では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が9.9ポイント上昇している。

【図表 4-1-2 前回調査との比較

男性が家事・子育て・介護・地域活動に参加していくために必要なこと】

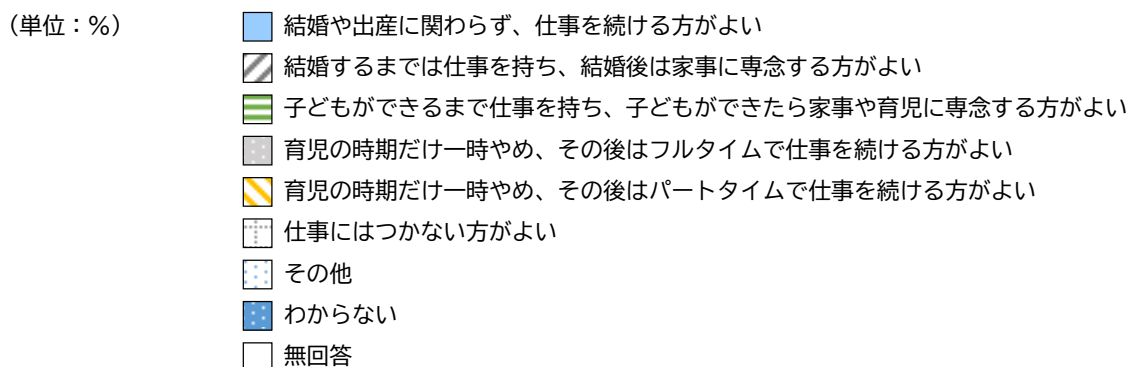
		(MA%)														
		n	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる	職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す	男性自身の家事などに参加することに對する男性自身の抵抗感をなくす	労働時間短縮や休暇制度の普及で、仕事以外の時間をより多く持つようにする	社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動についてもその評価を高める	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについて当事者の考え方を尊重する	男性が高めるよう啓発や情報提供を行う	男性が家事などに参加することに對する女性の抵抗感をなくす	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめる	国や地方自治体の研修などにより、男性の家事・子育て・介護などの技能を高める	その他	特に必要なことはない	無回答
女性	今回調査	431	60.6	58.0	55.9	43.2	35.7	35.5	26.9	23.0	21.8	19.3	16.2	4.2	2.6	1.9
	前回調査	723	61.0	56.4	53.7	43.2	43.8	36.0	28.1	21.3	23.1	19.9	17.8	2.9	3.2	3.2
	スコア差		-0.4	+1.6	+2.2	0.0	-8.1	-0.5	-1.2	+1.7	-1.3	-0.6	-1.6	+1.3	-0.6	-1.3
男性	今回調査	264	53.8	43.2	40.2	42.0	35.2	19.7	23.1	16.3	17.8	17.0	14.8	6.8	8.3	2.3
	前回調査	456	43.9	40.6	39.5	39.9	31.8	21.5	19.7	12.7	19.3	16.0	12.9	3.9	9.4	3.9
	スコア差		+9.9	+2.6	+0.7	+2.1	+3.4	-1.8	+3.4	+3.6	-1.5	+1.0	+1.9	+2.9	-1.1	-1.6

5. 仕事について

(1) 女性の働き方について

問 12 あなたは、女性の働き方についてどのようにお考えですか。(〇はひとつ)

【図表 5-1 女性の働き方について】



<性別> (図表 5-1)

女性の働き方については、男女とも「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が最も高いが、女性 42.0%、男性 35.6%と、男性は女性より 6.4 ポイント低くなっている。女性では、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」(14.6%)、男性では、「育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」(14.0%)が続いている。

<性・年代別> (図表 5-1-1)

30 歳代男性以外のすべての性・年代で「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が最も高くなっている。

<性・配偶者の有無別> (図表 5-1-1)

女性では、配偶者・パートナーの有無に関わらず、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が 4 割台となっている。次いで、配偶者・パートナーありの層では、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」が 17.2%、配偶者・パートナーなしの層では、「育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」が 15.0%となっている。

男性でも、配偶者・パートナーの有無に関わらず、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が最も高いが、配偶者・パートナーありの層で 37.4%と、配偶者・パートナーなしの層の 33.3%に比べてやや高い。配偶者・パートナーの有無に関わらず、「育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」が 1 割台で続いている。

【図表 5-1-1 性・年代別/性・配偶者の有無別 女性の働き方について】

		n	結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい	結婚後は家事に専念する方がよい	子育てに専念する方がよい	子どもができるまで仕事を続ける方がよい	育児の時期だけ一時やめ、その後の方がよい	育児の時期だけ一時やめ、その後の方がよい	仕事にはつかない方がよい	その他	わからない	無回答
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	280 39.5	25 3.5	47 6.6	89 12.6	92 13.0	- -	75 10.6	60 8.5	40 5.6	
女性・年代別	29歳以下	17 100.0	6 35.3	- -	1 5.9	4 23.5	1 5.9	- -	3 17.6	2 11.8	- -	
	30歳代	40 100.0	20 50.0	- -	1 2.5	1 2.5	8 20.0	- -	6 15.0	4 10.0	- -	
	40歳代	61 100.0	27 44.3	- -	5 8.2	3 4.9	8 13.1	- -	9 14.8	5 8.2	4 6.6	
	50歳代	112 100.0	52 46.4	1 0.9	4 3.6	16 14.3	18 16.1	- -	13 11.6	4 3.6	4 3.6	
	60歳代	77 100.0	34 44.2	2 2.6	2 2.6	13 16.9	8 10.4	- -	8 10.4	9 11.7	1 1.3	
	70歳以上	124 100.0	42 33.9	5 4.0	12 9.7	15 12.1	20 16.1	- -	7 5.6	9 7.3	14 11.3	
男性・年代別	29歳以下	22 100.0	6 27.3	2 9.1	2 9.1	4 18.2	3 13.6	- -	3 13.6	1 4.5	1 4.5	
	30歳代	27 100.0	8 29.6	1 3.7	1 3.7	5 18.5	1 3.7	- -	9 33.3	2 7.4	- -	
	40歳代	32 100.0	14 43.8	1 3.1	1 3.1	4 12.5	4 12.5	- -	3 9.4	5 15.6	- -	
	50歳代	45 100.0	15 33.3	1 2.2	5 11.1	7 15.6	4 8.9	- -	9 20.0	4 8.9	- -	
	60歳代	54 100.0	22 40.7	3 5.6	1 1.9	11 20.4	6 11.1	- -	1 1.9	7 13.0	3 5.6	
	70歳以上	84 100.0	29 34.5	9 10.7	12 14.3	6 7.1	9 10.7	- -	3 3.6	6 7.1	10 11.9	
有無別 女性・ 配偶者の	配偶者・ パートナーあり	250 100.0	105 42.0	4 1.6	13 5.2	25 10.0	43 17.2	- -	28 11.2	19 7.6	13 5.2	
	配偶者・ パートナーなし	180 100.0	75 41.7	4 2.2	12 6.7	27 15.0	20 11.1	- -	18 10.0	14 7.8	10 5.6	
有無別 男性・ 配偶者の	配偶者・ パートナーあり	147 100.0	55 37.4	12 8.2	11 7.5	20 13.6	16 10.9	- -	19 12.9	8 5.4	6 4.1	
	配偶者・ パートナーなし	117 100.0	39 33.3	5 4.3	11 9.4	17 14.5	11 9.4	- -	9 7.7	17 14.5	8 6.8	

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 5-1-2）

前回調査の結果に比べ、「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が女性で5.2ポイント、男性で7.7ポイント上昇している。

【図表 5-1-2 前回調査との比較 女性の働き方について】

			(MA%)										
		n	結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい	結婚後は家事に専念する方がよい	子育てに専念する方がよい	子どもができるまで家事や子育てに専念する方がよい	育児の時間がよい	育児の時間がよい	育児の時間がよい	仕事にはつかない方がよい	その他	わからない	無回答
女性	今回調査	431	42.0	1.9	5.8	12.1	14.6	-	10.7	7.7	5.3		
	前回調査	723	36.8	3.6	7.3	11.6	17.6	-	7.7	8.6	6.8		
	スコア差		+5.2	-1.7	-1.5	+0.5	-3.0	0.0	+3.0	-0.9	-1.5		
男性	今回調査	264	35.6	6.4	8.3	14.0	10.2	-	10.6	9.5	5.3		
	前回調査	456	27.9	3.3	12.7	13.8	14.5	0.4	7.2	10.3	9.9		
	スコア差		+7.7	+3.1	-4.4	+0.2	-4.3	-0.4	+3.4	-0.8	-4.6		

<他調査（大阪府：令和6年度男女共同参画に関する府民意識調査）との比較>（図表 5-1-3）

大阪府民意識調査の結果に比べ、「育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」は男女ともに5ポイント以上低い。わずかながらではあるが、女性では「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい」が高い。

【図表 5-1-3 他調査との比較 女性の働き方について】

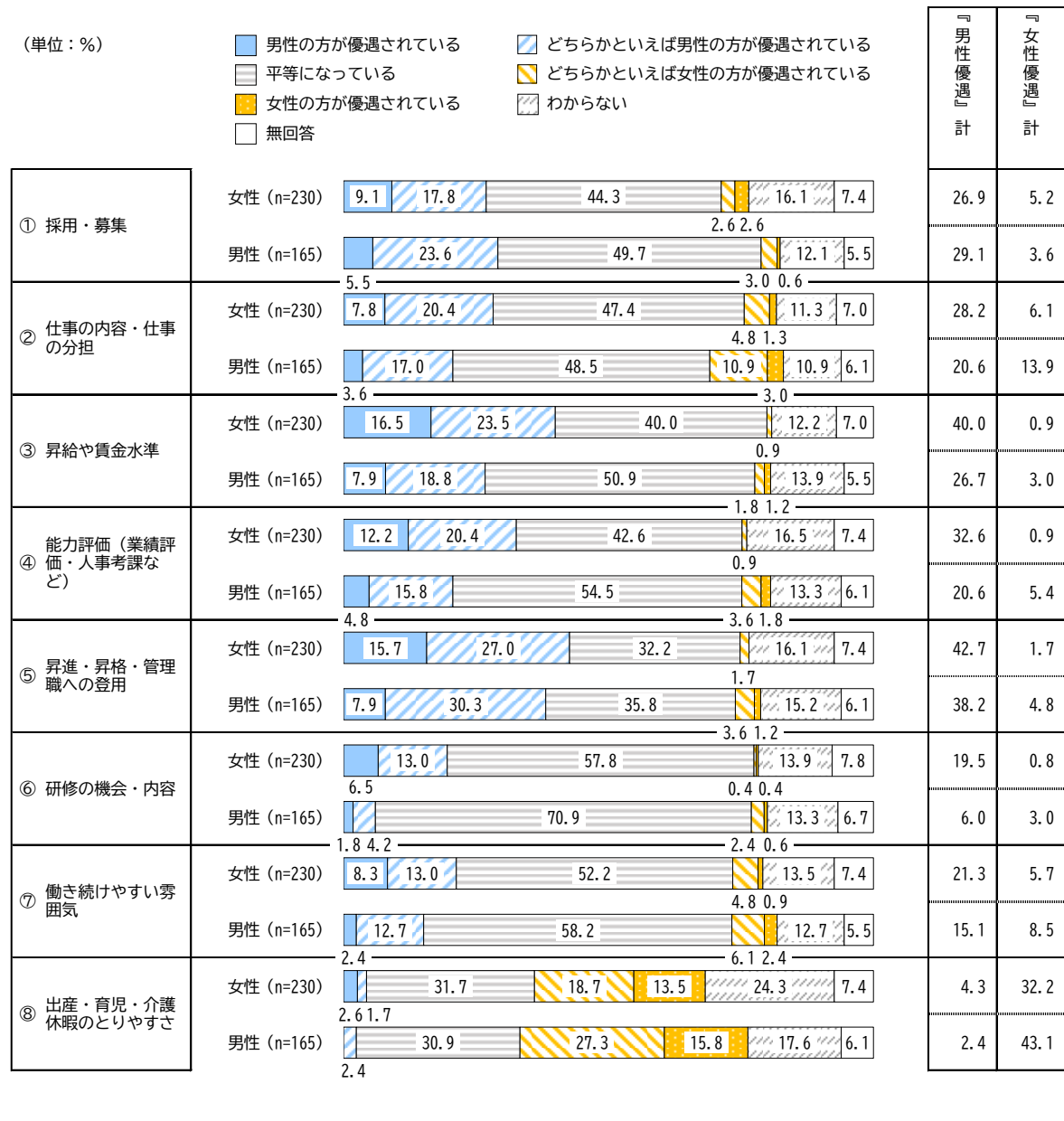
		(MA%)											
		n	結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい	よい結婚後は家事に専念する方が	結婚後専念する方がよい	子育てに専念する方がよい	子どもができるまで仕事を続ける	の育児の時期だけ一時やめ、その後フルタイムで仕事を続ける	育児の時期だけ一時やめ、その後パートタイムで仕事を続ける方がよい	仕事にはつかない方がよい	その他	わからない	無回答
女性	今回調査	431	42.0	1.9	5.8	12.1	14.6	-	10.7	7.7	5.3		
	他調査	543	37.9	1.1	5.5	16.8	24.7	0.4	9.8		3.9		
	スコア差		+4.1	+0.8	+0.3	-4.7	-10.1	-0.4	+0.9		+1.4		
男性	今回調査	264	35.6	6.4	8.3	14.0	10.2	-	10.6	9.5	5.3		
	他調査	433	37.9	2.5	8.3	18.7	16.6	0.5	8.8		6.7		
	スコア差		-2.3	+3.9	0.0	-4.7	-6.4	-0.5	+1.8		-1.4		

(2) 仕事における平等感

【問 13 は、「収入を得る仕事をしている」方にお聞きします。】

問 13 ご自身の職場において、次の①～⑧の項目について男女は平等になっていると思いますか。(それぞれ〇はひとつずつ)

【図表 5-2 仕事における平等感】



<性別> (図表 5-2)

雇用の場における男女平等感について、「平等」の割合が最も高い項目が多いが、「③昇給や賃金水準」では女性の『男性優遇』と「平等」が同率で高く、「⑤昇進・昇格・管理職への登用」では男女とも『男性優遇』が、「⑧出産・育児・介護休暇のとりやすさ」では男女とも『女性優遇』が最も高くなっている。

女性の「平等」の割合は「⑥研修の機会・内容」が57.8%で最も高く、次いで「⑦働き続けやすい雰囲気」が52.2%、「②仕事の内容、仕事の分担」が47.4%、「①採用・募集」が44.3%となっている。男性の「平等」の割合は「⑥研修の機会・内容」が70.9%で最も高く、次いで「⑦働き続けやすい雰囲気」が58.2%、「④能力評価」が54.5%、「⑤昇給や賃金水準」が50.9%となっている。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』と「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇』の割合では、男女とも「⑧出産・育児・介護休暇のとりやすさ」以外の項目で『男性優遇』が『女性優遇』の割合を上回っている。『男性優遇』は、女性では「⑤昇進・昇格・管理職への登用」「③昇給や賃金水準」で4割台と高く、男性では「⑤昇進・昇格・管理職への登用」で38.2%と高い。また、『男性優遇』は「③昇給や賃金水準」「④能力評価」「⑥研修の機会・内容」で男女差が大きく、「③昇給や賃金水準」で13.3ポイント、「④能力評価」で12.0ポイント、「⑥研修の機会・内容」で13.5ポイント、女性の方が高くなっている。

<性・年代別> (図表 5-2-1)

① 採用・募集

男女 29 歳以下、男女 70 歳以上は回答者数が少ないため、参考値だが、男女ともすべての年代で「平等」が最も高くなっている。

② 仕事の内容・仕事の分担

男女とも、すべての年代で「平等」が最も高いが、女性 50～60 歳代では『男性優遇』が全体に比して 5 ポイント以上高く、男性 30～40 歳代では『女性優遇』が全体に比して 10 ポイント以上高くなっている。

③ 昇給や賃金水準

女性では、30 歳代では「平等」が最も高いが、40～60 歳代では『男性優遇』が最も高くなっている。一方、男性では、すべての年代で「平等」が最も高くなっている。60 歳代以下のすべての年代で女性の『男性優遇』の割合が男性を上回っている。

男性は、30～40 歳代では「平等」の割合が全体に比べて 10 ポイント以上高くなっている。

④ 能力評価（業績評価・人事考課など）

女性では、30～40 歳代では「平等」、50～60 歳代では『男性優遇』が最も高く、男性では、すべての年代で「平等」が最も高くなっている。いずれの年代でも『男性優遇』は女性の割合が男性を上回っている。

⑤ 昇進・昇格・管理職への登用

女性 30 歳代と男性 50 歳代では「平等」が、60 歳代以下のその他の年代では『男性優遇』が最も高くなっている。

⑥ 研修の機会・内容

男女とも、すべての年代で「平等」が最も高くなっている。男女とも、30 歳代で「平等」の割合が高くなっている。

⑦ 働き続けやすい雰囲気

男女とも、すべての年代で「平等」が最も高くなっており、特に男性 50～60 歳代で 6 割台となっている。

⑧ 出産・育児・介護休暇のとりやすさ

女性 50～60 歳代では「平等」が最も高いが、『女性優遇』との差は小さく、分散傾向である。その他の性・年代ではいずれも『女性優遇』が最も高く、特に男性 40 歳代で 60.0%と高い。

<性・雇用形態別> (図表 5-2-1)

① 採用・募集

男女とも、いずれの層でも「平等」が最も高くなっている。

② 仕事の内容・仕事の分担

男女とも、いずれの層でも「平等」が最も高くなっている。

③ 昇給や賃金水準

女性の正規雇用と男性の正規／非正規雇用で「平等」が最も高くなっている。女性の非正規雇用では、『男性優遇』が最も高いが、「平等」との差は小さい。

④ 能力評価（業績評価・人事考課など）

男女とも、いずれの層でも「平等」が最も高くなっているが、女性の非正規雇用では、「わからない」が全体と比較して相対的に高くなっている。

⑤ 昇進・昇格・管理職への登用

女性の正規／非正規雇用と男性の正規雇用で『男性優遇』が最も高くなっている。男性の非正規雇用では「平等」が最も高くなっており、「わからない」も全体と比較して相対的に高くなっている。

⑦ 研修の機会や内容

男女とも、いずれの層でも「平等」が最も高くなっており、男女ともに正規雇用でその割合が高めである。

⑧ 働き続けやすい雰囲気

男女とも、いずれの層でも「平等」が最も高くなっている。

⑨ 出産・育児・介護休暇のとりやすさ

男女とも正規雇用では『女性優遇』が最も高くなっている。非正規雇用では、男女とも「平等」と「わからない」が高い。

【図表 5-2-1 性・年代別/性・雇用形態別 仕事における平等感①】

	n	①採用・募集					②仕事の内容・仕事の分担					③昇給や賃金水準					
		計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	405 100.0	116 28.6	186 45.9	19 4.7	58 14.3	26 6.4	105 25.9	192 47.4	38 9.4	44 10.9	26 6.4	144 35.6	177 43.7	8 2.0	51 12.6	25 6.2
女性・年代別	29歳以下	9 100.0	3 33.3	4 44.4	-	2 22.2	-	2 22.2	3 33.3	3 33.3	1 11.1	-	5 55.6	3 33.3	-	1 11.1	-
	30歳代	32 100.0	6 18.8	20 62.5	3 9.4	3 9.4	-	7 21.9	20 62.5	3 9.4	2 6.3	-	11 34.4	18 56.3	-	3 9.4	-
	40歳代	50 100.0	16 32.0	20 40.0	3 6.0	9 18.0	2 4.0	12 24.0	23 46.0	4 8.0	9 18.0	2 4.0	23 46.0	20 40.0	1 2.0	4 8.0	2 4.0
	50歳代	82 100.0	23 28.0	34 41.5	4 4.9	16 19.5	5 6.1	26 31.7	40 48.8	4 4.9	7 8.5	5 6.1	33 40.2	30 36.6	1 1.2	13 15.9	5 6.1
	60歳代	41 100.0	12 29.3	19 46.3	2 4.9	4 9.8	4 9.8	13 31.7	18 43.9	-	6 14.6	4 9.8	17 41.5	19 39.0	-	4 9.8	4 9.8
	70歳以上	16 100.0	2 12.5	5 31.3	-	3 18.8	6 37.5	5 31.3	5 31.3	-	1 6.3	5 31.3	3 18.8	5 31.3	-	3 18.8	5 31.3
	男性・年代別	29歳以下	12 100.0	3 25.0	5 41.7	1 8.3	2 16.7	1 8.3	-	6 50.0	1 8.3	4 33.3	1 8.3	3 25.0	5 41.7	-	3 25.0
30歳代	27 100.0	8 29.6	14 51.9	1 3.7	4 14.8	-	5 18.5	13 48.1	6 22.2	3 11.1	-	6 22.2	16 59.3	1 3.7	4 14.8	-	
40歳代	30 100.0	9 30.0	16 53.3	1 3.3	4 13.3	-	7 23.3	13 43.3	8 26.7	2 6.7	-	9 30.0	18 60.0	2 6.7	1 3.3	-	
50歳代	43 100.0	11 25.6	22 51.2	3 7.0	3 7.0	4 9.3	7 16.3	22 51.2	6 14.0	4 9.3	4 9.3	10 23.3	23 53.5	1 2.3	5 11.6	4 9.3	
60歳代	34 100.0	12 35.3	17 50.0	-	4 11.8	1 2.9	10 29.4	17 50.0	2 5.9	3 8.8	2 5.9	11 32.4	15 44.1	1 2.9	5 14.7	2 5.9	
70歳以上	19 100.0	5 26.3	8 42.1	-	3 15.8	3 15.8	5 26.3	9 47.4	-	2 10.5	3 15.8	5 26.3	7 36.8	-	5 26.3	2 10.5	
雇用女性形態別	正規雇用	81 100.0	25 30.9	46 56.8	3 3.7	7 8.6	-	24 29.6	50 61.7	6 7.4	1 1.2	-	33 40.7	45 55.6	-	3 3.7	-
	非正規雇用	109 100.0	25 22.9	52 47.7	6 5.5	22 20.2	4 3.7	31 28.4	51 46.8	7 6.4	17 15.6	3 2.8	44 40.4	40 36.7	2 1.8	20 18.3	3 2.8
	非就労者 (学生を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
雇用男性形態別	正規雇用	100 100.0	33 33.0	56 56.0	3 3.0	8 8.0	-	22 22.0	53 53.0	16 16.0	9 9.0	-	30 30.0	60 60.0	2 2.0	8 8.0	-
	非正規雇用	26 100.0	5 19.2	15 57.7	1 3.8	5 19.2	-	5 19.2	14 53.8	4 15.4	3 11.5	-	6 23.1	12 46.2	1 3.8	7 26.9	-
	非就労者 (学生を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【図表 5-2-1 性・年代別/性・雇用形態別 仕事における平等感②】

	n	④能力評価 (業績評価・人事考課など)					⑤昇進・昇格・管理職への登用					⑥研修の機会・内容					
		計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	405 100.0	113 27.9	193 47.7	12 3.0	60 14.8	27 6.7	168 41.5	134 33.1	13 3.2	63 15.6	27 6.7	57 14.1	254 62.7	8 2.0	57 14.1	29 7.2
女性・年代別	29歳以下	9 100.0	3 33.3	5 55.6	-	1 11.1	-	4 44.4	4 44.4	-	1 11.1	-	2 22.2	6 66.7	-	1 11.1	-
	30歳代	32 100.0	8 25.0	21 65.6	-	3 9.4	-	11 34.4	15 46.9	3 9.4	3 9.4	-	2 6.3	26 81.3	1 3.1	3 9.4	-
	40歳代	50 100.0	14 28.0	24 48.0	1 2.0	8 16.0	3 6.0	23 46.0	19 38.0	-	6 12.0	2 4.0	10 20.0	32 64.0	-	6 12.0	2 4.0
	50歳代	82 100.0	31 37.8	30 36.6	1 1.2	15 18.3	5 6.1	40 48.8	20 24.4	1 1.2	15 18.3	6 7.3	18 22.0	43 52.4	1 1.2	15 18.3	5 6.1
	60歳代	41 100.0	17 41.5	14 34.1	-	6 14.6	4 9.8	17 41.5	15 36.6	-	5 12.2	4 9.8	11 26.8	21 51.2	-	4 9.8	5 12.2
	70歳以上	16 100.0	2 12.5	4 25.0	-	5 31.3	5 31.3	3 18.8	1 6.3	-	7 43.8	5 31.3	2 12.5	5 31.3	-	3 18.8	6 37.5
	男性・年代別	29歳以下	12 100.0	1 8.3	6 50.0	1 8.3	3 25.0	1 8.3	5 41.7	4 33.3	-	2 16.7	1 8.3	1 8.3	7 58.3	-	3 25.0
30歳代	27 100.0	4 14.8	17 63.0	2 7.4	4 14.8	-	12 44.4	10 37.0	-	5 18.5	-	1 3.7	23 85.2	1 3.7	2 7.4	-	
40歳代	30 100.0	6 20.0	20 66.7	3 10.0	1 3.3	-	13 43.3	12 40.0	4 13.3	1 3.3	-	2 6.7	25 83.3	3 3.3	2 6.7	-	
50歳代	43 100.0	11 25.6	21 48.8	2 4.7	5 11.6	4 9.3	14 32.6	18 41.9	3 7.0	4 9.3	4 9.3	1 2.3	31 72.1	1 2.3	6 14.0	4 9.3	
60歳代	34 100.0	7 20.6	20 58.8	1 2.9	4 11.8	2 5.9	14 41.2	11 32.4	1 2.9	6 17.6	2 5.9	3 8.8	22 64.7	2 5.9	5 14.7	2 5.9	
70歳以上	19 100.0	5 26.3	6 31.6	-	5 26.3	3 15.8	5 26.3	4 21.1	-	7 36.8	3 15.8	2 10.5	9 47.4	-	4 21.1	4 21.1	
雇用女性形態別	正規雇用	81 100.0	28 34.6	48 59.3	-	5 6.2	-	37 45.7	35 43.2	3 3.7	5 6.2	1 1.2	14 17.3	61 75.3	1 1.2	5 6.2	-
	非正規雇用	109 100.0	33 30.3	42 38.5	2 1.8	28 25.7	4 3.7	47 43.1	32 29.4	1 0.9	26 23.9	3 2.8	20 18.3	61 56.0	1 0.9	22 20.2	5 4.6
	非就労者 (学生を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
雇用男性形態別	正規雇用	100 100.0	21 21.0	64 64.0	6 6.0	9 9.0	-	47 47.0	40 40.0	5 5.0	8 8.0	-	6 6.0	83 83.0	1 1.0	10 10.0	-
	非正規雇用	26 100.0	5 19.2	15 57.7	1 3.8	5 19.2	-	7 26.9	11 42.3	1 3.8	7 26.9	-	3 11.5	16 61.5	1 3.8	6 23.1	-
	非就労者 (学生を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【図表 5-2-1 性・年代別 仕事における平等感③】

		n	⑦働き続けやすい雰囲気					⑧出産・育児・介護休暇のとりやすさ				
			計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答
全体		405	76	220	28	54	27	14	128	148	88	27
上段/実数		100.0	18.8	54.3	6.9	13.3	6.7	3.5	31.6	36.5	21.7	6.7
下段/%												
女性・年代別	29歳以下	9	2	6	-	1	-	-	3	4	2	-
		100.0	22.2	66.7	-	11.1	-	-	33.3	44.4	22.2	-
	30歳代	32	11	15	2	4	-	-	12	15	5	-
		100.0	34.4	46.9	6.3	12.5	-	-	37.5	46.9	15.6	-
	40歳代	50	10	27	6	5	2	3	14	20	11	2
		100.0	20.0	54.0	12.0	10.0	4.0	6.0	28.0	40.0	22.0	4.0
	50歳代	82	15	44	4	14	5	5	27	24	21	5
	100.0	18.3	53.7	4.9	17.1	6.1	6.1	32.9	29.3	25.6	6.1	
60歳代	41	9	21	1	5	5	2	12	11	11	5	
	100.0	22.0	51.2	2.4	12.2	12.2	4.9	29.3	26.8	26.8	12.2	
70歳以上	16	2	7	-	2	5	-	5	-	6	5	
	100.0	12.5	43.8	-	12.5	31.3	-	31.3	-	37.5	31.3	
男性・年代別	29歳以下	12	3	6	-	2	1	1	4	5	1	1
		100.0	25.0	50.0	-	16.7	8.3	8.3	33.3	41.7	8.3	8.3
	30歳代	27	5	15	3	4	-	-	8	14	5	-
		100.0	18.5	55.6	11.1	14.8	-	-	29.6	51.9	18.5	-
	40歳代	30	5	15	7	3	-	-	11	18	1	-
		100.0	16.7	50.0	23.3	10.0	-	-	36.7	60.0	3.3	-
	50歳代	43	3	30	3	3	4	-	12	21	6	4
	100.0	7.0	69.8	7.0	7.0	9.3	-	27.9	48.8	14.0	9.3	
60歳代	34	6	22	1	4	1	2	10	11	9	2	
	100.0	17.6	64.7	2.9	11.8	2.9	5.9	29.4	32.4	26.5	5.9	
70歳以上	19	3	8	-	5	3	1	6	2	7	3	
	100.0	15.8	42.1	-	26.3	15.8	5.3	31.6	10.5	36.8	15.8	
雇用女性・形態別	正規雇用	81	18	53	6	4	-	5	29	37	10	-
		100.0	22.2	65.4	7.4	4.9	-	6.2	35.8	45.7	12.3	-
	非正規雇用	109	21	57	6	21	4	3	34	32	36	4
		100.0	19.3	52.3	5.5	19.3	3.7	2.8	31.2	29.4	33.0	3.7
非就労者 (学生を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
雇用男性・形態別	正規雇用	100	17	66	8	9	-	2	33	53	12	-
		100.0	17.0	66.0	8.0	9.0	-	2.0	33.0	53.0	12.0	-
	非正規雇用	26	1	17	4	4	-	2	9	7	8	-
		100.0	3.8	65.4	15.4	15.4	-	7.7	34.6	26.9	30.8	-
非就労者 (学生を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 5-2-2）

前回調査の結果に比べ、女性では、「⑦働き続けやすい雰囲気」で「平等」の割合が6.3ポイント低下している。男性では、「⑥研修の機会・内容」で「平等」の割合が8.4ポイント上昇している。

【図表 5-2-2 前回調査との比較 仕事における平等感】

		女 性						男 性					
		n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答	n	計『男性優遇』	平等	計『女性優遇』	わからない	無回答
①採用・募集	今回調査	230	27.0	44.3	5.2	16.1	7.4	165	29.1	49.7	3.6	12.1	5.5
	前回調査	357	24.1	47.6	10.1	15.4	2.8	272	34.6	47.8	2.9	11.8	2.9
	スコア差		+2.9	-3.3	-4.9	+0.7	+4.6		-5.5	+1.9	+0.7	+0.3	+2.6
②仕事の内容・仕事の分担	今回調査	230	28.3	47.4	6.1	11.3	7.0	165	20.6	48.5	13.9	10.9	6.1
	前回調査	357	29.4	49.6	8.7	9.2	3.1	272	29.4	44.5	10.7	12.1	3.3
	スコア差		-1.1	-2.2	-2.6	+2.1	+3.9		-8.8	+4.0	+3.2	-1.2	+2.8
③昇給や賃金水準	今回調査	230	40.0	40.0	0.9	12.2	7.0	165	26.7	50.9	3.0	13.9	5.5
	前回調査	357	41.2	42.0	0.6	12.6	3.6	272	27.6	51.5	2.6	14.3	4.0
	スコア差		-1.2	-2.0	+0.3	-0.4	+3.4		-0.9	-0.6	+0.4	-0.4	+1.5
④能力評価（業績評価・人事考課など）	今回調査	230	32.6	42.6	0.9	16.5	7.4	165	20.6	54.5	5.5	13.3	6.1
	前回調査	357	34.2	43.1	0.6	17.9	4.2	272	25.0	52.2	3.7	15.4	3.7
	スコア差		-1.6	-0.5	+0.3	-1.4	+3.2		-4.4	+2.3	+1.8	-2.1	+2.4
⑤昇進・昇格・管理職への登用	今回調査	230	42.6	32.2	1.7	16.1	7.4	165	38.2	35.8	4.8	15.2	6.1
	前回調査	357	45.4	32.5	0.6	17.6	3.9	272	36.8	39.0	3.7	16.9	3.7
	スコア差		-2.8	-0.3	+1.1	-1.5	+3.5		+1.4	-3.2	+1.1	-1.7	+2.4
⑥研修の機会・内容	今回調査	230	19.6	57.8	0.9	13.9	7.8	165	6.1	70.9	3.0	13.3	6.7
	前回調査	257	14.8	58.0	0.8	21.0	5.4	192	13.0	62.5	1.6	16.7	6.3
	スコア差		+4.8	-0.2	+0.1	-7.1	+2.4		-6.9	+8.4	+1.4	-3.4	+0.4
⑦働き続けやすい雰囲気	今回調査	230	21.3	52.2	5.7	13.5	7.4	165	15.2	58.2	8.5	12.7	5.5
	前回調査	357	19.9	58.5	4.2	12.9	4.5	272	19.5	55.9	6.6	14.3	3.7
	スコア差		+1.4	-6.3	+1.5	+0.6	+2.9		-4.3	+2.3	+1.9	-1.6	+1.8
⑧出産・育児・介護休暇のとりやすさ	今回調査	230	4.3	31.7	32.2	24.3	7.4	165	2.4	30.9	43.0	17.6	6.1
	前回調査	357	3.4	30.0	39.2	23.2	4.2	272	1.8	32.0	38.2	23.5	4.4
	スコア差		+0.9	+1.7	-7.0	+1.1	+3.2		+0.6	-1.1	+4.8	-5.9	+1.7

(3) 仕事や家事・育児・介護に要する時間

①仕事

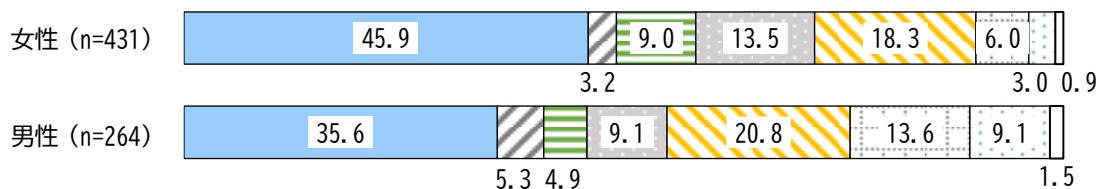
問 16 1日のうちで、あなたが仕事（在宅就労を含む）や、家事・育児・介護などを行っている平均時間は、平日、休日それぞれでどのくらいですか。

（それぞれ〇はひとつずつ）

【図表 5-3① 仕事】

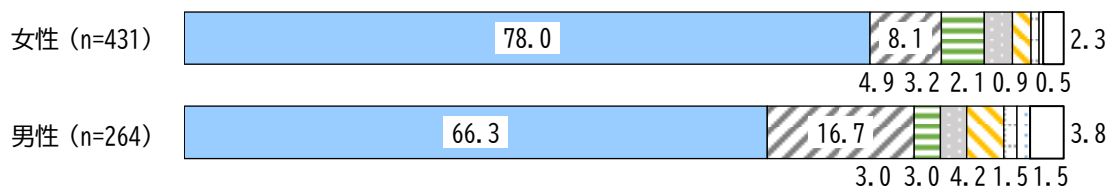
<平日>

（単位：％）



<休日>

（単位：％）



<性別> (図表 5-3①)

仕事時間について、平日は男女ともに「なし」が最も高く、女性で45.9%、男性で35.6%と、女性の方が10.3ポイント高い。次いで、男女ともに「8時間～10時間未満」で、女性18.3%、男性20.8%となっている。

休日も、男女ともに「なし」が最も高く、女性で78.0%、男性で66.3%と、女性の割合が男性に比べて11.7ポイント高い。次いで、男女ともに「4時間未満」が、女性8.1%、男性16.7%となっている。

本調査は母集団に比べて高齢者の割合が高いことに留意が必要である。

<性・年代別> (図表 5-3①-1、5-3①-2)

平日は、女性では、40歳代以下では「8時間～10時間未満」が最も高くなっているが、40歳代以降「8時間～10時間未満」の割合は低下している。50歳代以上では「なし」が最も高く、50歳代で26.8%、60歳代で48.1%、70歳以上で84.7%となっている。

男性では、30～50歳代では「8時間～10時間未満」が最も高くなっているが、30歳代で51.9%、40歳代で34.4%、50歳代で26.7%となっており、年代が高いほど「10時間～12時間未満」「12時間以上」などより長い時間帯の割合が高くなっている。一方、定年退職後などの60歳代以上では「なし」が最も高くなっているが、60歳代では31.5%、70歳以上では77.4%となっている。

休日は、女性では、すべての年代で「なし」が最も高い。

男性でも、すべての年代で「なし」が最も高い。30～50歳代では「4時間未満」が2～3割と全体に比べて高くなっている。

<性・雇用形態別> (図表 5-3①-1、5-3①-2)

平日は、男女とも正規雇用では「8時間～10時間未満」が最も高いが、女性で51.9%、男性で36.0%と差がみられる。男性では、「10時間～12時間未満」が29.0%、「12時間以上」が20.0%と、長い時間帯の割合が女性に比べて5ポイント以上高くなっている。

女性の非正規雇用では、「4時間～6時間未満」と「6時間～8時間未満」がともに26.6%、「8時間～10時間未満」が24.8%と分散している。男性では「8時間～10時間未満」が30.8%と最も高く、次いで「4時間～6時間未満」と「6時間～8時間未満」が19.2%である。

休日は、正規雇用では、男女ともに「なし」が最も高い。ただし、女性で69.1%、男性で52.0%と、男性の「なし」が女性に比べて10ポイント以上低く、「4時間未満」が女性に比べて10ポイント以上高くなっている。

非正規雇用では、男女ともに「なし」が6割台となっている。

【図表 5-3①-1 性・年代別/性・雇用形態別 仕事（平日）】

		n	①平日							
			なし	4時間未満	64時間未満	86時間未満	180時間未満	1120時間未満	12時間以上	無回答
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	295 41.7	29 4.1	52 7.3	85 12.0	138 19.5	63 8.9	38 5.4	8 1.1
女性・年代別	29歳以下	17 100.0	5 29.4	- -	1 5.9	3 17.6	6 35.3	2 11.8	- -	- -
	30歳代	40 100.0	10 25.0	- -	3 7.5	6 15.0	15 37.5	6 15.0	- -	- -
	40歳代	61 100.0	11 18.0	2 3.3	10 16.4	14 23.0	18 29.5	1 1.6	5 8.2	- -
	50歳代	112 100.0	30 26.8	3 2.7	13 11.6	21 18.8	26 23.2	10 8.9	8 7.1	1 0.9
	60歳代	77 100.0	37 48.1	4 5.2	9 11.7	12 15.6	11 14.3	4 5.2	- -	- -
	70歳以上	124 100.0	105 84.7	5 4.0	3 2.4	2 1.6	3 2.4	3 2.4	- -	3 2.4
男性・年代別	29歳以下	22 100.0	5 22.7	1 4.5	4 18.2	2 9.1	5 22.7	4 18.2	1 4.5	- -
	30歳代	27 100.0	1 3.7	1 3.7	1 3.7	1 3.7	14 51.9	6 22.2	3 11.1	- -
	40歳代	32 100.0	3 9.4	1 3.1	1 3.1	2 6.3	11 34.4	8 25.0	5 15.6	1 3.1
	50歳代	45 100.0	3 6.7	2 4.4	2 4.4	4 8.9	12 26.7	11 24.4	11 24.4	- -
	60歳代	54 100.0	17 31.5	7 13.0	2 3.7	9 16.7	9 16.7	5 9.3	4 7.4	1 1.9
	70歳以上	84 100.0	65 77.4	2 2.4	3 3.6	6 7.1	4 4.8	2 2.4	- -	2 2.4
雇用女性形態別	正規雇用	81 100.0	4 4.9	1 1.2	1 1.2	14 17.3	42 51.9	10 12.3	9 11.1	- -
	非正規雇用	109 100.0	2 1.8	7 6.4	29 26.6	29 26.6	27 24.8	12 11.0	3 2.8	- -
	非就労者 (学生を除く)	185 100.0	185 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
雇用男性形態別	正規雇用	100 100.0	2 2.0	3 3.0	2 2.0	7 7.0	36 36.0	29 29.0	20 20.0	1 1.0
	非正規雇用	26 100.0	2 7.7	3 11.5	5 19.2	5 19.2	8 30.8	1 3.8	1 3.8	1 3.8
	非就労者 (学生を除く)	79 100.0	79 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

【図表 5-3①-2 性・年代別/性・雇用形態別 仕事（休日）】

		n	②休日							無回答
			なし	4時間未満	6時間未満	8時間未満	10時間未満	12時間未満	12時間以上	
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	517 73.0	81 11.4	29 4.1	22 3.1	23 3.2	8 1.1	7 1.0	21 3.0
女性・年代別	29歳以下	17 100.0	11 64.7	- -	1 5.9	2 11.8	2 11.8	1 5.9	- -	- -
	30歳代	40 100.0	33 82.5	4 10.0	2 5.0	1 2.5	- -	- -	- -	- -
	40歳代	61 100.0	47 77.0	6 9.8	3 4.9	1 1.6	2 3.3	- -	1 1.6	1 1.6
	50歳代	112 100.0	80 71.4	13 11.6	8 7.1	4 3.6	2 1.8	2 1.8	- -	3 2.7
	60歳代	77 100.0	53 68.8	10 13.0	5 6.5	4 5.2	1 1.3	- -	1 1.3	3 3.9
	70歳以上	124 100.0	112 90.3	2 1.6	2 1.6	2 1.6	2 1.6	1 0.8	- -	3 2.4
男性・年代別	29歳以下	22 100.0	13 59.1	2 9.1	1 4.5	- -	2 9.1	2 9.1	2 9.1	- -
	30歳代	27 100.0	15 55.6	6 22.2	1 3.7	- -	5 18.5	- -	- -	- -
	40歳代	32 100.0	19 59.4	7 21.9	2 6.3	1 3.1	1 3.1	1 3.1	- -	1 3.1
	50歳代	45 100.0	21 46.7	16 35.6	1 2.2	3 6.7	2 4.4	1 2.2	1 2.2	- -
	60歳代	54 100.0	37 68.5	9 16.7	2 3.7	3 5.6	- -	- -	1 1.9	2 3.7
	70歳以上	84 100.0	70 83.3	4 4.8	1 1.2	1 1.2	1 1.2	- -	- -	7 8.3
雇用女性形態別	正規雇用	81 100.0	56 69.1	11 13.6	4 4.9	4 4.9	4 4.9	- -	1 1.2	1 1.2
	非正規雇用	109 100.0	70 64.2	16 14.7	10 9.2	3 2.8	3 2.8	3 2.8	1 0.9	3 2.8
	非就労者 (学生を除く)	185 100.0	185 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
雇用男性形態別	正規雇用	100 100.0	52 52.0	27 27.0	5 5.0	3 3.0	7 7.0	1 1.0	3 3.0	2 2.0
	非正規雇用	26 100.0	16 61.5	2 7.7	1 3.8	3 11.5	2 7.7	- -	- -	2 7.7
	非就労者 (学生を除く)	79 100.0	79 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表5-3①-3）

前回調査の結果に比べ、平日・休日ともに大きな変化はみられない。

【図表5-3①-3 前回調査との比較 仕事】

①平日 (MA%)

		n	なし	4時間未満	6時間未満	8時間未満	10時間未満	11時間未満	12時間以上	無回答
女性	今回調査	431	45.9	3.2	9.0	13.5	18.3	6.0	3.0	0.9
	前回調査	723	49.1	4.4	7.9	11.9	15.1	7.3	3.5	0.8
	スコア差		-3.2	-1.2	+1.1	+1.6	+3.2	-1.3	-0.5	+0.1
男性	今回調査	264	35.6	5.3	4.9	9.1	20.8	13.6	9.1	1.5
	前回調査	456	38.6	6.8	3.3	7.7	22.4	11.4	7.9	2.0
	スコア差		-3.0	-1.5	+1.6	+1.4	-1.6	+2.2	+1.2	-0.5

②休日 (MA%)

		n	なし	4時間未満	6時間未満	8時間未満	10時間未満	11時間未満	12時間以上	無回答
女性	今回調査	431	78.0	8.1	4.9	3.2	2.1	0.9	0.5	2.3
	前回調査	723	78.0	9.0	4.7	2.4	1.5	1.2	1.1	2.1
	スコア差		0.0	-0.9	+0.2	+0.8	+0.6	-0.3	-0.6	+0.2
男性	今回調査	264	66.3	16.7	3.0	3.0	4.2	1.5	1.5	3.8
	前回調査	456	69.5	15.6	3.5	2.6	1.8	1.8	2.0	3.3
	スコア差		-3.2	+1.1	-0.5	+0.4	+2.4	-0.3	-0.5	+0.5

<他調査（大阪府：令和6年度男女共同参画に関する府民意識調査）との比較>（図表 5-3①-4）

大阪府民意識調査の結果に比べ、「なし」の割合が男女ともに高い。ただし、本調査は母集団に比べて高齢者の割合が高いことに留意が必要である。

【図表 5-3①-4 他調査との比較 仕事】

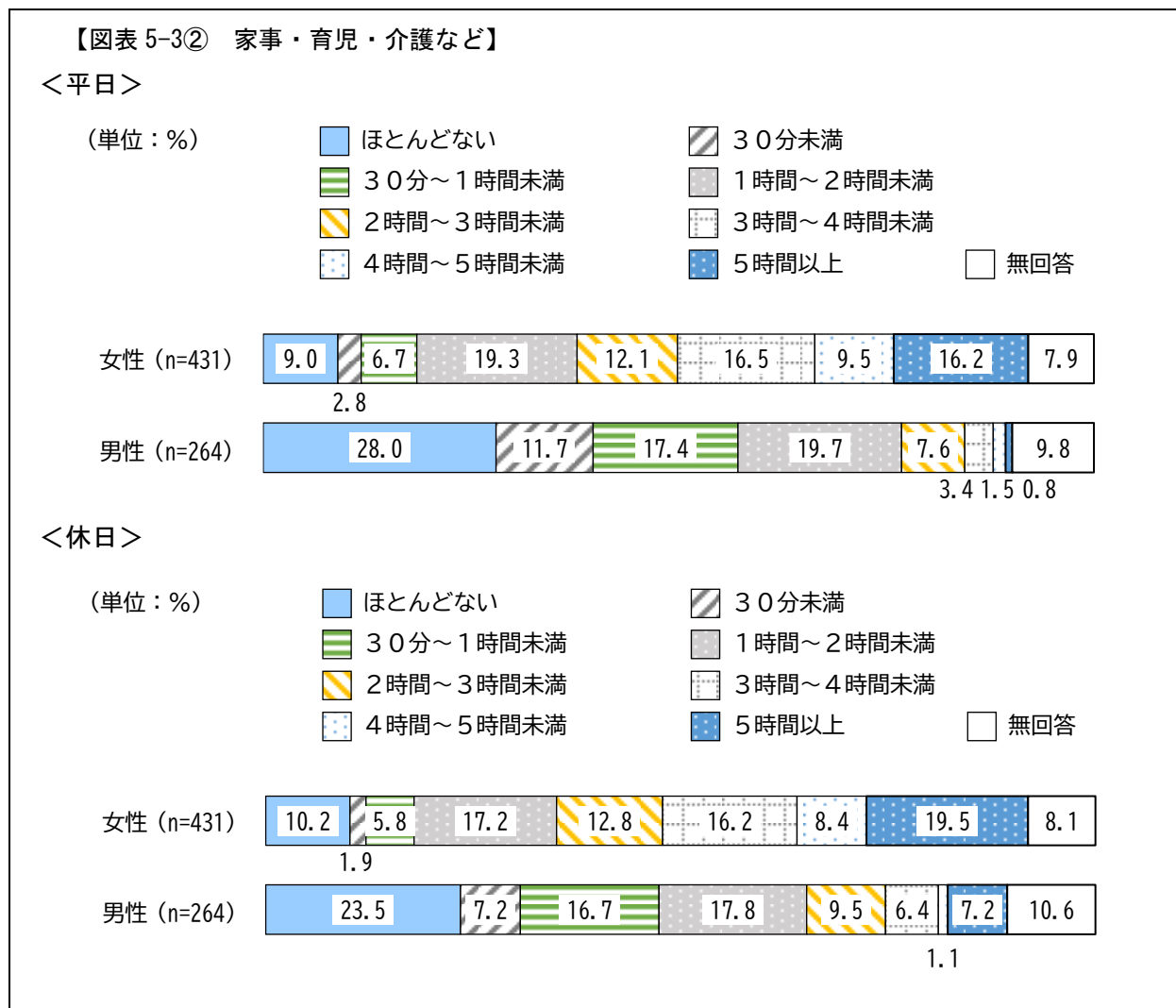
①平日 (MA%)

		n	なし	4時間未満	6 4時間未満	8 6時間未満	1 8 0時間未満	1 1 2 0時間未満	1 2 時間以上	無回答
女性	今回調査	431	45.9	3.2	9.0	13.5	18.3	6.0	3.0	0.9
	他調査	543	23.8	7.7	14.4	18.2	20.6	7.0	3.7	4.6
	スコア差		+22.1	-4.5	-5.4	-4.7	-2.3	-1.0	-0.7	-3.7
男性	今回調査	264	35.6	5.3	4.9	9.1	20.8	13.6	9.1	1.5
	他調査	433	19.9	8.5	5.3	11.8	30.9	12.2	9.0	2.3
	スコア差		+15.7	-3.2	-0.4	-2.7	-10.1	+1.4	+0.1	-0.8

②休日 (MA%)

		n	なし	4時間未満	6 4時間未満	8 6時間未満	1 8 0時間未満	1 1 2 0時間未満	1 2 時間以上	無回答
女性	今回調査	431	78.0	8.1	4.9	3.2	2.1	0.9	0.5	2.3
	他調査	543	60.0	14.7	7.7	4.2	3.5	1.1	2.2	6.4
	スコア差		+18.0	-6.6	-2.8	-1.0	-1.4	-0.2	-1.7	-4.1
男性	今回調査	264	66.3	16.7	3.0	3.0	4.2	1.5	1.5	3.8
	他調査	433	57.0	22.6	5.1	2.1	3.5	0.7	3.0	6.0
	スコア差		+9.3	-5.9	-2.1	+0.9	+0.7	+0.8	-1.5	-2.2

②家事・育児・介護など



<性別> (図表 5-3②)

家事・育児・介護などの時間について、平日は、女性では「1時間～2時間未満」が19.3%で最も高く、次いで「3時間～4時間未満」が16.5%、「5時間以上」が16.2%となっている。男性では「ほとんどない」が28.0%で最も高く、次いで「1時間～2時間未満」が19.7%、「30分～1時間未満」が17.4%となっている。

休日は、女性では「5時間以上」が19.5%で最も高く、次いで「1時間～2時間未満」が17.2%、「3時間～4時間未満」が16.2%となっている。平日に比べて大きな差はみられない。男性では「ほとんどない」が23.5%で最も高く、次いで「1時間～2時間未満」が17.8%、「30分～1時間未満」が16.7%で続いている。「5時間以上」が7.2%と、平日（0.8%）に比べて6.4ポイント高くなっている。

平日/休日ともに女性の家事・育児・介護などの時間が男性に比べて長時間の割合が高くなっている。

<性・年代別> (図表 5-3②-1、5-3②-2)

平日は、女性では30～40歳代では「5時間以上」(30歳代42.5%、40歳代34.4%)が最も高く、家事時間が長い。29歳以下、50～60歳代では「1時間～2時間未満」の割合が最も高くなっているが、50～60歳代は「3時間～4時間未満」「4時間～5時間未満」の割合が全体に比べて5ポイント以上高いのに対して、29歳以下は2時間以上の割合が低く、家事時間が比較的短い。

男性は、29歳以下と60歳代以上では「ほとんどない」が3割台で最も高い。30歳代では「1時間～2時間未満」が29.6%で最も高く、40歳代では「ほとんどない」と「1時間～2時間未満」がともに28.1%、50歳代では「30分～1時間未満」が26.7%で最も高くなっている。

休日は、女性では平日と同様の傾向であるが、「5時間以上」が30歳代で60.0% (平日より17.5ポイント増) と、平日より割合が高くなっている。

男性では、29歳以下、60歳代以上では、平日同様「ほとんどない」が最も高い。30歳代では「5時間以上」が33.3%で最も高く、また、40歳代でも「1時間～2時間未満」と「3時間～4時間未満」がともに18.8%で最も高く、平日以上に家事・育児・介護などへの参画が垣間見える。

<性・雇用形態別> (図表 5-3②-1、5-3②-2)

平日は、女性は、正規雇用では「1時間～2時間未満」が29.6%で最も高く、非正規雇用では「3時間～4時間未満」が21.1%、「1時間～2時間未満」が20.2%と分散している。

男性は、正規雇用では「30分～1時間未満」と「1時間～2時間未満」がともに24.0%で最も高く、非正規雇用と非就労者では「ほとんどない」が3割台で最も高くなっている。

休日は、女性は、正規雇用では「5時間以上」が28.4%で最も高くなっている。非正規雇用では「3時間～4時間未満」が22.9%、「5時間以上」が21.1%と分散。

男性は、正規雇用では「1時間～2時間未満」が24.0%で最も高く、非正規雇用では「ほとんどない」と「1時間～2時間未満」がともに30.8%で最も高くなっている。

【図表 5-3②-1 性・年代別/性・雇用形態別 家事・育児・介護など（平日）】

		n	①平日								無回答
			いほと んどな	3 0 分 未 満	1 3 時 0 分 未 満	2 1 時 間 未 満	3 2 時 間 未 満	4 3 時 間 未 満	5 4 時 間 未 満	5 時 間 以上	
全体	上段/実数	708	119	44	77	137	72	80	45	73	61
	下段/%	100.0	16.8	6.2	10.9	19.4	10.2	11.3	6.4	10.3	8.6
女性・年代別	29歳以下	17	4	3	2	5	2	-	-	1	-
		100.0	23.5	17.6	11.8	29.4	11.8	-	-	5.9	-
	30歳代	40	1	-	4	2	6	5	5	17	-
		100.0	2.5	-	10.0	5.0	15.0	12.5	12.5	42.5	-
	40歳代	61	1	3	4	9	6	12	5	21	-
		100.0	1.6	4.9	6.6	14.8	9.8	19.7	8.2	34.4	-
50歳代	112	13	2	7	25	16	22	14	12	1	
	100.0	11.6	1.8	6.3	22.3	14.3	19.6	12.5	10.7	0.9	
60歳代	77	4	-	5	21	11	14	10	9	3	
	100.0	5.2	-	6.5	27.3	14.3	18.2	13.0	11.7	3.9	
70歳以上	124	16	4	7	21	11	18	7	10	30	
	100.0	12.9	3.2	5.6	16.9	8.9	14.5	5.6	8.1	24.2	
男性・年代別	29歳以下	22	7	3	5	5	1	1	-	-	-
		100.0	31.8	13.6	22.7	22.7	4.5	4.5	-	-	-
	30歳代	27	3	4	7	8	2	1	-	1	1
		100.0	11.1	14.8	25.9	29.6	7.4	3.7	-	3.7	3.7
	40歳代	32	9	4	4	9	4	-	1	-	1
		100.0	28.1	12.5	12.5	28.1	12.5	-	3.1	-	3.1
50歳代	45	10	10	12	8	2	-	1	1	1	
	100.0	22.2	22.2	26.7	17.8	4.4	-	2.2	2.2	2.2	
60歳代	54	19	4	9	11	4	4	1	-	2	
	100.0	35.2	7.4	16.7	20.4	7.4	7.4	1.9	-	3.7	
70歳以上	84	26	6	9	11	7	3	1	-	21	
	100.0	31.0	7.1	10.7	13.1	8.3	3.6	1.2	-	25.0	
雇用女性・形態別	正規雇用	81	7	3	12	24	10	6	6	13	-
		100.0	8.6	3.7	14.8	29.6	12.3	7.4	7.4	16.0	-
	非正規雇用	109	7	3	9	22	16	23	11	17	1
	100.0	6.4	2.8	8.3	20.2	14.7	21.1	10.1	15.6	0.9	
非就労者 (学生を除く)	185	17	4	7	24	21	29	22	32	29	
	100.0	9.2	2.2	3.8	13.0	11.4	15.7	11.9	17.3	15.7	
雇用男性・形態別	正規雇用	100	19	18	24	24	7	1	-	2	5
		100.0	19.0	18.0	24.0	24.0	7.0	1.0	-	2.0	5.0
	非正規雇用	26	10	-	4	7	1	2	-	-	2
	100.0	38.5	-	15.4	26.9	3.8	7.7	-	-	7.7	
非就労者 (学生を除く)	79	25	6	9	14	6	3	1	-	15	
	100.0	31.6	7.6	11.4	17.7	7.6	3.8	1.3	-	19.0	

【図表 5-3②-2 性・年代別/性・雇用形態別 家事・育児・介護など（休日）】

		n	②休日								無回答
			いほとんどな	30分未満	13時間未満	21時間未満	32時間未満	43時間未満	54時間未満	5時間以上	
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	111 15.7	27 3.8	72 10.2	122 17.2	81 11.4	87 12.3	39 5.5	104 14.7	65 9.2
女性・年代別	29歳以下	17 100.0	5 29.4	2 11.8	- -	8 47.1	1 5.9	- -	- -	1 5.9	- -
	30歳代	40 100.0	- -	- -	3 7.5	4 10.0	2 5.0	4 10.0	3 7.5	24 60.0	- -
	40歳代	61 100.0	1 1.6	- -	5 8.2	7 11.5	6 9.8	12 19.7	6 9.8	24 39.3	- -
	50歳代	112 100.0	14 12.5	1 0.9	6 5.4	13 11.6	26 23.2	20 17.9	13 11.6	17 15.2	2 1.8
	60歳代	77 100.0	5 6.5	1 1.3	1 1.3	22 28.6	11 14.3	16 20.8	9 11.7	9 11.7	3 3.9
	70歳以上	124 100.0	19 15.3	4 3.2	10 8.1	20 16.1	9 7.3	18 14.5	5 4.0	9 7.3	30 24.2
男性・年代別	29歳以下	22 100.0	6 27.3	3 13.6	6 27.3	3 13.6	1 4.5	1 4.5	- -	2 9.1	- -
	30歳代	27 100.0	1 3.7	2 7.4	4 14.8	6 22.2	1 3.7	3 11.1	- -	9 33.3	1 3.7
	40歳代	32 100.0	4 12.5	1 3.1	5 15.6	6 18.8	5 15.6	6 18.8	1 3.1	3 9.4	1 3.1
	50歳代	45 100.0	8 17.8	5 11.1	12 26.7	10 22.2	4 8.9	- -	- -	5 11.1	1 2.2
	60歳代	54 100.0	16 29.6	2 3.7	9 16.7	12 22.2	6 11.1	5 9.3	1 1.9	- -	3 5.6
	70歳以上	84 100.0	27 32.1	6 7.1	8 9.5	10 11.9	8 9.5	2 2.4	1 1.2	- -	22 26.2
雇用女性形態別	正規雇用	81 100.0	6 7.4	1 1.2	6 7.4	17 21.0	16 19.8	6 7.4	6 7.4	23 28.4	- -
	非正規雇用	109 100.0	7 6.4	3 2.8	6 5.5	19 17.4	16 14.7	25 22.9	8 7.3	23 21.1	2 1.8
	非就労者 (学生を除く)	185 100.0	20 10.8	3 1.6	11 5.9	28 15.1	20 10.8	26 14.1	20 10.8	28 15.1	29 15.7
雇用男性形態別	正規雇用	100 100.0	13 13.0	7 7.0	18 18.0	24 24.0	11 11.0	6 6.0	- -	16 16.0	5 5.0
	非正規雇用	26 100.0	8 30.8	1 3.8	3 11.5	8 30.8	1 3.8	2 7.7	1 3.8	- -	2 7.7
	非就労者 (学生を除く)	79 100.0	26 32.9	6 7.6	8 10.1	11 13.9	8 10.1	4 5.1	1 1.3	- -	15 19.0

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 5-3②-3）

前回調査の結果に比べ、男性では、平日・休日とも「ほとんどない」が低下し（平日 5.9 ポイント、休日 7.6 ポイント）、「1時間～2時間未満」が上昇（平日 8.3 ポイント、休日 8.7 ポイント）している。

【図表 5-3②-3 前回調査との比較 家事・育児・介護など】

①平日 (MA%)

		n	ほとんどない	30分未満	13時間分未満	21時間分未満	32時間分未満	43時間分未満	54時間分未満	5時間以上	無回答
女性	今回調査	431	9.0	2.8	6.7	19.3	12.1	16.5	9.5	16.2	7.9
	前回調査	575	9.6	3.0	7.5	13.2	14.1	11.8	9.7	16.5	14.6
	スコア差		-0.6	-0.2	-0.8	+6.1	-2.0	+4.7	-0.2	-0.3	-6.7
男性	今回調査	264	28.0	11.7	17.4	19.7	7.6	3.4	1.5	0.8	9.8
	前回調査	351	33.9	10.0	17.7	11.4	6.3	2.8	1.1	2.8	14.0
	スコア差		-5.9	+1.7	-0.3	+8.3	+1.3	+0.6	+0.4	-2.0	-4.2

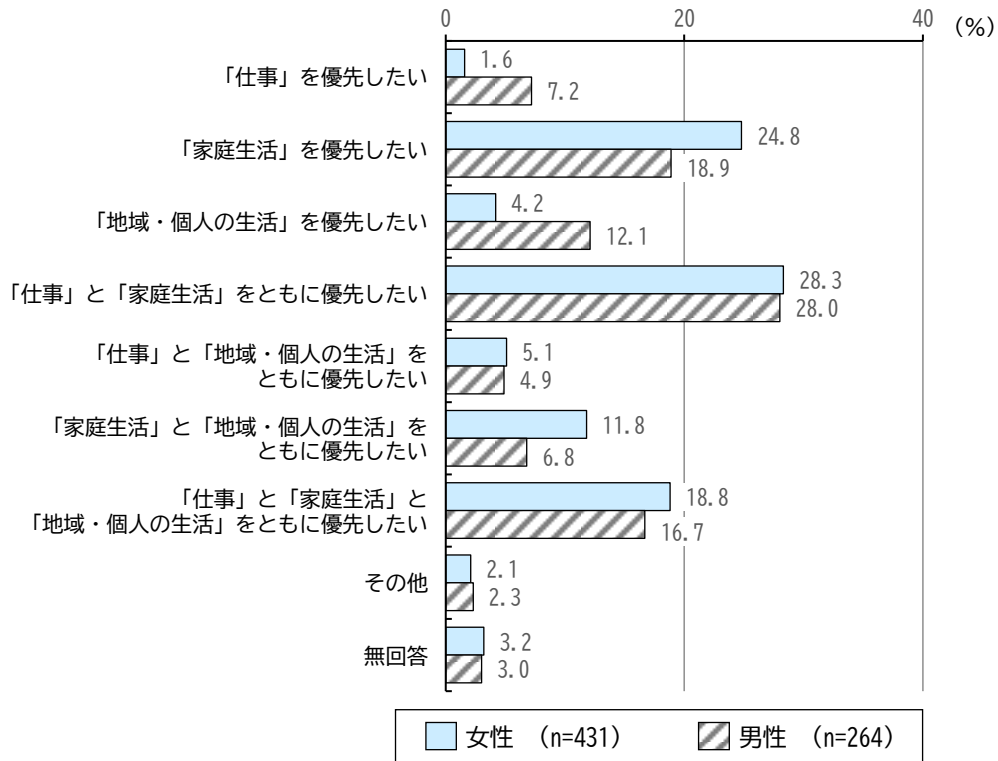
②休日 (MA%)

		n	ほとんどない	30分未満	13時間分未満	21時間分未満	32時間分未満	43時間分未満	54時間分未満	5時間以上	無回答
女性	今回調査	431	10.2	1.9	5.8	17.2	12.8	16.2	8.4	19.5	8.1
	前回調査	575	10.3	2.1	4.7	12.7	14.6	11.5	10.6	17.7	15.8
	スコア差		-0.1	-0.2	+1.1	+4.5	-1.8	+4.7	-2.2	+1.8	-7.7
男性	今回調査	264	23.5	7.2	16.7	17.8	9.5	6.4	1.1	7.2	10.6
	前回調査	351	31.1	8.0	16.2	9.1	6.8	3.4	2.3	8.5	14.5
	スコア差		-7.6	-0.8	+0.5	+8.7	+2.7	+3.0	-1.2	-1.3	-3.9

(4) 希望する暮らし方

問 17 あなたは、希望として、どのような暮らし方をしたいと思いますか。(〇はひとつ)

【図表 5-4 希望する暮らし方】



<性別> (図表 5-4)

希望する暮らし方について、男女ともに「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も高く、女性で28.3%、男性で28.0%となっている。次いで、「家庭生活を優先したい」が女性で24.8%、男性で18.9%、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」が女性で18.8%、男性で16.7%で続いている。

女性は「家庭生活を優先したい」「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」が男性に比べて5ポイント以上高く、男性は「地域・個人の生活を優先したい」「仕事を優先したい」が女性に比べて5ポイント以上高くなっている。

<性・年代別> (図表 5-4-1)

女性では、「仕事と家庭生活をともに優先したい」の割合は年代が下がるほど高くなっており、50歳代以下で「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も高い。60歳代以上では「家庭生活を優先したい」が3割台で最も高くなっている。

男性でも、30～60歳代では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も高く、特に40歳代で50.0%と高い。29歳以下では「仕事と家庭生活をともに優先したい」と「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」がそれぞれ31.8%で最も高く、70歳以上では「家庭生活を優先したい」が20.2%で最も高くなっている。

女性の30歳代以下、男性の40歳代で「仕事と家庭生活をともに優先したい」の割合が全体と比べて10ポイント以上高くなっている。

<性・雇用形態別> (図表 5-4-1)

男女ともに、正規雇用、非正規雇用では「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も高く、非就労者では「家庭生活を優先したい」が最も高くなっている。男性の非正規雇用で「地域・個人の生活を優先したい」の割合が女性に比べて10ポイント以上高くなっている。

【図表 5-4-1 性・年代別/性・雇用形態別 希望する暮らし方】

		n	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	その他	無回答
全体	上段/実数	708	26	162	51	199	36	69	125	17	23
	下段/%	100.0	3.7	22.9	7.2	28.1	5.1	9.7	17.7	2.4	3.2
女性・年代別	29歳以下	17	-	-	-	11	2	2	1	1	-
		100.0	-	-	-	64.7	11.8	11.8	5.9	5.9	-
	30歳代	40	-	7	2	16	2	5	7	1	-
		100.0	-	17.5	5.0	40.0	5.0	12.5	17.5	2.5	-
	40歳代	61	2	18	2	23	1	3	11	1	-
		100.0	3.3	29.5	3.3	37.7	1.6	4.9	18.0	1.6	-
	50歳代	112	2	19	4	35	9	10	32	-	1
	100.0	1.8	17.0	3.6	31.3	8.0	8.9	28.6	-	0.9	
60歳代	77	-	24	1	23	3	7	18	1	-	
	100.0	-	31.2	1.3	29.9	3.9	9.1	23.4	1.3	-	
70歳以上	124	3	39	9	14	5	24	12	5	13	
	100.0	2.4	31.5	7.3	11.3	4.0	19.4	9.7	4.0	10.5	
男性・年代別	29歳以下	22	1	2	2	7	1	2	7	-	-
		100.0	4.5	9.1	9.1	31.8	4.5	9.1	31.8	-	-
	30歳代	27	2	5	4	7	-	2	6	1	-
		100.0	7.4	18.5	14.8	25.9	-	7.4	22.2	3.7	-
	40歳代	32	2	4	2	16	1	1	5	-	1
		100.0	6.3	12.5	6.3	50.0	3.1	3.1	15.6	-	3.1
	50歳代	45	5	9	3	16	3	-	8	1	-
	100.0	11.1	20.0	6.7	35.6	6.7	-	17.8	2.2	-	
60歳代	54	3	13	6	17	5	4	5	-	1	
	100.0	5.6	24.1	11.1	31.5	9.3	7.4	9.3	-	1.9	
70歳以上	84	6	17	15	11	3	9	13	4	6	
	100.0	7.1	20.2	17.9	13.1	3.6	10.7	15.5	4.8	7.1	
雇用女性形態別	正規雇用	81	2	8	2	34	9	2	22	2	-
		100.0	2.5	9.9	2.5	42.0	11.1	2.5	27.2	2.5	-
	非正規雇用	109	3	27	3	42	5	5	24	-	-
	100.0	2.8	24.8	2.8	38.5	4.6	4.6	22.0	-	-	
非就労者 (学生を除く)	185	1	64	9	26	5	40	23	6	11	
	100.0	0.5	34.6	4.9	14.1	2.7	21.6	12.4	3.2	5.9	
雇用男性形態別	正規雇用	100	9	15	7	39	4	4	18	3	1
		100.0	9.0	15.0	7.0	39.0	4.0	4.0	18.0	3.0	1.0
	非正規雇用	26	2	4	6	9	1	1	3	-	-
	100.0	7.7	15.4	23.1	34.6	3.8	3.8	11.5	-	-	
非就労者 (学生を除く)	79	2	25	11	9	4	10	9	3	6	
	100.0	2.5	31.6	13.9	11.4	5.1	12.7	11.4	3.8	7.6	

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 5-4-2）

前回調査の結果に比べ、女性では大きな変化はみられない。男性では、「仕事と家庭生活を優先したい」が5.3ポイント低下しており、「地域・個人の生活を優先したい」「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」がそれぞれわずかながら上昇している。

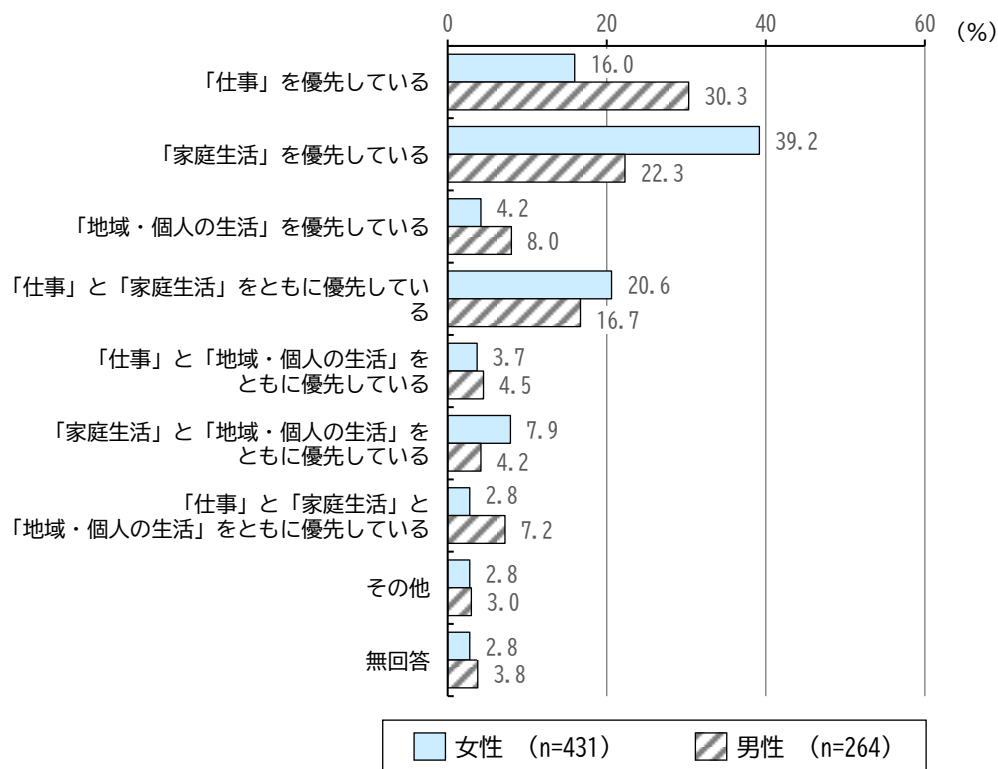
【図表 5-4-2 前回調査との比較 希望する暮らし方】

											(%)
		n	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活を優先したい」	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活を優先したい」	「家庭生活」と「地域・個人の生活を優先したい」	「仕事」と「地域・個人の生活を優先したい」	その他	無回答
女性	今回調査	431	1.6	24.8	4.2	28.3	5.1	11.8	18.8	2.1	3.2
	前回調査	723	1.4	26.6	3.9	29.5	3.6	11.3	15.2	1.5	7.1
	スコア差		+0.2	-1.8	+0.3	-1.2	+1.5	+0.5	+3.6	+0.6	-3.9
男性	今回調査	264	7.2	18.9	12.1	28.0	4.9	6.8	16.7	2.3	3.0
	前回調査	456	5.3	20.8	7.7	33.3	5.0	7.9	12.3	2.2	5.5
	スコア差		+1.9	-1.9	+4.4	-5.3	-0.1	-1.1	+4.4	+0.1	-2.5

(5) 現実の生活

問 18 あなたの現実の生活に最も近いものはどれですか。(○はひとつ)

【図表 5-5 現実の生活】



<性別> (図表 5-5)

現実の生活について、女性では「家庭生活を優先している」が 39.2%で最も高く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先している」が 20.6%、「仕事を優先している」が 16.0%となっている。男性では「仕事を優先している」が 30.3%で最も高く、次いで「家庭生活を優先している」が 22.3%、「仕事と家庭生活をともに優先している」が 16.7%となっている。

女性では「家庭生活を優先している」が男性に比べて 16.9 ポイント高く、男性では「仕事を優先している」が女性に比べて 14.3 ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 5-5-1)

女性では、29歳以下で「仕事を優先している」が47.1%で最も高いが、その他の年代ではいずれも「家庭生活を優先している」が最も高くなっている。40歳代では「仕事と家庭生活をともに優先している」、70歳以上では「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」が全体に比べて10ポイント以上高くなっている。

一方男性では、30～60歳代はいずれの年代でも「仕事を優先している」が最も高くなっている。29歳以下では「仕事を優先している」と「仕事と地域・個人の生活をともに優先している」がそれぞれ22.7%で最も高い。70歳以上では、女性同様、「家庭生活を優先している」が35.7%で最も高くなっている。

<性・雇用形態別> (図表 5-5-1)

正規雇用では、男女とも、「仕事を優先している」が4割台で最も高く、「仕事と家庭生活をともに優先している」が女性32.1%、男性24.0%で続いている。非正規雇用では、女性では「仕事と家庭生活をともに優先している」が39.4%で最も高く、男性では「仕事を優先している」が38.5%で最も高い。

【図表 5-5-1 性・年代別/性・雇用形態別 現実の生活】

		n	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	その他	無回答
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	155 21.9	231 32.6	39 5.5	136 19.2	28 4.0	45 6.4	31 4.4	21 3.0	22 3.1
女性・年代別	29歳以下	17 100.0	8 47.1	1 5.9	1 5.9	3 17.6	- -	- -	1 5.9	3 17.6	- -
	30歳代	40 100.0	6 15.0	15 37.5	1 2.5	11 27.5	4 10.0	2 5.0	- -	1 2.5	- -
	40歳代	61 100.0	10 16.4	26 42.6	- -	20 32.8	1 1.6	1 1.6	1 1.6	2 3.3	- -
	50歳代	112 100.0	30 26.8	38 33.9	2 1.8	25 22.3	8 7.1	2 1.8	6 5.4	- -	1 0.9
	60歳代	77 100.0	12 15.6	30 39.0	4 5.2	20 26.0	1 1.3	6 7.8	3 3.9	1 1.3	- -
	70歳以上	124 100.0	3 2.4	59 47.6	10 8.1	10 8.1	2 1.6	23 18.5	1 0.8	5 4.0	11 8.9
	男性・年代別	29歳以下	22 100.0	5 22.7	3 13.6	2 9.1	3 13.6	5 22.7	1 4.5	2 9.1	1 4.5
30歳代		27 100.0	12 44.4	5 18.5	2 7.4	6 22.2	1 3.7	- -	- -	1 3.7	- -
40歳代		32 100.0	11 34.4	3 9.4	2 6.3	12 37.5	- -	- -	4 12.5	- -	- -
50歳代		45 100.0	20 44.4	5 11.1	2 4.4	12 26.7	- -	1 2.2	4 8.9	1 2.2	- -
60歳代		54 100.0	19 35.2	13 24.1	1 1.9	10 18.5	3 5.6	2 3.7	3 5.6	- -	3 5.6
70歳以上		84 100.0	13 15.5	30 35.7	12 14.3	1 1.2	3 3.6	7 8.3	6 7.1	5 6.0	7 8.3
雇用女性・形態別		正規雇用	81 100.0	35 43.2	7 8.6	1 1.2	26 32.1	8 9.9	- -	2 2.5	2 2.5
	非正規雇用	109 100.0	25 22.9	26 23.9	2 1.8	43 39.4	4 3.7	2 1.8	6 5.5	- -	1 0.9
	非就労者 (学生を除く)	185 100.0	1 0.5	115 62.2	13 7.0	5 2.7	2 1.1	29 15.7	3 1.6	7 3.8	10 5.4
雇用男性・形態別	正規雇用	100 100.0	49 49.0	11 11.0	2 2.0	24 24.0	4 4.0	2 2.0	7 7.0	1 1.0	- -
	非正規雇用	26 100.0	10 38.5	2 7.7	2 7.7	6 23.1	1 3.8	2 7.7	3 11.5	- -	- -
	非就労者 (学生を除く)	79 100.0	6 7.6	39 49.4	11 13.9	1 1.3	- -	5 6.3	3 3.8	6 7.6	8 10.1

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 5-5-2）

前回調査の結果に比べ、大きな変化はみられない。

【図表 5-5-2 前回調査との比較 現実の生活】

			(%)								
		n	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	その他	無回答
女性	今回調査	431	16.0	39.2	4.2	20.6	3.7	7.9	2.8	2.8	2.8
	前回調査	723	17.8	38.9	3.6	19.1	2.4	6.1	4.1	1.8	6.2
	スコア差		-1.8	+0.3	+0.6	+1.5	+1.3	+1.8	-1.3	+1.0	-3.4
男性	今回調査	264	30.3	22.3	8.0	16.7	4.5	4.2	7.2	3.0	3.8
	前回調査	456	30.3	21.1	4.4	20.0	6.1	4.6	2.9	4.8	5.9
	スコア差		0.0	+1.2	+3.6	-3.3	-1.6	-0.4	+4.3	-1.8	-2.1

＜希望-現実のスコア差①（図表 5-5-3）＞

「仕事を優先している」は、女性の 60 歳代以下のすべての年代で、現実が希望を大きく上回っており、希望する以上に仕事を優先せざるを得ない状況がうかがわれる。特に女性の 29 歳以下と男性の 30 歳代、50 歳代において、30 ポイント以上の差がみられ、現実と希望の乖離が大きい。

「家庭生活を優先している」は、特に 30～50 歳代の女性において、希望よりも現実に優先せざるを得ない状況がある。反対に男性の 40～50 歳代では、希望のスコアが現実のスコアより高く、家庭を優先したいと思っているが、できない割合が高くなっている。

「仕事と家庭生活をともに優先している」はすべての年代において、希望スコアが現実スコアを上回っており、ワーク・ライフ・バランスを取りたくても取れない状況にある回答者の割合が高い。

雇用形態別では、男女ともに、正規雇用において、「仕事を優先している」のスコアの差が 40 ポイント以上となっており、現実において特に仕事優先の傾向が見られる。非正規雇用においても同様の傾向がみられる。

【図表 5-5-3 性・年代別/性・雇用形態別 希望-現実のスコア差】

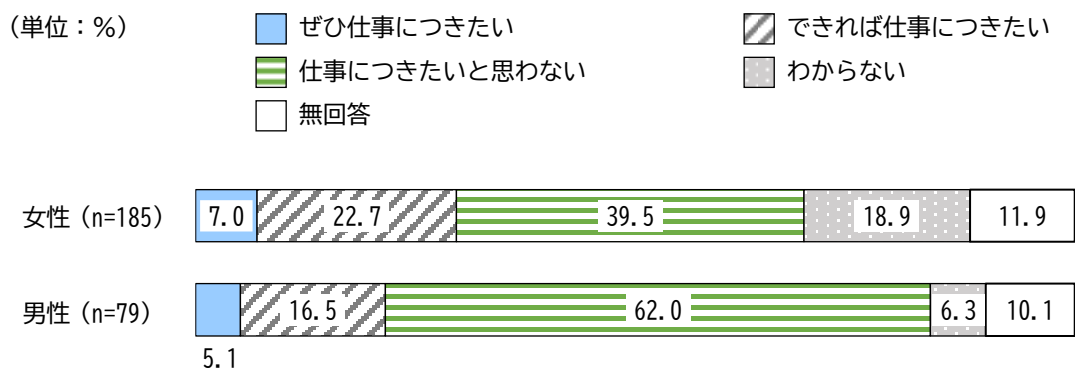
		「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」を優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」を優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」を優先している
全 体		-18.2	-9.7	+1.7	+8.9	+1.1	+3.3	+13.3
性別	女性	-14.4	-14.4	0.0	+7.7	+1.4	+3.9	+16.0
	男性	-23.1	-3.4	+4.1	+11.3	+0.4	+2.6	+9.5
女性・年代別	29歳以下	-47.1	-5.9	-5.9	+47.1	+11.8	+11.8	0.0
	30歳代	-15.0	-20.0	+2.5	+12.5	-5.0	+7.5	+17.5
	40歳代	-13.1	-13.1	+3.3	+4.9	0.0	+3.3	+16.4
	50歳代	-25.0	-16.9	+1.8	+9.0	+0.9	+7.1	+23.2
	60歳代	-15.6	-7.8	-3.9	+3.9	+2.6	+1.3	+19.5
	70歳以上	0.0	-16.1	-0.8	+3.2	+2.4	+0.9	+8.9
男性・年代別	29歳以下	-18.2	-4.5	0.0	+18.2	-18.2	+4.6	+22.7
	30歳代	-37.0	0.0	+7.4	+3.7	-3.7	+7.4	+22.2
	40歳代	-28.1	+3.1	0.0	+12.5	+3.1	+3.1	+3.1
	50歳代	-33.3	+8.9	+2.3	+8.9	+6.7	-2.2	+8.9
	60歳代	-29.6	0.0	+9.2	+13.0	+3.7	+3.7	+3.7
	70歳以上	-8.4	-15.5	+3.6	+11.9	0.0	+2.4	+8.4
女性・雇用形態別	正規雇用	-40.7	+1.3	+1.3	+9.9	+1.2	+2.5	+24.7
	非正規雇用	-20.1	+0.9	+1.0	-0.9	+0.9	+2.8	+16.5
	非就労者（学生を除く）	0.0	-27.6	-2.1	+11.4	+1.6	+5.9	+10.8
男性・雇用形態別	正規雇用	-40.0	+4.0	+5.0	+15.0	0.0	+2.0	+11.0
	非正規雇用	-30.8	+7.7	+15.4	+11.5	0.0	-3.9	0.0
	非就労者（学生を除く）	-5.1	-17.8	0.0	+10.1	+5.1	+6.4	+7.6

(6) 今後の就労意向

【問 14 は、現在「収入を得る仕事をしていない」方にお聞きします。】

問 14 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○はひとつ)

【図表 5-6 今後の就労意向】



<性別> (図表 5-6)

現在、収入を得る仕事をしていない人に、就労の希望をたずねたところ、男女とも、「仕事につきたいと思わない」が女性 39.5%、男性 62.0%で最も高く、また女性に比べ男性の方が 22.5 ポイント高くなっている。

一方、「ぜひ仕事につきたい」と「できれば仕事につきたい」を合わせた『仕事につきたい』の割合は、女性 29.7%、男性 21.6%で、女性の方が 8.1 ポイント高くなっている。

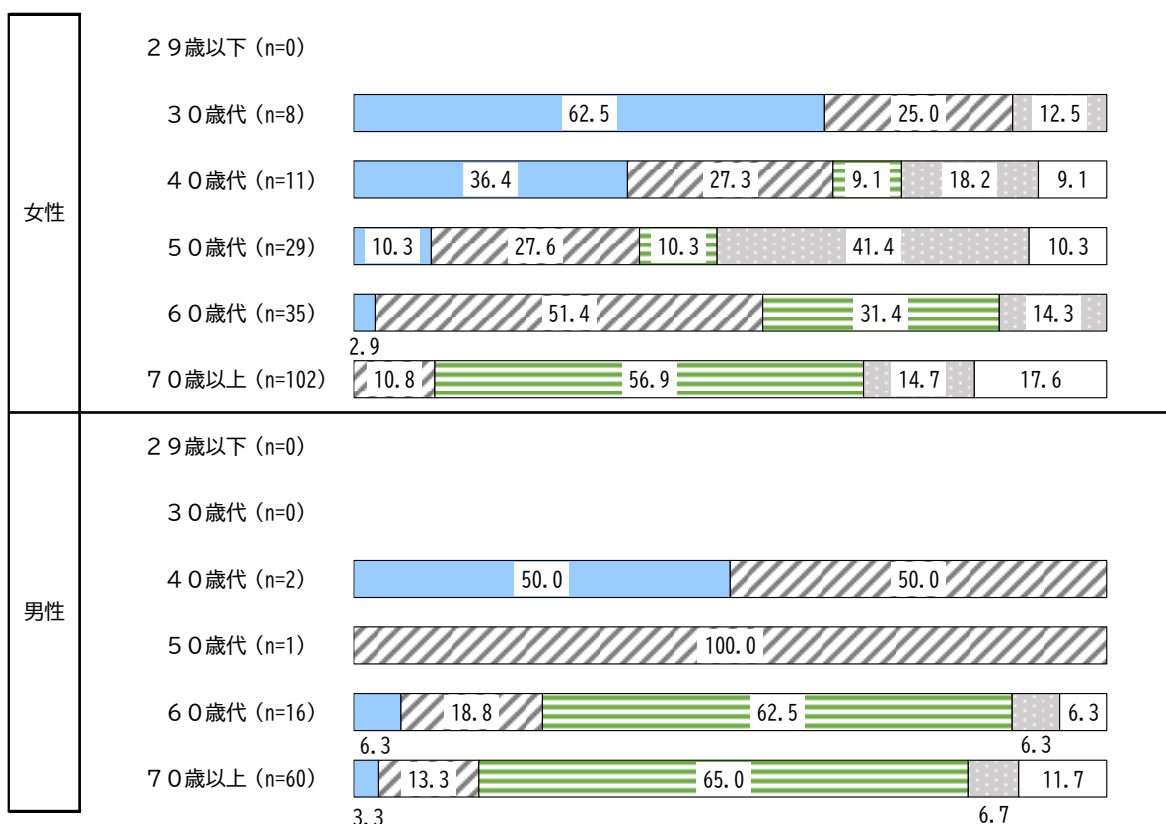
<性・年代別> (図表 5-6-1)

回答者数が少ないため、参考値ではあるが、女性では、50 歳代で「わからない」が 41.4%、60 歳代で「できれば仕事につきたい」が 51.4%、70 歳以上で「仕事につきたいと思わない」が 56.9%で最も高い。男性 70 歳以上では、「仕事につきたいと思わない」が 65.0%で最も高い。

【図表 5-6-1 性・年代別 今後の就労意向】

(単位：%)

- ぜひ仕事につきたい
- できれば仕事につきたい
- 仕事につきたいと思わない
- わからない
- 無回答



＜前回調査（令和2年（2020年））との比較＞（図表 5-6-2）

前回調査の結果に比べ、女性では「ぜひ仕事につきたい」が5.3ポイント低下し、「できれば仕事につきたい」が5.1ポイント上昇している。男性では、「仕事につきたいと思わない」が17.2ポイント上昇している。

【図表 5-6-2 前回調査との比較 今後の就労意向】

	女性						男性					
	n	ぜひ たい 仕事 につ	に で つ き れ ば 仕事 につ	い 仕 と 事 に 思 わ な き いた	わ か ら な い	無 回 答	n	き ぜ た ひ い 仕 事 につ	に で つ き れ ば 仕事 につ	い 仕 と 事 に 思 わ な き いた	わ か ら な い	無 回 答
今回調査	185	7.0	22.7	39.5	18.9	11.9	79	5.1	16.5	62.0	6.3	10.1
前回調査	358	12.3	17.6	35.5	15.6	19.0	174	9.2	16.1	44.8	11.5	18.4
スコア差		-5.3	+5.1	+4.0	+3.3	-7.1		-4.1	+0.4	+17.2	-5.2	-8.3

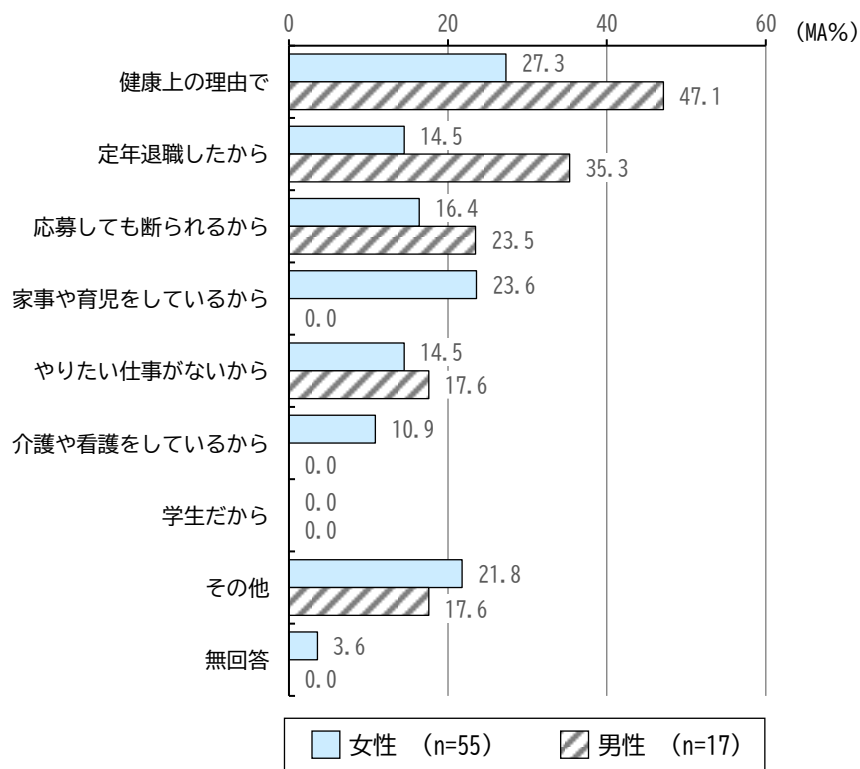
(7) 働いていない理由

【問 14-1・問 14-2 は、仕事につきたいのに、仕事についていない方にお聞きします。】

問 14-1 仕事につきたいのに、仕事についていない理由をお聞かせください。

(○はいくつでも)

【図表 5-7 働いていない理由】



<性別> (図表 5-7)

現在、収入を得る仕事をしていない人に、働いていない理由をたずねたところ、女性では「健康上の理由で」が27.3%で最も高くなっており、次いで「家事や育児をしているから」(23.6%)となっている。男性では「健康上の理由で」が47.1%で最も高く、次いで「定年退職したから」が35.3%となっている。

女性の「家事や育児をしているから」は男性に比べて23.6ポイント高く、男性の「定年退職したから」「健康上の理由で」は女性に比べて10ポイント以上高い。

<性・年代別> (図表 5-7-1)

いずれの層も回答者数が少ないため、参考値ではあるが、女性は30～40歳代は「家事や育児をしているから」、50歳代や70歳以上で「健康上の理由で」、60歳代で「定年退職したから」が最も高くなっている。

【図表 5-7-1 性・年代別 働いていない理由】

		n	健康上の理由	定年退職した	応募しても断	家事や育児から	やりたいから仕事	介護や看護を	学生だから	その他	無回答
全体	上段/実数	72	23	14	13	13	11	6	-	15	2
	下段/MA%	100.0	31.9	19.4	18.1	18.1	15.3	8.3	-	20.8	2.8
女性	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	7	-	-	1	4	3	-	-	1	-
		100.0	-	-	14.3	57.1	42.9	-	-	14.3	-
	40歳代	7	1	-	2	5	-	-	-	1	-
		100.0	14.3	-	28.6	71.4	-	-	-	14.3	-
	50歳代	11	5	-	2	3	1	2	-	1	-
	100.0	45.5	-	18.2	27.3	9.1	18.2	-	9.1	-	
60歳代	19	4	6	3	1	3	4	-	4	1	
	100.0	21.1	31.6	15.8	5.3	15.8	21.1	-	21.1	5.3	
70歳以上	11	5	2	1	-	1	-	-	-	5	1
	100.0	45.5	18.2	9.1	-	9.1	-	-	-	45.5	9.1
男性	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	40歳代	2	1	-	1	-	-	-	-	1	-
		100.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-
	50歳代	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
		100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
60歳代	4	-	2	2	-	1	-	-	-	-	
	100.0	-	50.0	50.0	-	25.0	-	-	-	-	
70歳以上	10	7	4	1	-	2	-	-	-	1	-
	100.0	70.0	40.0	10.0	-	20.0	-	-	-	10.0	-

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表5-7-2）

前回調査の結果に比べ、男女とも「健康上の理由で」が10ポイント以上上昇している。男性では、「定年退職したから」も8.0ポイント上昇している。

【図表5-7-2 前回調査との比較 働いていない理由】

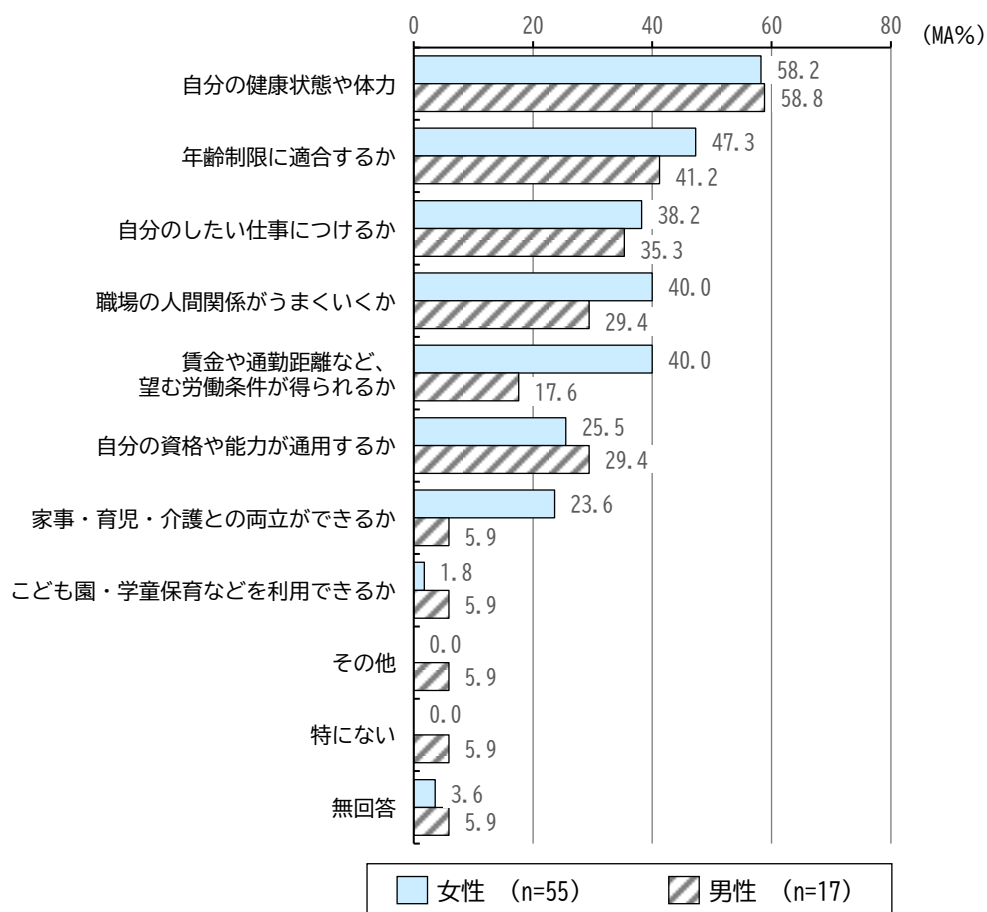
			(MA%)								
		n	で健康上の理由	か定年退職した	ら応募しても断	し家ている育児から	がやらないから仕事	し介護や看	学生だから	その他	無回答
女性	今回調査	55	27.3	14.5	16.4	23.6	14.5	10.9	-	21.8	3.6
	前回調査	107	15.0	12.1	15.9	29.9	12.1	8.4	8.4	20.6	8.4
	スコア差		+12.3	+2.4	+0.5	-6.3	+2.4	+2.5	-8.4	+1.2	-4.8
男性	今回調査	17	47.1	35.3	23.5	-	17.6	-	-	17.6	-
	前回調査	44	20.5	27.3	20.5	-	20.5	2.3	18.2	9.1	9.1
	スコア差		+26.6	+8.0	+3.0	0.0	-2.9	-2.3	-18.2	+8.5	-9.1

(8) 仕事につく上での不安

【問 14-1・問 14-2 は、仕事につきたいのに、仕事についていない方にお聞きします。】

問 14-2 仕事につく上で、不安を感じることや困ることはありますか。(〇はいくつでも)

【図表 5-8 仕事につく上での不安】



<性別> (図表 5-8)

仕事につきたい、できれば仕事につきたいと回答した人に、仕事につく上で困ったことや不安についてたずねたところ、男女とも「自分の健康状態や体力」が最も高く、女性で58.2%、男性で58.8%となっている。次いで、男女とも「年齢制限に適合するか」が女性47.3%、男性41.2%で続いている。

女性の「賃金や通勤距離など、望む労働条件が得られるか」は男性に比べて20ポイント以上、「家事・育児・介護との両立ができるか」「職場の人間関係がうまくいくか」は男性に比べて10ポイント以上高くなっている。

<性・年代別> (図表 5-8-1)

いずれの層も回答者数が少ないため、参考値ではあるが、女性では30歳代で「賃金や通勤距離など、望む労働条件が得られるか」、40歳代で「家事・育児・介護との両立ができるか」、50歳以上で「自分の健康状態や体力」の割合が最も高くなっている。

【図表 5-8-1 性・年代別 仕事につく上での不安】

		n	体自 力の 健康 状態 や	年 か 制 限 に 適 合 す	に 自 分 の し た い 仕 事	う 職 場 の い く か 関 係 が	が ど 賃 金 や 通 勤 距 離 条 件 な	が 自 分 の 資 格 や 能 力	か と 家 事 ・ 育 児 ・ 介 護	る こ ど も 園 ・ 学 童 保 護	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体	上段/実数	72	42	33	27	27	25	19	14	2	1	1	3
	下段/MA%	100.0	58.3	45.8	37.5	37.5	34.7	26.4	19.4	2.8	1.4	1.4	4.2
女 性	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	7	1	1	3	3	5	3	4	1	-	-	-
		100.0	14.3	14.3	42.9	42.9	71.4	42.9	57.1	14.3	-	-	-
	40歳代	7	4	2	3	3	4	2	5	-	-	-	-
		100.0	57.1	28.6	42.9	42.9	57.1	28.6	71.4	-	-	-	-
	50歳代	11	7	6	5	7	6	3	3	-	-	-	-
	100.0	63.6	54.5	45.5	63.6	54.5	27.3	27.3	-	-	-	-	
60歳代	19	12	10	5	6	5	4	1	-	-	-	-	1
	100.0	63.2	52.6	26.3	31.6	26.3	21.1	5.3	-	-	-	-	5.3
70歳以上	11	8	7	5	3	2	2	-	-	-	-	-	1
	100.0	72.7	63.6	45.5	27.3	18.2	18.2	-	-	-	-	-	9.1
男 性	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	40歳代	2	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-
		100.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-
	50歳代	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
60歳代	4	3	3	1	-	1	1	-	-	-	-	-	
	100.0	75.0	75.0	25.0	-	25.0	25.0	-	-	-	-	-	
70歳以上	10	5	4	5	4	2	3	1	1	-	1	1	
	100.0	50.0	40.0	50.0	40.0	20.0	30.0	10.0	10.0	-	10.0	10.0	

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 5-8-2）

前回調査の結果に比べ、男女ともに「自分の健康状態や体力」が女性で 11.5 ポイント、男性で 6.5 ポイント上昇している。女性では「自分のしたい仕事につけるか」「年齢制限に適合するか」「自分の資格や能力が通用するか」も 5 ポイント以上上昇している。

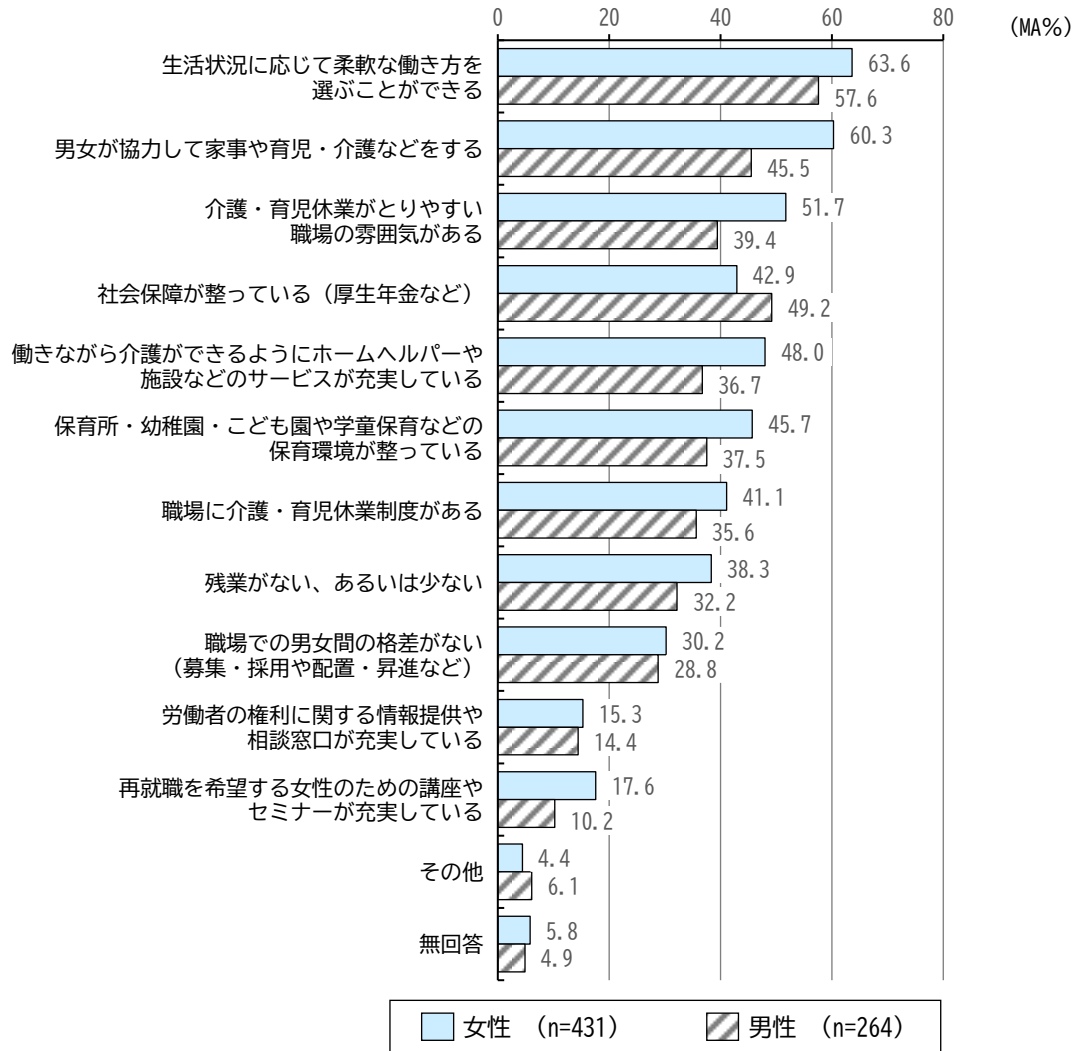
【図表 5-8-2 前回調査との比較 仕事につく上での不安】

		(MA%)											
		n	自分の健康状態や体力	年齢制限に適合するか	自分のしたい仕事につけるか	職場の人間関係がうまくいっているか	賃金や通勤距離などが得られるか	自分の資格や能力が通用するか	家事・育児ができるか	子ども園・学童保育などを利用できるか	その他	特になし	無回答
女性	今回調査	55	58.2	47.3	38.2	40.0	40.0	25.5	23.6	1.8	-	-	3.6
	前回調査	107	46.7	40.2	29.0	44.9	42.1	18.7	29.0	9.3	3.7	2.8	8.4
	スコア差		+11.5	+7.1	+9.2	-4.9	-2.1	+6.8	-5.4	-7.5	-3.7	-2.8	-4.8
男性	今回調査	17	58.8	41.2	35.3	29.4	17.6	29.4	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9
	前回調査	44	52.3	38.6	40.9	40.9	22.7	29.5	9.1	2.3	2.3	2.3	6.8
	スコア差		+6.5	+2.6	-5.6	-11.5	-5.1	-0.1	-3.2	+3.6	+3.6	+3.6	-0.9

(9) 働く上で大切なこと

問 15 もし、あなたが働き続けたい、あるいは働き始めたいと考えた場合、どのようなことが大切だと思いますか。(〇はいくつでも)

【図表 5-9 働く上で大切なこと】



<性別> (図表 5-9)

働き続けたい、働き始めたいと考えたときに大切なことは、男女とも「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」が女性 63.6%、男性 57.6%で最も高く、以下、女性では「男女が協力して家事や育児・介護などをする」(60.3%)、「介護・育児休業がとりやすい職場の雰囲気がある」(51.7%)、男性では「社会保障が整っている(厚生年金など)」(49.2%)、「男女が協力して家事や育児・介護などをする」(45.5%)と続いている。

女性では、「社会保障が整っている」「職場での男女間の格差がない(募集・採用や配置・昇進など)」「労働者の権利に関する情報提供や相談窓口が充実している」を除くすべての項目で男性の割合を5ポイント以上上回っており、そのうち「男女が協力して家事や育児・介護などをする」「介護・育児休業がとりやすい職場の雰囲気がある」「働きながら介護ができるようにホームヘルパーや施設などのサービスが充実している」では10ポイント以上となっている。

<性・年代別> (図表 5-9-1)

女性では、50歳代以下で「生活状況に応じて柔軟な働き方を選べる」「男女が協力して家事や育児・介護などをする」「介護・育児休業がとりやすい職場の雰囲気がある」の割合が全体に比べて高く、50歳代では「働きながら介護ができるようにホームヘルパーや施設などのサービスが充実している」も割合が高めである。40歳代以下では「保育所・幼稚園・こども園や学童保育などの保育環境が整っている」「職場に介護・育児休業制度がある」「残業がない、あるいは少ない」が全体に比べて10ポイント以上高くなっている。

男性では、30歳代以下で「男女が協力して家事や育児・介護などをする」「保育所・幼稚園・こども園や学童保育などの保育環境が整っている」「職場に介護・育児休業制度がある」「残業がない、あるいは少ない」の割合が全体に比べて高めで、29歳以下で「職場での男女間の格差がない(募集・採用や配置・昇進など)」、30歳代で「社会保障が整っている(厚生年金など)」の割合が全体に比べて10ポイント以上高い。40歳代では「保育所・幼稚園・こども園や学童保育などの保育環境が整っている」、50歳代で「社会保障が整っている(厚生年金など)」の割合が全体に比べて10ポイント以上高くなっている。

【図表 5-9-1 性・年代別 働く上で大切なこと】

	n	生活状況に応じて柔軟な働き方を選べる	男女が協力して家事や育児・介護などをする	職場の雰囲気がある	社会保障が整っている(厚生年金など)	働きながら介護ができるようにホームヘルパーや施設などがある	保育所・幼稚園・こども園や学童保育などの保育環境が整っている	職場に介護・育児休業制度がある	残業がない、あるいは少ない	職場での男女間の格差がない(募集・採用や配置・昇進など)	労働者の権利に関する情報が充実している	再就職やセミナーが女性のため	その他	無回答	
		上段/実数 下段/MA%													
全体	708	437 100.0	389 61.7	335 54.9	326 47.3	312 44.1	303 42.8	277 39.1	258 36.4	215 30.4	112 15.8	108 15.3	35 4.9	38 5.4	
女性	29歳以下	17 100.0	12 70.6	13 76.5	9 52.9	8 47.1	7 41.2	10 58.8	9 52.9	8 47.1	6 35.3	4 23.5	3 17.6	-	-
	30歳代	40 100.0	34 85.0	29 72.5	31 77.5	21 52.5	18 45.0	29 72.5	20 50.0	26 65.0	12 30.0	7 17.5	9 22.5	2 5.0	-
	40歳代	61 100.0	43 70.5	44 72.1	35 57.4	32 52.5	30 49.2	35 57.4	32 52.5	36 59.0	24 39.3	6 9.8	8 13.1	2 3.3	-
	50歳代	112 100.0	83 74.1	73 65.2	69 61.6	52 46.4	73 65.2	53 47.3	54 48.2	46 41.1	36 32.1	19 17.0	26 23.2	3 2.7	1 0.9
	60歳代	77 100.0	48 62.3	42 54.5	39 50.6	31 40.3	35 45.5	28 36.4	30 39.0	24 31.2	26 33.8	14 18.2	18 23.4	3 3.9	5 6.5
	70歳以上	124 100.0	54 43.5	59 47.6	40 32.3	41 33.1	44 35.5	42 33.9	32 25.8	25 20.2	26 21.0	16 12.9	12 9.7	9 7.3	19 15.3
	男性	29歳以下	22 100.0	13 59.1	16 72.7	13 59.1	10 45.5	8 36.4	11 50.0	15 68.2	13 59.1	13 59.1	5 22.7	2 9.1	-
30歳代		27 100.0	19 70.4	19 70.4	13 48.1	16 59.3	13 48.1	15 55.6	12 44.4	14 51.9	8 29.6	2 7.4	3 11.1	3 11.1	-
40歳代		32 100.0	22 68.8	16 50.0	14 43.8	15 46.9	13 40.6	17 53.1	12 37.5	11 34.4	9 28.1	5 15.6	3 9.4	-	1 3.1
50歳代		45 100.0	24 53.3	29 64.4	20 44.4	28 62.2	22 48.9	18 40.0	21 46.7	17 37.8	15 33.3	8 17.8	7 15.6	2 4.4	-
60歳代		54 100.0	35 64.8	19 35.2	19 35.2	27 50.0	17 31.5	17 31.5	17 31.5	14 25.9	17 31.5	6 11.1	7 13.0	3 5.6	1 1.9
70歳以上		84 100.0	39 46.4	21 25.0	25 29.8	34 40.5	24 28.6	21 25.0	17 20.2	16 19.0	14 16.7	12 14.3	5 6.0	8 9.5	11 13.1

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表5-9-2）

前回調査の結果に比べ、男性で「生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる」が11.1ポイント、「職場に介護・育児休業制度がある」が5.8ポイント上昇している。女性では大きな変化はみられない。

【図表5-9-2 前回調査との比較 働く上で大切なこと】

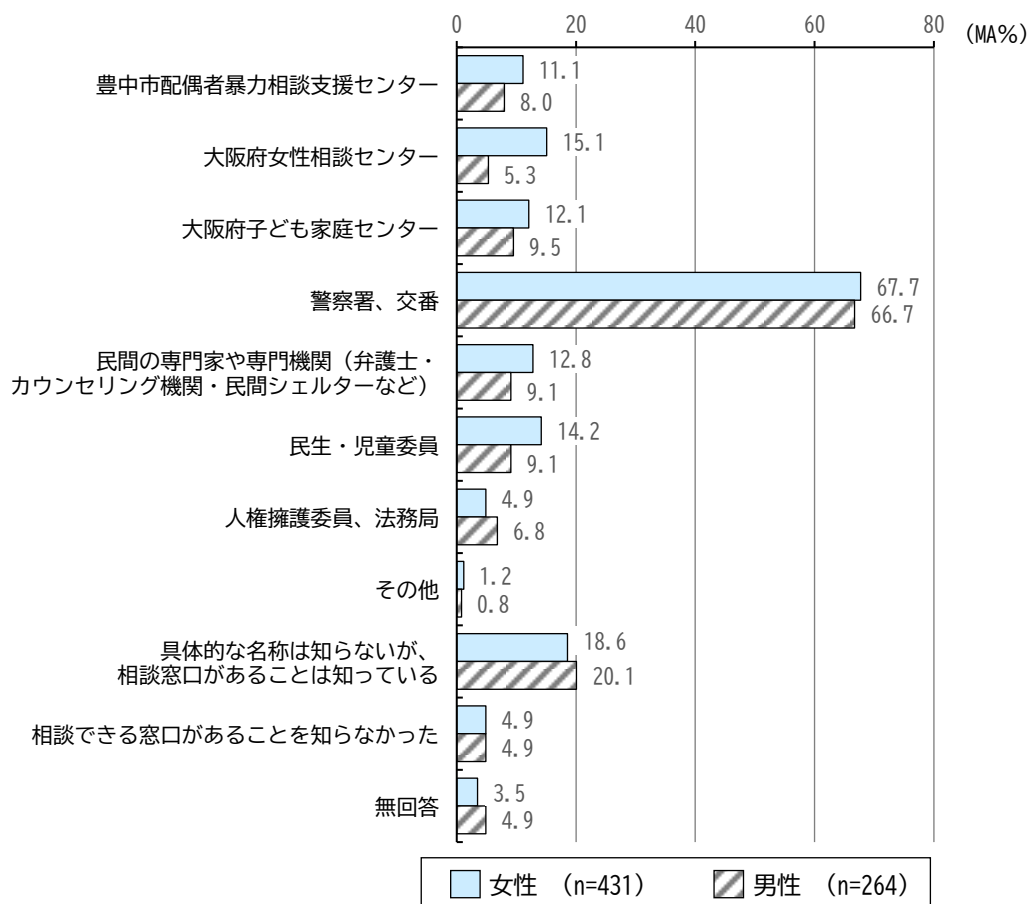
		n	(MA%)												
			生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる	介護などが協力して家事や育児・介護などがしやすい	社会保障が整っている（厚生年金など）	介護・育児休業がとりやすい	職場の雰囲気がある	学童保育・幼稚園・こども園や保育園などの保育環境が整っている	働きながら介護ができるようサービスが充実している	職場に介護・育児休業制度がある	残業がない、あるいは少ない	（募集・採用や配置・昇進など）職場での男女間の格差がない	労働者の権利に関する情報提供や相談窓口が充実している	再就職を希望する女性のための講座やセミナーが充実している	その他
女性	今回調査	431	63.6	60.3	42.9	51.7	45.7	48.0	41.1	38.3	30.2	15.3	17.6	4.4	5.8
	前回調査	723	60.0	58.1	46.2	50.1	46.3	45.2	40.7	39.7	30.8	14.1	17.0	2.9	12.2
	スコア差		+3.6	+2.2	-3.3	+1.6	-0.6	+2.8	+0.4	-1.4	-0.6	+1.2	+0.6	+1.5	-6.4
男性	今回調査	264	57.6	45.5	49.2	39.4	37.5	36.7	35.6	32.2	28.8	14.4	10.2	6.1	4.9
	前回調査	456	46.5	42.3	49.8	33.3	38.6	35.3	29.8	28.5	25.0	19.7	11.0	3.5	13.6
	スコア差		+11.1	+3.2	-0.6	+6.1	-1.1	+1.4	+5.8	+3.7	+3.8	-5.3	-0.8	+2.6	-8.7

6. 男女の人権について

(1) 配偶者や交際相手からの暴力に関する相談窓口の認知状況

問 19 配偶者・パートナー・交際相手からの暴力（なぐる・ける・無視するなどの身体的・精神的な暴力など）について、あなたが知っている相談窓口をすべてお選びください。（〇いくつでも）

【図表 6-1 配偶者や交際相手からの暴力に関する相談窓口の認知状況】



<性別> (図表 6-1)

配偶者や交際相手からの暴力に関する相談窓口の認知状況は、男女とも「警察署、交番」が最も高く、女性で67.7%、男性で66.7%となっている。次いで、「具体的な名称は知らないが、相談窓口があることは知っている」が女性18.6%、男性20.1%で続いている。その他の相談できる具体的な窓口の名称の認知については、いずれも20%を下回る。

<性・年代別> (図表 6-1-1)

女性では、いずれの年代も「警察署、交番」が6～7割台で最も高い。29歳以下では「豊中市配偶者暴力相談支援センター」「大阪府女性相談センター」が23.5%で、全体に比べて10ポイント以上高くなっている。また、70歳以上で「民生・児童委員」が24.2%で、全体に比べて10ポイント以上高くなっている。

男性では、いずれの年代も「警察署、交番」が最も高く、30歳代以上で6～7割台となっている。29歳以下では「警察署、交番」は50.0%で、「具体的な名称は知らないが、相談窓口があることは知っている」が31.8%と、全体に比して10ポイント以上高くなっている。

【図表 6-1-1 性・年代別 配偶者や交際相手からの暴力に関する相談窓口の認知状況】

	n	豊中市配偶者暴力相談支援センター	大阪府女性相談センター	大阪府子ども家庭センター	警察署、交番	民間の専門家や専門機関（弁護士・カウンセラーなど）	民生・児童委員	人権擁護委員、法務局	その他	具体的な名称は知らないが、相談窓口があることは知っている	知らなかつた	無回答
全体	708	70	80	79	476	82	85	41	7	136	35	28
	100.0	9.9	11.3	11.2	67.2	11.6	12.0	5.8	1.0	19.2	4.9	4.0
女性	29歳以下	17	4	3	12	-	1	-	-	4	-	-
		100.0	23.5	23.5	17.6	-	5.9	-	-	23.5	-	-
	30歳代	40	4	7	30	8	5	-	-	9	-	-
		100.0	10.0	20.0	17.5	75.0	20.0	12.5	-	22.5	-	-
	40歳代	61	5	8	10	41	8	2	1	2	12	5
		100.0	8.2	13.1	16.4	67.2	13.1	3.3	1.6	3.3	19.7	8.2
	50歳代	112	14	15	10	78	21	11	4	1	23	7
	100.0	12.5	13.4	8.9	69.6	18.8	9.8	3.6	0.9	20.5	6.3	
60歳代	77	10	16	10	56	9	12	6	-	12	3	
	100.0	13.0	20.8	13.0	72.7	11.7	15.6	7.8	-	15.6	3.9	
70歳以上	124	11	14	12	75	9	30	10	2	20	6	
	100.0	8.9	11.3	9.7	60.5	7.3	24.2	8.1	1.6	16.1	4.8	
男性	29歳以下	22	-	4	11	-	3	2	-	7	2	
		100.0	-	4.5	18.2	50.0	-	13.6	9.1	31.8	9.1	
	30歳代	27	3	5	21	5	4	2	-	3	1	
		100.0	11.1	7.4	18.5	77.8	18.5	14.8	7.4	-	11.1	
	40歳代	32	4	4	22	5	-	2	-	9	-	
		100.0	12.5	3.1	12.5	68.8	15.6	-	6.3	-	28.1	
	50歳代	45	2	6	31	6	-	2	-	8	5	
	100.0	4.4	8.9	13.3	68.9	13.3	-	4.4	-	17.8		
60歳代	54	4	5	39	4	4	4	-	9	1		
	100.0	7.4	9.3	72.2	7.4	7.4	7.4	-	16.7	1.9		
70歳以上	84	8	1	52	4	13	6	2	17	4		
	100.0	9.5	1.2	61.9	4.8	15.5	7.1	2.4	20.2	4.8		

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 6-1-2）

今回調査から「警察署、交番」が項目に追加されたため、単純な比較が困難ではあるが、女性では、「大阪府子ども家庭センター」が6.7ポイント、「大阪府女性相談センター」が5.4ポイント上昇している。

【図表 6-1-2 前回調査との比較 配偶者や交際相手からの暴力に関する相談窓口の認知状況】

		(MA%)											
		n	豊中市配偶者暴力相談支援センター	大阪府女性相談センター	大阪府子ども家庭センター	警察署、交番	シエルトンなど） 民間の専門家や専門機関（弁護士・民間）	民生・児童委員	人権擁護委員、法務局	その他	具体的な名称は知らないが、相談窓口があることを知らなかった	相談できる窓口があることを知らなかった	無回答
女性	今回調査	431	11.1	15.1	12.1	67.7	12.8	14.2	4.9	1.2	18.6	4.9	3.5
	前回調査	723	6.5	9.7	5.4	/	/	/	/	1.0	64.7	13.3	6.9
	スコア差	/	+4.6	+5.4	+6.7	/	/	/	/	+0.2	-46.1	-8.4	-3.4
男性	今回調査	264	8.0	5.3	9.5	66.7	9.1	9.1	6.8	0.8	20.1	4.9	4.9
	前回調査	456	9.6	6.8	8.1	/	/	/	/	1.3	62.5	16.4	5.9
	スコア差	/	-1.6	-1.5	+1.4	/	/	/	/	-0.5	-42.4	-11.5	-1.0

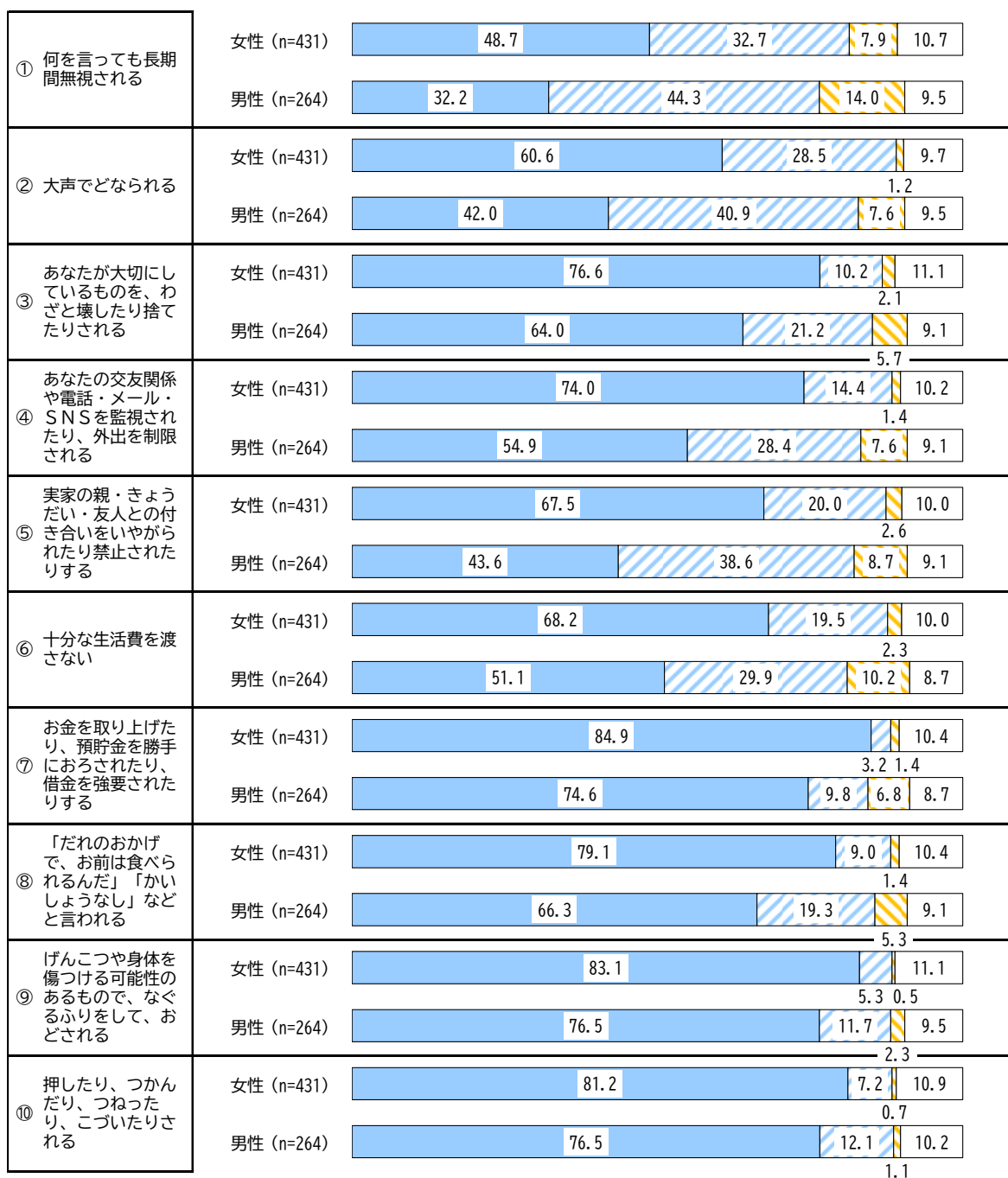
(2) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）に対する認識

問 20 配偶者・パートナー・交際相手から①～⑩のようなことが行われた場合、暴力にあたると思いますか。それぞれについてお聞かせください。（横方向にそれぞれ○はひとつずつ）
また、あなたが配偶者・パートナー・交際相手から実際にされたことがあるものを、すべてお選びください。（縦方向に○はいくつでも）

【図表 6-2 配偶者等からの暴力に対する認識①】

(単位：%)

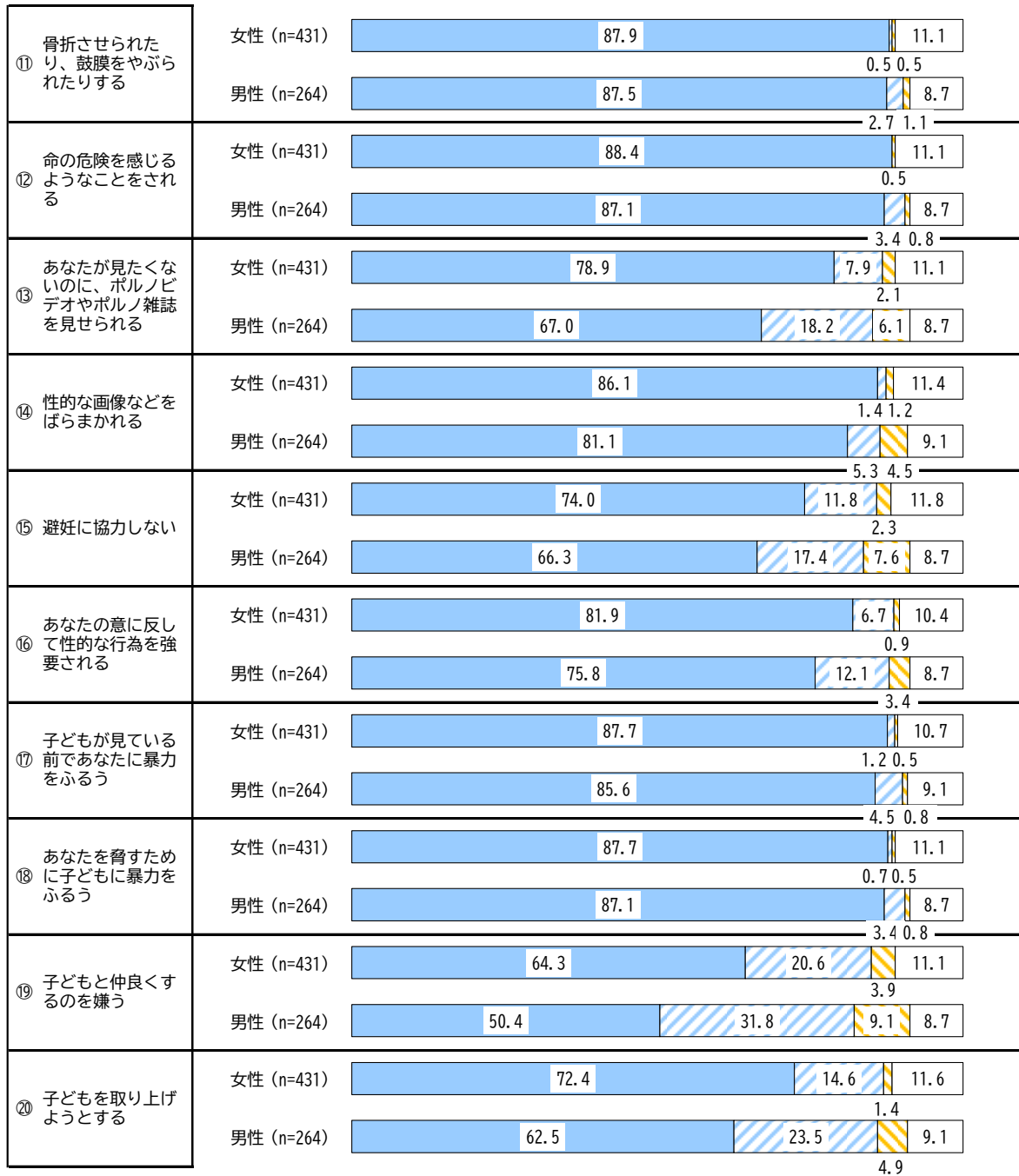
どんな場合でも暴力にあたると思う
 暴力の場合とそうでない場合がある
 暴力にあたるとは思わない
 無回答



【図表 6-2 配偶者等からの暴力に対する認識②】

(単位：%)

■ どんな場合でも暴力にあたると思う ■ 暴力の場合とそうでない場合がある
■ 暴力にあたるとは思わない □ 無回答



<性別> (図表 6-2)

配偶者等からの暴力に対する認識について、女性ではすべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高い。男性では、「①何を言っても長期間無視される」で「暴力の場合とそうでない場合がある」(44.3%)が「どんな場合でも暴力にあたると思う」(32.2%)を上回っている。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高いのは、多少順位に差はあるものの、男女とも「⑪骨折させられたり、鼓膜をやぶられたりする」「⑫命の危険を感じるようなことをされる」「⑰子どもが見ている前であなたに暴力をふるう」「⑱あなたを脅すために子どもに暴力をふるう」が上位である。女性では、「⑭性的な画像などをばらまかれる」も86.1%と高い。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が5割未満となっている項目は、女性では「①何を言っても長期間無視される」(48.7%)の1項目のみだが、男性では、「①何を言っても長期間無視される」(32.2%)、「②大声でどなられる」(42.0%)、「⑤実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」(43.6%)の3項目となっている。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、いずれも男性より女性の方が高いが、その差が最も大きいのは「⑤実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」で23.9ポイントである。

各質問項目を暴力の種類によって以下のように分類し、暴力種類別の傾向を報告する。⑨～⑫は身体的暴力、①～③は精神的暴力、④～⑤は社会的暴力、⑥～⑧は経済的暴力、⑬～⑯は性的暴力、⑰～⑳は子どもを使った暴力と分類する。

男女とも身体的暴力では「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合が他の暴力の中で最も高く、女性ではすべての項目で8割台となっている。

精神的暴力では、男女とも「③あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる」は「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が女性で76.6%、男性で64.0%となっているが、「①何を言っても長期間無視される」(女性48.7%、男性32.2%)、「②大声でどなられる」(女性60.6%、男性42.0%)では暴力の認知は低くなっている。

社会的暴力では、「④あなたの交友関係や電話・メール・SNSを監視されたり、外出を制限される」「⑤実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」とも女性では6～7割台だが、男性では4～5割台と低く、男女差がみられる。

性的暴力では、男女とも「⑭性的な画像などをばらまかれる」(女性86.1%、男性81.1%)や「⑯あなたの意に反して性的な行為を強要される」(女性81.9%、男性75.8%)と比べて「⑮避妊に協力しない」(女性74.0%、男性66.3%)では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が低くなっている。また、「⑬あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる」は、女性78.9%、男性67.0%と、11.9ポイントの差がみられた。

子どもを使った暴力は、「⑰子どもが見ている前であなたに暴力をふるう」「⑱あなたを脅すために子どもに暴力をふるう」は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が男女とも8割台と高いが、「⑩子どもと仲良くするのを嫌う」「⑲子どもを取り上げようとする」は女性で6～7割台、男性で5～6割台と低めになっている。

【図表 6-2-1 性・年代別 配偶者等からの暴力に対する認識②】

		n	① 骨折させられたり、鼓膜をやぶられたりする	② 命の危険を感じるようなことをされる	③ あなたがたか見たくないセルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	④ 性的な画像などをばらまかれる	⑤ 避妊に協力しない	⑥ あなたの意に反して性的な行為を強要される	⑦ 子どもが見ている前であなたに暴力をふるう	⑧ あなたを脅すために子どもに暴力をふるう	⑨ 子どもと仲良くするのを嫌う	⑩ 子どもを取り上げようとする
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	621 87.7	622 87.9	525 74.2	596 84.2	504 71.2	562 79.4	615 86.9	619 87.4	417 58.9	485 68.5
女性	29歳以下	17 100.0	16 94.1	16 94.1	16 94.1	16 94.1	14 82.4	16 94.1	16 94.1	16 94.1	14 82.4	15 88.2
	30歳代	40 100.0	40 100.0	40 100.0	35 87.5	40 100.0	32 80.0	39 97.5	40 100.0	40 100.0	26 65.0	32 80.0
	40歳代	61 100.0	61 100.0	60 98.4	58 95.1	61 100.0	54 88.5	59 96.7	59 96.7	61 100.0	53 86.9	56 91.8
	50歳代	112 100.0	105 93.8	108 96.4	92 82.1	102 91.1	94 83.9	97 86.6	107 95.5	105 93.8	78 69.6	83 74.1
	60歳代	77 100.0	74 96.1	74 96.1	69 89.6	74 96.1	62 80.5	70 90.9	73 94.8	74 96.1	51 66.2	62 80.5
	70歳以上	124 100.0	83 66.9	83 66.9	70 56.5	78 62.9	63 50.8	72 58.1	83 66.9	82 66.1	55 44.4	64 51.6
	男性	29歳以下	22 100.0	19 86.4	19 86.4	18 81.8	20 90.9	19 86.4	20 90.9	21 95.5	20 90.9	12 54.5
30歳代	27 100.0	26 96.3	25 92.6	22 81.5	24 88.9	21 77.8	23 85.2	24 88.9	25 92.6	18 66.7	17 63.0	
40歳代	32 100.0	29 90.6	29 90.6	23 71.9	25 78.1	20 62.5	25 78.1	28 87.5	29 90.6	19 59.4	23 71.9	
50歳代	45 100.0	44 97.8	44 97.8	33 73.3	42 93.3	36 80.0	38 84.4	41 91.1	43 95.6	25 55.6	29 64.4	
60歳代	54 100.0	48 88.9	48 88.9	36 66.7	42 77.8	40 74.1	40 74.1	48 88.9	48 88.9	26 48.1	38 70.4	
70歳以上	84 100.0	65 77.4	65 77.4	45 53.6	61 72.6	39 46.4	54 64.3	64 76.2	65 77.4	33 39.3	45 53.6	

※「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 6-2-2）

前回調査の結果に比べて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合は全ての項目で上昇している。特に女性では精神的暴力、社会的暴力、経済的暴力、男性では身体的暴力、子どもを使った暴力に関する項目で、10ポイント以上上昇している。

【図表 6-2-2 前回調査との比較 配偶者等からの暴力に対する認識】

		n	(%)									
			① 何を言っても長期間無視される	② 大声でどなられる	③ あなたが捨てたりされているものを、わざと壊	④ あなたの交友関係や電話・メール・SNSを監視されたり、外出を制限される	⑤ 実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする	⑥ 十分な生活費を渡さない	⑦ お金を取り上げたり、借金を強要されたりする	⑧ 「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしよなし」などと言われる	⑨ げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどされる	⑩ 押したり、つかんだり、つねったり、こぶ
女性	今回調査	431	48.7	60.6	76.6	74.0	67.5	68.2	84.9	79.1	83.1	81.2
	前回調査	723	37.1	45.8	65.1	59.5	53.1	58.2	74.6	69.4	74.8	72.3
	スコア差		+11.6	+14.8	+11.5	+14.5	+14.4	+10.0	+10.3	+9.7	+8.3	+8.9
男性	今回調査	264	32.2	42.0	64.0	54.9	43.6	51.1	74.6	66.3	76.5	76.5
	前回調査	456	28.7	35.1	56.6	46.7	36.6	46.9	67.5	59.9	63.4	64.9
	スコア差		+3.5	+6.9	+7.4	+8.2	+7.0	+4.2	+7.1	+6.4	+13.1	+11.6

		n	(%)									
			⑪ 骨折させられたり、鼓膜をやぶられたりする	⑫ 命の危険を感じるようなことをされる	⑬ あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	⑭ 性的な画像などをばらまかれる	⑮ 避妊に協力しない	⑯ あなたの意に反して性的な行為を強要される	⑰ 子どもが見ている前であなたに暴力をふるう	⑱ あなたを脅すために子どもに暴力をふるう	⑲ 子どもと仲良くするのを嫌う	⑳ 子どもを取り上げようとする
女性	今回調査	431	87.9	88.4	78.9	86.1	74.0	81.9	87.7	87.7	64.3	72.4
	前回調査	723	80.1	80.6	69.3	78.1	65.3	73.6	79.9	80.5	53.5	65.6
	スコア差		+7.8	+7.8	+9.6	+8.0	+8.7	+8.3	+7.8	+7.2	+10.8	+6.8
男性	今回調査	264	87.5	87.1	67.0	81.1	66.3	75.8	85.6	87.1	50.4	62.5
	前回調査	456	77.0	77.6	58.3	71.7	56.8	67.3	75.4	76.5	45.4	53.7
	スコア差		+10.5	+9.5	+8.7	+9.4	+9.5	+8.5	+10.2	+10.6	+5.0	+8.8

※「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合

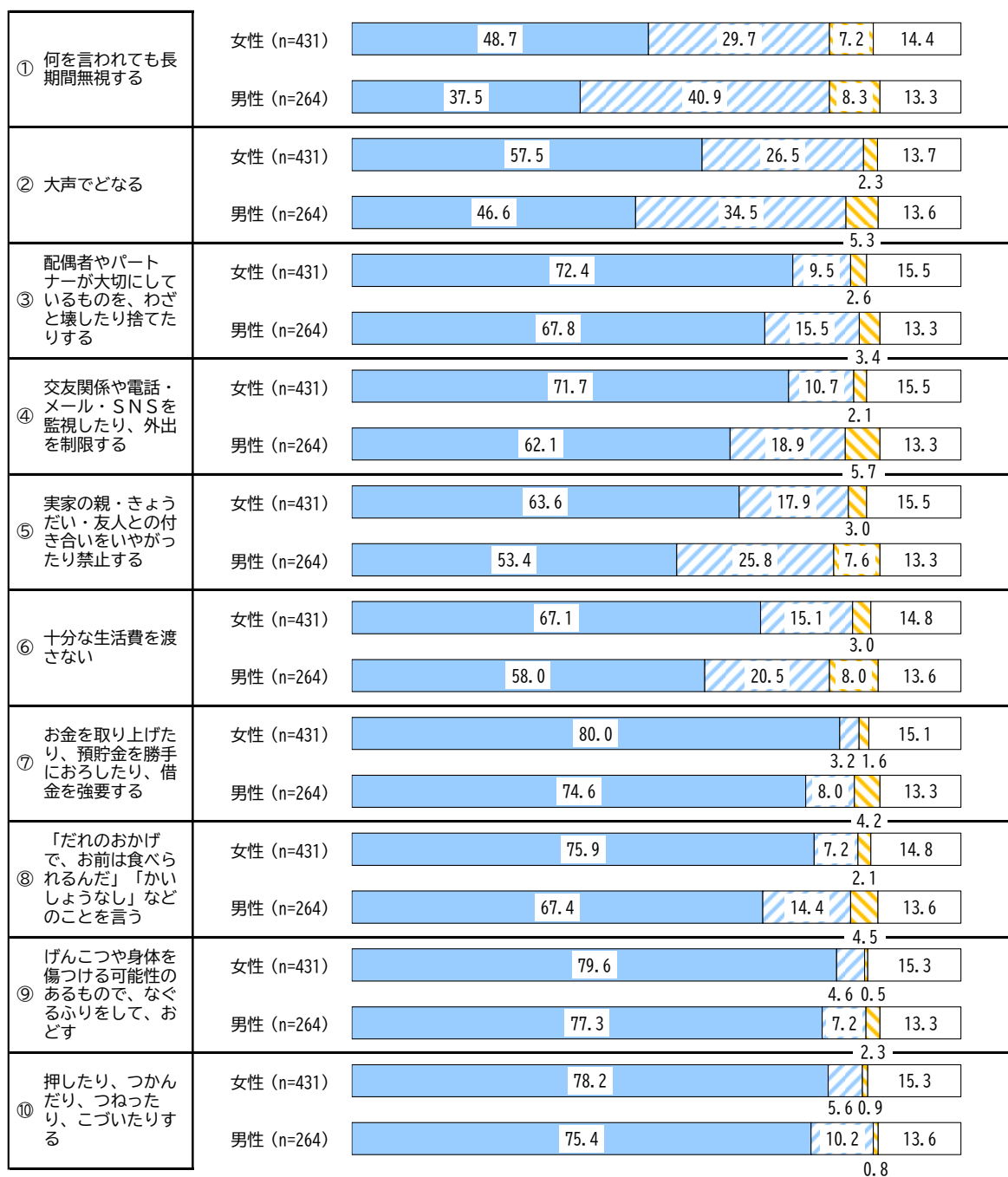
(3) 配偶者等への暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV）に対する認識

問 21 配偶者・パートナー・交際相手に①～⑩のような行為をすることは、暴力にあたると思いますか。それぞれについてお聞かせください。（横方向にそれぞれ○はひとつずつ）
また、あなたが配偶者・パートナー・交際相手にしたことがあるものを、すべてお選びください。（縦方向に○はいくつでも）

【図表 6-3 配偶者等への暴力に対する認識①】

(単位：%)

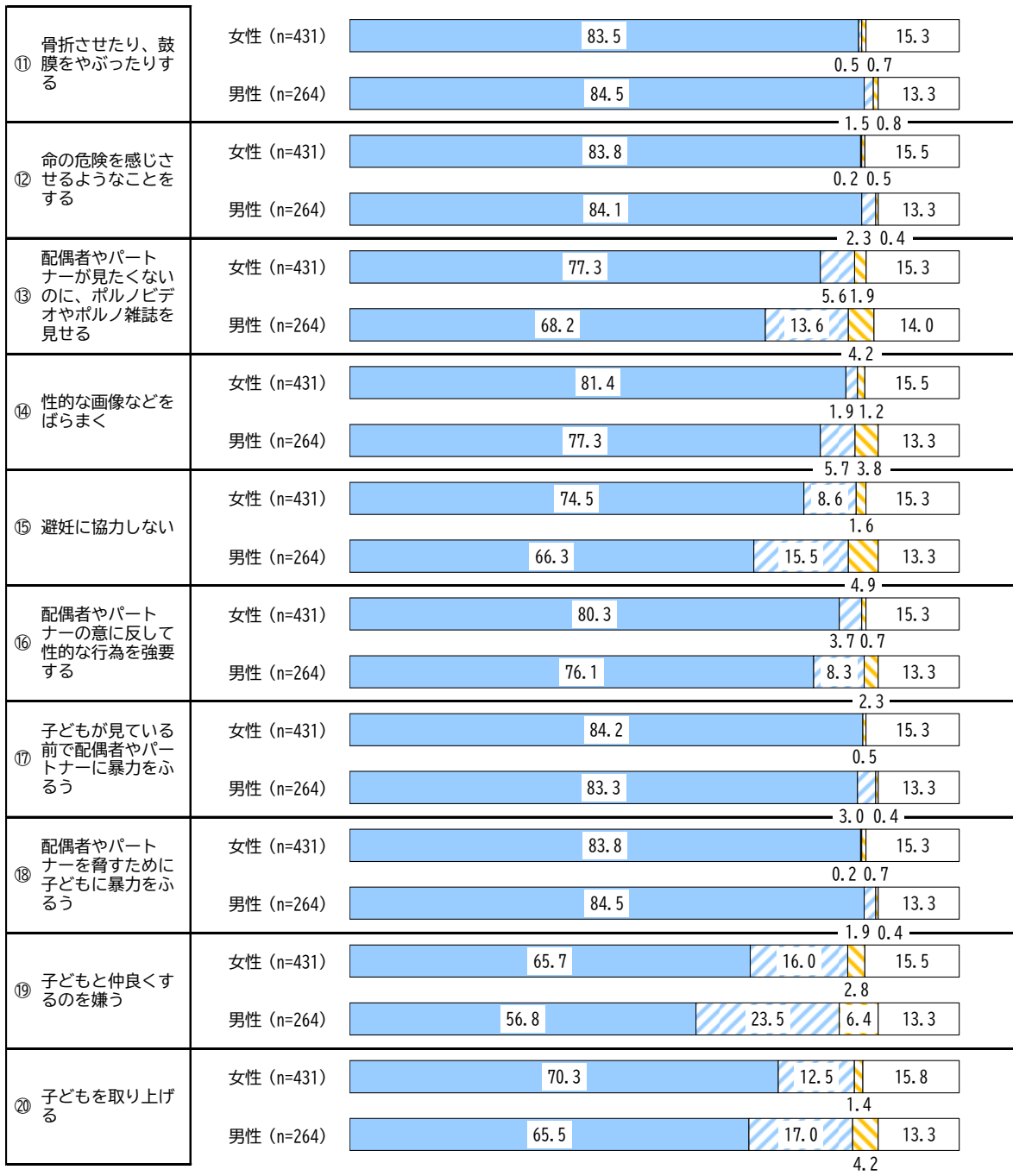
どんな場合でも暴力にあたると思う
 暴力の場合とそうでない場合がある
 暴力にあたるとは思わない
 無回答



【図表 6-3 配偶者等への暴力に対する認識②】

(単位：%)

■ どんな場合でも暴力にあたると思う ■ 暴力の場合とそうでない場合がある
■ 暴力にあたるとは思わない □ 無回答



<性別> (図表 6-3)

配偶者等への暴力に対する認識については、基本的には配偶者からの暴力と傾向は同様である。

女性ではすべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高かった。一方男性では、「①何を言われても長期間無視する」では、「暴力の場合とそうでない場合がある」(40.9%)が「どんな場合でも暴力にあたると思う」(37.5%)を上回って最も高かったが、それ以外の項目では「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高かった。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高いのは、多少順位に差はあるものの、男女とも「⑪骨折させたり、鼓膜をやぶったりする」「⑫命の危険を感じさせるようなことをする」「⑰子どもが見ている前で配偶者やパートナーに暴力をふるう」「⑱配偶者やパートナーを脅すために子どもに暴力をふるう」の項目が上位で、いずれも8割台となっている。女性では、「⑭性的な画像などをばらまく」「⑯配偶者やパートナーの意に反して性的な行為を強要する」「⑦お金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたり、借金を強要する」も8割台と高い。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が50%を下回る項目は、女性では「①何を言われても長期間無視する」(48.7%)の1項目のみだが、男性では、「①何を言われても長期間無視する」(37.5%)、「②大声でどなる」(46.6%)の2項目となっている。男性では、配偶者等からの暴力に対する認識に比べて1項目少なくなっている。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、「⑪骨折させたり、鼓膜をやぶったりする」「⑫命の危険を感じさせるようなことをする」「⑰子どもが見ている前で配偶者やパートナーに暴力をふるう」では、男女で大きな差はみられないが、その他の項目ではいずれも女性の割合が男性に比べて高い。その差は「①何を言われても長期間無視する」「②大声でどなる」「⑤実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがったり禁止したりする」で10ポイント以上と大きい。配偶者等からの暴力に対する認識に比べると、男女差は小さい傾向。

各質問項目を暴力の種類によって以下のように分類し、暴力種類別の傾向を報告する。⑨～⑫は身体的暴力、①～③は精神的暴力、④～⑤は社会的暴力、⑥～⑧は経済的暴力、⑬～⑯は性的暴力、⑰～⑳は子どもを使った暴力と分類する。

男女とも身体的暴力では「どんな場合も暴力にあたると思う」の割合が他の暴力の中で最も高く、すべての項目で男女ともに75%以上となっている。

精神的暴力では、男女とも「③配偶者やパートナーが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする」は「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が女性で72.4%、男性で67.8%となっているが、「①何を言われても長期間無視する」(女性48.7%、男性37.5%)、「②大声でどなる」(女性57.5%、男性46.6%)では暴力の認知は低くなっている。男性では、配偶者等からの暴力に対する認識に比べると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人の割合が高い。

社会的暴力では、「④交友関係や電話・メール・SNSを監視したり、外出を制限する」「⑤実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがったり禁止したりする」とも女性では6～7割台だが、男性では5～6割台と低め。ただし、男性では、配偶者等からの暴力に対する認識に比べると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人の割合が高い。

性的暴力では、男女とも「⑭性的な画像などをばらまく」(女性81.4%、男性77.3%)や「⑯配偶者やパートナーの意に反して性的な行為を強要する」(女性80.3%、男性76.1%)と比べて「⑮避妊に協力しない」(女性74.5%、男性66.3%)では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が低めになっている。また、「⑱配偶者やパートナーが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」は、女性77.3%、男性68.2%と、9.1ポイントの差がみられた。

子どもを使った暴力は、「⑰子どもが見ている前で配偶者やパートナーに暴力をふるう」「⑱配偶者やパートナーを脅すために子どもに暴力をふるう」は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が男女とも8割台と高いが、「⑲子どもと仲良くするのを嫌う」「⑳子どもを取り上げる」は女性で6～7割台、男性で5～6割台と低めになっている。

<性・年代別> (図表 6-3-1)

女性の40歳代では、全体と比べてどの暴力についても「どんな場合でも暴力にあたると思う」認知が高く、全ての項目で全体に比べて10ポイント以上高くなっている。30歳代、60歳代でも、全体に比べて10ポイント以上高くなっている項目が多い。

男性では、29歳以下で性的暴力に関する項目が全体より高くなっている。

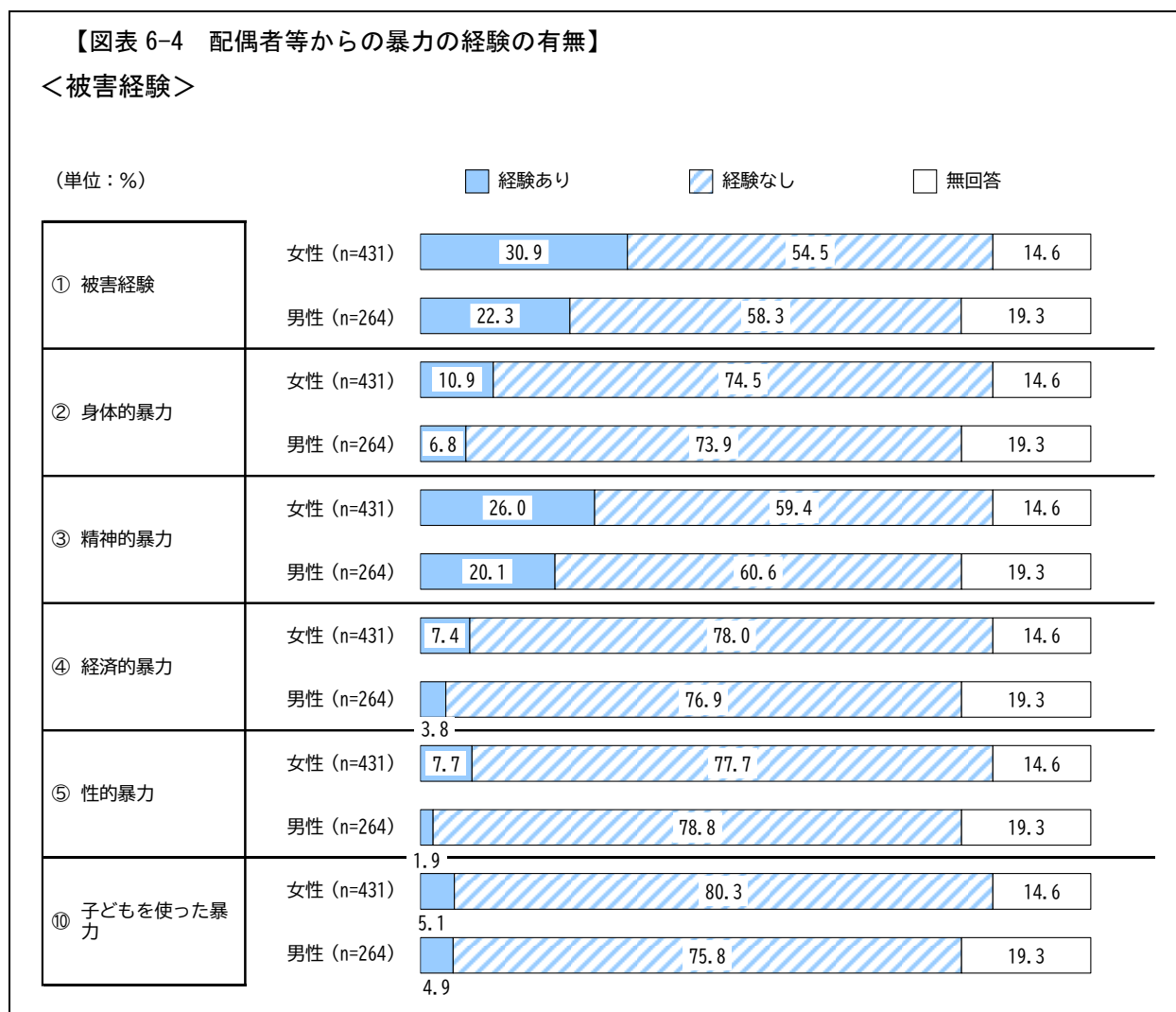
【図表 6-3-1 性・年代別 配偶者等への暴力に対する認識①】

		n	① 何を言われても長期間無視する	② 大声でどなる	③ たりて配偶者やパートナーを、ナワがと大壊しにする	④ 限N交友関係を監視したり、メールを・制Sする	⑤ 禁との家の親・きをいうだがつ・たり人止する	⑥ 十分な生活費を渡さない	⑦ 強お金を取り上げたり、借金を強要する	⑧ なべ「だれのなかで、お前はうなし」などのことを言う	⑨ り能性のあつや身体を傷つけるおどす	⑩ ね押つたり、つづいたり、つづいたり、つづいたり、つづいたり
全体	上段/実数	708	313	376	498	479	421	449	550	511	554	545
	下段/%	100.0	44.2	53.1	70.3	67.7	59.5	63.4	77.7	72.2	78.2	77.0
女性	29歳以下	17	11	10	14	13	14	14	14	14	14	14
		100.0	64.7	58.8	82.4	76.5	82.4	82.4	82.4	82.4	82.4	82.4
	30歳代	40	24	21	36	30	28	31	39	36	39	34
		100.0	60.0	52.5	90.0	75.0	70.0	77.5	97.5	90.0	97.5	85.0
	40歳代	61	41	46	54	53	45	49	57	56	56	54
		100.0	67.2	75.4	88.5	86.9	73.8	80.3	93.4	91.8	91.8	88.5
	50歳代	112	54	66	82	84	73	80	95	88	96	100
	100.0	48.2	58.9	73.2	75.0	65.2	71.4	84.8	78.6	85.7	89.3	
60歳代	77	44	56	62	64	56	57	70	66	70	70	
	100.0	57.1	72.7	80.5	83.1	72.7	74.0	90.9	85.7	90.9	90.9	
70歳以上	124	36	49	64	65	58	58	70	67	68	65	
	100.0	29.0	39.5	51.6	52.4	46.8	46.8	56.5	54.0	54.8	52.4	
男性	29歳以下	22	11	12	21	17	16	16	19	19	20	19
		100.0	50.0	54.5	95.5	77.3	72.7	72.7	86.4	86.4	90.9	86.4
	30歳代	27	13	11	21	17	18	17	23	21	23	21
		100.0	48.1	40.7	77.8	63.0	66.7	63.0	85.2	77.8	85.2	77.8
	40歳代	32	14	18	23	19	17	19	25	22	25	25
		100.0	43.8	56.3	71.9	59.4	53.1	59.4	78.1	68.8	78.1	78.1
	50歳代	45	16	21	31	30	25	27	38	31	40	40
	100.0	35.6	46.7	68.9	66.7	55.6	60.0	84.4	68.9	88.9	88.9	
60歳代	54	23	28	39	39	28	32	43	40	45	43	
	100.0	42.6	51.9	72.2	72.2	51.9	59.3	79.6	74.1	83.3	79.6	
70歳以上	84	22	33	44	42	37	42	49	45	51	51	
	100.0	26.2	39.3	52.4	50.0	44.0	50.0	58.3	53.6	60.7	60.7	

【図表 6-3-1 性・年代別 配偶者等への暴力に対する認識②】

		n	① たり骨折させたり、 鼓膜をやぶつ	② 命の危険を感じさせる ようなことをする	③ 配偶者やパートナーが 見ると、ポルノビデオが 見たくもないのに、 ポルノビデオを見せる	④ 性的な画像などをばらまく	⑤ 避妊に協力しない	⑥ 配偶者やパートナーの意に 反して性的な行為を強要する	⑦ 子どもが見ている前で 配偶者やパートナーに暴力を ふるう	⑧ 配偶者やパートナーを脅すた めに子どもに暴力をふるう	⑨ 子どもと仲良くするのを嫌う	⑩ 子どもを取り上げる
全体	上段/実数	708	592	592	519	564	503	555	592	593	439	483
	下段/%	100.0	83.6	83.6	73.3	79.7	71.0	78.4	83.6	83.8	62.0	68.2
女性	29歳以下	17	14	14	14	14	14	14	14	14	13	14
		100.0	82.4	82.4	82.4	82.4	82.4	82.4	82.4	82.4	76.5	82.4
	30歳代	40	39	39	35	39	33	39	39	39	24	30
		100.0	97.5	97.5	87.5	97.5	82.5	97.5	97.5	97.5	60.0	75.0
	40歳代	61	59	59	58	59	56	58	59	59	51	54
		100.0	96.7	96.7	95.1	96.7	91.8	95.1	96.7	96.7	83.6	88.5
	50歳代	112	103	104	92	99	90	97	105	104	82	82
	100.0	92.0	92.9	82.1	88.4	80.4	86.6	93.8	92.9	73.2	73.2	
60歳代	77	70	71	68	70	63	70	71	71	57	62	
	100.0	90.9	92.2	88.3	90.9	81.8	90.9	92.2	92.2	74.0	80.5	
70歳以上	124	75	74	66	70	65	68	75	74	56	61	
	100.0	60.5	59.7	53.2	56.5	52.4	54.8	60.5	59.7	45.2	49.2	
男性	29歳以下	22	20	20	19	20	19	20	20	20	15	15
		100.0	90.9	90.9	86.4	90.9	86.4	90.9	90.9	90.9	68.2	68.2
	30歳代	27	26	25	22	23	23	24	25	26	19	20
		100.0	96.3	92.6	81.5	85.2	85.2	88.9	92.6	96.3	70.4	74.1
	40歳代	32	29	29	22	24	19	22	28	29	22	23
		100.0	90.6	90.6	68.8	75.0	59.4	68.8	87.5	90.6	68.8	71.9
	50歳代	45	42	42	33	39	35	39	41	42	27	32
	100.0	93.3	93.3	73.3	86.7	77.8	86.7	91.1	93.3	60.0	71.1	
60歳代	54	48	48	40	44	40	43	48	48	34	40	
	100.0	88.9	88.9	74.1	81.5	74.1	79.6	88.9	88.9	63.0	74.1	
70歳以上	84	58	58	44	54	39	53	58	58	33	43	
	100.0	69.0	69.0	52.4	64.3	46.4	63.1	69.0	69.0	39.3	51.2	

(4) 配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV)の経験の有無



<性別> (図表 6-4)

問 20 の「あなたがされたことがあるもの」①～⑫の各項目で1つでも経験があると回答した人を被害「経験あり」として結果を示す。また、各項目を暴力の種類によって以下のように分類し、暴力種類別の傾向を報告する。⑨～⑫は身体的暴力、①～③は精神的暴力、④～⑤は社会的暴力、⑥～⑧は経済的暴力、⑬～⑯は性的暴力、⑰～⑳は子どもを使った暴力と分類する。

配偶者等からの暴力の経験をみると、全体的な「被害経験」は、女性で 30.9%、男性で 22.3% となっている。

内容をみると、最も多いのは「精神的暴力の経験」で、女性で 26.0%、男性で 20.1% となっている。次いで、女性では、「身体的暴力の経験」が 10.9%、「性的暴力の経験」と「経済的暴力の経験」がともに 7% 台、「子どもを使った暴力の経験」が 5.1% となっている。男性では、「身体的暴力の経験」が 6.8%、「子どもを使った暴力の経験」が 4.9%、「経済的暴力の経験」が 3.8%、「性的暴力の経験」が 1.9% となっており、いずれも女性より低くなっている。

<性・年代別> (図表 6-4-1)

①被害経験

女性では、30歳代、50歳代、70歳以上で「経験あり」が3割台となっている。男性では、「経験あり」が40歳代で37.5%と高くなっている。40歳代と29歳以下を除いた他の年代では、女性の経験率が男性に比べて高い。

②身体的暴力の経験

「経験あり」は、女性30歳代で20.0%、男性40歳代で21.9%と全体に比べて高くなっている。

③精神的暴力の経験

女性では、30歳代で「経験あり」が30.0%、40歳代以上のすべての年代で2割台となっている。男性では、「経験あり」が40歳代で34.4%と高く、50～60歳代で2割台となっている。

④経済的暴力の経験

「経験あり」は、女性30歳代で12.5%、男性40歳代で15.6%と全体に比べて高くなっている。

⑤性的暴力の経験

「経験あり」は、女性30歳代で12.5%と全体に比べて高くなっている。

⑦ 子どもを使った暴力の経験

「経験あり」は、男性40代で15.6%と全体に比べて高くなっている。

【図表 6-4-1 性・年代別 配偶者等からの暴力の経験の有無】

	n	①被害経験			②身体的暴力の経験			③精神的暴力の経験			
		経験あり	経験なし	無回答	経験あり	経験なし	無回答	経験あり	経験なし	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	196 27.7	396 55.9	116 16.4	68 9.6	524 74.0	116 16.4	168 23.7	424 59.9	116 16.4
女性	29歳以下	17 100.0	1 5.9	14 82.4	2 11.8	- -	15 88.2	2 11.8	- -	15 88.2	2 11.8
	30歳代	40 100.0	15 37.5	20 50.0	5 12.5	8 20.0	27 67.5	5 12.5	12 30.0	23 57.5	5 12.5
	40歳代	61 100.0	18 29.5	32 52.5	11 18.0	7 11.5	43 70.5	11 18.0	16 26.2	34 55.7	11 18.0
	50歳代	112 100.0	37 33.0	65 58.0	10 8.9	14 12.5	88 78.6	10 8.9	29 25.9	73 65.2	10 8.9
	60歳代	77 100.0	22 28.6	42 54.5	13 16.9	5 6.5	59 76.6	13 16.9	19 24.7	45 58.4	13 16.9
	70歳以上	124 100.0	40 32.3	62 50.0	22 17.7	13 10.5	89 71.8	22 17.7	36 29.0	66 53.2	22 17.7
	男性	29歳以下	22 100.0	2 9.1	18 81.8	2 9.1	1 4.5	19 86.4	2 9.1	1 4.5	19 86.4
30歳代		27 100.0	6 22.2	18 66.7	3 11.1	3 11.1	21 77.8	3 11.1	4 14.8	20 74.1	3 11.1
40歳代		32 100.0	12 37.5	16 50.0	4 12.5	7 21.9	21 65.6	4 12.5	11 34.4	17 53.1	4 12.5
50歳代		45 100.0	10 22.2	32 71.1	3 6.7	2 4.4	40 88.9	3 6.7	10 22.2	32 71.1	3 6.7
60歳代		54 100.0	14 25.9	31 57.4	9 16.7	2 3.7	43 79.6	9 16.7	12 22.2	33 61.1	9 16.7
70歳以上		84 100.0	15 17.9	39 46.4	30 35.7	3 3.6	51 60.7	30 35.7	15 17.9	39 46.4	30 35.7

	n	④経済的暴力の経験			⑤性的暴力の経験			⑥子どもを使った暴力の経験			
		経験あり	経験なし	無回答	経験あり	経験なし	無回答	経験あり	経験なし	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	43 6.1	549 77.5	116 16.4	41 5.8	551 77.8	116 16.4	37 5.2	555 78.4	116 16.4
女性	29歳以下	17 100.0	- -	15 88.2	2 11.8	1 5.9	14 82.4	2 11.8	- -	15 88.2	2 11.8
	30歳代	40 100.0	5 12.5	30 75.0	5 12.5	5 12.5	30 75.0	5 12.5	3 7.5	32 80.0	5 12.5
	40歳代	61 100.0	4 6.6	46 75.4	11 18.0	3 4.9	47 77.0	11 18.0	3 4.9	47 77.0	11 18.0
	50歳代	112 100.0	7 6.3	95 84.8	10 8.9	11 9.8	91 81.3	10 8.9	5 4.5	97 86.6	10 8.9
	60歳代	77 100.0	6 7.8	58 75.3	13 16.9	4 5.2	60 77.9	13 16.9	2 2.6	62 80.5	13 16.9
	70歳以上	124 100.0	10 8.1	92 74.2	22 17.7	9 7.3	93 75.0	22 17.7	9 7.3	93 75.0	22 17.7
	男性	29歳以下	22 100.0	- -	20 90.9	2 9.1	- -	20 90.9	2 9.1	- -	20 90.9
30歳代		27 100.0	- -	24 88.9	3 11.1	1 3.7	23 85.2	3 11.1	1 3.7	23 85.2	3 11.1
40歳代		32 100.0	5 15.6	23 71.9	4 12.5	3 9.4	25 78.1	4 12.5	5 15.6	23 71.9	4 12.5
50歳代		45 100.0	- -	42 93.3	3 6.7	- -	42 93.3	3 6.7	3 6.7	39 86.7	3 6.7
60歳代		54 100.0	5 9.3	40 74.1	9 16.7	1 1.9	44 81.5	9 16.7	4 7.4	41 75.9	9 16.7
70歳以上		84 100.0	- -	54 64.3	30 35.7	- -	54 64.3	30 35.7	- -	54 64.3	30 35.7

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 6-4-2）

前回調査と比較すると、全体的な被害経験で「経験あり」が男女ともに10ポイント以上上昇している。各暴力種類別にみると「③精神的暴力の経験」が女性7.6ポイント、男性8.7ポイント上昇している。

【図表 6-4-2 前回調査との比較 配偶者等からの暴力の経験の有無】

(%)

		女 性				男 性			
		n	経験あり	経験なし	無回答	n	経験あり	経験なし	無回答
①被害経験	今回調査	431	30.9	54.5	14.6	264	22.3	58.3	19.3
	前回調査	723	20.6	59.5	19.9	456	11.8	63.8	24.3
	スコア差		+10.3	-5.0	-5.3		+10.5	-5.5	-5.0
②身体的暴力の経験	今回調査	431	10.9	74.5	14.6	264	6.8	73.9	19.3
	前回調査	723	6.6	73.4	19.9	456	2.0	73.7	24.3
	スコア差		+4.3	+1.1	-5.3		+4.8	+0.2	-5.0
③精神的暴力の経験	今回調査	431	26.0	59.4	14.6	264	20.1	60.6	19.3
	前回調査	723	18.4	61.7	19.9	456	11.4	64.3	24.3
	スコア差		+7.6	-2.3	-5.3		+8.7	-3.7	-5.0
④経済的暴力の経験	今回調査	431	7.4	78.0	14.6	264	3.8	76.9	19.3
	前回調査	723	5.4	74.7	19.9	456	1.8	73.9	24.3
	スコア差		+2.0	+3.3	-5.3		+2.0	+3.0	-5.0
⑤性的暴力の経験	今回調査	431	7.7	77.7	14.6	264	1.9	78.8	19.3
	前回調査	723	3.2	76.9	19.9	456	0.7	75.0	24.3
	スコア差		+4.5	+0.8	-5.3		+1.2	+3.8	-5.0
⑥子どもを使った暴力の経験	今回調査	431	5.1	80.3	14.6	264	4.9	75.8	19.3
	前回調査	723	3.5	76.6	19.9	456	0.4	75.2	24.3
	スコア差		+1.6	+3.7	-5.3		+4.5	+0.6	-5.0

【図表 6-4-3 配偶者等からの暴力の経験の有無】



<性別> (図表 6-4-3)

配偶者等からの暴力の経験をみると、女性では、「②大声でどなられる」が 20.9%で最も高く、「⑧『だれのおかげでお前は食べられるんだ』『かいしょうなし』などと言われる」(8.1%)、「⑩押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」(7.9%)と続いている。男性では、「②大声でどなられる」が 11.0%で最も高く、「①何を言っても長期間無視される」(8.7%)、「⑤実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」(6.8%)で続いている。

最も男女差が大きいのは、「②大声でどなられる」で、女性 20.9%に対し、男性は 11.0%と、9.9ポイントの差がみられた。

<性・年代別> (図表 6-4-4)

女性では、「②大声でどなられる」が 30 歳代で 27.5%と全体に比べて高い。30 歳代では、その他、「⑩押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」「⑤実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」「⑩あなたの意に反して性的な行為を強要される」も 10%以上である。

男性では、40 歳代で「②大声でどなられる」「⑤実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする」「⑩押ししたり、つかんだり、つねったり、こづいたりされる」が 2 割台、「⑧『だれのおかげでお前は食べられるんだ』『かいしょうなし』などと言われる」「⑨げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどされる」「③あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる」「⑦お金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされたり、借金を強要されたりする」が 1 割台と全体に比べて高くなっている。60 歳代で「①何を言っても長期間無視される」が 13.0%と全体に比べて高い。

【図表 6-4-4 性・年代別 配偶者等からの暴力の経験の有無②】

	n	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	無回答	
		命の危険を感じるようなことをされる	あなたが見たくないのに、ポセルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	性的な画像などをばらまかれる	避妊に協力しない	あなたの意に反して性的な行為を強要される	子どもが見ている前にあなたに暴力をふるう	あなたを脅すために子どもに暴力をふるう	子どもと仲良くするのを嫌う	子どもを取り上げようとする	どれも無い		
全体	上段/実数 下段/MA%	708 100.0	17 2.4	6 0.8	2 0.3	15 2.1	30 4.2	20 2.8	6 0.8	14 2.0	6 0.8	396 55.9	116 16.4
女性	29歳以下	17 100.0	-	-	-	-	1 5.9	-	-	-	-	14 82.4	2 11.8
	30歳代	40 100.0	2 5.0	1 2.5	1 2.5	3 7.5	4 10.0	2 5.0	-	1 2.5	-	20 50.0	5 12.5
	40歳代	61 100.0	1 1.6	-	-	-	3 4.9	1 1.6	-	1 1.6	1 1.6	32 52.5	11 18.0
	50歳代	112 100.0	2 1.8	3 2.7	-	3 2.7	7 6.3	3 2.7	1 0.9	2 1.8	-	65 58.0	10 8.9
	60歳代	77 100.0	3 3.9	-	-	2 2.6	2 2.6	1 1.3	1 1.3	1 1.3	1 1.3	42 54.5	13 16.9
	70歳以上	124 100.0	3 2.4	-	-	5 4.0	6 4.8	6 4.8	1 0.8	4 3.2	-	62 50.0	22 17.7
	男性	29歳以下	22 100.0	1 4.5	-	-	-	-	-	-	-	-	18 81.8
30歳代		27 100.0	-	-	-	-	1 3.7	1 3.7	-	-	-	18 66.7	3 11.1
40歳代		32 100.0	2 6.3	2 6.3	-	1 3.1	2 6.3	2 6.3	-	2 6.3	2 6.3	16 50.0	4 12.5
50歳代		45 100.0	1 2.2	-	-	-	-	2 4.4	1 2.2	1 2.2	1 2.2	32 71.1	3 6.7
60歳代		54 100.0	2 3.7	-	-	-	1 1.9	1 1.9	-	2 3.7	1 1.9	31 57.4	9 16.7
70歳以上		84 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39 46.4	30 35.7

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 6-4-5）

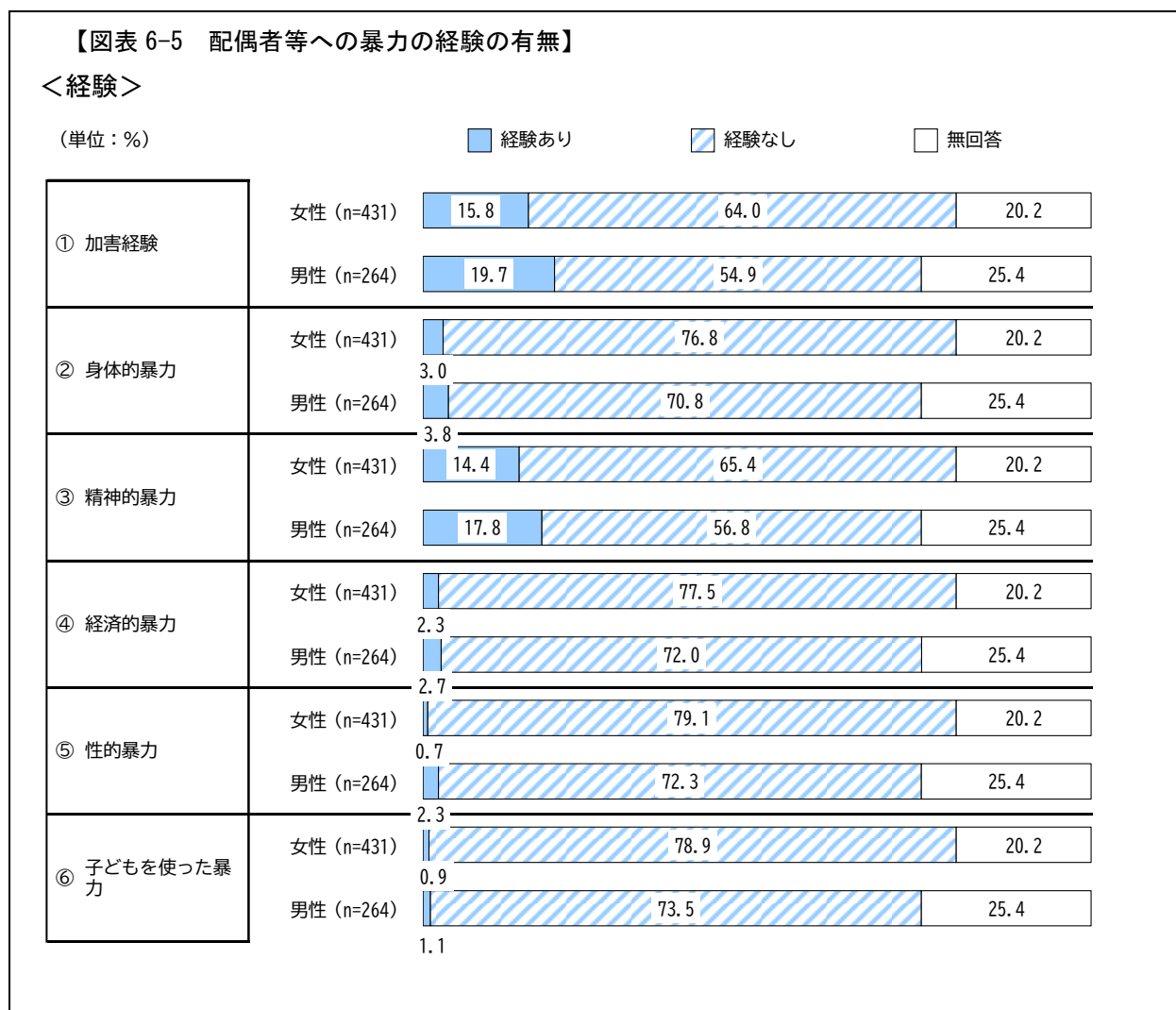
前回調査の結果に比べ、女性では「②大声でどなられる」が7.5ポイント上昇している。

【図表 6-4-5 前回調査との比較 配偶者等からの暴力の経験の有無】

		n	(MA%)										
			① 何を言っても長期間無視される	② 大声でどなられる	③ あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	④ メール・SNSを監視されたり、外出を制限される	⑤ あなたの交友関係や電話・禁止されたりする	⑥ 実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたりする	⑦ 十分な生活費を渡さない	⑧ お金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされたり、借付金を強要されたりする	⑨ 「だれのおかげで、お前は食なし」などと言われる	⑩ げんこつや身体を傷つける能力のあるもので、おどされる	⑪ ねつたり、こづいたり、つる
女性	今回調査	431	6.7	20.9	3.5	3.9	6.0	5.8	2.3	8.1	5.6	7.9	1.9
	前回調査	723	5.0	13.4	1.8	4.1	3.6	4.6	2.4	5.3	3.9	4.4	0.7
	スコア差		+1.7	+7.5	+1.7	-0.2	+2.4	+1.2	-0.1	+2.8	+1.7	+3.5	+1.2
男性	今回調査	264	8.7	11.0	4.5	3.0	6.8	2.3	2.7	4.2	3.8	5.7	0.8
	前回調査	456	7.0	6.1	2.6	2.4	2.2	0.9	1.1	0.2	0.9	1.5	0.2
	スコア差		+1.7	+4.9	+1.9	+0.6	+4.6	+1.4	+1.6	+4.0	+2.9	+4.2	+0.6

		n	(MA%)										
			⑬ 命の危険を感じるようなことをされる	⑭ あなたが見たくないのに、ポセルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	⑮ 性的な画像などをばらまかれる	⑯ 避妊に協力しない	⑰ あなたの意に反して性的な行為を強要される	⑱ 子どもが見ている前であなたに暴力をふるう	⑲ あなたを脅すために子どもに暴力をふるう	⑲ 子どもと仲良くするのを嫌う	⑲ 子どもを取り上げようとする	⑲ どれもない	無回答
女性	今回調査	431	2.6	0.9	0.2	3.0	5.3	3.0	0.7	2.1	0.5	54.5	14.6
	前回調査	723	1.4	0.4	-	1.1	2.6	1.9	0.7	1.4	1.1	59.5	19.9
	スコア差		+1.2	+0.5	+0.2	+1.9	+2.7	+1.1	0.0	+0.7	-0.6	-5.0	-5.3
男性	今回調査	264	2.3	0.8	-	0.4	1.5	2.3	0.4	1.9	1.5	58.3	19.3
	前回調査	456	0.4	0.2	-	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	-	63.8	24.3
	スコア差		+1.9	+0.6	0.0	+0.2	+1.3	+2.1	+0.2	+1.5	+1.5	-5.5	-5.0

(5) 配偶者等への暴力（ドメスティック・バイオレンス／DV)の経験の有無



<性別> (図表 6-5)

問 21 の「あなたがしたことがあるもの」①～⑳の各項目で1つでも経験があると回答した人を加害「経験あり」として結果を示す。また、各項目を暴力の種類によって以下のように分類し、暴力種類別の傾向を報告する。⑨～⑫は身体的暴力、①～③は精神的暴力、④～⑤は社会的暴力、⑥～⑧は経済的暴力、⑬～⑯は性的暴力、⑰～⑳は子どもを使った暴力と分類する。

配偶者等への暴力の経験をみると、全体的な「加害経験」は、女性で15.8%、男性で19.7%となっている。

内容をみると、最も多いのは「精神的暴力の経験」で、女性で14.4%、男性で17.8%となっている。その他の暴力については、いずれも「経験あり」は5%未満。「性的暴力の経験」で女性0.7%、男性2.3%と、男性がやや高くなっているが、「身体的暴力の経験」「経済的暴力の経験」「子どもを使った暴力の経験」については、男女差はみられない。

<性・年代別> (図表 6-5-1)

① 加害経験

女性では、30歳代で「経験あり」が32.5%と全体に比べて高くなっている。男性では、「経験あり」が40歳代と60歳代で2割台と高くなっている。

② 身体的暴力の経験

「経験あり」が女性では、30歳代で10.0%、男性では29歳以下と40歳代で9%台と全体に比べて高くなっている。

③ 精神的暴力の経験

「経験あり」が、女性では30歳代、男性では40歳代と60歳代が2割台で全体に比べて高くなっている。

④ 経済的暴力の経験

「経験あり」が10%を超えている性・年代はみられない。

⑤ 性的暴力の経験

「経験あり」が10%を超えている性・年代はみられない。

⑦ 子どもを使った暴力の経験

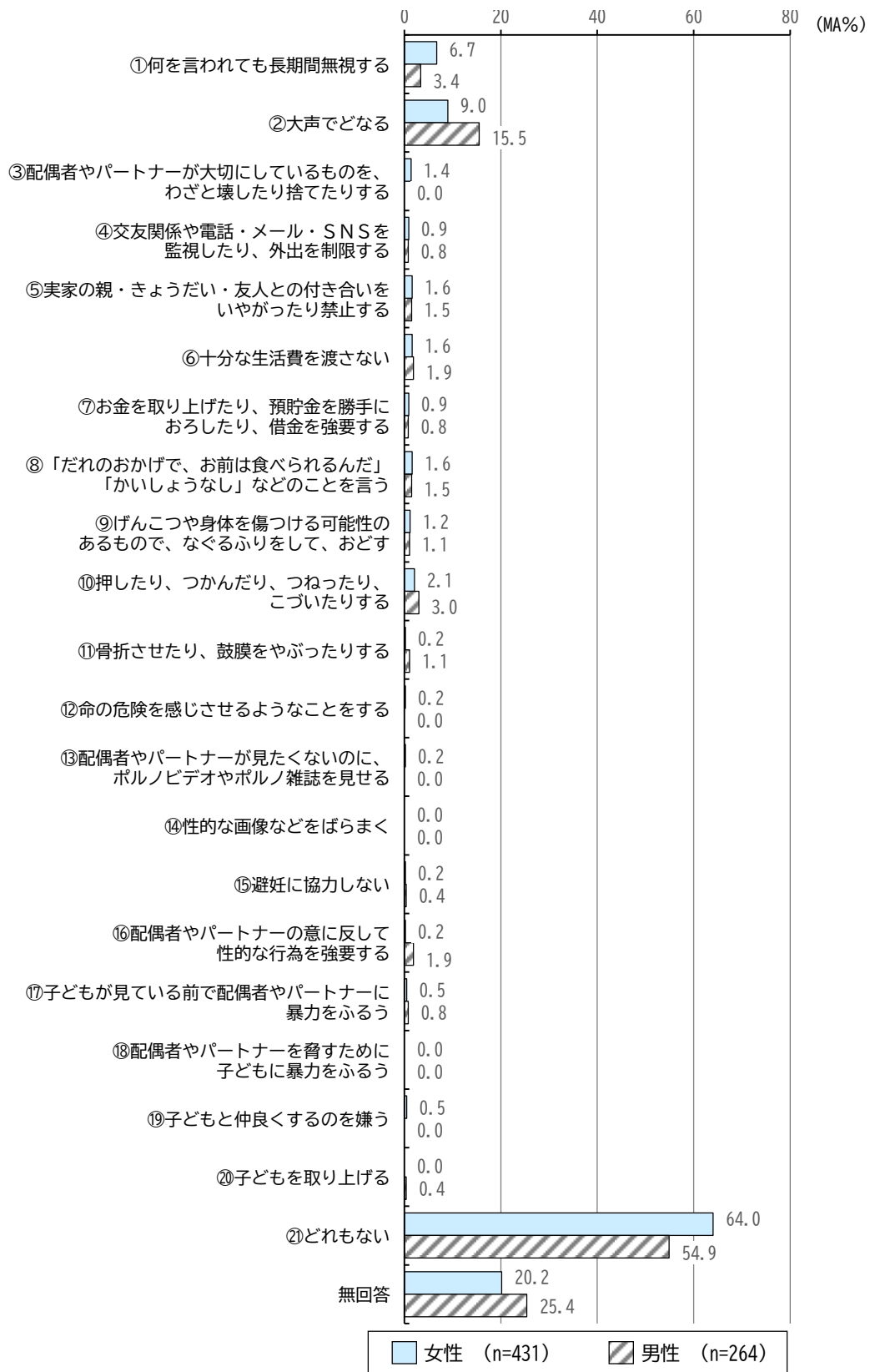
「経験あり」が10%を超えている性・年代はみられない。

【図表 6-5-1 性・年代別 配偶者等への暴力の経験の有無】

	n	①加害経験			②身体的暴力の経験			③精神的暴力の経験			
		経験あり	経験なし	無回答	経験あり	経験なし	無回答	経験あり	経験なし	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	123 17.4	427 60.3	158 22.3	23 3.2	527 74.4	158 22.3	110 15.5	440 62.1	158 22.3
女性	29歳以下	17 100.0	1 5.9	13 76.5	3 17.6	1 5.9	13 76.5	3 17.6	1 5.9	13 76.5	3 17.6
	30歳代	40 100.0	13 32.5	23 57.5	4 10.0	4 10.0	32 80.0	4 10.0	11 27.5	25 62.5	4 10.0
	40歳代	61 100.0	8 13.1	46 75.4	7 11.5	2 3.3	52 85.2	7 11.5	7 11.5	47 77.0	7 11.5
	50歳代	112 100.0	17 15.2	81 72.3	14 12.5	5 4.5	93 83.0	14 12.5	16 14.3	82 73.2	14 12.5
	60歳代	77 100.0	9 11.7	51 66.2	17 22.1	- -	60 77.9	17 22.1	8 10.4	52 67.5	17 22.1
	70歳以上	124 100.0	20 16.1	62 50.0	42 33.9	1 0.8	81 65.3	42 33.9	19 15.3	63 50.8	42 33.9
	男性	29歳以下	22 100.0	3 13.6	15 68.2	4 18.2	2 9.1	16 72.7	4 18.2	- -	18 81.8
30歳代		27 100.0	5 18.5	17 63.0	5 18.5	1 3.7	21 77.8	5 18.5	5 18.5	17 63.0	5 18.5
40歳代		32 100.0	8 25.0	17 53.1	7 21.9	3 9.4	22 68.8	7 21.9	8 25.0	17 53.1	7 21.9
50歳代		45 100.0	7 15.6	32 71.1	6 13.3	- -	39 86.7	6 13.3	6 13.3	33 73.3	6 13.3
60歳代		54 100.0	13 24.1	31 57.4	10 18.5	3 5.6	41 75.9	10 18.5	12 22.2	32 59.3	10 18.5
70歳以上		84 100.0	16 19.0	33 39.3	35 41.7	1 1.2	48 57.1	35 41.7	16 19.0	33 39.3	35 41.7

	n	④経済的暴力の経験			⑤性的暴力の経験			⑥子どもを使った暴力の経験			
		経験あり	経験なし	無回答	経験あり	経験なし	無回答	経験あり	経験なし	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	708 100.0	18 2.5	532 75.1	158 22.3	10 1.4	540 76.3	158 22.3	8 1.1	542 76.6	158 22.3
女性	29歳以下	17 100.0	- -	14 82.4	3 17.6	- -	14 82.4	3 17.6	- -	14 82.4	3 17.6
	30歳代	40 100.0	2 5.0	34 85.0	4 10.0	- -	36 90.0	4 10.0	3 7.5	33 82.5	4 10.0
	40歳代	61 100.0	2 3.3	52 85.2	7 11.5	- -	54 88.5	7 11.5	- -	54 88.5	7 11.5
	50歳代	112 100.0	3 2.7	95 84.8	14 12.5	2 1.8	96 85.7	14 12.5	- -	98 87.5	14 12.5
	60歳代	77 100.0	1 1.3	59 76.6	17 22.1	- -	60 77.9	17 22.1	- -	60 77.9	17 22.1
	70歳以上	124 100.0	2 1.6	80 64.5	42 33.9	1 0.8	81 65.3	42 33.9	1 0.8	81 65.3	42 33.9
	男性	29歳以下	22 100.0	1 4.5	17 77.3	4 18.2	- -	18 81.8	4 18.2	- -	18 81.8
30歳代		27 100.0	- -	22 81.5	5 18.5	1 3.7	21 77.8	5 18.5	- -	22 81.5	5 18.5
40歳代		32 100.0	1 3.1	24 75.0	7 21.9	1 3.1	24 75.0	7 21.9	3 9.4	22 68.8	7 21.9
50歳代		45 100.0	1 2.2	38 84.4	6 13.3	2 4.4	37 82.2	6 13.3	- -	39 86.7	6 13.3
60歳代		54 100.0	4 7.4	40 74.1	10 18.5	2 3.7	42 77.8	10 18.5	- -	44 81.5	10 18.5
70歳以上		84 100.0	- -	49 58.3	35 41.7	- -	49 58.3	35 41.7	- -	49 58.3	35 41.7

【図表 6-5-2 配偶者等への暴力の経験の有無】



<性別> (図表 6-5-2)

配偶者等への暴力の経験をみると、女性では、「②大声でどなる」が9.0%で最も高く、「①何を言われても長期間無視する」が6.7%で続いている。男性では、「②大声でどなる」が15.5%で最も高く、「①何を言っても長期間無視する」が3.4%で続いている。その他の項目については、男女ともいずれも3%以下となっている。男性の「②大声でどなる」は、女性に比べて6.5ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 6-5-3)

男性では、「②大声でどなる」が40歳代で21.9%と全体に比べて10ポイント以上高くなっている。

【図表 6-5-3 性・年代別 配偶者等への暴力の経験の有無①】

		n	① 何を言われても長期間無視する	② 大声でどなる	③ 配偶者やパートナーが大切にしているものを、わざと壊したり捨てる	④ 交友関係や電話・メール・SNSを監視したり、外出を制限する	⑤ 実家の親・きょうだいや友人との付き合いをいやがったり禁止する	⑥ 十分な生活費を渡さない	⑦ お金を取り上げたり、借金を強要する	⑧ 「だれのおかげで、お前は食べられないんだ」「かいいしよな」などのことを言う	⑨ げんこつや身体を傷つける能力のあるもので、なぐるふりをして、おどす	⑩ ねえたり、つかんだり、つねたり、つかんだりする	⑪ 骨折させたり、鼓膜をやぶったりする
全体	上段/実数	708	38	80	6	6	11	13	6	12	8	17	4
	下段/MA%	100.0	5.4	11.3	0.8	0.8	1.6	1.8	0.8	1.7	1.1	2.4	0.6
女性	29歳以下	17	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
		100.0	5.9	-	-	-	-	-	-	-	-	5.9	-
	30歳代	40	2	6	2	1	2	1	1	3	1	3	-
		100.0	5.0	15.0	5.0	2.5	5.0	2.5	2.5	7.5	2.5	7.5	-
	40歳代	61	2	7	1	1	-	1	1	1	1	2	-
		100.0	3.3	11.5	1.6	1.6	-	1.6	1.6	1.6	1.6	3.3	-
	50歳代	112	8	9	2	2	4	3	1	3	3	3	-
	100.0	7.1	8.0	1.8	1.8	3.6	2.7	0.9	2.7	2.7	2.7	-	
60歳代	77	4	7	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
	100.0	5.2	9.1	-	-	-	1.3	-	-	-	-	-	
70歳以上	124	12	10	1	-	1	1	1	-	-	-	1	
	100.0	9.7	8.1	0.8	-	0.8	0.8	0.8	-	-	-	0.8	
男性	29歳以下	22	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	2
		100.0	-	-	-	-	-	4.5	-	-	4.5	4.5	9.1
	30歳代	27	1	4	-	1	-	-	-	-	-	1	-
		100.0	3.7	14.8	-	3.7	-	-	-	-	-	3.7	-
	40歳代	32	-	7	-	-	2	-	1	1	1	2	-
		100.0	-	21.9	-	-	6.3	-	3.1	3.1	3.1	6.3	-
	50歳代	45	2	5	-	1	1	1	-	1	-	-	-
	100.0	4.4	11.1	-	2.2	2.2	2.2	-	2.2	-	-	-	
60歳代	54	2	11	-	-	1	3	1	1	-	3	1	
	100.0	3.7	20.4	-	-	1.9	5.6	1.9	1.9	-	5.6	1.9	
70歳以上	84	4	14	-	-	-	-	-	1	1	1	-	
	100.0	4.8	16.7	-	-	-	-	-	1.2	1.2	1.2	-	

【図表 6-5-3 性・年代別 配偶者等への暴力の経験の有無②】

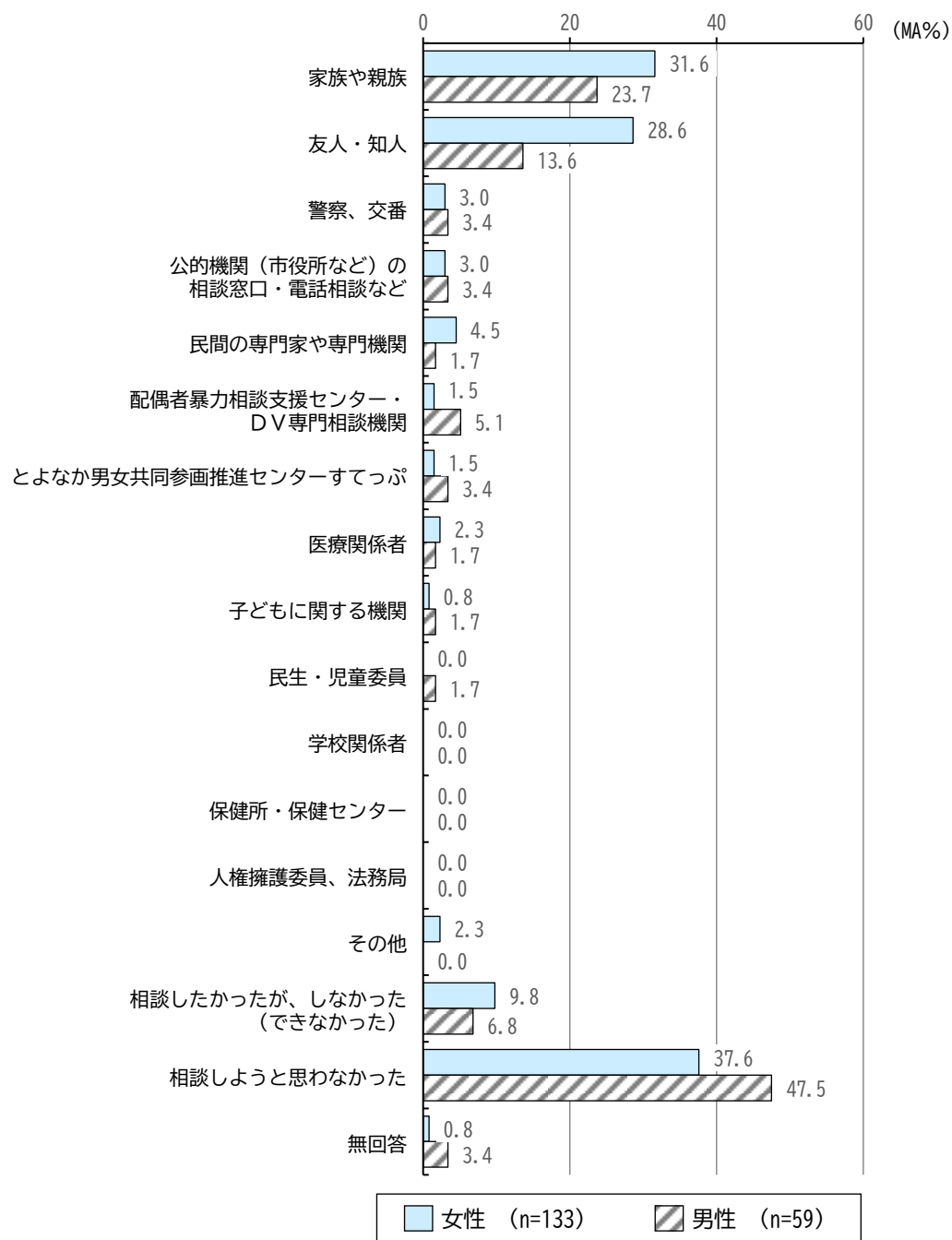
		n	⑫ 命の危険を感じるような ことをする	⑬ 配偶者やパートナーが 見たくもないのに、ポ ルノ雑誌を見せる	⑭ 性的な画像などをばらま く	⑮ 避妊に協力しない	⑯ 配偶者やパートナーの意に反 して性的な行為を強要する	⑰ 子どもが見ている前で配偶者 やパートナーに暴力をふるう	⑱ 配偶者やパートナーを脅すた めに子どもに暴力をふるう	⑲ 子どもと仲良くするのを嫌う	⑳ 子どもを取り上げる	㉑ どれもない	無回 答
全体	上段/実数	708	1	1	-	2	7	5	-	2	1	427	158
	下段/MA%	100.0	0.1	0.1	-	0.3	1.0	0.7	-	0.3	0.1	60.3	22.3
女 性	29歳以下	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	3
		100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	76.5	17.6
	30歳代	40	1	-	-	-	-	1	-	2	-	23	4
		100.0	2.5	-	-	-	-	2.5	-	5.0	-	57.5	10.0
	40歳代	61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46	7
		100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75.4	11.5
	50歳代	112	-	1	-	-	1	-	-	-	-	81	14
	100.0	-	0.9	-	-	0.9	-	-	-	-	72.3	12.5	
60歳代	77	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51	17	
	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.2	22.1	
70歳以上	124	-	-	-	1	-	1	-	-	-	62	42	
	100.0	-	-	-	0.8	-	0.8	-	-	-	50.0	33.9	
男 性	29歳以下	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	4
		100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	68.2	18.2
	30歳代	27	-	-	-	1	-	-	-	-	-	17	5
		100.0	-	-	-	3.7	-	-	-	-	-	63.0	18.5
	40歳代	32	-	-	-	-	1	2	-	-	1	17	7
		100.0	-	-	-	-	3.1	6.3	-	-	3.1	53.1	21.9
	50歳代	45	-	-	-	-	2	-	-	-	-	32	6
	100.0	-	-	-	-	4.4	-	-	-	-	71.1	13.3	
60歳代	54	-	-	-	-	2	-	-	-	-	31	10	
	100.0	-	-	-	-	3.7	-	-	-	-	57.4	18.5	
70歳以上	84	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33	35	
	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39.3	41.7	

(6) 配偶者等からの暴力(ドメスティック・バイオレンス/DV)を受けたときの相談状況

【問 20 で、ひとつでもされたことがあったと答えた方にお聞きします。】

問 20-1 そのことをだれかに相談しましたか。(〇はいくつでも)

【図表 6-6 配偶者等からの暴力を受けたときの相談状況】



<性別> (図表 6-6)

配偶者等からの暴力を受けた経験があると回答した人に、相談状況をたずねたところ、男女とも、「家族や親族」が最も高く、女性で31.6%、男性で23.7%となっている。次いで「友人・知人」が女性で28.6%、男性で13.6%である。「相談しようと思わなかった」が女性で37.6%、男性で47.5%みられた。

「友人・知人」は女性が15.0ポイント、「家族や親族」は女性が7.9ポイント高く、男性は「相談しようと思わなかった」が9.9ポイント高い。

<性・年代別> (図表 6-6-1)

性・年代別は回答者数が少ないため、参考値ではあるが、女性では、30～50歳代で「友人・知人」が全体に比べて高く、男性では40～50歳代、70歳以上で「相談しようと思わなかった」が全体に比べて高くなっている。

【図表 6-6-1 性・年代別 配偶者等からの暴力を受けたときの相談状況】

		n	家族や親族	友人・知人	警察、交番	公的機関(市役所など)の相談窓口・電話相談など	民間の専門家や専門機関	配偶者暴力相談支援センター・DV専門相談機関	とよなか男女共同参画推進センターすてつが	医療関係者	子どもに関する機関	民生・児童委員	学校関係者	保健所・保健センター	人権擁護委員、法務局	その他	相談したかったが、しなかつた(できなかつた)	相談しようと思わなかつた	無回答
全体	上段/実数	196	56	47	7	7	7	5	4	4	2	1	-	-	-	3	18	78	4
	下段/MA%	100.0	28.6	24.0	3.6	3.6	3.6	2.6	2.0	2.0	1.0	0.5	-	-	-	1.5	9.2	39.8	2.0
女性	29歳以下	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
		100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	30歳代	15	5	6	1	1	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	6.7	40.0	6
		100.0	33.3	40.0	6.7	6.7	-	6.7	6.7	-	6.7	-	-	-	-	-	6.7	40.0	-
	40歳代	18	4	7	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-
		100.0	22.2	38.9	-	-	-	-	5.6	-	-	-	-	-	-	-	5.6	38.9	-
	50歳代	37	13	15	-	2	2	1	-	1	-	-	-	-	-	1	4	10	-
	100.0	35.1	40.5	-	5.4	5.4	2.7	-	2.7	-	-	-	-	-	2.7	10.8	27.0	-	
60歳代	22	7	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	10	1	
	100.0	31.8	13.6	4.5	-	4.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13.6	45.5	4.5	
70歳以上	40	13	7	2	1	3	-	-	2	-	-	-	-	-	2	3	17	-	
	100.0	32.5	17.5	5.0	2.5	7.5	-	-	5.0	-	-	-	-	-	5.0	7.5	42.5	-	
男性	29歳以下	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		100.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	6	2	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-
		100.0	33.3	16.7	-	-	-	-	16.7	-	-	16.7	-	-	-	-	-	33.3	-
	40歳代	12	4	2	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	6	-
		100.0	33.3	16.7	8.3	8.3	-	8.3	-	8.3	-	-	-	-	-	-	8.3	50.0	-
	50歳代	10	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	10.0	6	1
	100.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	10.0	-	-	-	-	-	10.0	60.0	10.0	
60歳代	14	5	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	
	100.0	35.7	7.1	7.1	7.1	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	42.9	-	
70歳以上	15	1	3	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2	8	1	
	100.0	6.7	20.0	-	-	-	6.7	6.7	-	-	-	-	-	-	-	13.3	53.3	6.7	

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 6-6-2）

前回調査の結果に比べ、女性では大きな変化はみられない。男性では、「友人・知人」が14.2ポイント、「相談しようと思わなかった」が11.8ポイント低下し、「家族や親族」が8.9ポイント、「相談したかったが、しなかった（できなかった）」が6.8ポイント上昇している。

【図表 6-6-2 前回調査との比較 配偶者等からの暴力を受けたときの相談状況】

		(MA%)																		
		n	家族や親族	友人・知人	警察、交番（※）	公的機関（市役所など）の相談窓口・電話相談など	民間の専門家や専門機関	配偶者暴力相談支援センター・DV専門相談機関	とよなか男女共同参画推進センターすてつが	医療関係者	子どもに関する機関	民生・児童委員	学校関係者	保健所・保健センター	人権擁護委員、法務局	その他	相談したかったが、しなかった（できなかった）	相談しようと思わなかった	無回答	
女性	今回調査	133	31.6	28.6	3.0	3.0	4.5	1.5	1.5	2.3	0.8	-	-	-	-	2.3	9.8	37.6	0.8	
	前回調査	149	33.6	28.9	3.4	2.7	3.4	2.7	-	2.0	-	/	-	-	/	0.7	12.1	32.9	4.7	
	スコア差	/	-2.0	-0.3	-0.4	+0.3	+1.1	-1.2	+1.5	+0.3	+0.8	/	0.0	0.0	/	+1.6	-2.3	+4.7	-3.9	
男性	今回調査	59	23.7	13.6	3.4	3.4	1.7	5.1	3.4	1.7	1.7	1.7	-	-	-	-	6.8	47.5	3.4	
	前回調査	54	14.8	27.8	3.7	-	-	-	-	-	-	/	-	-	/	-	-	59.3	3.7	
	スコア差	/	+8.9	-14.2	-0.3	+3.4	+1.7	+5.1	+3.4	+1.7	+1.7	/	0.0	0.0	/	0.0	+6.8	-11.8	-0.3	

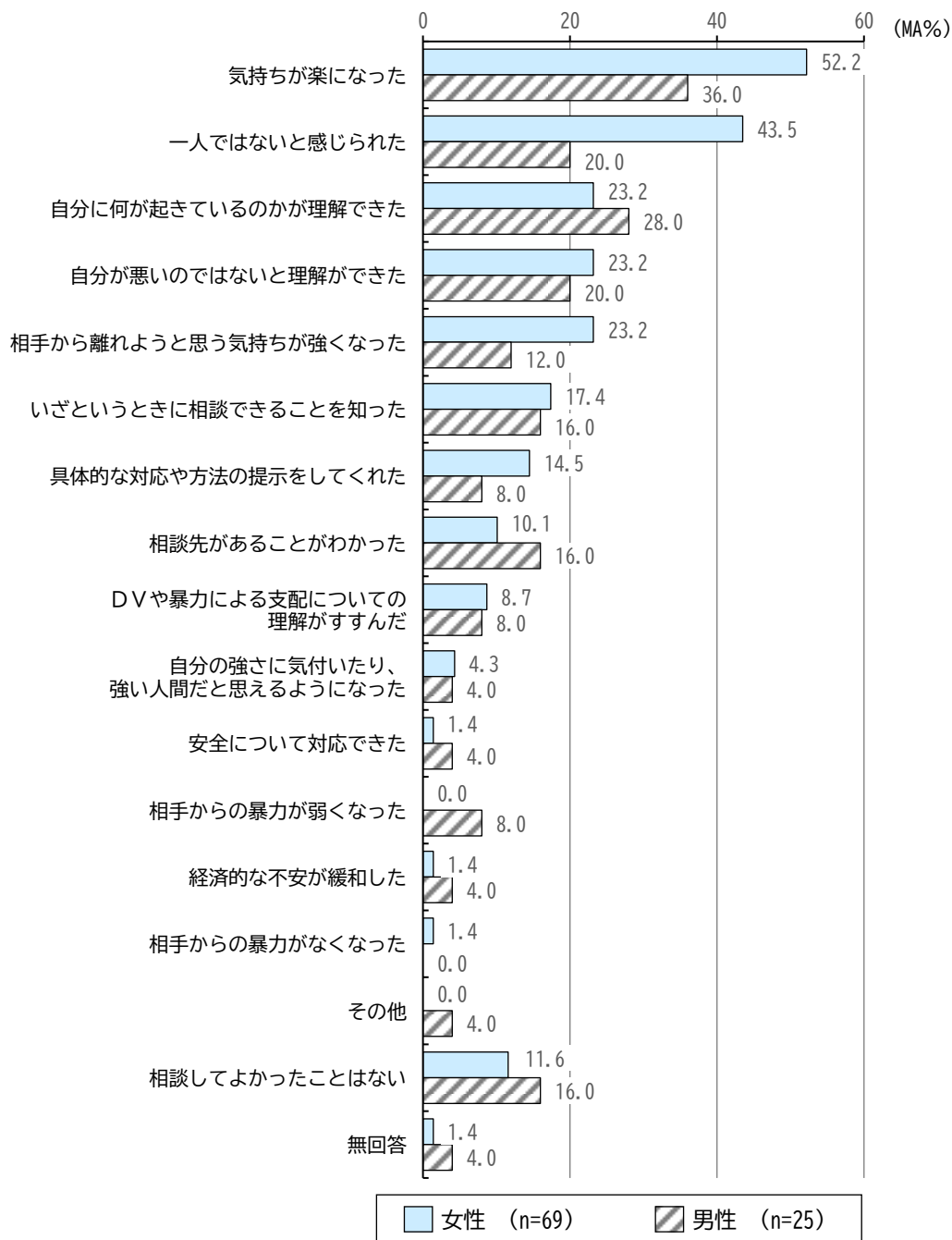
※前回調査では「警察」

(7) 相談してよかったと感じたこと

【だれかに相談したことがある方にお聞きします。】

問 20-2 相談してよかったと感じたことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

【図表 6-7 相談してよかったと感じたこと】



<性別> (図表 6-7)

相談してよかったと感じたことは、女性では、「気持ちが楽になった」が 52.2%で最も高く、「一人ではないと感じられた」が 43.5%で続いている。男性では、「気持ちが楽になった」が 36.0%で最も高く、「自分に何が起きているのかが理解できた」が 28.0%で続いている。

男女差をみると、女性では男性に比べて「一人ではないと感じられた」は 23.5 ポイント、「気持ちが楽になった」は 16.2 ポイント、「相手から離れようと思う気持ちが強くなった」は 11.2 ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 6-7-1)

回答者数が少ないため、参考値ではあるが、女性では、50 歳代で「気持ちが楽になった」が 65.2%と高く、「一人ではないと感じられた」も 52.2%と高い。

【図表 6-7-1 性・年代別 相談してよかったと感じたこと】

	n	気持ちが楽になった	一人ではないと感じられた	自分に何が起きているのかが理解できた	自分が悪いのではないと理解ができた	相手から離れようと思う気持ちが強くなった	とを知ったときに相談できることを	具体的な対応や方法の提示をしてくれた	相談先があることがわかった	DVや暴力による支配についての理解がすすんだ	自分の強さに気付いたり、強い人間だと思えるようになった	安全について対応できた	相手からの暴力が弱くなった	経済的な不安が緩和した	相手からの暴力がなくなった	その他	相談してよかったことはない	無回答	
																			全体
全体	96	45	35	24	21	20	16	13	12	9	5	3	2	2	1	1	13	2	
	100.0	46.9	36.5	25.0	21.9	20.8	16.7	13.5	12.5	9.4	5.2	3.1	2.1	2.1	1.0	1.0	13.5	2.1	
女性	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	30歳代	8	3	3	3	2	3	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-	1	
		100.0	37.5	37.5	37.5	25.0	37.5	25.0	12.5	12.5	25.0	-	-	-	-	-	-	12.5	-
	40歳代	10	6	7	3	2	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		100.0	60.0	70.0	30.0	20.0	10.0	10.0	-	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	50歳代	23	15	12	4	8	7	6	7	4	2	1	1	-	1	-	-	1	1
		100.0	65.2	52.2	17.4	34.8	30.4	26.1	30.4	17.4	8.7	4.3	4.3	-	4.3	-	-	4.3	4.3
60歳代	8	4	3	1	2	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	
	100.0	50.0	37.5	12.5	25.0	25.0	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	25.0	-	
70歳以上	20	8	5	5	2	3	3	2	1	1	2	-	-	-	1	-	4	-	
	100.0	40.0	25.0	25.0	10.0	15.0	15.0	10.0	5.0	5.0	10.0	-	-	-	5.0	-	20.0	-	
男性	29歳以下	2	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		100.0	-	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	4	3	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
		100.0	75.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	40歳代	5	1	1	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	
		100.0	20.0	20.0	20.0	20.0	-	20.0	-	20.0	-	-	-	-	-	-	-	60.0	-
	50歳代	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-		
60歳代	8	2	1	2	2	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
	100.0	25.0	12.5	25.0	25.0	12.5	-	12.5	12.5	-	-	-	-	-	-	-	12.5	12.5	
70歳以上	4	2	2	2	2	2	2	1	2	1	1	1	2	1	-	-	-	-	
	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	-	-	-	-	

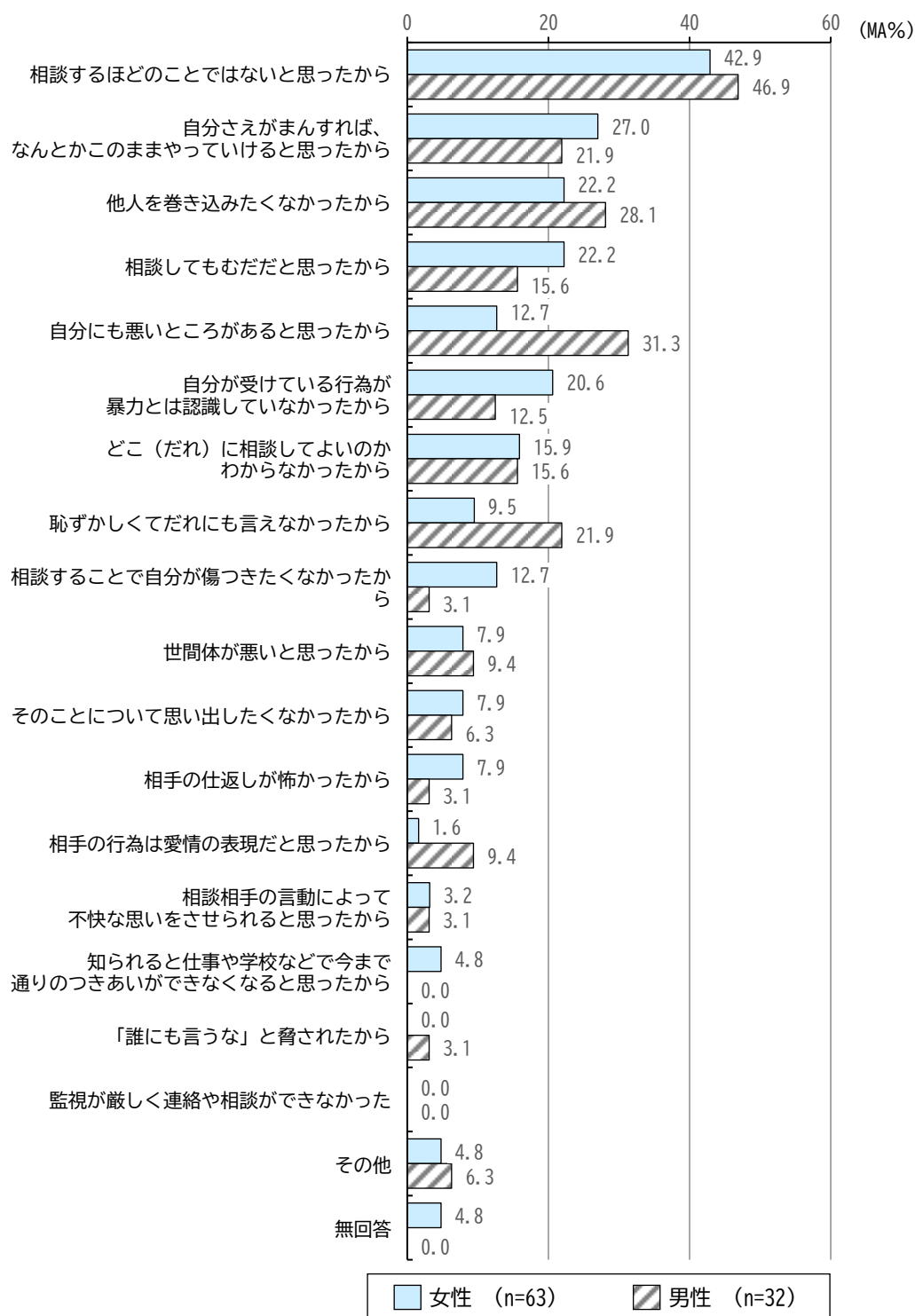
(8) 相談しなかった理由

【問 20-1 で「15. 相談したかったが、しなかった（できなかった）」

「16. 相談しようと思わなかった」と答えた方にお聞きします。】

問 20-3 相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）

【図表 6-8 相談しなかった理由】



<性別> (図表 6-8)

暴力行為を受けても相談しなかったがしなかった、しようと思わなかったと回答した人に、その理由をたずねたところ、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」(女性 42.9%、男性 46.9%) が最も高く、次いで、女性では「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(27.0%)、男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」(31.3%) となっている。

男性では女性に比べて「自分にも悪いところがあると思ったから」が 18.6 ポイント、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が 12.4 ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 6-8-1)

回答者数が少ないため、参考値ではあるが、女性では、70 歳以上で「相談するほどのことではないと思ったから」が 40.0%で最も高くなっている。

【図表 6-8-1 性・年代別 相談しなかった理由①】

		n	相談するほどではない と思ったから	自分さえがまんすれば、 なんとかこのままやれば、 いけなかったから	他人を巻き込みたくなかつ たから	相談してもむだだと思つた から	自分にも悪いところがある と思つたから	自分が認識している行為が暴 力とは認めしていないから	どこ(だれ)に相談してよ いかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言え なかつたから	相談することから自分が傷つ きたくないから	世間体が悪いと思つたから
全体	上段/実数	96	42	24	23	19	18	17	16	14	9	8
	下段/MA%	100.0	43.8	25.0	24.0	19.8	18.8	17.7	16.7	14.6	9.4	8.3
女性	29歳以下	1	1	1	1	-	1	-	1	1	1	1
		100.0	100.0	100.0	100.0	-	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0
	30歳代	7	3	1	4	2	2	-	2	2	1	1
		100.0	42.9	14.3	57.1	28.6	28.6	-	28.6	28.6	14.3	14.3
	40歳代	8	3	2	1	2	-	2	-	2	2	-
		100.0	37.5	25.0	12.5	25.0	-	25.0	-	25.0	25.0	-
50歳代	14	7	5	1	5	3	3	2	-	-	1	
	100.0	50.0	35.7	7.1	35.7	21.4	21.4	14.3	-	-	7.1	
60歳代	13	5	2	3	3	-	2	3	1	3	1	
	100.0	38.5	15.4	23.1	23.1	-	15.4	23.1	7.7	23.1	7.7	
70歳以上	20	8	6	4	2	2	6	2	-	1	1	
	100.0	40.0	30.0	20.0	10.0	10.0	30.0	10.0	-	5.0	5.0	
男性	29歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	2	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-
		100.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-
	40歳代	7	4	1	2	1	2	2	-	1	1	1
		100.0	57.1	14.3	28.6	14.3	28.6	28.6	-	14.3	14.3	14.3
50歳代	7	1	2	2	1	1	-	2	1	-	-	
	100.0	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	-	28.6	14.3	-	-	
60歳代	6	3	1	3	1	2	1	1	2	-	1	
	100.0	50.0	16.7	50.0	16.7	33.3	16.7	16.7	33.3	-	16.7	
70歳以上	10	6	3	2	1	4	1	2	3	-	1	
	100.0	60.0	30.0	20.0	10.0	40.0	10.0	20.0	30.0	-	10.0	

【図表 6-8-1 性・年代別 相談しなかった理由②】

		n	たその くなこと なかつた から	ら相 手の仕 返し が怖か ったか	と相 手の行 為は愛 情の表 現だ	快相 談相手 の言動 によつ て不 思つた から	で今 までも 通りの つきあ いが	知ら れると 仕事や 学校な ど	た「誰 にも言 うな」と 脅され	監視が 厳しく 連絡や 相談が できな かつた	その他	無回 答
全体	上段/実数 下段/MA%	96 100.0	7 7.3	6 6.3	4 4.2	3 3.1	3 3.1	1 1.0	- -	5 5.2	3 3.1	
女 性	29歳以下	1 100.0	- -	- -	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	30歳代	7 100.0	2 28.6	2 28.6	- -	- -	- -	- -	- -	2 28.6	- -	
	40歳代	8 100.0	- -	1 12.5	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
	50歳代	14 100.0	- -	1 7.1	- -	- -	1 7.1	- -	- -	- -	1 7.1	
	60歳代	13 100.0	1 7.7	1 7.7	- -	1 7.7	2 15.4	- -	- -	- -	1 7.7	
	70歳以上	20 100.0	2 10.0	- -	- -	1 5.0	- -	- -	- -	- -	- -	2 10.0
	男 性	29歳以下	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
30歳代		2 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
40歳代		7 100.0	2 28.6	1 14.3	1 14.3	1 14.3	- -	1 14.3	- -	- -	- -	
50歳代		7 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 14.3	- -	
60歳代		6 100.0	- -	- -	1 16.7	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
70歳以上		10 100.0	- -	- -	1 10.0	- -	- -	- -	- -	- -	1 10.0	- -

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 6-8-2）

前回調査の結果に比べ、女性では「自分が受けている行為が暴力とは認識していなかったから」が10.2ポイント上昇している。男性では「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が18.8ポイント、「他人を巻き込みたくなかったから」が18.7ポイント、「自分にも悪いところがあると思ったから」が15.7ポイント、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」が12.5ポイント上昇している。

【図表 6-8-2 前回調査との比較 相談しなかった理由】

		(MA%)										
		n	相談するほどではない	自分かこのままじゃいけない	他人を巻き込みたくなかった	相談してもむだだと思った	自分にも悪いところがある	自分が受けている行為が暴力	どこ（だれ）に相談してよい	恥ずかしくてだれにも言え	相談する自分で自分が傷つ	世間体が悪いと思ったから
女性	今回調査	63	42.9	27.0	22.2	22.2	12.7	20.6	15.9	9.5	12.7	7.9
	前回調査	67	43.3	26.9	23.9	28.4	20.9	10.4	9.0	14.9	11.9	11.9
	スコア差		-0.4	+0.1	-1.7	-6.2	-8.2	+10.2	+6.9	-5.4	+0.8	-4.0
男性	今回調査	32	46.9	21.9	28.1	15.6	31.3	12.5	15.6	21.9	3.1	9.4
	前回調査	32	37.5	18.8	9.4	15.6	15.6	9.4	3.1	3.1	3.1	3.1
	スコア差		+9.4	+3.1	+18.7	0.0	+15.7	+3.1	+12.5	+18.8	0.0	+6.3

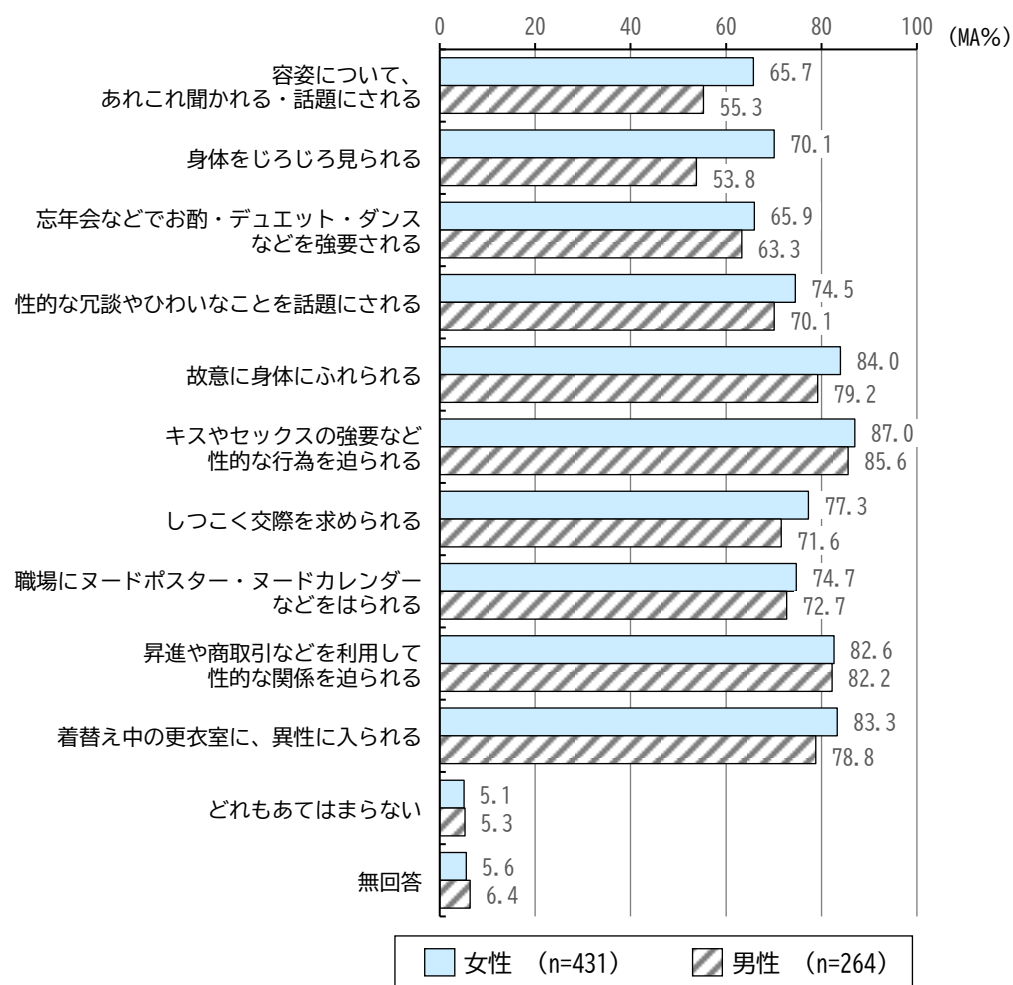
		(MA%)										
		n	そのことについて思い出し	相手の仕返しに怖かったか	相手の行為は愛情の表現だと	相手の言動に思わなかった	相談相手の言動に思わなかった	知られたいと通る仕事や学校など	「誰にも言うな」と脅された	監視が厳しく連絡や相談が	その他	無回答
女性	今回調査	63	7.9	7.9	1.6	3.2	4.8	-	-	4.8	4.8	
	前回調査	67	10.4	4.5	3.0	6.0	4.5	-	1.5	3.0	6.0	
	スコア差		-2.5	+3.4	-1.4	-2.8	+0.3	0.0	-1.5	+1.8	-1.2	
男性	今回調査	32	6.3	3.1	9.4	3.1	-	3.1	-	6.3	-	
	前回調査	32	6.3	-	-	3.1	-	-	-	3.1	18.8	
	スコア差		0.0	+3.1	+9.4	0.0	0.0	+3.1	0.0	+3.2	-18.8	

(9) セクシュアル・ハラスメントの認識

問 22 次の中から、あなたがセクシュアル・ハラスメント（セク・ハラ/性的いやがらせ）にあたると思うものをすべてお選びください（①）。また自分の意思に反して、②職場、③学校、④地域などでされたことがあるものをお選びください。

（〇はいくつでも）

【図表 6-9 セクシュアル・ハラスメントの認識】



<性別> (図表 6-9)

セクシュアル・ハラスメントの認識については、男女とも「キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる」(女性 87.0%、男性 85.6%) が最も高くなっている。その他、女性では「故意に身体にふれられる」「着替え中の更衣室に、異性に入られる」「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」も 80%を超えているが、男性では 80%を超えているのは「昇進や商取引などを利用して性的な関係を迫られる」のみである。

女性では「身体をじろじろ見られる」「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」の割合が男性に比べて 10 ポイント以上高くなっている。

<性・年代別> (図表 6-9-1)

女性では、60歳代以下でほとんどの項目で全体に比べて割合が高くなっている。

男性では、29歳以下と30歳代で、全体に比して10ポイント以上高い項目が4項目、40歳代で2項目みられる。

【図表 6-9-1 性・年代別 セクシュアル・ハラスメントの認識】

	n	れ容	る身	どを	忘年	こ性	る故	れな	キス	れし	タ	職	ら用	昇進	異着	ど	無回答	
		聞姿	をじ	を強	ユエ	とを	意に	な性	やセ	つこ	ーな	場	ら	進	性	れも		
全体	708	437	453	460	515	582	613	533	524	584	577	37	41					
上段/実数	708	437	453	460	515	582	613	533	524	584	577	37	41					
下段/MA%	100.0	61.7	64.0	65.0	72.7	82.2	86.6	75.3	74.0	82.5	81.5	5.2	5.8					
女性	29歳以下	17	11	14	13	14	16	16	16	14	15	1	-					
		100.0	64.7	82.4	76.5	82.4	94.1	94.1	94.1	82.4	88.2	94.1	5.9	-				
	30歳代	40	30	32	24	32	38	40	33	37	39	39	-	-				
		100.0	75.0	80.0	60.0	80.0	95.0	100.0	82.5	92.5	97.5	97.5	-	-				
	40歳代	61	48	54	49	56	59	60	58	54	58	58	1	-				
		100.0	78.7	88.5	80.3	91.8	96.7	98.4	95.1	88.5	95.1	95.1	1.6	-				
	50歳代	112	81	85	78	90	101	105	90	94	102	101	3	2				
	100.0	72.3	75.9	69.6	80.4	90.2	93.8	80.4	83.9	91.1	90.2	2.7	1.8					
60歳代	77	54	58	58	58	71	72	66	62	71	69	1	1					
	100.0	70.1	75.3	75.3	75.3	92.2	93.5	85.7	80.5	92.2	89.6	1.3	1.3					
70歳以上	124	59	59	62	71	77	82	70	61	71	76	16	21					
	100.0	47.6	47.6	50.0	57.3	62.1	66.1	56.5	49.2	57.3	61.3	12.9	16.9					
男性	29歳以下	22	14	13	16	19	19	22	18	19	21	-	-					
		100.0	63.6	59.1	72.7	86.4	86.4	100.0	81.8	86.4	95.5	86.4	-	-				
	30歳代	27	17	19	16	21	24	25	24	25	25	1	-					
		100.0	63.0	70.4	59.3	77.8	88.9	92.6	88.9	92.6	92.6	3.7	-					
	40歳代	32	21	20	26	24	28	29	25	28	28	2	-					
		100.0	65.6	62.5	81.3	75.0	87.5	90.6	78.1	87.5	87.5	6.3	-					
	50歳代	45	31	33	32	37	41	43	36	35	41	-	1					
	100.0	68.9	73.3	71.1	82.2	91.1	95.6	80.0	77.8	91.1	-	2.2						
60歳代	54	31	25	36	38	43	46	39	39	45	4	3						
	100.0	57.4	46.3	66.7	70.4	79.6	85.2	72.2	72.2	83.3	7.4	5.6						
70歳以上	84	32	32	41	46	54	61	47	46	57	7	13						
	100.0	38.1	38.1	48.8	54.8	64.3	72.6	56.0	54.8	67.9	8.3	15.5						

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 6-9-2）

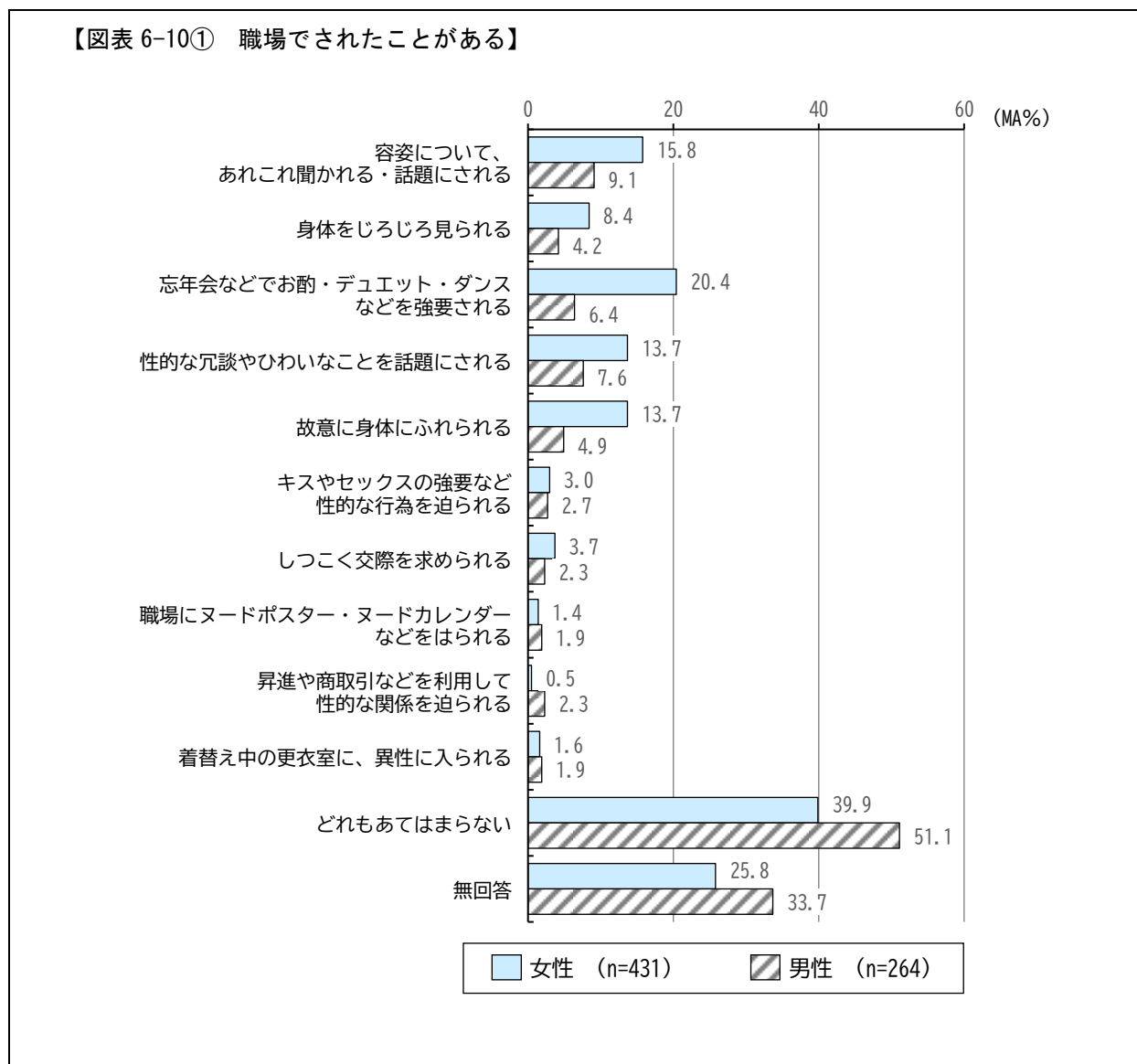
前回調査の結果に比べ、女性では多くの項目で上昇しており、さまざまな行為がセクシュアル・ハラスメントと認識されるようになってきていると言える。男性では「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」「職場にヌードポスター・ヌードカレンダーなどはられる」「故意に身体にふれられる」「着替え中の更衣室に、異性に入られる」が5ポイント以上上昇している。

【図表 6-9-2 前回調査との比較 セクシュアル・ハラスメントの認識】

		(MA%)													
		n	れれ容る身とデ忘性こるれキしタ職ら用昇異着ど	れれ姿を体を強ユ年会的を故	れれ間かにつにをををエ会ななを意	れれ聞かにつにをををエ会ななを意	れれ姿を体を強ユ年会的を故	れれ間かにつにをををエ会ななを意	れれ姿を体を強ユ年会的を故	れれ間かにつにをををエ会ななを意	れれ姿を体を強ユ年会的を故	れれ間かにつにをををエ会ななを意	れれ姿を体を強ユ年会的を故	れれ間かにつにをををエ会ななを意	無回答
女性	今回調査	431	65.7	70.1	65.9	74.5	84.0	87.0	77.3	74.7	82.6	83.3	5.1	5.6	
	前回調査	723	57.0	64.2	61.8	70.3	77.7	81.7	71.9	69.2	80.1	76.8	5.9	9.7	
	スコア差		+8.7	+5.9	+4.1	+4.2	+6.3	+5.3	+5.4	+5.5	+2.5	+6.5	-0.8	-4.1	
男性	今回調査	264	55.3	53.8	63.3	70.1	79.2	85.6	71.6	72.7	82.2	78.8	5.3	6.4	
	前回調査	456	55.3	52.0	60.7	62.3	72.8	80.9	68.9	65.4	77.6	73.7	7.5	8.3	
	スコア差		0.0	+1.8	+2.6	+7.8	+6.4	+4.7	+2.7	+7.3	+4.6	+5.1	-2.2	-1.9	

(10) セクシュアル・ハラスメントの経験

①職場でされたことがある



<性別> (図表 6-10①)

職場でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験については、女性で「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が20.4%で最も高く、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が15.8%と続いており、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」と「故意に身体にふれられる」がともに13.7%となっている。男性は、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が9.1%で最も高く、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」が7.6%、「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が6.4%で続いている。

女性では男性に比べて「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」が14.0ポイント、「故意に身体にふれられる」が8.8ポイント高くなっている。また、「どれもあてはまらない」は女性で39.9%、男性で51.1%と、男性の方が11.2ポイント高い。

<性・年代別> (図表 6-10①-1)

女性では、50～60 歳代で「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される」の割合が全体に比べて 10 ポイント以上高い。「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」は、50 歳代以下で 2 割台である。30 歳代では、「故意に身体にふれられる」「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」も 2 割台となっている。

男性では、29 歳以下で「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」が 18.2%と高めになっている。30 歳代以下、50～60 歳代で男性の「どれもあてはまらない」が女性に比べて高くなっている。

【図表 6-10①-1 性・年代別 職場でされたことがある】

	n	容姿について、話題にされる	容姿について、話題にされる	身体をじろじろ見られる	忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	故意に身体にふれられる	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	性的な冗談やひわいなことを話題にされる
全体	708	95	47	107	79	72	20	22	11	8	12	313	204		
	100.0	13.4	6.6	15.1	11.2	10.2	2.8	3.1	1.6	1.1	1.7	44.2	28.8		
女性	29歳以下	17	4	1	1	-	2	-	-	1	-	9	3		
		100.0	23.5	5.9	5.9	-	11.8	-	-	5.9	-	52.9	17.6		
	30歳代	40	9	4	8	8	10	-	2	-	2	17	5		
		100.0	22.5	10.0	20.0	20.0	25.0	-	5.0	-	5.0	42.5	12.5		
	40歳代	61	13	8	8	10	8	2	1	1	2	33	10		
		100.0	21.3	13.1	13.1	16.4	13.1	3.3	1.6	1.6	3.3	54.1	16.4		
	50歳代	112	24	10	35	21	18	4	6	-	1	41	19		
	100.0	21.4	8.9	31.3	18.8	16.1	3.6	5.4	-	0.9	36.6	17.0			
60歳代	77	11	7	21	10	13	3	3	2	-	28	18			
	100.0	14.3	9.1	27.3	13.0	16.9	3.9	3.9	2.6	-	36.4	23.4			
70歳以上	124	7	6	15	10	8	4	4	2	2	44	56			
	100.0	5.6	4.8	12.1	8.1	6.5	3.2	3.2	1.6	1.6	35.5	45.2			
男性	29歳以下	22	2	2	2	4	1	1	2	1	1	13	5		
		100.0	9.1	9.1	9.1	18.2	4.5	4.5	9.1	4.5	4.5	59.1	22.7		
	30歳代	27	2	-	1	1	1	-	-	-	-	16	7		
		100.0	7.4	-	3.7	3.7	3.7	-	-	-	-	59.3	25.9		
	40歳代	32	4	3	6	5	2	2	1	1	1	17	7		
		100.0	12.5	9.4	18.8	15.6	6.3	6.3	3.1	3.1	3.1	53.1	21.9		
	50歳代	45	5	1	2	3	2	-	-	-	1	29	9		
	100.0	11.1	2.2	4.4	6.7	4.4	-	-	-	2.2	64.4	20.0			
60歳代	54	4	1	1	2	3	2	1	-	-	33	15			
	100.0	7.4	1.9	1.9	3.7	5.6	3.7	1.9	-	-	61.1	27.8			
70歳以上	84	7	4	5	5	4	2	2	3	4	27	46			
	100.0	8.3	4.8	6.0	6.0	4.8	2.4	2.4	3.6	4.8	32.1	54.8			

＜前回調査（令和2年（2020年））との比較＞（図表 6-10①-2）

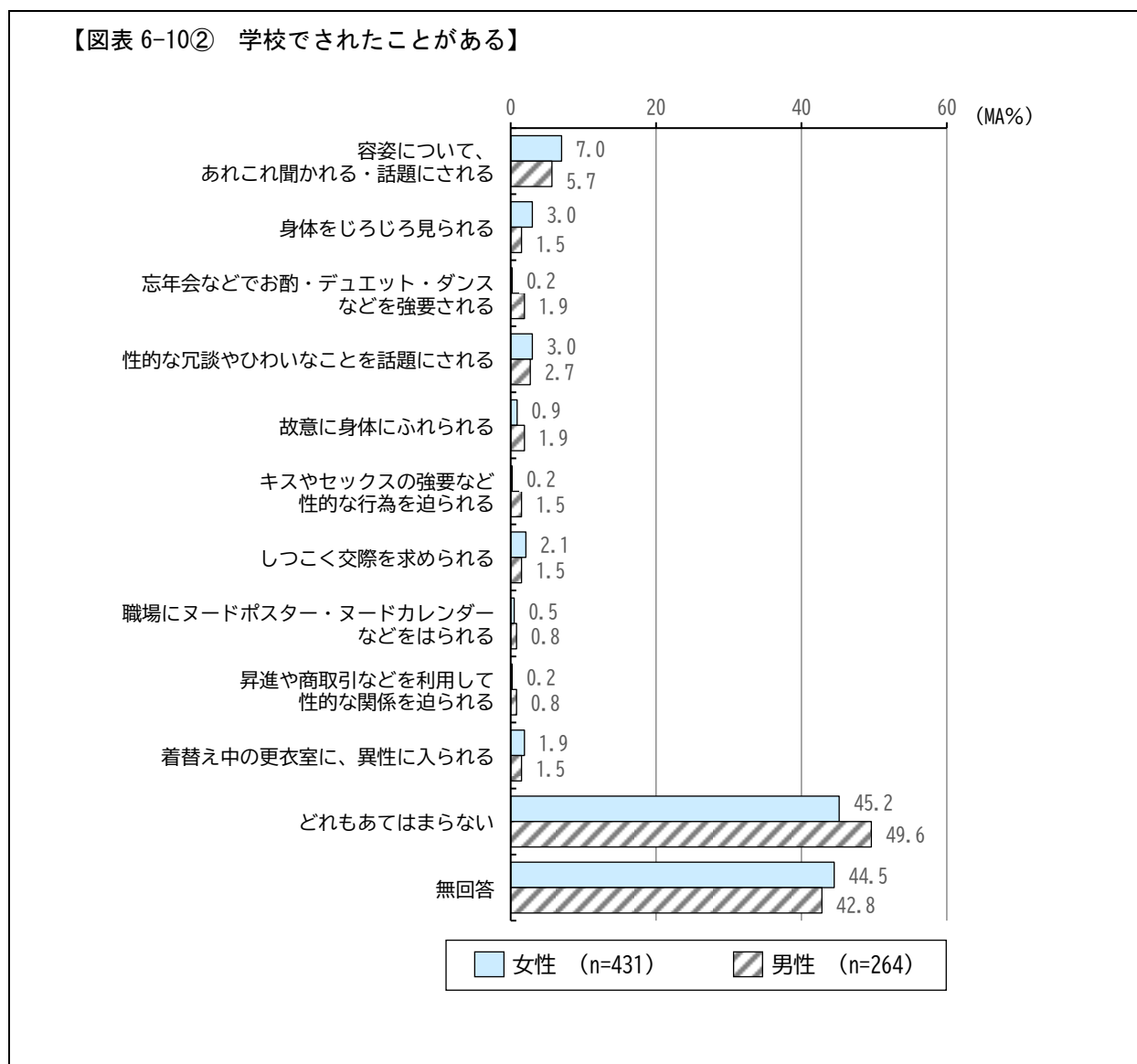
前回調査の結果に比べ、女性では大きな変化は見られない。

男性では「どれもあてはまらない」が9.4ポイント、「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」が5.2ポイント上昇している。

【図表 6-10①-2 前回調査との比較 職場でされたことがある】

		(MA%)															
		n	れれ容 聞姿に かにつ れるて ・話、 題あれ さこ	る身 体を じろ ろ見 られ	どを 強要 され る	忘年 会な どお 酌な	こ性 とを 話冗 談に さひ わい な	る故 意に 身 体 に ふ れ ら れ	れな ど性 的 な 行 為 を 迫 ら れ	キス やセ ツク スの 強要	れし つこ く交 際を 求め ら れ	タ ー ナ ど を は ら れ る	職 場 に ヌ ード ポ ス レン	ら用 進 や 商 取 引 な ど を 利 用 し て 性 的 な 関 係 を 迫 ら れ る	異着 性 に 入 ら れ る 中 の 更 衣 室 に	ど れ も あ て は ま ら な い	無 回 答
女性	今回調査	431	15.8	8.4	20.4	13.7	13.7	3.0	3.7	1.4	0.5	1.6	39.9	25.8			
	前回調査	723	11.8	6.2	16.5	13.3	12.2	2.9	2.5	1.0	1.1	1.0	34.7	33.5			
	スコア差		+4.0	+2.2	+3.9	+0.4	+1.5	+0.1	+1.2	+0.4	-0.6	+0.6	+5.2	-7.7			
男性	今回調査	264	9.1	4.2	6.4	7.6	4.9	2.7	2.3	1.9	2.3	1.9	51.1	33.7			
	前回調査	456	5.3	1.1	2.4	2.4	1.1	1.1	1.5	0.2	0.7	0.7	41.7	48.7			
	スコア差		+3.8	+3.1	+4.0	+5.2	+3.8	+1.6	+0.8	+1.7	+1.6	+1.2	+9.4	-15.0			

②学校でされたことがある



<性別> (図表 6-10②)

学校でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験については、男女とも「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が最も高く、女性で7.0%、男性で5.7%となっている。

また、「どれもあてはまらない」が女性で45.2%、男性で49.6%である。

<性・年代別> (図表 6-10②-1)

女性では、30 歳代で「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が 20.0%と高く、29 歳以下でも 17.6%みられた。

男性では、30 歳代以下で「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が全体に比べて 5 ポイント以上高くなっている。29 歳以下では、「忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要させる」「性的な冗談やひわいなことを話題にされる」「着替え中の更衣室に、異性に入られる」が全体に比べて 10 ポイント以上高い。

【図表 6-10②-1 性・年代別 学校でされたことがある】

	n	あれこれ聞かれる・話題にされる	容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる	身体をじろじろ見られる	忘年会などでお酌・デュエット・ダンスなどを強要される	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	故意に身体にふられる	キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる	しつこく交際を求められる	職場にヌードポスティング・ヌードカレン	昇進や商取引などを迫られる	着替え中の更衣室に、異性に入られる	どれもあてはまらない	無回答
全体	708	48	18	7	21	10	6	14	5	4	13	331	310	
上段/実数	100.0	6.8	2.5	1.0	3.0	1.4	0.8	2.0	0.7	0.6	1.8	46.8	43.8	
下段/MA%														
女性	29歳以下	17	3	1	-	-	-	1	-	-	-	8	6	
		100.0	17.6	5.9	-	-	-	5.9	-	-	-	47.1	35.3	
	30歳代	40	8	3	-	4	1	-	2	-	3	19	10	
		100.0	20.0	7.5	-	10.0	2.5	-	5.0	-	7.5	47.5	25.0	
	40歳代	61	3	1	-	2	1	-	1	-	2	35	18	
		100.0	4.9	1.6	-	3.3	1.6	-	1.6	-	3.3	57.4	29.5	
	50歳代	112	11	5	-	5	-	-	3	-	-	1	50	48
	100.0	9.8	4.5	-	4.5	-	-	2.7	-	-	0.9	44.6	42.9	
60歳代	77	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	32	42	
	100.0	2.6	-	-	1.3	-	-	-	-	-	-	41.6	54.5	
70歳以上	124	3	3	1	1	2	1	2	2	1	2	51	68	
	100.0	2.4	2.4	0.8	0.8	1.6	0.8	1.6	1.6	0.8	1.6	41.1	54.8	
男性	29歳以下	22	3	1	3	3	1	2	1	-	1	3	12	5
		100.0	13.6	4.5	13.6	13.6	4.5	9.1	4.5	-	4.5	13.6	54.5	22.7
	30歳代	27	4	1	-	1	1	-	1	-	-	-	15	7
		100.0	14.8	3.7	-	3.7	3.7	-	3.7	-	-	-	55.6	25.9
	40歳代	32	3	1	1	1	1	-	-	-	-	-	18	11
		100.0	9.4	3.1	3.1	3.1	3.1	-	-	-	-	-	56.3	34.4
	50歳代	45	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	25	16
	100.0	6.7	-	-	2.2	-	-	-	-	-	-	55.6	35.6	
60歳代	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35	19	
	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	64.8	35.2	
70歳以上	84	2	1	1	1	2	2	2	2	1	1	26	55	
	100.0	2.4	1.2	1.2	1.2	2.4	2.4	2.4	2.4	1.2	1.2	31.0	65.5	

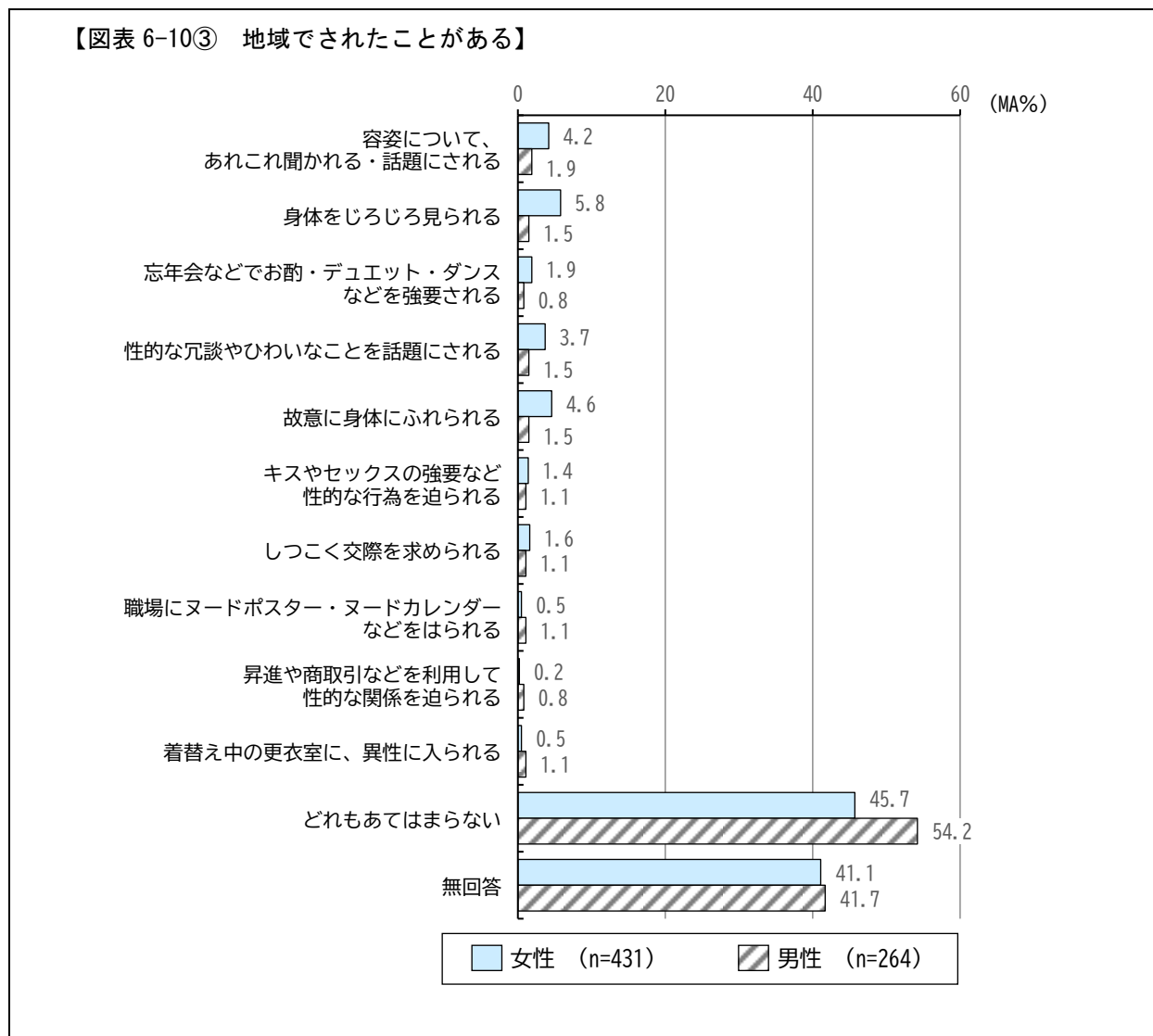
<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 6-10②-2）

前回調査の結果に比べ、大きな変化はみられない。

【図表 6-10②-2 前回調査との比較 学校でされたことがある】

		(MA%)																
		n	れる聞か れる姿に ついて、 話あれ さこ	る容 身を じろ じろ 見ら れ	を強 要さ れる	忘年 会な どで お酌 ・ス な	性的 な冗 談や ひわ いな	る故 意に 身に ふれ られ	れな ど性 的 な行 為を 迫ら す	キス やセ ックス の強 要	れし つこ く交 際を 求め ら	ター ・ヌ ード カレ ン	職場 にヌ ード ボス を	昇進 や商 取引 など を利 用し て性 的 な関 係を 迫ら れる	異性 に入 らる る	着替 え中 の更 衣室 に、	ど れも あて はま らな い	無 回 答
女性	今回調査	431	7.0	3.0	0.2	3.0	0.9	0.2	2.1	0.5	0.2	1.9	45.2	44.5				
	前回調査	723	6.9	3.0	0.3	3.0	1.9	0.6	1.1	0.1	0.1	1.0	42.2	47.2				
	スコア差		+0.1	0.0	-0.1	0.0	-1.0	-0.4	+1.0	+0.4	+0.1	+0.9	+3.0	-2.7				
男性	今回調査	264	5.7	1.5	1.9	2.7	1.9	1.5	1.5	0.8	0.8	1.5	49.6	42.8				
	前回調査	456	5.3	1.5	0.7	1.8	0.9	0.9	0.9	0.2	0.4	0.4	42.1	50.9				
	スコア差		+0.4	0.0	+1.2	+0.9	+1.0	+0.6	+0.6	+0.6	+0.4	+1.1	+7.5	-8.1				

③地域などでされたことがある



<性別> (図表 6-10③)

地域等でのセクシュアル・ハラスメントの経験については、女性で「身体をじろじろ見られる」が5.8%で最も高く、「故意に身体にふれられる」(4.6%)、「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」(4.2%)がそれに次いでいる。男性では、最も高い「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」でも1.9%である。

また、「どれもあてはまらない」が女性で45.7%、男性で54.2%と、男性が8.5ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 6-10③-1)

女性では、30歳代で「容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」が15.0%と全体に比べて10ポイント以上高い。

【図表 6-10③-1 性・年代別 地域などでされたことがある】

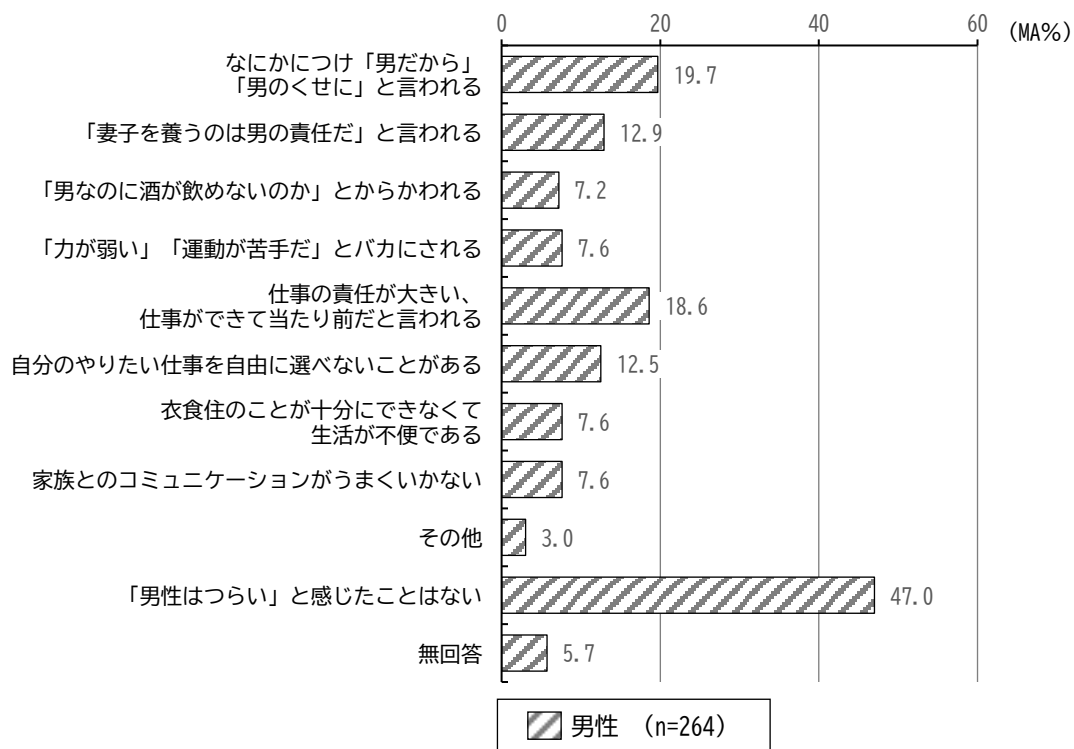
	n	容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる	身体をじろじろ見られる	デユエツト・ダンスなどを強要される	忘年会などでお酌・性的な冗談やひわいなことを話題にされる	性的な冗談やひわいなことを話題にされる	故意に身体にふられる	キスやセックスの強要など性的な行為を迫られる	しつこく交際を求められる	職場にヌードポスターなどをはられる	昇進や商取引などを迫られる	異性に入れられる	着替え中の更衣室に、異性に入れられる	どれもあてはまらない	無回答
全体	708	25	30	11	21	25	10	11	6	4	6	345	293		
上段/実数	708	25	30	11	21	25	10	11	6	4	6	345	293		
下段/MA%	100.0	3.5	4.2	1.6	3.0	3.5	1.4	1.6	0.8	0.6	0.8	48.7	41.4		
女性	29歳以下	17	-	1	-	-	1	-	-	-	-	6	9		
		100.0	-	5.9	-	-	5.9	-	-	-	-	35.3	52.9		
	30歳代	40	6	4	1	2	4	1	2	-	-	23	9		
		100.0	15.0	10.0	2.5	5.0	10.0	2.5	5.0	-	-	57.5	22.5		
	40歳代	61	2	3	2	4	5	2	1	-	-	35	17		
		100.0	3.3	4.9	3.3	6.6	8.2	3.3	1.6	-	-	57.4	27.9		
50歳代	112	5	6	2	1	3	1	1	-	-	50	46			
	100.0	4.5	5.4	1.8	0.9	2.7	0.9	0.9	-	-	44.6	41.1			
60歳代	77	1	5	1	5	4	-	1	-	-	31	34			
	100.0	1.3	6.5	1.3	6.5	5.2	-	1.3	-	-	40.3	44.2			
70歳以上	124	4	6	2	4	3	2	2	2	1	52	62			
	100.0	3.2	4.8	1.6	3.2	2.4	1.6	1.6	1.6	0.8	41.9	50.0			
男性	29歳以下	22	2	1	1	2	1	1	1	-	1	15	4		
		100.0	9.1	4.5	4.5	9.1	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	68.2	18.2		
	30歳代	27	-	-	-	1	1	-	-	-	1	17	9		
		100.0	-	-	-	3.7	3.7	-	-	-	3.7	63.0	33.3		
	40歳代	32	1	1	-	-	1	-	1	-	-	19	11		
		100.0	3.1	3.1	-	-	3.1	-	3.1	-	-	59.4	34.4		
50歳代	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	29	15		
	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.2	64.4	33.3		
60歳代	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35	19		
	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	64.8	35.2		
70歳以上	84	2	2	1	1	1	2	1	2	1	28	52			
	100.0	2.4	2.4	1.2	1.2	1.2	2.4	1.2	2.4	1.2	33.3	61.9			

(11) 男性で「男性はつらい」と感じる理由

【男性の方のみにお聞きします。】

問 26 あなたが「男性はつらい」と感じるのは、どのような時ですか。(〇はいくつでも)

【図表 6-11 男性で「男性はつらい」と感じる理由】



<男性のみ> (図表 6-11)

男性に、「男性はつらい」と感じるのはどのような時かをたずねると、「なにかにつけ『男だから』『男のくせに』と言われる」が 19.7%で最も高く、「仕事の責任が大きい、仕事ができなくて当たり前と言われる」が 18.6%、「『妻子を養うのは男の責任だ』と言われる」が 12.9%、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」が 12.5%と続いている。

また、「『男性はつらい』と感じたことはない」が 47.0%である。

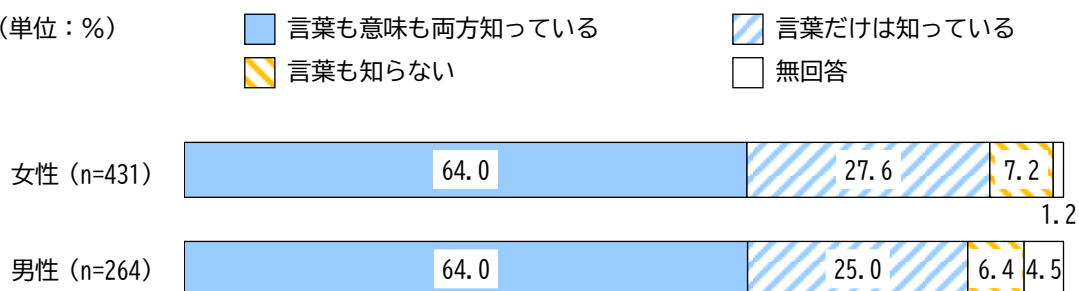
7. LGBTをはじめとする性的少数者について

(1) LGBTをはじめとする性的少数者の認知状況

問 23 あなたはLGBTをはじめとする性的少数者について、どの程度知っていますか。
(○はひとつ)

【図表 7-1 LGBTをはじめとする性的少数者の認知状況】

(単位：%)



<性別> (図表 7-1)

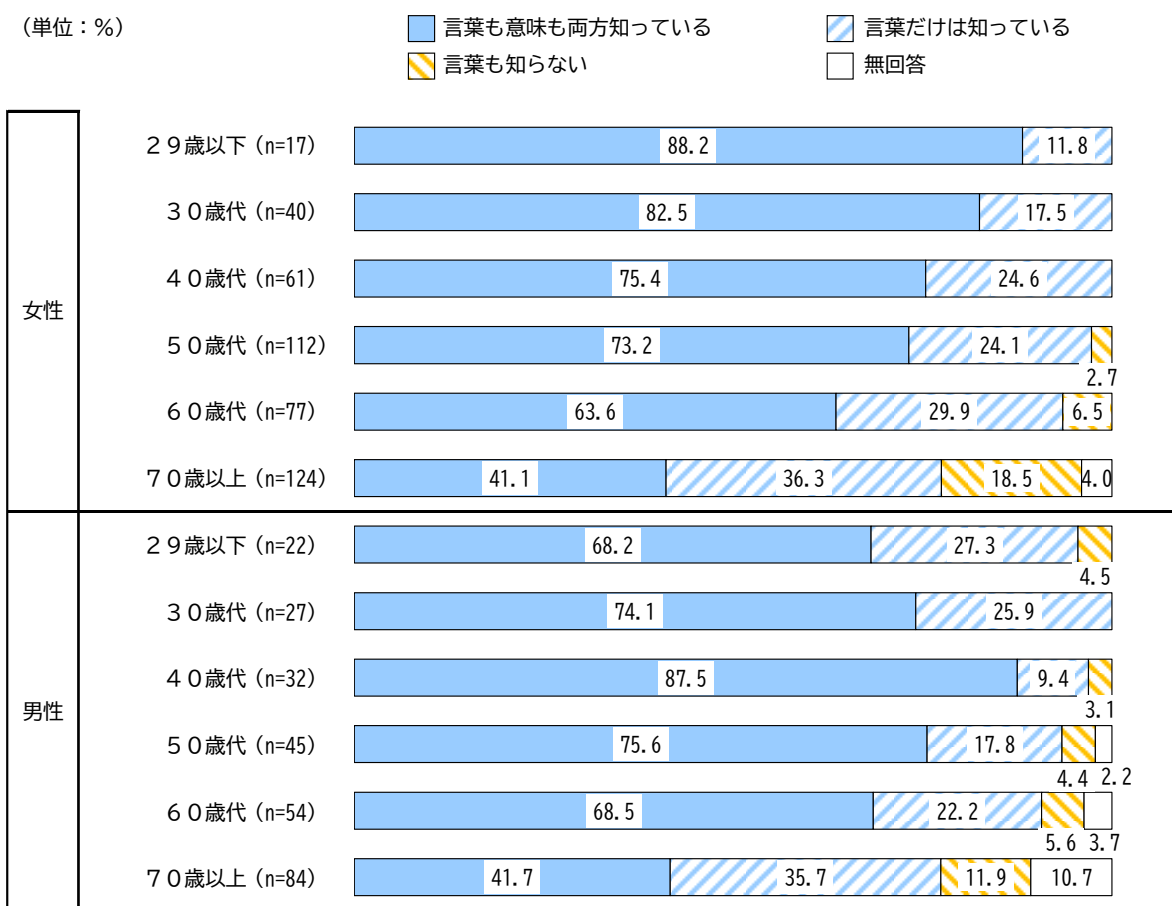
LGBTをはじめとする性的少数者の認知状況は、男女とも「言葉も意味も両方知っている」が64.0%で最も高くなっている。「言葉だけは知っている」は、女性27.6%、男性25.0%、「言葉も知らない」は、女性7.2%、男性6.4%である。

<性・年代別> (図表 7-1-1)

女性では、「言葉も意味も両方知っている」は、年代が若いほど高く、29歳以下で88.2%である。30歳代で82.5%、40～50歳代で7割台、60歳代で63.6%である。70歳以上になると41.1%と低くなっている。

男性では、「言葉も意味も両方知っている」は40歳代で最も高く87.5%となっている。30歳代と50歳代で7割台、29歳以下と60歳代で6割台、70歳以上では41.7%と低い。

【図表 7-1-1 性・年代別 LGBTをはじめとする性的少数者の認知状況】

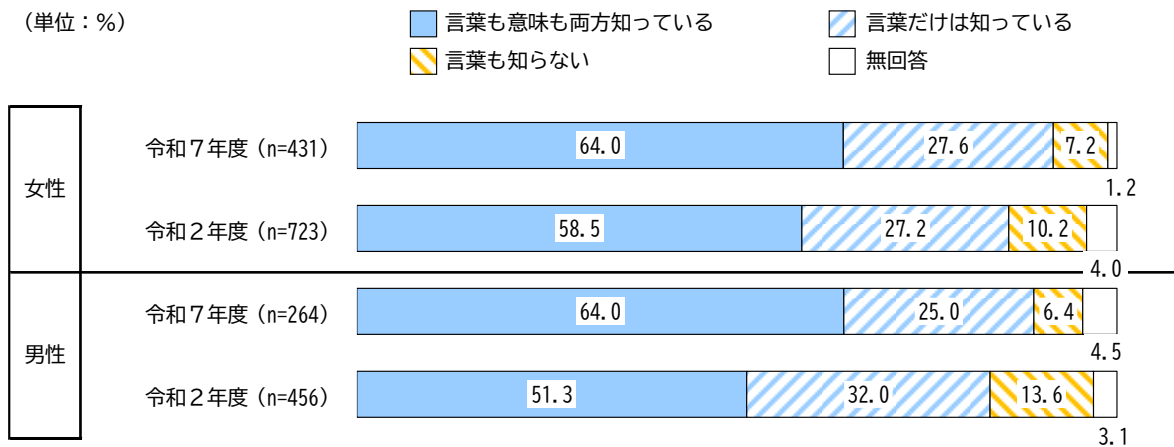


<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表7-1-2）

前回調査の結果に比べ、「言葉も意味も両方知っている」が女性で5.5ポイント、男性で12.7ポイント上昇している。

【図表7-1-2 前回調査との比較 LGBTをはじめとする性的少数者の認知状況】

（単位：％）



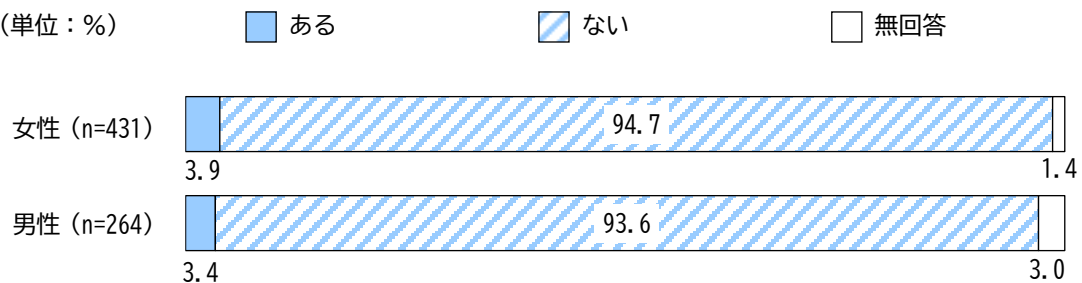
(2) 身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験

問 24 あなたは、今までに自分の身体と性、心の性または性指向（性愛の対象がどのような人に向かうか、たとえば同性愛や両性愛など）に悩んだことがありますか。

(○はひとつ)

【図表 7-2 身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験】

(単位：%)



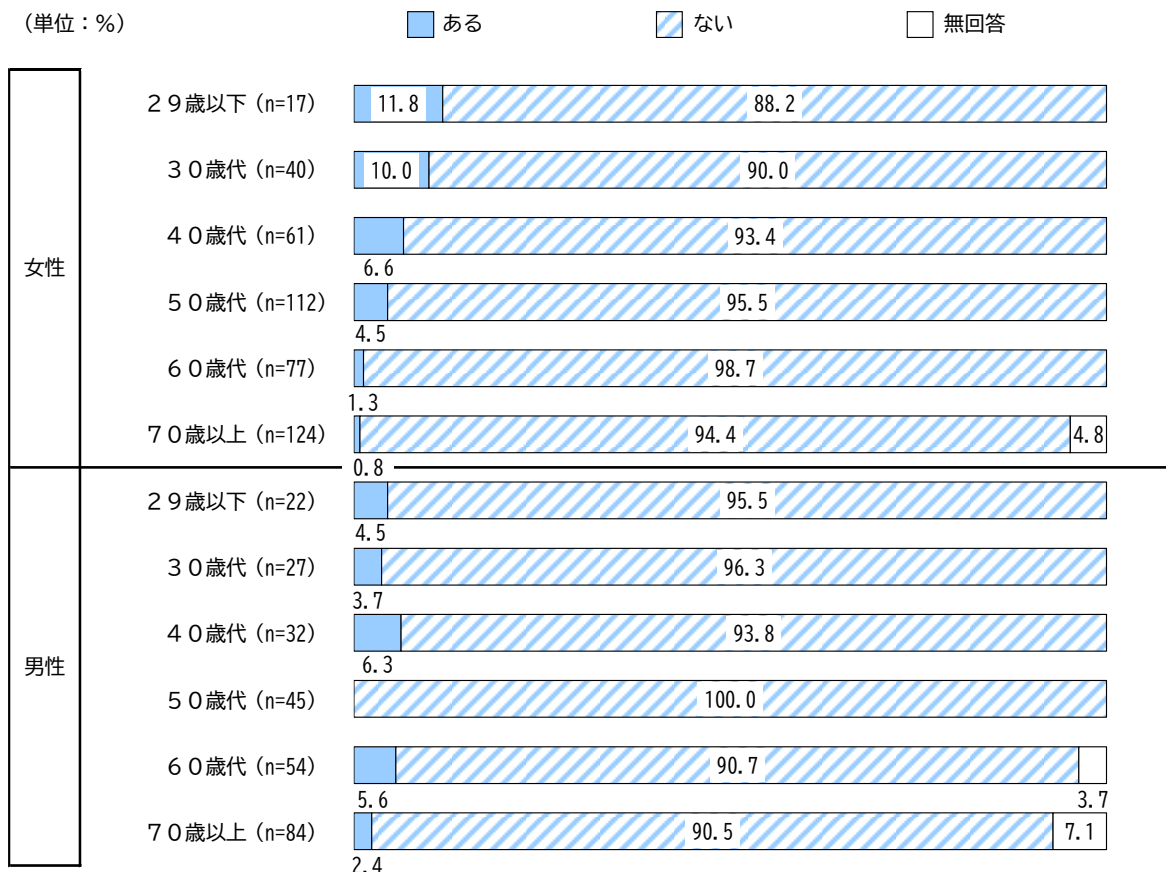
<性別> (図表 7-2)

身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験は、「ある」が女性で3.9%、男性で3.4%となっている。

<性・年代別> (図表 7-2-1)

「ある」は、女性では年代が下がるほど高く、29歳以下で11.8%、30歳代で10.0%となっている。

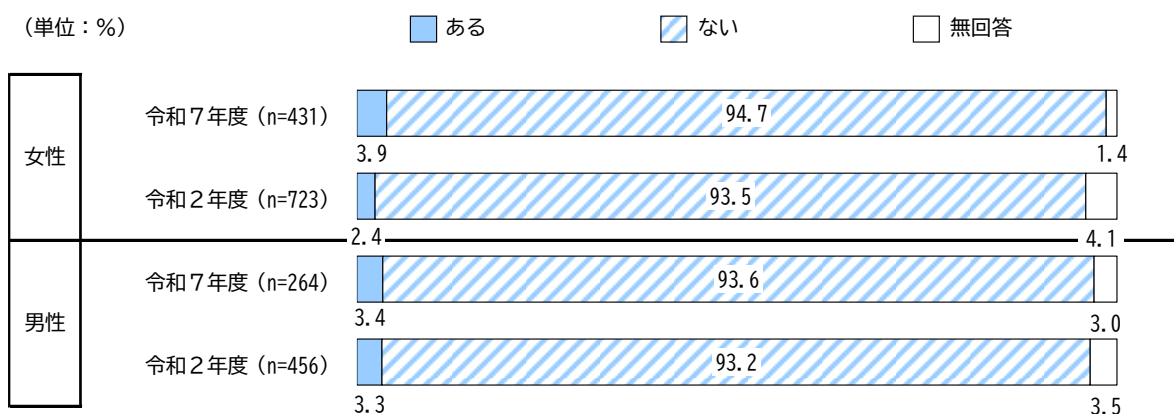
【図表 7-2-1 性・年代別 身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験】



<前回調査 (令和2年 (2020年)) との比較> (図表 7-2-2)

前回調査の結果に比べ、大きな変化はみられない。

【図表 7-2-2 前回調査との比較 身体の性・心の性・性指向に悩んだ経験】

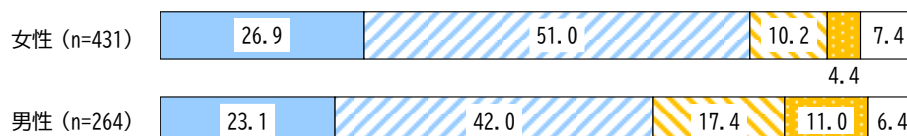
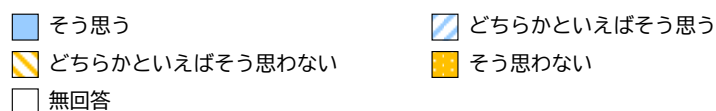


(3) LGBTをはじめとする性的少数者にとっての社会の生活のしづらさ

問 25 LGBTをはじめとする性的少数者にとって、現状は生活しづらい社会だと思いますか。(〇はひとつ)

【図表 7-3 LGBTをはじめとする性的少数者にとっての社会の生活のしづらさ】

(単位：%)



『思う』計	『思わない』計
77.9	14.6
65.1	28.4

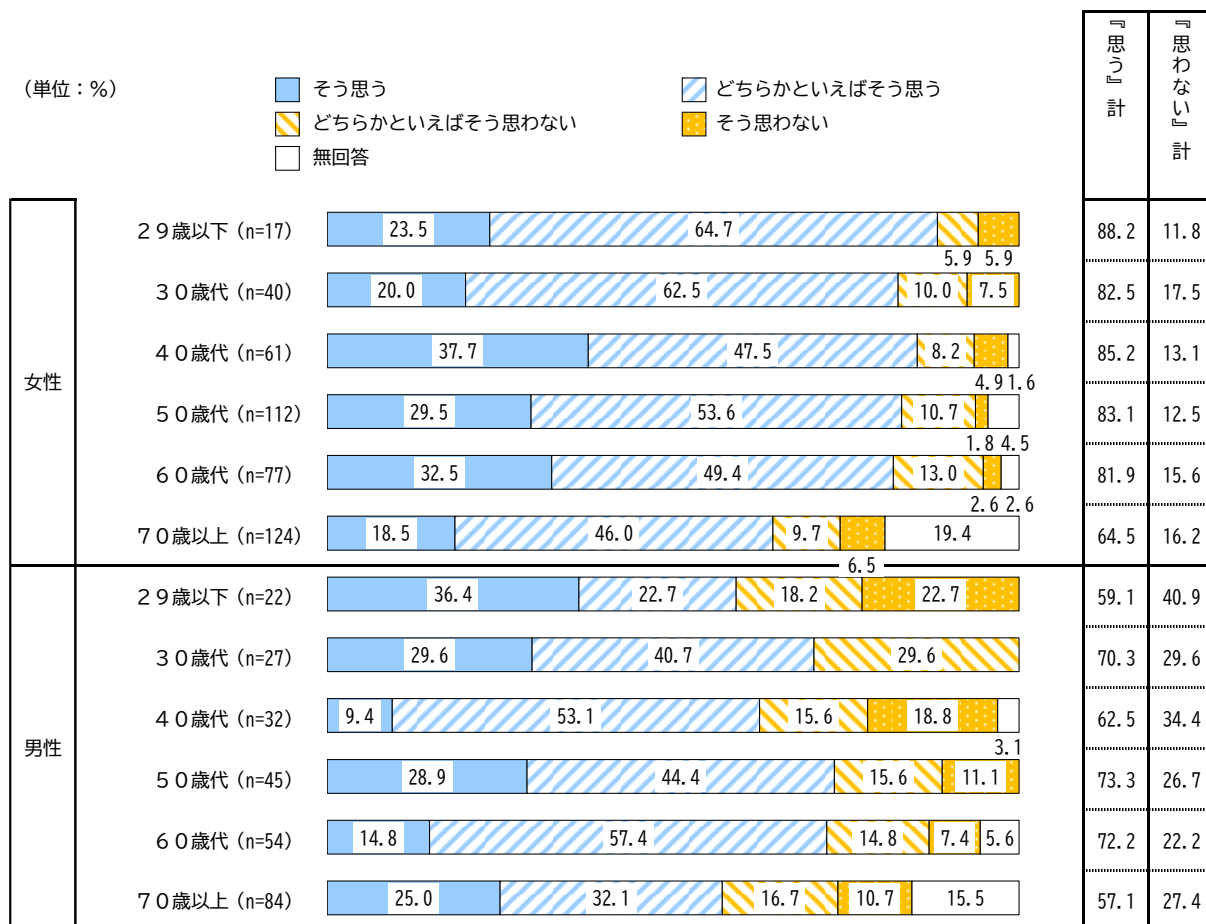
<性別> (図表 7-3)

LGBTをはじめとする性的少数者にとっての社会の生活のしづらさについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う』は、女性で77.9%、男性で65.1%と、女性の方が12.8ポイント高い。

<性・年代別> (図表 7-3-1)

女性では、『思う』は60歳代以下のどの年代でも80%を超えているが、70歳以上では64.5%である。男性では、『思う』は30歳代と50~60歳代で7割台と高くなっているが40歳代で62.5%、70歳以上で57.1%である。

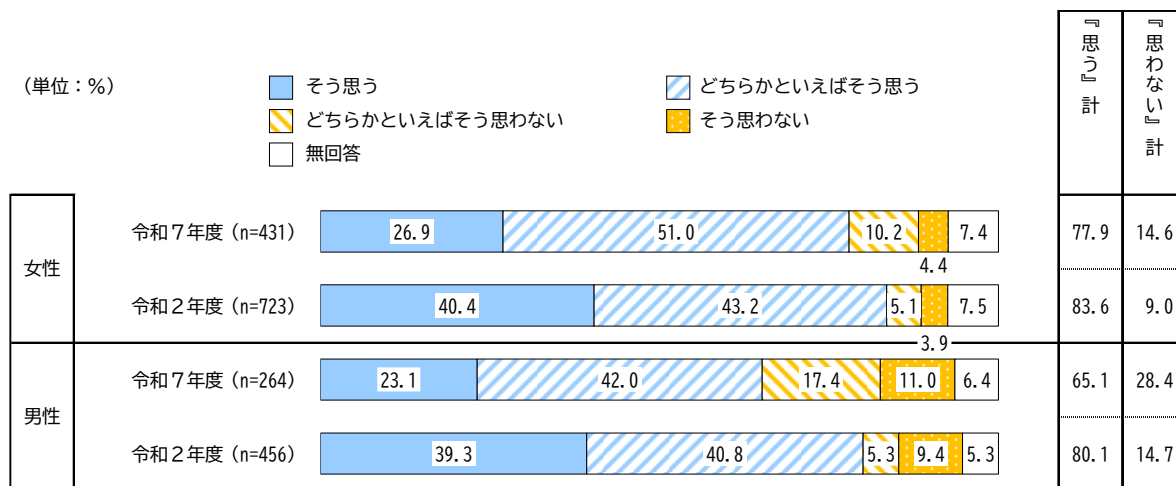
【図表 7-3-1 性・年代別 LGBTをはじめとする性的少数者にとっての社会の生活のしづらさ】



＜前回調査（令和2年（2020年））との比較＞（図表 7-3-2）

前回調査の結果に比べ、『思う』は女性で5.7ポイント、男性で15.0ポイント低下している。特に「そう思う」での低下が大きく、女性で13.5ポイント、男性で16.2ポイントの低下となっている。

【図表 7-3-2 前回調査との比較 LGBTをはじめとする性的少数者にとっての社会の生活のしづらさ】

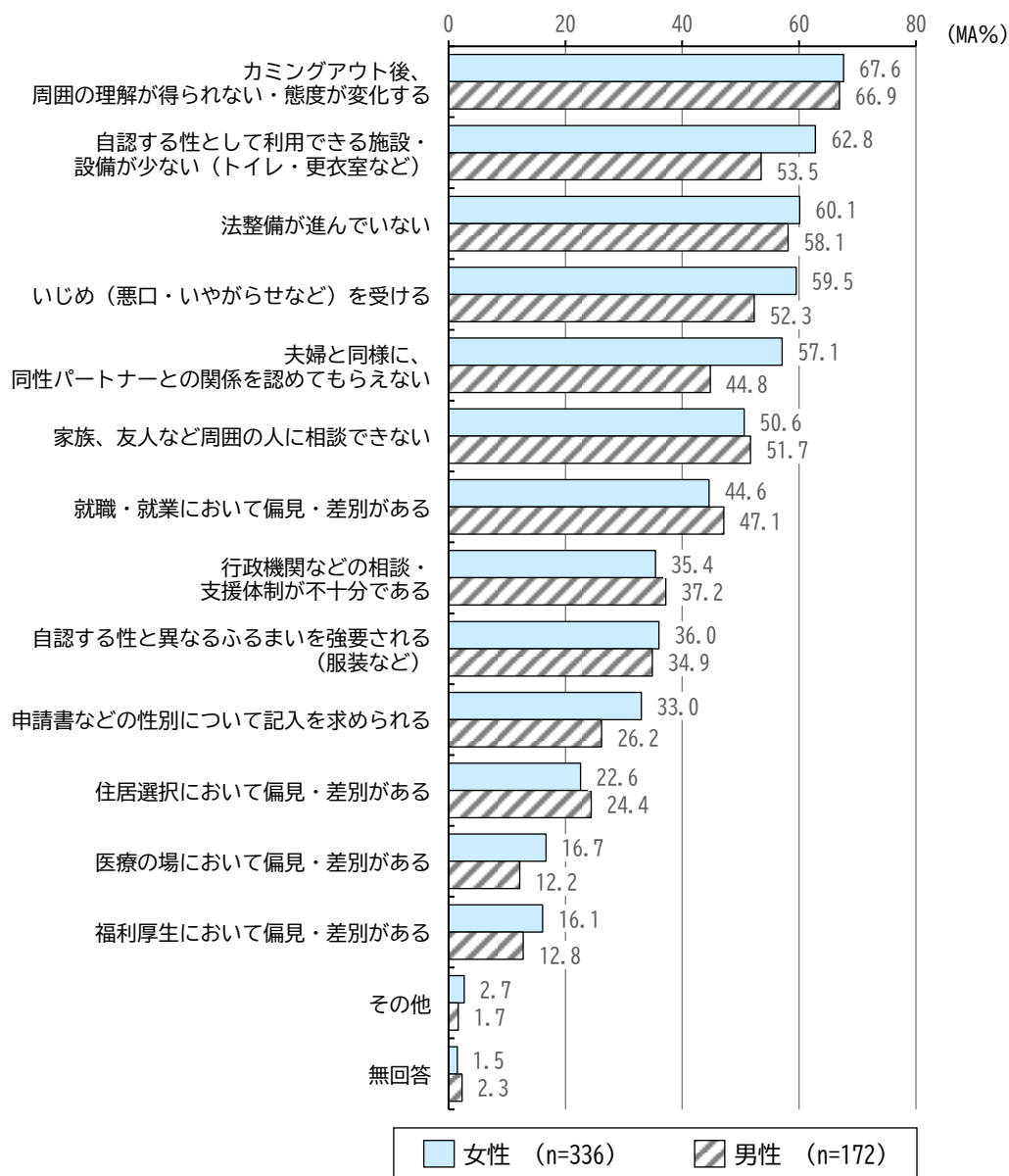


(4) 生活がしづらい社会になっている理由

【問 25 で「1. そう思う」「2. どちらかといえばそう思う」と答えた方にお聞きします。】

問 25-1 どのようなことが生活しづらい社会にしていると思いますか。(〇はいくつでも)

【図表 7-4 生活がしづらい社会になっている理由】



<性別> (図表 7-4)

生活がしづらい社会になっている理由については、男女とも、「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」(女性 67.6%、男性 66.9%) が最も高く、次いで女性では「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」(62.8%)、男性では「法整備が進んでいない」(58.1%)が続いている。

女性では、「夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない」が男性に比べて 12.3 ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 7-4-1)

女性では、「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」は50歳代以下で7割台と高い。また、50歳代では、「自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)」が71.0%、60歳代では「いじめ(悪口・いやがらせなど)を受ける」が74.6%と高くなっている。

男性では、30歳代以下では、「カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する」が全体に比べて10ポイント以上高い。29歳以下では「家族、友人など周囲の人に相談できない」「就職・就業において偏見・差別がある」「行政機関などの相談・支援体制が不十分である」の割合も10ポイント以上高くなっている。60歳代では、「法整備が進んでいない」が76.9%で最も高くなっている。

【図表 7-4-1 性・年代別 生活がしづらい社会になっている理由】

	n	カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する	自認する性として利用できる施設・設備が少ない(トイレ・更衣室など)	法整備が進んでいない	いじめ(悪口・いやがらせなど)を受ける	夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない	家族、友人など周囲の人に相談できない	就職・就業において偏見・差別がある	行政機関などの相談・支援体制が不十分である	自認する性(服装など)と異なるふるまいを強要される(服装など)	申請書などの性別について記入を求められる	住居選択において偏見・差別がある	医療の場において偏見・差別がある	福利厚生において偏見・差別がある	その他	無回答	
		全体	上段/実数	下段/MA%	全体	上段/実数	下段/MA%	全体	上段/実数	下段/MA%	全体	上段/実数	下段/MA%	全体	上段/実数	下段/MA%	全体
全体	518	349	310	309	298	273	265	238	189	187	162	121	80	79	12	10	
		100.0	67.4	59.8	59.7	57.5	52.7	51.2	45.9	36.5	36.1	31.3	23.4	15.4	15.3	2.3	1.9
女性	29歳以下	15	11	4	9	8	7	5	3	4	5	3	6	-	2	-	-
		100.0	73.3	26.7	60.0	53.3	46.7	33.3	20.0	26.7	33.3	20.0	40.0	-	13.3	-	-
	30歳代	33	24	21	19	18	22	19	14	12	15	9	7	5	5	-	-
		100.0	72.7	63.6	57.6	54.5	66.7	57.6	42.4	36.4	45.5	27.3	21.2	15.2	15.2	-	-
	40歳代	52	40	33	35	33	29	29	22	18	19	20	10	9	8	3	-
		100.0	76.9	63.5	67.3	63.5	55.8	55.8	42.3	34.6	36.5	38.5	19.2	17.3	15.4	5.8	-
	50歳代	93	66	66	59	57	55	54	43	32	35	34	23	17	15	2	-
	100.0	71.0	71.0	63.4	61.3	59.1	58.1	46.2	34.4	37.6	36.6	24.7	18.3	16.1	2.2	-	
60歳代	63	40	40	39	47	37	32	29	28	29	25	12	11	13	1	1	
	100.0	63.5	63.5	61.9	74.6	58.7	50.8	46.0	44.4	46.0	39.7	19.0	17.5	20.6	1.6	1.6	
70歳以上	80	46	47	41	37	42	31	39	25	18	20	18	14	11	3	4	
	100.0	57.5	58.8	51.3	46.3	52.5	38.8	48.8	31.3	22.5	25.0	22.5	17.5	13.8	3.8	5.0	
男性	29歳以下	13	11	5	8	7	5	9	8	7	4	2	3	4	4	-	-
		100.0	84.6	38.5	61.5	53.8	38.5	69.2	61.5	53.8	30.8	15.4	23.1	30.8	30.8	-	-
	30歳代	19	15	11	11	11	9	10	7	8	8	4	4	3	2	-	-
		100.0	78.9	57.9	57.9	57.9	47.4	52.6	36.8	42.1	42.1	21.1	21.1	15.8	10.5	-	-
	40歳代	20	14	10	12	10	7	9	10	6	6	5	4	2	2	1	-
		100.0	70.0	50.0	60.0	50.0	35.0	45.0	50.0	30.0	30.0	25.0	20.0	10.0	10.0	5.0	-
	50歳代	33	22	23	17	18	13	20	15	10	10	9	9	3	3	1	-
	100.0	66.7	69.7	51.5	54.5	39.4	60.6	45.5	30.3	30.3	27.3	27.3	9.1	9.1	3.0	-	
60歳代	39	29	22	30	24	23	21	19	16	17	9	8	3	3	-	-	
	100.0	74.4	56.4	76.9	61.5	59.0	53.8	48.7	41.0	43.6	23.1	20.5	7.7	7.7	-	-	
70歳以上	48	24	21	22	20	20	20	22	17	15	16	14	6	8	1	4	
	100.0	50.0	43.8	45.8	41.7	41.7	41.7	45.8	35.4	31.3	33.3	29.2	12.5	16.7	2.1	8.3	

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 7-4-2）

前回調査の結果に比べ、女性では「申請書などの性別について記入を求められる」「就職・就業において偏見・差別がある」「住居選択において偏見・差別がある」が5ポイント以上低下しており、5ポイント以上上昇した項目はみられない。男性では「行政機関などの相談・支援体制が不十分である」「夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない」「自認する性として利用できる施設・設備が少ない（トイレ・更衣室など）」「自認する性と異なるふるまいを強要される（服装など）」が5ポイント以上上昇している。

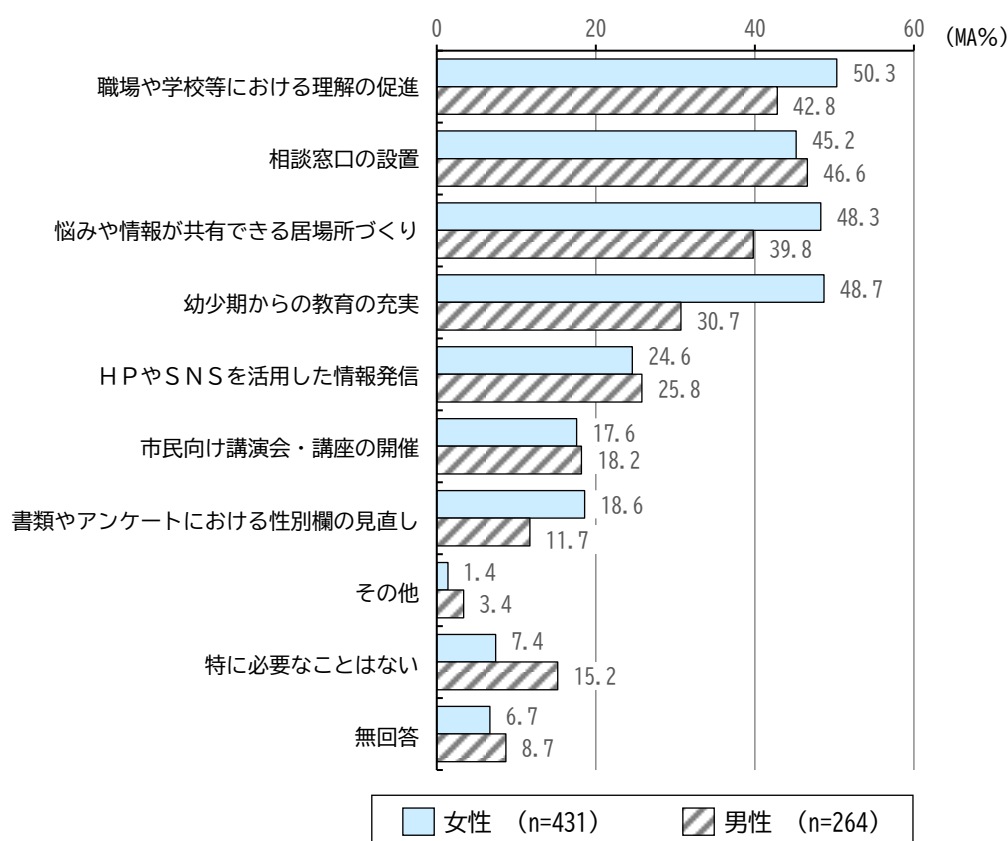
【図表 7-4-2 前回調査との比較 生活がしづらい社会になっている理由】

		(MA%)															
		n	カミングアウト後、周囲の理解が得られない・態度が変化する	自認する性として利用できる施設・設備が少ない（トイレ・更衣室など）	法整備が進んでいない	けじめ（悪口・いやがらせなど）を受ける	夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない	家族、友人など周囲の人に相談できない	就職・就業において偏見・差別がある	行政機関などの相談・支援体制が不十分である	自認する性と異なるふるまいを強要される（服装など）	申請書などの性別について記入を求められる	住居選択において偏見・差別がある	医療の場において偏見・差別がある	福利厚生において偏見・差別がある	その他	無回答
女性	今回調査	336	67.6	62.8	60.1	59.5	57.1	50.6	44.6	35.4	36.0	33.0	22.6	16.7	16.1	2.7	1.5
	前回調査	604	68.0	58.8	61.3	57.5	54.3	51.7	52.0	33.8	40.4	41.2	27.6	19.0	20.0	1.8	3.0
	スコア差		-0.4	+4.0	-1.2	+2.0	+2.8	-1.1	-7.4	+1.6	-4.4	-8.2	-5.0	-2.3	-3.9	+0.9	-1.5
男性	今回調査	172	66.9	53.5	58.1	52.3	44.8	51.7	47.1	37.2	34.9	26.2	24.4	12.2	12.8	1.7	2.3
	前回調査	365	65.2	47.1	56.4	54.0	38.1	51.5	47.7	28.8	29.6	28.5	23.3	13.7	15.6	1.4	2.2
	スコア差		+1.7	+6.4	+1.7	-1.7	+6.7	+0.2	-0.6	+8.4	+5.3	-2.3	+1.1	-1.5	-2.8	+0.3	+0.1

(5) 性の多様性理解の促進や支援のために必要だと思うこと

問 25-2 豊中市では、性別や性的指向及び性自認にかかわらず多様な選択ができるまちづくりの実現に向け、「豊中市パートナーシップ宣誓証明制度」を導入しています。性の多様性に対する理解の促進や支援のために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

【図表 7-5 性の多様性理解の促進や支援のために必要だと思う事】



<性別> (図表 7-5)

性の多様性理解の促進や支援のために必要だと思うことについては、女性では「職場や学校等における理解の促進」が50.3%で最も高く、「幼少期からの教育の充実」が48.7%、「悩みや情報が共有できる居場所づくり」が48.3%で続いている。男性では「相談窓口の設置」が46.6%で最も高く、「職場や学校等における理解の促進」が42.8%、「悩みや情報が共有できる居場所づくり」が39.8%で続いている。

女性では「幼少期からの教育の充実」が男性に比べて18.0ポイント、「悩みや情報が共有できる居場所づくり」「職場や学校等における理解の促進」「書類やアンケートにおける性別欄の見直し」が男性に比べて5ポイント以上高くなっている。男性では「特に必要なことはない」が女性に比べて7.8ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 7-5-1)

女性では、「職場や学校等における理解の促進」は年代が若いほど高くなっている。30歳代以下で「HPやSNSを活用した情報発信」、30歳代以下や50～60歳代では「幼少期からの教育の充実」が全体に比べて10ポイント以上高くなっている。また、50歳代では「悩みや情報が共有できる居場所づくり」の割合も高めである。

男性では、29歳以下で「書類やアンケートにおける性別欄の見直し」、30歳代以下で「HPやSNSを活用した情報発信」、40～50歳代で「特に必要なことはない」が全体に比べて10ポイント以上高くなっている。

【図表 7-5-1 性・年代別 性の多様性理解の促進や支援のために必要だと思う事】

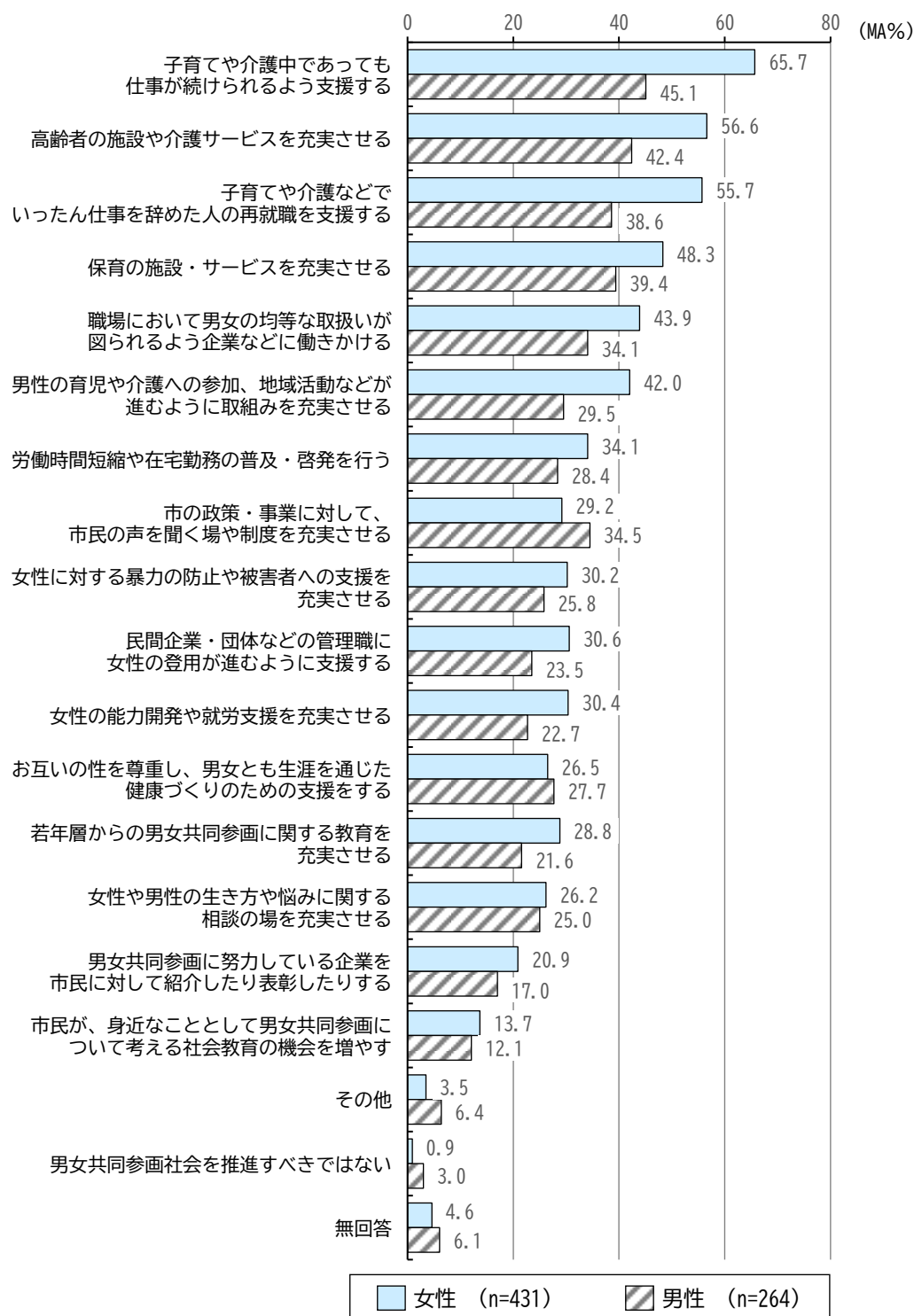
	n	職場や学校等における理解の促進	相談窓口の設置	悩みや居場所情報が共有できる	実幼少期からの教育の充実	HPやSNSを活用した情報発信	市民向け講演会・講座の開催	書類やアンケートの見直し	その他	特に必要なことはない	無回答	
全体	708	335	325	320	297	179	129	116	15	76	52	
	上段/実数	335	325	320	297	179	129	116	15	76	52	
	下段/MA%	47.3	45.9	45.2	41.9	25.3	18.2	16.4	2.1	10.7	7.3	
女性	29歳以下	17	12	10	9	12	6	3	1	1	-	
		100.0	70.6	58.8	52.9	70.6	35.3	17.6	5.9	5.9	-	
	30歳代	40	24	16	14	21	16	5	8	-	5	
		100.0	60.0	40.0	35.0	52.5	40.0	12.5	20.0	-	12.5	
	40歳代	61	35	21	25	30	13	8	13	2	7	3
		100.0	57.4	34.4	41.0	49.2	21.3	13.1	21.3	3.3	11.5	4.9
	50歳代	112	62	51	63	64	39	19	25	1	4	2
	100.0	55.4	45.5	56.3	57.1	34.8	17.0	22.3	0.9	3.6	1.8	
男性	29歳以下	22	10	11	10	10	10	7	-	4	-	
		100.0	45.5	50.0	45.5	45.5	45.5	13.6	31.8	-	18.2	
	30歳代	27	14	12	13	10	11	3	3	3	1	
		100.0	51.9	44.4	48.1	37.0	40.7	11.1	11.1	11.1	3.7	
	40歳代	32	16	9	10	13	8	1	5	1	10	
		100.0	50.0	28.1	31.3	40.6	25.0	3.1	15.6	3.1	31.3	
	50歳代	45	21	21	18	14	15	12	7	3	10	
	100.0	46.7	46.7	40.0	31.1	33.3	26.7	15.6	6.7	22.2		
男性	60歳代	54	23	27	19	14	13	3	-	7	5	
		100.0	42.6	50.0	35.2	25.9	24.1	18.5	5.6	-	13.0	
	70歳以上	84	29	43	35	20	11	19	2	8	16	
		100.0	34.5	51.2	41.7	23.8	13.1	22.6	7.1	2.4	9.5	

8. 男女共同参画社会の実現について

(1) 市が力をいれていくべきこと

問 27 男女共同参画社会を推進していくために、市はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

【図表 8-1 市が力をいれていくべきこと】



<性別> (図表 8-1)

男女共同参画社会を推進していくために市が力を入れていくべきことについて、女性では、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が 65.7%で最も高く、次いで、「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」が 56.6%、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が 55.7%、「保育の施設・サービスを充実させる」が 48.3%と続いている。

男性においても、女性が上位 4 位に挙げた項目が、順位は異なるものの上位を占めている。

ほとんどの項目において女性の割合の方が上回っており、特に、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」では 20 ポイント以上、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」「男性の育児や介護への参加、地域活動などが進むように取組みを充実させる」でも 10 ポイント以上と高くなっている。男性の方が高いのは、「市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる」である。

<性・年代別> (図表 8-1-1)

女性は、30～60 歳代で「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「保育の施設・サービスを充実させる」といった子育て支援への要望が強い。また、50 歳代以上では「高齢者の施設や介護サービスを充実させる」、40 歳代以下では「職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業などに働きかける」「労働時間短縮や在宅勤務の普及・啓発を行う」など働き方への要望が強い。

男性では、29 歳以下で高くなっている項目が多く、「保育の施設・サービスを充実させる」が 63.6%で最も高くなっている。

「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は、30～60 歳代の各年代で男女の割合の差が大きくなっており、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」は 30～60 歳代の各年代で 20 ポイント以上、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は 30 歳代で 20 ポイント以上、40 歳代で 30 ポイント以上の差となっている。

【図表 8-1-1 性・年代別 市が力をいれていくべきこと①】

	n	子育てや介護中であつても支援する	高齢者の施設や介護サービスを充実させる	子育てや介護中であつても仕事を辞めた人の再就職を支援する	保育の施設・サービスを充実させる	職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業などに働きかける	加齢による生活や介護への参加を促す	労働時間短縮や在宅勤務の普及・啓発を行う	市民の声を聞き、子育てや介護に対する支援を充実させる	被害者への支援を充実させる	女性に対する暴力の防止や被害者への支援	民間企業・団体の活用を進むよう管理職に働きかける
全体	上段/実数 下段/MA%	708 100.0	409 57.8	364 51.4	350 49.4	318 44.9	284 40.1	265 37.4	228 32.2	224 31.6	202 28.5	200 28.2
女性	29歳以下	17 100.0	10 58.8	6 35.3	6 35.3	8 47.1	9 52.9	6 35.3	7 41.2	8 47.1	5 29.4	3 17.6
	30歳代	40 100.0	28 70.0	13 32.5	25 62.5	23 57.5	22 55.0	18 45.0	28 70.0	11 27.5	9 22.5	9 22.5
	40歳代	61 100.0	42 68.9	32 52.5	43 70.5	34 55.7	33 54.1	25 41.0	32 52.5	16 26.2	18 29.5	22 36.1
	50歳代	112 100.0	76 67.9	72 64.3	63 56.3	60 53.6	47 42.0	49 43.8	38 33.9	30 26.8	30 26.8	28 25.0
	60歳代	77 100.0	54 70.1	49 63.6	48 62.3	44 57.1	34 44.2	34 44.2	17 22.1	21 27.3	32 41.6	26 33.8
	70歳以上	124 100.0	73 58.9	72 58.1	55 44.4	39 31.5	44 35.5	49 39.5	25 20.2	40 32.3	36 29.0	44 35.5
	男性	29歳以下	22 100.0	11 50.0	8 36.4	10 45.5	14 63.6	11 50.0	9 40.9	13 59.1	10 45.5	7 31.8
30歳代		27 100.0	13 48.1	6 22.2	11 40.7	11 40.7	8 29.6	12 44.4	12 44.4	5 18.5	4 14.8	4 14.8
40歳代		32 100.0	13 40.6	11 34.4	11 34.4	14 43.8	9 28.1	5 15.6	6 18.8	10 31.3	5 15.6	6 18.8
50歳代		45 100.0	21 46.7	18 40.0	17 37.8	15 33.3	14 31.1	15 33.3	15 33.3	18 40.0	13 28.9	12 26.7
60歳代		54 100.0	27 50.0	26 48.1	24 44.4	25 46.3	13 24.1	13 24.1	12 22.2	16 29.6	18 33.3	10 18.5
70歳以上		84 100.0	34 40.5	43 51.2	29 34.5	25 29.8	35 41.7	24 28.6	17 20.2	32 38.1	21 25.0	21 25.0

【図表 8-1-1 性・年代別 市が力をいれていくべきこと②】

		n	女性 の能力 を充実 させる	りとも のため の生涯 の支援 をする	お互いの 性を尊重 し、男女 の健康 を促す	に若年 層から の男女 共同参 画を充 実させ る	に女性 や男性 の相談 の場を 充実さ せる	る女性 や男性 の生き 方や悩 み	する企 業を市 民に対 して紹 介	る男女 共同参 画に努 力して い	る男女 共同参 画につ いて考 え	市民が 、身近 なこと として 社会共 同教育 の機会 を増や す	その他	男女共 同参画 社会を 推進す べきで はない	無回 答
全体	上段/実数 下段/MA%	708 100.0	195 27.5	191 27.0	186 26.3	185 26.1	141 19.9	94 13.3	32 4.5	12 1.7	37 5.2				
女性	29歳以下	17 100.0	5 29.4	7 41.2	5 29.4	7 41.2	2 11.8	5 29.4	1 5.9	-	-	-	-	-	-
	30歳代	40 100.0	11 27.5	13 32.5	10 25.0	12 30.0	10 25.0	4 10.0	-	-	-	-	-	-	-
	40歳代	61 100.0	22 36.1	17 27.9	19 31.1	10 16.4	18 29.5	4 6.6	4 6.6	2 3.3	-	-	-	-	-
	50歳代	112 100.0	32 28.6	29 25.9	38 33.9	31 27.7	20 17.9	15 13.4	4 3.6	-	-	2 1.8	-	-	2
	60歳代	77 100.0	24 31.2	23 29.9	18 23.4	20 26.0	19 24.7	11 14.3	1 1.3	2 2.6	-	2 2.6	-	-	2
	70歳以上	124 100.0	37 29.8	25 20.2	34 27.4	33 26.6	21 16.9	20 16.1	5 4.0	-	-	16 12.9	-	-	16
男性	29歳以下	22 100.0	8 36.4	11 50.0	9 40.9	5 22.7	9 40.9	6 27.3	1 4.5	1 4.5	-	-	-	-	-
	30歳代	27 100.0	6 22.2	6 22.2	4 14.8	8 29.6	3 11.1	2 7.4	3 11.1	-	-	1 3.7	-	-	1
	40歳代	32 100.0	5 15.6	7 21.9	8 25.0	8 25.0	4 12.5	5 15.6	3 9.4	3 9.4	-	-	-	-	-
	50歳代	45 100.0	9 20.0	10 22.2	9 20.0	15 33.3	6 13.3	4 8.9	5 11.1	2 4.4	2 4.4	-	-	-	2
	60歳代	54 100.0	9 16.7	13 24.1	8 14.8	11 20.4	8 14.8	2 3.7	3 5.6	2 3.7	2 3.7	-	-	-	2
	70歳以上	84 100.0	23 27.4	26 31.0	19 22.6	19 22.6	15 17.9	13 15.5	2 2.4	-	-	11 13.1	-	-	11

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 8-1-2）

前回調査の結果に比べ、女性では「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」が5.7ポイント上昇している。男性では5ポイント以上上昇した項目はみられない。

【図表 8-1-2 前回調査との比較 市が力をいれていくべきこと】

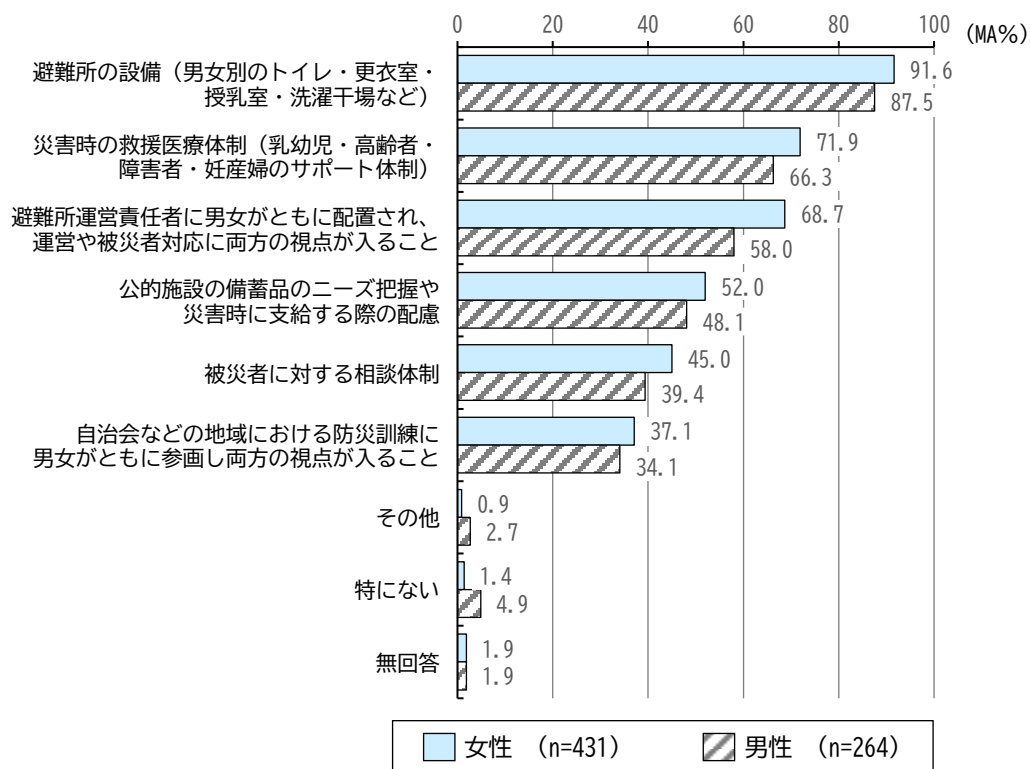
		(MA%)															
		n	子育てや介護中であるよう支援も	高齢者の施設や介護サービスを実施させる	子育てや介護などでの再就職を支援する	子育てや介護などでの再就職を支援する	保育の施設・サービスを充実させる	職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業などに働きかけられるよう企業	職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業	加齢に合わせた活動を進めよう	男性の育児や介護への参加を促進する	労働時間短縮や在宅勤務の普及・啓発を行う	市民の声を聞く場や制度を充実させる	市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる	被害者に対する暴力の防止や	女性に対する暴力の防止や	民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう
女性	今回調査	431	65.7	56.6	55.7	48.3	43.9	42.0	34.1	29.2	30.2	30.6	30.2	30.2	30.2	30.6	
	前回調査	723	60.0	51.7	55.9	48.0	41.1	42.3	33.1	33.7	32.4	31.0	33.7	32.4	32.4	31.0	
	スコア差		+5.7	+4.9	-0.2	+0.3	+2.8	-0.3	+1.0	-4.5	-2.2	-0.4					
男性	今回調査	264	45.1	42.4	38.6	39.4	34.1	29.5	28.4	34.5	25.8	23.5	34.5	25.8	25.8	23.5	
	前回調査	456	48.7	47.4	41.4	47.4	34.0	32.9	28.9	39.7	28.3	22.4	39.7	28.3	28.3	22.4	
	スコア差		-3.6	-5.0	-2.8	-8.0	+0.1	-3.4	-0.5	-5.2	-2.5	+1.1					

		(MA%)										
		n	女性の能力開発や就労支援を充実させる	若い世代の性尊重、男女ともに生きやすい環境づくり	若年層からの男女共同参画に関する教育を充実させる	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実させる	男女共同参画の場を充実させる	男女共同参画の場を充実させる	市民が身近なところで参画の機会を増やして	その他	男女共同参画社会を推進する	無回答
女性	今回調査	431	30.4	26.5	28.8	26.2	20.9	13.7	3.5	0.9	4.6	
	前回調査	723	35.0	32.9	27.5	24.2	16.0	15.9	1.7	0.4	7.2	
	スコア差		-4.6	-6.4	+1.3	+2.0	+4.9	-2.2	+1.8	+0.5	-2.6	
男性	今回調査	264	22.7	27.7	21.6	25.0	17.0	12.1	6.4	3.0	6.1	
	前回調査	456	23.9	26.5	23.9	23.7	20.8	14.3	3.9	0.4	6.1	
	スコア差		-1.2	+1.2	-2.3	+1.3	-3.8	-2.2	+2.5	+2.6	0.0	

(2) 防災対策において、性別に配慮した対応が必要だと思う事

問 28 防災・災害対応において、性別に配慮した対応が必要だと思うものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

【図表 8-2 防災対策において、性別に配慮した対応が必要だと思う事】



<性別> (図表 8-2)

防災・災害対応における性別に配慮した対応で必要と思うものについては、男女とも「避難所の設備 (男女別のトイレ・更衣室・授乳室・洗濯干場など)」(女性 91.6%、男性 87.5%) が最も高く、次いで「災害時の救援医療体制 (乳幼児・高齢者・障害者・妊産婦のサポート体制)」(女性 71.9%、男性 66.3%)、「避難所運営責任者に男女がともに配置され、運営や被災者対応に両方の視点が入ること」(女性 68.7%、男性 58.0%) と続いている。

すべての項目で女性の割合が、男性に比べて高くなっており、特に「避難所運営責任者に男女がともに配置され、運営や被災者対応に両方の視点が入ること」で女性の割合が 10.7 ポイント高くなっている。

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 8-2-2）

前回調査の結果に比べ、女性では5ポイント以上の変化はみられない。男性は、「公的施設の備蓄品のニーズ把握や災害時に支給する際の配慮」「避難所の設備（男女別のトイレ・更衣室・授乳室・洗濯干場など）」が5ポイント以上上昇している。

【図表 8-2-2 前回調査との比較 防災対策において、性別に配慮した対応が必要だと思う事】

			なレ避 ・難 更所 衣の 室設 ・備 授（ 乳男 室女 ・別の 洗灌 干場 の サ ポ ー ト 体 制 ）	災 害 時 の 救 援 医 療 体 制 （ 妊 産 婦 幼 の	に 両 方 の 視 点 が 入 る こ と	避 難 所 運 営 責 任 者 に 男 女 が と も	公 的 施 設 の 備 蓄 品 の ニ ー ズ 把 握 や 災 害 時 に 支 給 す る 際 の 配 慮	被 災 者 に 対 す る 相 談 体 制	訓 練 に 男 女 が と も の 地 域 に お け る 参 画 し る 防 災	自 治 会 な ど の 地 域 に お け る 参 画 し る 防 災	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
		n												(MA%)
女性	今回調査	431	91.6	71.9	68.7	52.0	45.0	37.1	0.9	1.4	1.9			
	前回調査	723	90.6	70.0	64.5	47.9	42.9	35.8	0.7	1.4	3.6			
	スコア差		+1.0	+1.9	+4.2	+4.1	+2.1	+1.3	+0.2	0.0	-1.7			
男性	今回調査	264	87.5	66.3	58.0	48.1	39.4	34.1	2.7	4.9	1.9			
	前回調査	456	82.2	63.6	55.0	41.7	41.4	31.8	1.1	4.4	3.7			
	スコア差		+5.3	+2.7	+3.0	+6.4	-2.0	+2.3	+1.6	+0.5	-1.8			

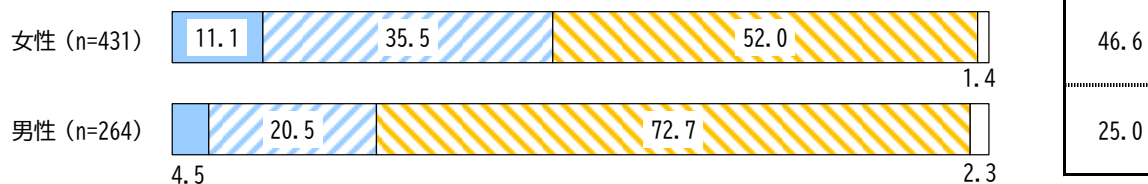
(3) 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」利用状況

問 29 あなたは、豊中市の男女共同参画推進の拠点施設「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ（豊中駅前）」を利用したことがありますか。（〇はひとつ）

【図表 8-3 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」利用状況】

(単位：%)

■ 利用したことがある ■ 利用したことはないが知っている
 ■ 知らない ■ 無回答



<性別> (図表 8-3)

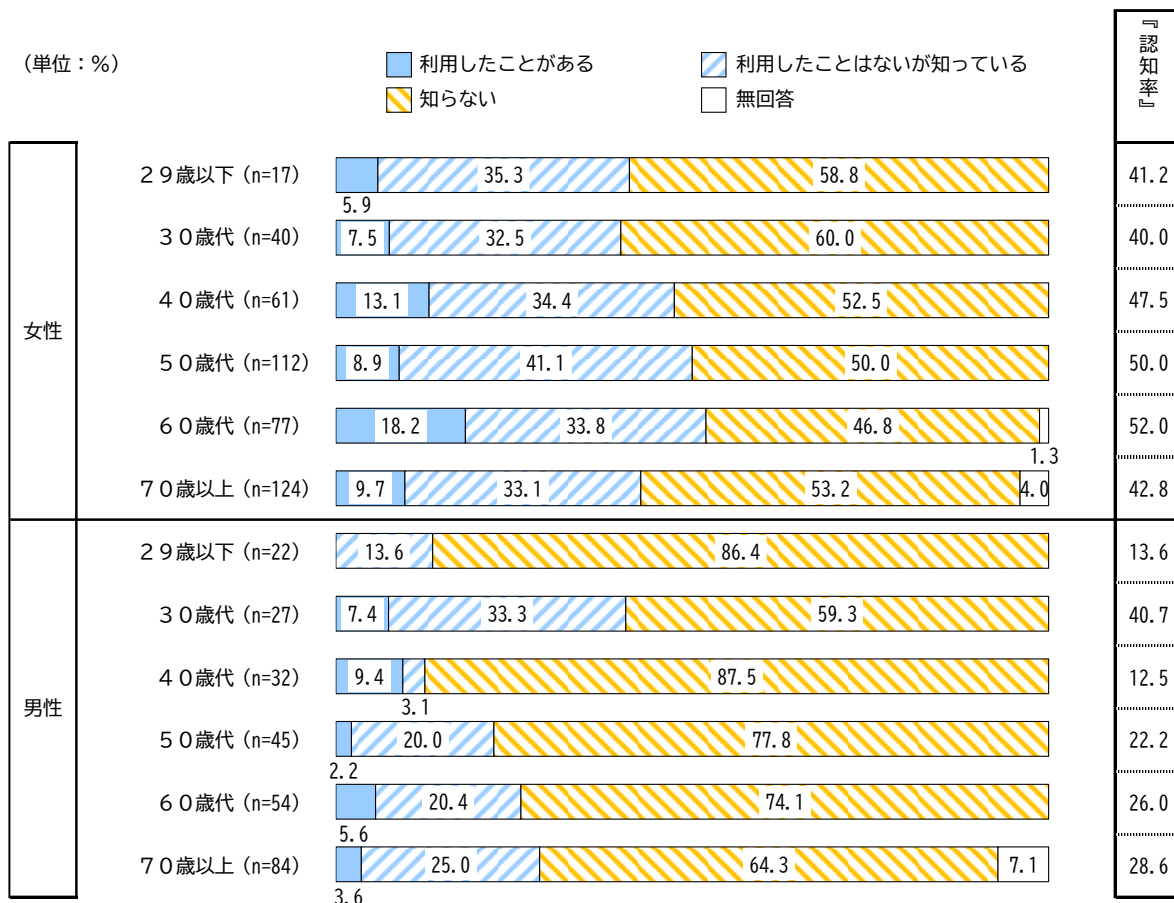
「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」の利用状況を見ると、「利用したことがある」は女性で11.1%、男性で4.5%、「利用したことはないが知っている」は女性で35.5%、男性で20.5%と、いずれも女性の方が高くなっている。「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『認知率』は、女性46.6%、男性25.0%で、女性の方が21.6ポイント高くなっている。

<性・年代別> (図表 8-3-1)

女性の『認知率』は50～60歳代が最も高く、5割台である。「利用したことがある」は、60歳代で18.2%、40歳代で13.1%である。

男性の『認知率』は、30歳代で40.7%と高いが、その他の年代は30%を下回る。いずれの年代も「利用したことがある」が10%を下回る。

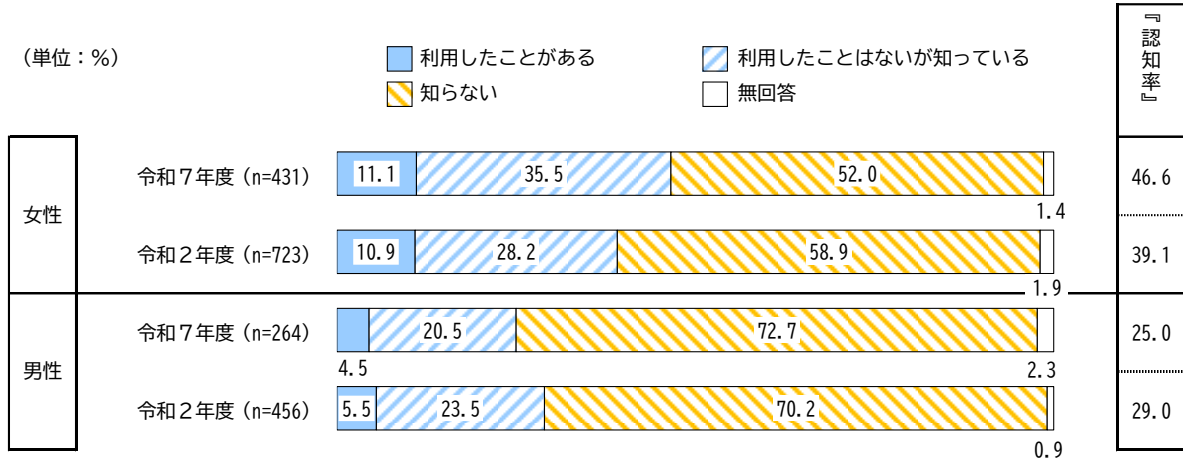
【図表 8-3-1 性・年代別 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」利用状況】



＜前回調査（令和2年（2020年））との比較＞（図表 8-3-2）

前回調査の結果に比べ、『認知率』は、女性では7.5ポイント上昇しているが、男性では大きな変化は見られない。「利用したことがある」は、男女ともに大きな変化はみられない。

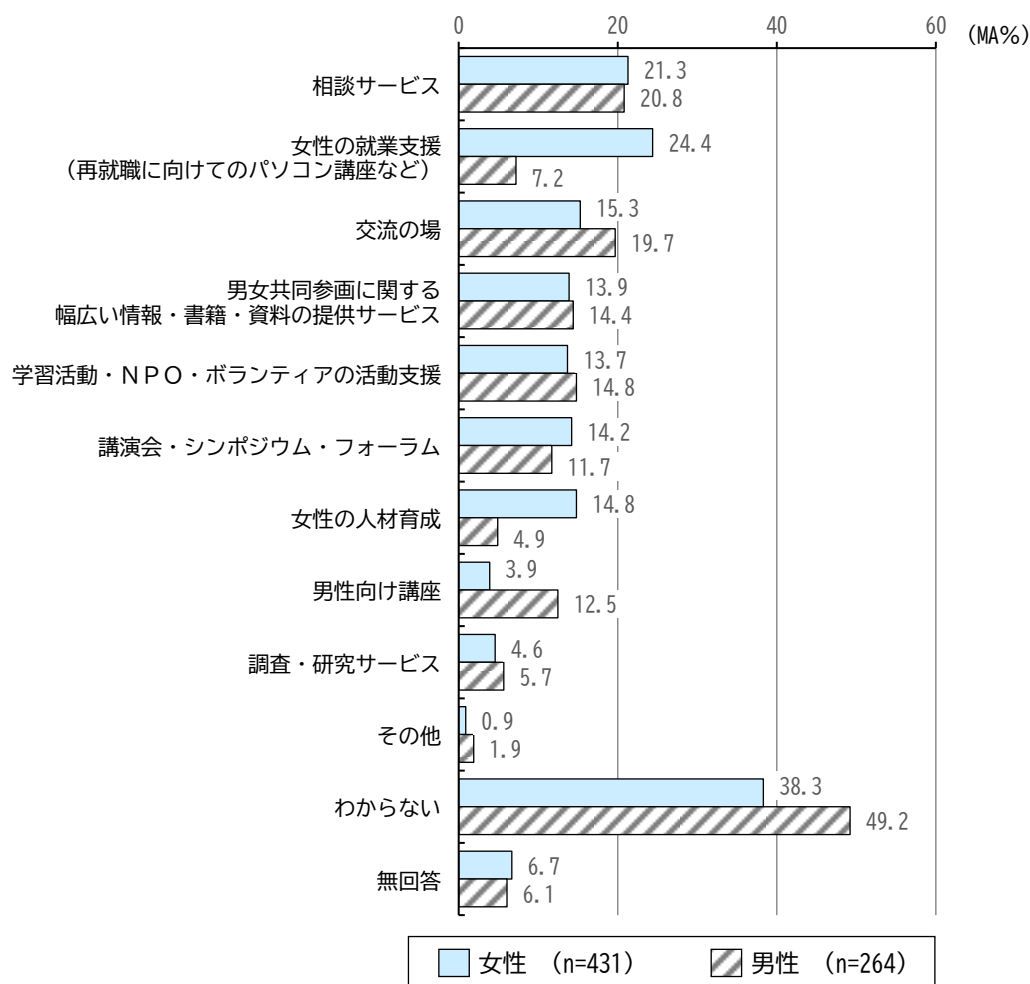
【図表 8-3-2 前回調査との比較 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」利用状況】



(4) 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら利用したいもの

問 30 豊中市の男女共同参画推進の拠点施設「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら、利用したいと思うものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

【図表 8-4 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら利用したいもの】



<性別> (図表 8-4)

「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら利用したいものは、女性では「女性の就業支援（再就職に向けてのパソコン講座など）」が24.4%で最も高く、「相談サービス」が21.3%で続いている。男性では、「相談サービス」が20.8%で最も高く、「交流の場」が19.7%で続いている。

<性・年代別> (図表 8-4-1)

女性では、50歳代以下で「女性の就業支援（再就職に向けてのパソコン講座など）」、60歳代では「講演会・シンポジウム・フォーラム」が全体に比べて高くなっている。

男性では、29歳以下では「交流の場」「学習活動・NPO・ボランティアの活動支援」「男性向け講座」、30歳代では「相談サービス」、50歳代では「学習活動・NPO・ボランティアの活動支援」「男性向け講座」などの割合が全体に比べて高くなっている。

【図表 8-4-1 性・年代別 「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら利用したいもの】

	n	相談サービス	女性の就業支援（再就職に向けてのパソコン講座など）	交流の場	幅広い情報提供サービス・書籍・資料の提供	男女共同参画に関する活動	学習活動・NPO・ボランティアの活動支援	講演会・シンポジウム	女性の人材育成	男性向け講座	調査・研究サービス	その他	わからない	無回答
全体	708	150	128	121	101	101	92	79	51	36	9	300	45	
	100.0	21.2	18.1	17.1	14.3	14.3	13.0	11.2	7.2	5.1	1.3	42.4	6.4	
女性	29歳以下	17	4	3	3	2	1	3	-	1	-	8	-	
		100.0	17.6	23.5	17.6	17.6	11.8	5.9	17.6	-	5.9	-	47.1	-
	30歳代	40	8	10	5	3	2	3	5	1	1	-	18	2
		100.0	20.0	25.0	12.5	7.5	5.0	7.5	12.5	2.5	2.5	-	45.0	5.0
	40歳代	61	9	16	5	7	4	3	8	1	1	-	33	1
		100.0	14.8	26.2	8.2	11.5	6.6	4.9	13.1	1.6	1.6	-	54.1	1.6
	50歳代	112	24	40	22	18	20	13	22	3	5	1	36	4
	100.0	21.4	35.7	19.6	16.1	17.9	11.6	19.6	2.7	4.5	0.9	32.1	3.6	
60歳代	77	17	16	13	12	13	19	14	3	5	-	27	1	
	100.0	22.1	20.8	16.9	15.6	16.9	24.7	18.2	3.9	6.5	-	35.1	1.3	
70歳以上	124	31	19	18	17	18	22	12	9	7	3	43	21	
	100.0	25.0	15.3	14.5	13.7	14.5	17.7	9.7	7.3	5.6	2.4	34.7	16.9	
男性	29歳以下	22	3	3	7	3	6	3	4	3	-	13	-	
		100.0	13.6	13.6	31.8	13.6	27.3	13.6	18.2	13.6	-	59.1	-	
	30歳代	27	10	-	5	2	3	3	1	3	4	2	10	-
		100.0	37.0	-	18.5	7.4	11.1	11.1	3.7	11.1	14.8	7.4	37.0	-
	40歳代	32	5	2	5	4	4	2	-	4	1	-	24	1
		100.0	15.6	6.3	15.6	12.5	12.5	6.3	-	12.5	3.1	-	75.0	3.1
	50歳代	45	8	3	9	8	11	8	2	9	2	3	19	1
	100.0	17.8	6.7	20.0	17.8	24.4	17.8	4.4	20.0	4.4	6.7	42.2	2.2	
60歳代	54	10	4	9	8	4	3	3	5	2	-	31	1	
	100.0	18.5	7.4	16.7	14.8	7.4	5.6	5.6	9.3	3.7	-	57.4	1.9	
70歳以上	84	19	7	17	13	11	12	4	8	3	-	33	13	
	100.0	22.6	8.3	20.2	15.5	13.1	14.3	4.8	9.5	3.6	-	39.3	15.5	

<前回調査（令和2年（2020年））との比較>（図表 8-4-2）

前回調査の結果に比べ、女性では大きな変化はみられない。男性は、「相談サービス」が 5.9 ポイント、「交流の場」が 5.0 ポイント上昇している。

【図表 8-4-2 前回調査との比較

「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」にあったら利用したいもの】

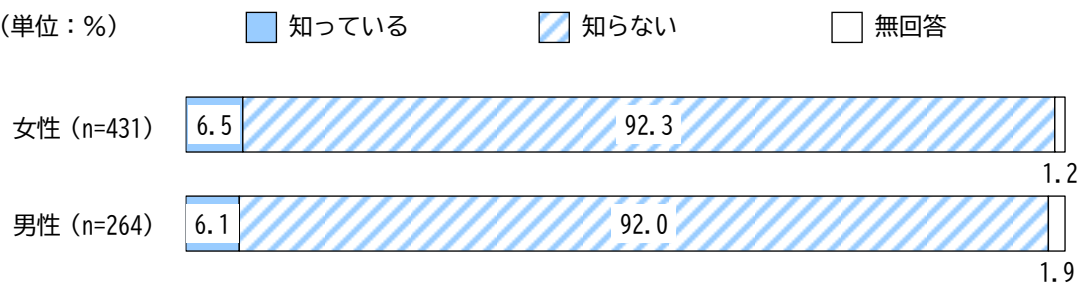
		(MA%)												
		n	相談サービス	女性の就業支援（再就職に向けたパソコン講座など）	交流の場	男女共同参画に関する幅広い情報・書籍・資料の提供サービス	学習活動・NPO・ボランティア	講演会・シンポジウム・フォーラム	女性の人材育成	男性向け講座	調査・研究サービス	その他	わからない	無回答
女性	今回調査	431	21.3	24.4	15.3	13.9	13.7	14.2	14.8	3.9	4.6	0.9	38.3	6.7
	前回調査	723	18.1	24.3	14.4	16.2	16.0	15.1	14.9	3.7	4.0	1.0	34.3	10.1
	スコア差		+3.2	+0.1	+0.9	-2.3	-2.3	-0.9	-0.1	+0.2	+0.6	-0.1	+4.0	-3.4
男性	今回調査	264	20.8	7.2	19.7	14.4	14.8	11.7	4.9	12.5	5.7	1.9	49.2	6.1
	前回調査	456	14.9	5.0	14.7	19.5	10.7	9.9	3.7	15.1	6.1	1.5	45.4	9.0
	スコア差		+5.9	+2.2	+5.0	-5.1	+4.1	+1.8	+1.2	-2.6	-0.4	+0.4	+3.8	-2.9

(5) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の認知状況

問 31 あなたは、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援新法）が施行されたことを知っていますか。（○はひとつ）

【図表 8-5 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の認知状況】

(単位：%)



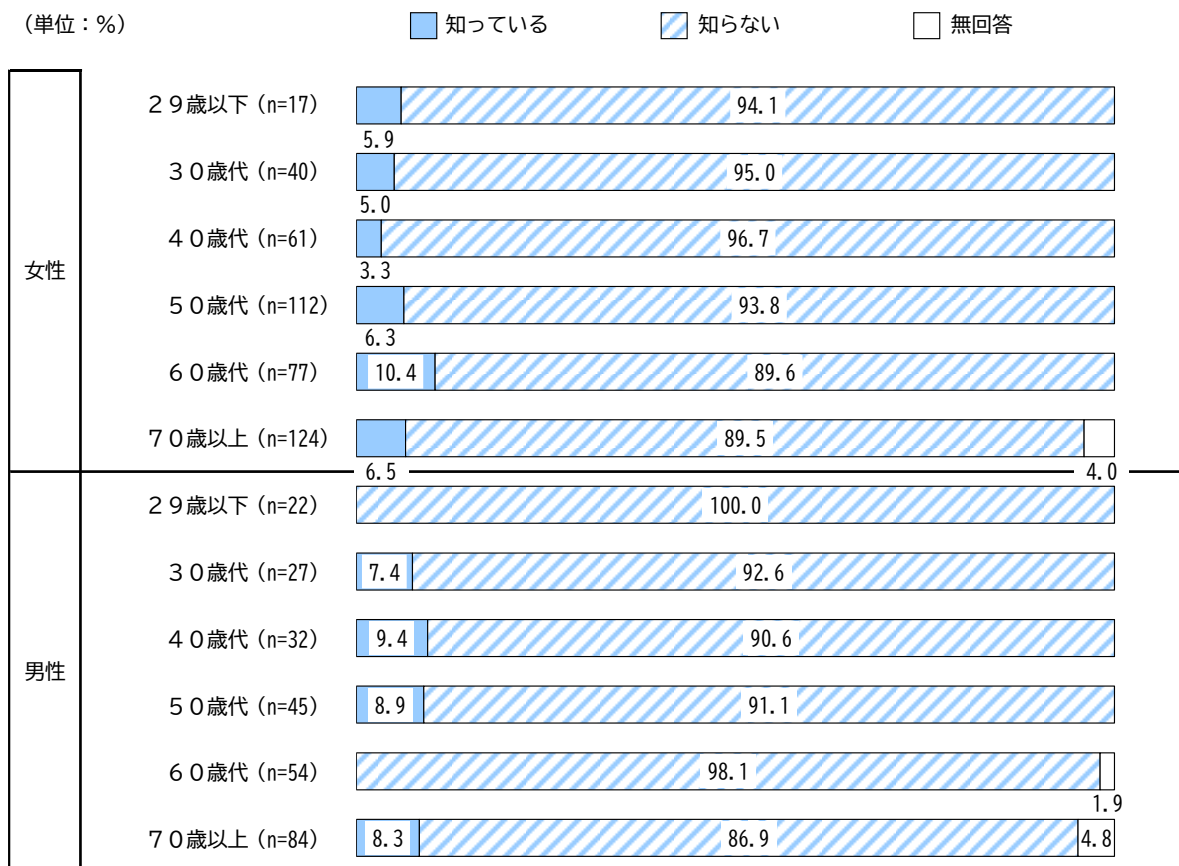
<性別> (図表 8-5)

「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の認知状況は、「知っている」が女性で6.5%、男性で6.1%である。

<性・年代別> (図表 8-5-1)

女性では、「知っている」は60歳代で10.4%で、その他の年代は10%を下回っている。男性では、「知っている」はすべての年代で10%を下回る。

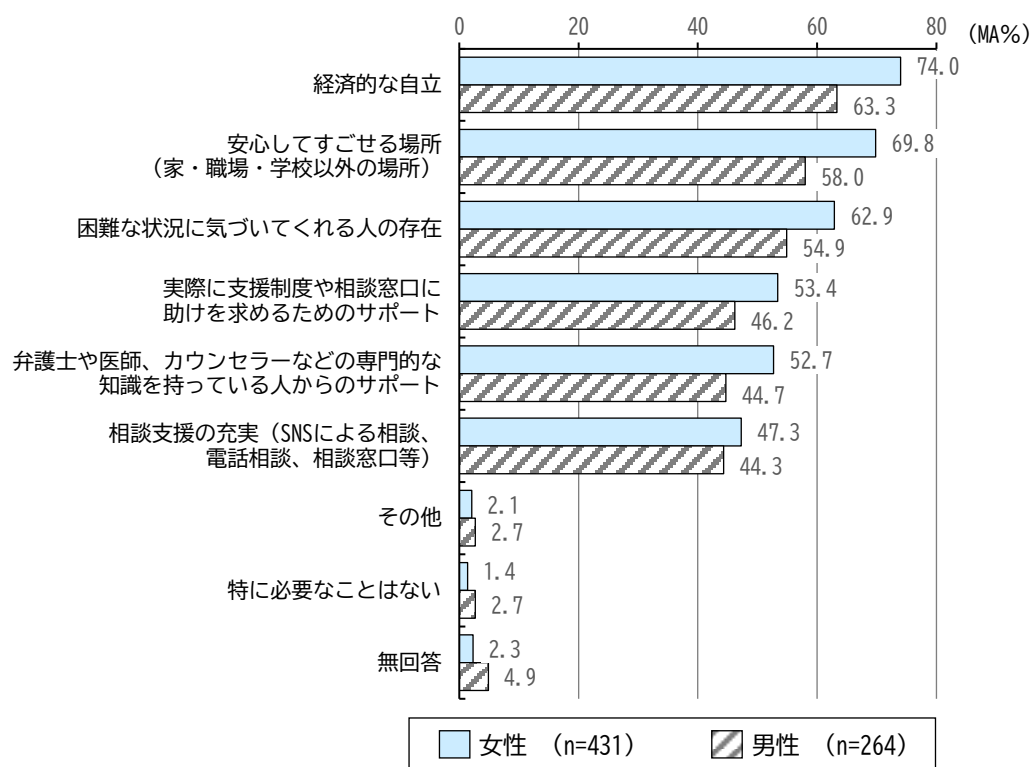
【図表 8-5-1 性・年代別 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の認知状況】



(6) 困難な状況から回復するために必要だと思うこと

問 32 困難な問題を抱えている状況から回復するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

【図表 8-6 困難な問題を抱えている状況から回復するために必要だと思うもの】



<性別> (図表 8-6)

困難な状況から回復するために必要だと思うことは、男女とも「経済的な自立」(女性 74.0%、男性 63.3%) が最も高く、次いで「安心してすごせる場所 (家・職場・学校以外の場所)」(女性 69.8%、男性 58.0%)、「困難な状況に気づいてくれる人の存在」(女性 62.9%、男性 54.9%) となっている。

いずれの項目も女性の割合が男性に比べて高く、特に「安心してすごせる場所 (家・職場・学校以外の場所)」「経済的な自立」では 10 ポイント以上となっている。

<性・年代別> (図表 8-6-1)

女性では、「経済的な自立」は30～50歳代で最も高い。29歳以下と70歳以上では、「安心してすごせる場所（家・職場・学校以外の場所）」が最も高くなっている。

男性では、29歳以下では「困難な状況に気づいてくれる人の存在」が72.7%で最も高く、30～40歳代では「安心してすごせる場所（家・職場・学校以外の場所）」、50歳代以上で「経済的な自立」が最も高い。

【図表 8-6-1 性・年代別 困難な問題を抱えている状況から回復するために必要だと思うもの】

	n	経済的な自立	安心してすごせる場所（家・職場・学校以外の場所）	困難な状況に気づいてくれる人の存在	実際にサポートを求めた場合	窓口のサポートを依頼する相談	知識やスキルを持つ専門家へのサポート	弁護士や医師、カウンセラー等による相談窓口	電話相談、相談窓口	相談支援の充実	その他	特に必要なことはない	無回答
全体 上段/実数	708	496	461	425	360	356	329	16	13	23			
下段/MA%	100.0	70.1	65.1	60.0	50.8	50.3	46.5	2.3	1.8	3.2			
女性	29歳以下	17	13	16	10	10	8	6	-	-	-	-	-
		100.0	76.5	94.1	58.8	58.8	47.1	35.3	-	-	-	-	-
	30歳代	40	34	28	31	19	16	16	1	-	-	-	-
		100.0	85.0	70.0	77.5	47.5	40.0	40.0	2.5	-	-	-	-
	40歳代	61	56	48	43	31	37	33	2	-	-	-	-
		100.0	91.8	78.7	70.5	50.8	60.7	54.1	3.3	-	-	-	-
	50歳代	112	90	86	76	68	62	53	2	-	-	-	1
	100.0	80.4	76.8	67.9	60.7	55.4	47.3	1.8	-	-	-	0.9	
60歳代	77	57	52	47	41	51	45	1	-	-	-	-	
	100.0	74.0	67.5	61.0	53.2	66.2	58.4	1.3	-	-	-	-	
70歳以上	124	69	71	64	61	53	51	3	6	9			
	100.0	55.6	57.3	51.6	49.2	42.7	41.1	2.4	4.8	7.3			
男性	29歳以下	22	15	15	16	9	15	11	-	1	-	-	-
		100.0	68.2	68.2	72.7	40.9	68.2	50.0	-	4.5	-	-	-
	30歳代	27	20	21	19	11	13	10	3	-	-	-	-
		100.0	74.1	77.8	70.4	40.7	48.1	37.0	11.1	-	-	-	-
	40歳代	32	20	24	18	16	14	16	1	2	-	-	-
		100.0	62.5	75.0	56.3	50.0	43.8	50.0	3.1	6.3	-	-	-
	50歳代	45	33	25	28	23	18	16	2	1	-	-	-
	100.0	73.3	55.6	62.2	51.1	40.0	35.6	4.4	2.2	-	-	-	
60歳代	54	39	36	29	27	23	26	-	2	3			
	100.0	72.2	66.7	53.7	50.0	42.6	48.1	-	3.7	5.6			
70歳以上	84	40	32	35	36	35	38	1	1	10			
	100.0	47.6	38.1	41.7	42.9	41.7	45.2	1.2	1.2	11.9			

(7) 自由回答一覧

問 33 男女共同参画社会の実現に向けたあなたのご意見、ご要望をお聞かせください。

(1) 男女共同参画実現に向けて必要なこと

男女共同参画の実現に向けて必要な取り組みや考え方に関する記述は多岐に渡り、計 79 件であった。以下ではそれらの内容をとりまとめ、①社会全般について、②女性について、③男性について、④子どもについて、⑤教育について、⑥企業について、⑦国・行政への要望について、⑧アンケートについて、⑨その他に分類している。

① 社会全般について

記述内容	回答数
差別、区別の無い社会の実現	12
男女の特性をもっと尊重する社会でありたい	4
賃金格差がなくなってほしい	3
いろいろな立場の人の視点で物事を考える事が、実現に近づくと思います	3
マイノリティに対する支援は必要だがそれを根拠に法を変えるのは著しく民主主義に反する。但し思いやりと配慮は必要	1
氷河期世代以上の年代の政治家や会社の上司が理解できないので、そこにアプローチする必要がある	1
男性が家事・育児を手伝うではなく、女性も夫・子供を養える仕事ができる社会になればいい	1
経済的自立の推進	1
自由すぎるSNS等での発言の抑制ないし該当発言の影響を受けすぎない頑健な社会	1
現在の若い人たちは男女とも大変。高齢者も自らを時代に合わせ努力すべき	1
男性、女性お互いが理解し合うための場をもっと設けるべきである	1
封建的な日本の風土を変えるのはまだまだ市民全員で取り組まなければならない	1
まず上に立つ男性の考えを根本的に変えないと社会は変わらない	1
それぞれの家庭の考えや事情があるのでそれを尊重すべきと思う	1
教育委員会の役割の再築、大人の社会的責任の重要さ	1
子供、若い人の教育は大事。家事力、生活力は基礎になるので全員が取り組めたらよい	1
仕事量と働き方を改革するか、保育園や介護施設などを拡充するか、どちらかあるいは両方が必要	1
計	35

② 女性について

記述内容	回答数
シングルマザーへの大きな経済支援をしてほしい	1
女性が活躍できる社会になってほしい	1
計	2

③ 男性について

記述内容	回答数
男性の意識を高める企画、支援を考えてほしい	1
男性の育児休暇の見直しをしてほしい	1
男性も働きやすい社会になってほしい	1
計	3

④ 子どもについて

記述内容	回答数
「ともに生活を支えて、ともに子供を育てる」という意識を小さい頃から持てる環境にしてほしい	1
自分以外を尊重出来る人格形成を幼少期から育てるのが大切だと思う	1
税金は子供を安全で育てやすい環境にするために使ってほしい	1
計	3

⑤ 教育について

記述内容	回答数
幼少期からの教育が非常に大事	3
男女問わずやりたい事に気軽に参加できる気持ち作りを子どもの時から育てる教育の充実	1
令和の子供達の教育に期待しています	1
幼少期や家庭において同じ考えができるよう教育して定着させるべき	1
計	6

⑥ 企業について

記述内容	回答数
まずは企業側の意識改革、制度改革が必要	1
子育てが落ち着いた女性のキャリアを活かした積極的雇用を望む	1
就業時間内での仕事を徹底し、育児や家事を公平に分担できるようにする	1
女性の給与見直し	1
男性も長期間育児休業が取れる会社が増えてほしい	1
被雇用者が多い現状では、企業への働きかけが必要	1
計	6

⑦ 国や行政への要望

記述内容	回答数
相談窓口の更なるサポートと充実	6
もっと市民に色々な形で情報共有をしてほしい	4
法整備、市民への理解に対する市の取組を今後も期待しています	3
多く事象の変更が必要であると考えられるが、注意深く着実に前進していかなければならない	1
懇談によって相談理解を推進する	1
自治体ではなく国の仕事だと思います	1
登校時間を早めることよりも朝早くから出勤せずに済むような社会にするために予算を使ってくださいを切に願います	1
豊中市が今取り組んでいこうとしているような事を全ての自治体でやるべきだと思います	1
行政から様々な企業への男女共同に関する働きかけやインタビューを行い、リレー式に紹介する	1
政府機関や自治体が率先して見本を見せると民間も真似するようになる	1
計	20

⑧ アンケートについて

記述内容	回答数
アンケートの内容に疑問がある	1
本アンケートの結果が今後の活動に反映されることを期待しております	1
計	2

⑨ その他

記述内容	回答数
シングルマザー・ファザーのニーズを汲み取った対応が重要	1
計	1

(2) 男女共同参画実現に対する所感・意見、その他所感・意見

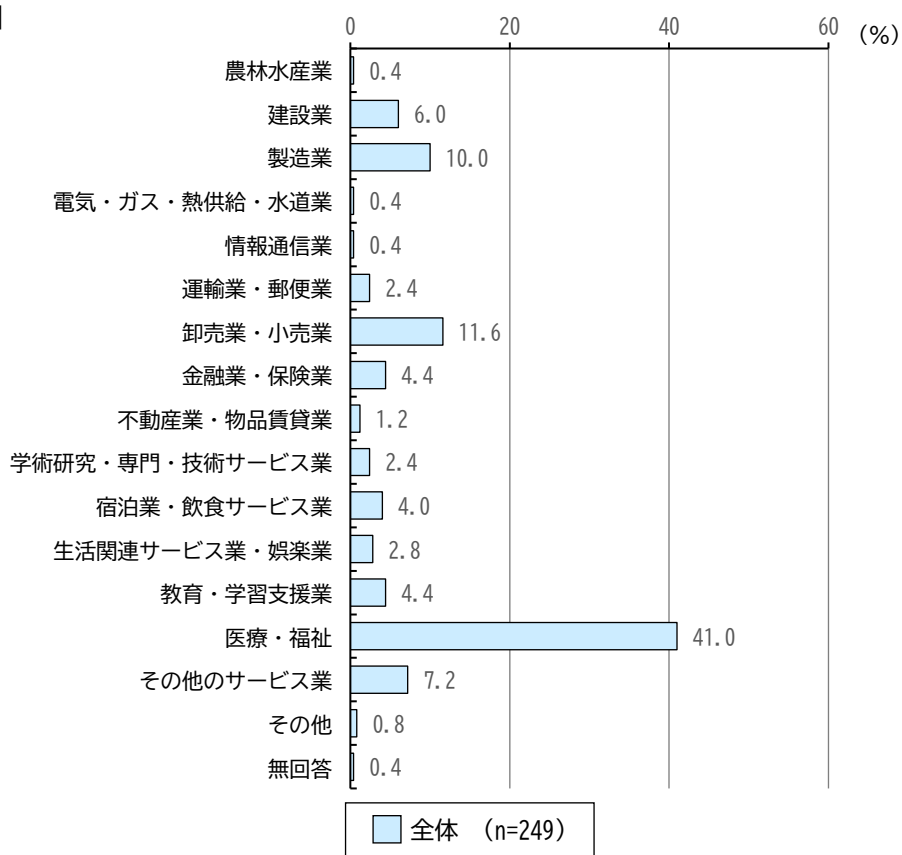
男女共同参画の実現に対する所感や意見は 106 件であった。性別等関係なく平等に暮らせる社会を望む意見、交流・勉強会やサポートを望む意見などの意見がみられた。

記述内容	回答数
本調査について	21
豊中市への言及	19
誰もが平等に生きていける世の中になることを望む	16
全て平等にするというのは無理があると思う	5
交流・勉強会の場を作ってほしい	4
女性が活躍できる社会になってほしい	3
高齢者が孤立しないようサポート体制の充実	2
自立をうながす社会制度の充実	2
その他	34
計	106

V. 回答者の属性（事業所調査）

1. 業種

【業種】



<全体>

回答者の業種は、「医療・福祉」が41.0%で最も高く、「卸売業・小売業」(11.6%)、「製造業」(10.0%)が続いている。

2. 法人形態

【法人形態】

- (単位：%)
- 法人（株式会社・有限会社・合資会社など）
 - 上記以外の法人（財団法人・社団法人・学校法人・社会福祉法人・医療法人など）
 - 個人自営業者
 - NPO法人（特定非営利活動法人）
 - その他
 - 無回答



<全体>

法人形態は、「法人（株式会社・有限会社・合資会社など）」が 66.3% を占める。「上記以外の法人（財団法人・社団法人・学校法人・社会福祉法人・医療法人など）」が 22.1%、「個人自営業者」が 7.2% となっている。

3. 事業所形態

【事業所形態】

- (単位：%)
- 単独事業所
 - 本社・本店
 - 支社・支店・営業所などの支所・工場
 - 無回答



<全体>

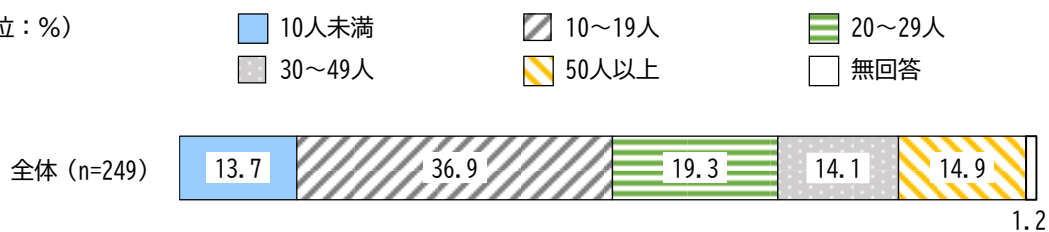
事業所形態は、「支社・支店・営業所などの支所・工場」が 38.6% で最も高く、「単独事業所」が 37.8%、「本社・本店」が 22.1% となっている。

4. 従業員数

(1) 正規・非正規雇用者数計

【正規・非正規雇用者数計】

(単位：%)



<全体>

正規・非正規雇用者を合わせた従業員数は、「10~19人」が36.9%で最も高く、「20~29人」(19.3%)、「50人以上」(14.9%)、「30~49人」(14.1%)、「10人未満」(13.7%)と続いている。

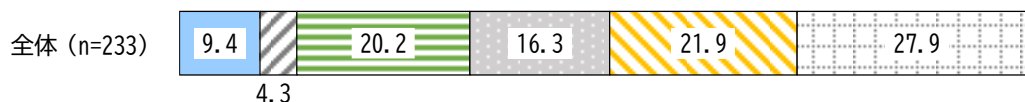
(2) 雇用形態別の女性割合

① 正規雇用

【正規雇用の女性割合】

(単位：%)

	0%		1~10%未満		10~30%未満
	30~50%未満		50~70%未満		70%以上
	無回答				



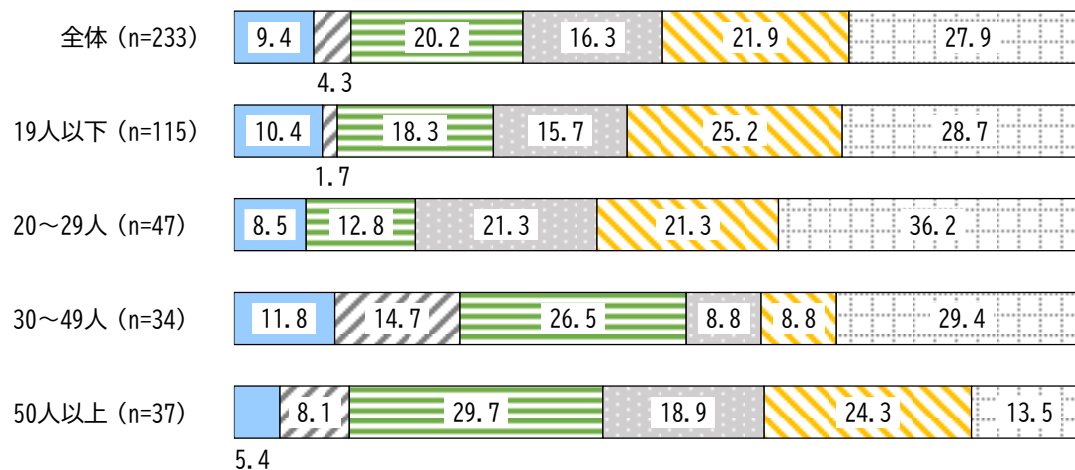
<全体>

正規雇用の女性の割合は、「70%以上」の割合が 27.9%で最も高く、「50~70%未満」(21.9%)、「10~30%未満」(20.2%)が続いている。

【事業所規模別 正規雇用の女性割合】

(単位：%)

	0%		1~10%未満		10~30%未満
	30~50%未満		50~70%未満		70%以上
	無回答				



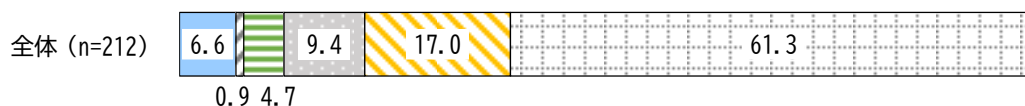
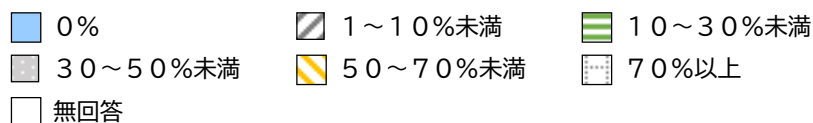
<事業所規模別>

49人以下の事業所では、いずれも「70%以上」が最も高くなっており、20~29人の事業所で36.2%、30~49人の事業所で29.4%、19人以下の事業所で28.7%となっている。50人以上の事業所では「10~30%未満」の割合が29.7%で最も高くなっている。

②正規雇用以外

【正規雇用以外の女性割合】

(単位：%)

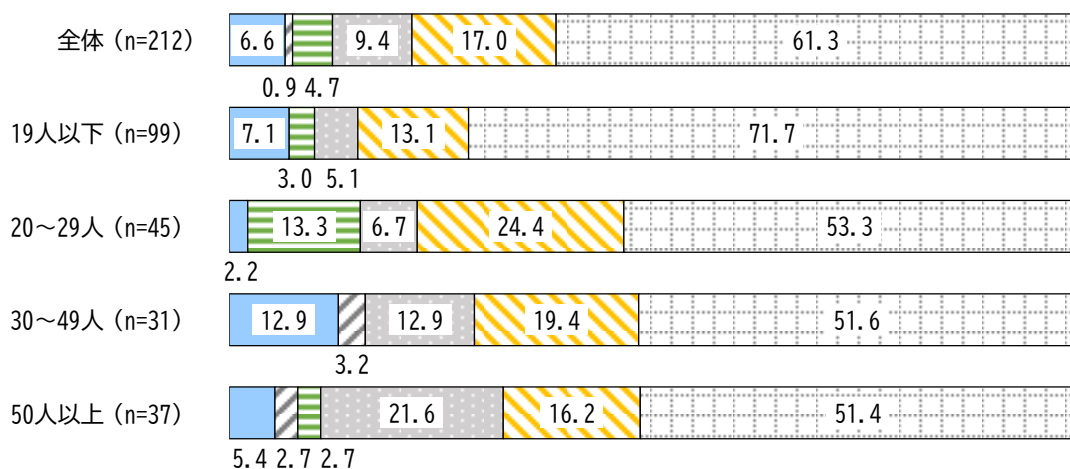
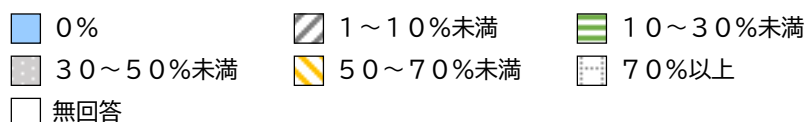


<全体>

正規雇用以外の女性の割合は、「70%以上」が61.3%と最も高い。「50~70%未満」(17.0%)、「30~50%未満」(9.4%)と続いている。

【事業所規模別 正規雇用以外の女性割合】

(単位：%)



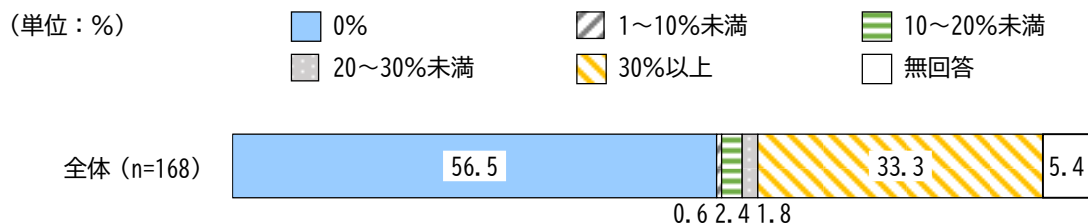
<事業所規模別>

いずれの事業所規模でも、「70%以上」が最も高くなっており、19人以下で71.7%、その他の事業所規模で5割台となっている。

5. 役職別の女性割合

①部長以上相当職

【部長以上相当職の女性割合】



<全体>

部長以上相当職の女性の割合は、「0%」が56.5%で最も高く、次いで、「30%以上」が33.3%となっている。

②課長相当職

【課長相当職の女性割合】

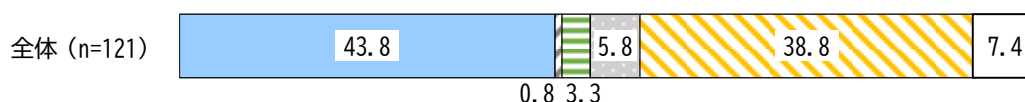
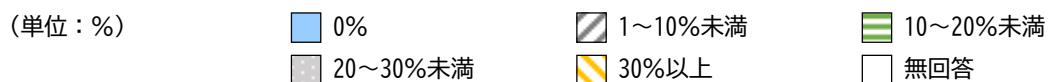


<全体>

課長相当職の女性の割合は、「0%」が51.9%で最も高く、次いで、「30%以上」が36.1%となっている。

③係長相当職

【係長相当職の女性割合】



<全体>

係長相当職の女性の割合は、「0%」が43.8%で最も高く、「30%以上」が38.8%となっている。

VI. 結果の概要（事業所調査）

1. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

（1）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する取り組み状況【問6】

- 「労働関係法などで定められた範囲で取り組んでいる」が57.0%で最も高く、「積極的に取り組んでいる（労働関係法などで定められた範囲以上に）」が23.3%、「必要性は感じるが、取り組み実施の予定はない」が7.2%である。

（2）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の取り組みを進める上での阻害要因【問6-1】

- 「雇用管理が煩雑になる」が38.9%で最も高く、「様々な価値観を持つ社員がいるため共感を得られにくい」が37.6%と僅差で続いている。
- 事業所規模別では、19人以下では「雇用管理が煩雑になる」、20～29人と30～49人では「様々な価値観を持つ社員がいるため共感を得られにくい」、50人以上では「雇用管理が煩雑になる」「様々な価値観を持つ社員がいるため共感を得られにくい」が同率で最も高くなっている。

（3）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の取り組みを進める上で重要だと思うこと【問6-2】

- 「経営陣の理解の促進」が50.4%で最も高く、「管理職への周知の徹底・理解の促進」が48.7%、「従業員への両立支援制度の情報提供」が46.0%と続いている。
- 事業者規模別では、「管理職への周知の徹底・理解の促進」は、従業員規模が大きくなるほど高くなっており、19人以下で38.4%に対し、50人以上では80.0%に上る。50人以上では「従業員への両立支援制度の情報提供」「人事・労務担当への周知徹底・理解促進」の割合が全体に比べて高くなっている。

（4）育児休業・介護休業取得状況

①取得状況【問7】

- 育児休業は、「取得者がいる」は34.9%であった。「対象者がいなかったため取得者はいない」が59.0%、「その他の理由で取得者はいない」が1.6%である。「取得者がいる」割合は、50人以上が67.6%で、規模が小さい程おおむね取得率は低くなっている。
- 介護休業は、「取得者がいる」は5.2%と少なく、「対象者がいなかったため取得者はいない」が87.1%を占めている。「取得者がいる」割合は、50人以上が13.5%で、規模が小さい程おおむね取得率は低く、49人以下は10%を下回っている。

②取得者の性別構成および取得期間【問8】

- 育児休業取得者がいる事業所（87件）における育児休業取得人数190名の性別の内訳は、「女性」が78.4%、「男性」は21.1%である。
- 介護休業取得者がいる事業所（13件）における介護休業取得人数は16名と少ないが、性別内訳は、「男性」が56.3%、「女性」が43.8%である。

(5) 育児や介護と仕事の両立を支援するために取り組んでいること【問9】

- 「育児・介護における休業制度を設けている」が62.2%で最も高く、「勤務時間短縮などの措置を講じている」「有給休暇取得の促進を実施している」が続いている。
- 事業所規模別では、「育児・介護における休業制度を設けている」は、事業規模が大きくなるほど取組率が高くなっており、50人以上では81.1%と高いが、19人以下では54.8%にとどまる。
- 課長職以上女性登用別では、「育児・介護における休業制度を設けている」の割合が、登用ありで74.8%、登用なしで52.0%と20ポイント以上の差がみられた。

(6) 育児休業や介護休業を定着させる上での問題点【問10】

- 「休業期間中の代替要員の確保が難しい」が76.3%で最も高く、「休業者の周りの人の業務負担が多くなる」が52.2%で続いている。
- いずれの事業所規模でも、「休業期間中の代替要員の確保が難しい」が最も高い。

2. LGBTをはじめとする性的少数者の人権問題について

(1) LGBTをはじめとする性的少数者の人権問題の認識状況【問11】

- 「知っている」が88.4%である。
- いずれの事業所規模でも「知っている」が80%を超えている。

(2) LGBTをはじめとする性的少数者への配慮に関して取り組んでいること【問12】

- 80.7%が「特に取り組んでいるものはない」となっている。実際に取り組んでいることでは、「従業員の理解促進のための講習会や研修を実施している」が10.4%で最も高い。
- 事業所規模別では、「従業員の理解促進のための講習会や研修を実施している」は、事業所規模が大きくなるほど高く、50人以上では24.3%となっている。19人以下では、「特に取り組んでいるものはない」が88.1%と高く、いずれの取組みも5%未満である。

3. 各種ハラスメント（嫌がらせ）の対策について

(1) ハラスメント（嫌がらせ）対策実施状況【問13】

- 取組を実施している割合は「パワーハラスメントの防止」が61.4%で最も高く、「セクシュアルハラスメントの防止」が58.2%、「妊娠出産育児休業に関するハラスメントの防止」「介護休業に関するハラスメントの防止」がともに45.8%である。
- 事業所規模別では、取組を実施している割合は、「セクシュアルハラスメントの防止」「妊娠出産育児休業に関するハラスメントの防止」では50人以上、「介護休業に関するハラスメントの防止」「パワーハラスメントの防止」では20～29人で高くなっている。19人以下では、いずれの取組も実施率が低めとなっている。

(2) ハラスメント（嫌がらせ）対策として取り組んでいるもの【問 14】

- 「就業規則や社内規程などでハラスメント禁止を規定している」が 63.1%で最も高く、「社内啓発のための研修などを開催している」が 38.2%、「啓発資料などを配布している」が 23.7%で続いている。
- 事業所規模別では、「就業規則や社内規定などでハラスメント禁止を規定している」「社内啓発のための研修などを開催している」「啓発資料などを配布している」は、概ね企業規模が大きくなるほど高くなっている。19 人以下ではいずれの取組も割合が低めで、「特に取り組んでいない」が 28.6%である。

4. 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）について

(1) 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）に関する取り組み状況【問 15】

- 「取組を実施している」項目では「④性別に関係のない人事考課を実施している」が 66.7%で最も高く、「⑤性別に関係ない教育訓練や研修の実施」が 62.7%、「⑥性別に関係なく多様な働き方ができる環境づくり（仕事と家庭の両立支援）」が 58.2%、「③能力がある女性の管理職への積極的登用」が 50.2%で続いている。「⑧女性社員の活躍促進に関する相談窓口」は「取組の必要性を感じない」の割合が 36.1%と最も高くなっている。

(2) 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）に関する取り組みの成果【問 16】

- 「女性従業員の定着率が向上した」が 39.1%で最も高く、「男女とも意欲や能力のある人材の活用が進んだ」「多様な視点を持つことにつながり、多方面へのニーズに対応できた」「管理職に女性を登用する機運が高まった」が続いている。

(3) 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）に関する取り組みにあたる問題点【問 17】

- 「家庭生活に配慮する必要がある」が 51.4%で最も高く、「女性の昇進意欲が低い」「時間外労働、深夜労働をさせにくい」が 2 割台で続いている。

(4) 一般事業主行動計画策定状況

①策定状況

- 「策定済み」が 14.9%、「策定予定」が 6.8%である。一方「策定予定なし」は 36.9%、「一般事業主行動計画を知らない」が 37.8%である。

5. 男女共同参画の推進について

(1) 認証制度の認知状況【問 19】

- いずれの認証制度も「知らない」が 70%前後となっている。取得している割合は、「くるみん認定」で 6.8%と最も高く、「豊中市女性活躍推進事業者認証制度」は 2.0%となっている。

(2) 男女共同参画に関する支援意向【問 20】

- 「ぜひ受けたい」は 6.8%、「受けてみてもよい」が 49.8%、「受けたいと思わない」が 41.0%である。

(3) 利用したい男女共同参画支援内容【問 21】

- 「経済的支援（補助金や減税など）」が 39.4%で最も高く、「事業所や労働者のための相談支援の充実」「事業所（企業）の取組事例、関連情報、ノウハウの提供」「広報誌やパンフレットによる事業所への啓発」が 2 割台で続いている。
- 事業所規模別では、30～49 人以外のすべての規模で「経済的支援（補助金や減税など）」が最も高い。30～49 人では「男女共同参画推進のための講座やセミナーの実施」「事業所における研修会などへの講師派遣・支援」の割合が全体に比べて高くなっている。

(4) 関心のある講座・研修内容【問 21-1】

- 「ワーク・ライフ・バランス及びディーセントワーク（人間らしく働くこと）」が 71.1%で最も高く、「職場におけるハラスメント防止」「労働法関係」が 5 割台で続いている。

VII. 調査結果（事業所調査）

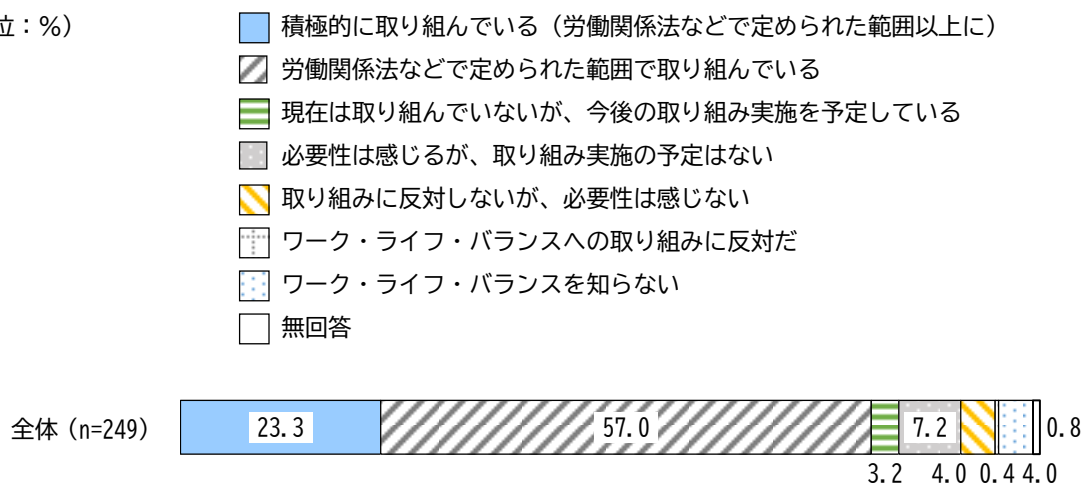
1. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

（1）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する取り組み状況

問6 貴事業所における、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）への取り組みについて、あてはまるものをすべてお選びください。（○はひとつ）

【図表 1-1 仕事と生活の調和に関する取り組み状況】

（単位：％）



<全体>（図表 1-1）

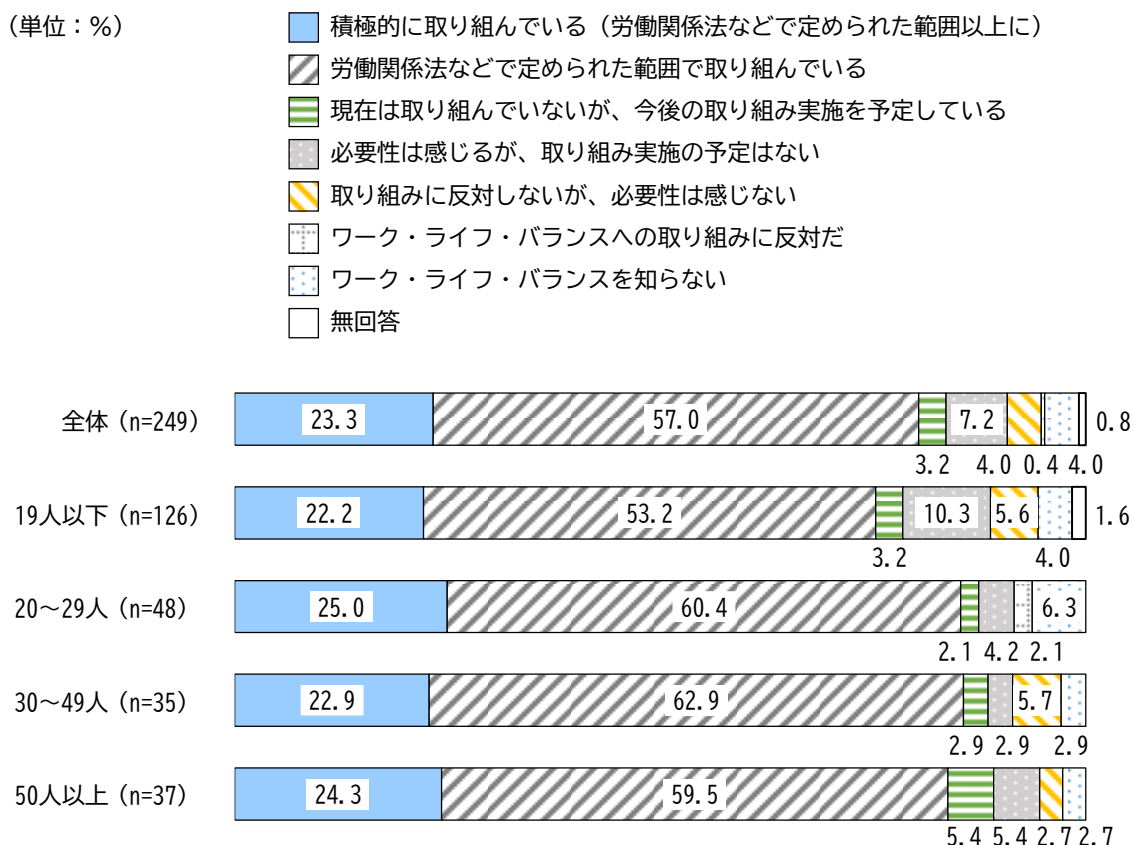
仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）への取り組みについては、「労働関係法などで定められた範囲で取り組んでいる」が 57.0%で最も高く、「積極的に取り組んでいる（労働関係法などで定められた範囲以上に）」が 23.3%、「必要性は感じるが、取り組み実施の予定はない」が 7.2%で続いている。一方、「ワーク・ライフ・バランスを知らない」が 4.0%みられた。

<事業所規模別> (図表 1-1-1)

いずれの事業所規模でも、「労働関係法などで定められた範囲で取り組んでいる」が最も高く、「積極的に取り組んでいる（労働関係法などで定められた範囲以上に）」がそれに続いている。「積極的に取り組んでいる（労働関係法などで定められた範囲以上に）」は、事業所規模に関わらず2割台である。

現在、「労働関係法などで定められた範囲で取り組んでいる」と「積極的に取り組んでいる（労働関係法などで定められた範囲以上に）」を合わせた『取り組みをしている』は、30～49人で85.8%と最も高く、20～29人が85.4%と僅差で続いている。一方19人以下では75.4%となっている。

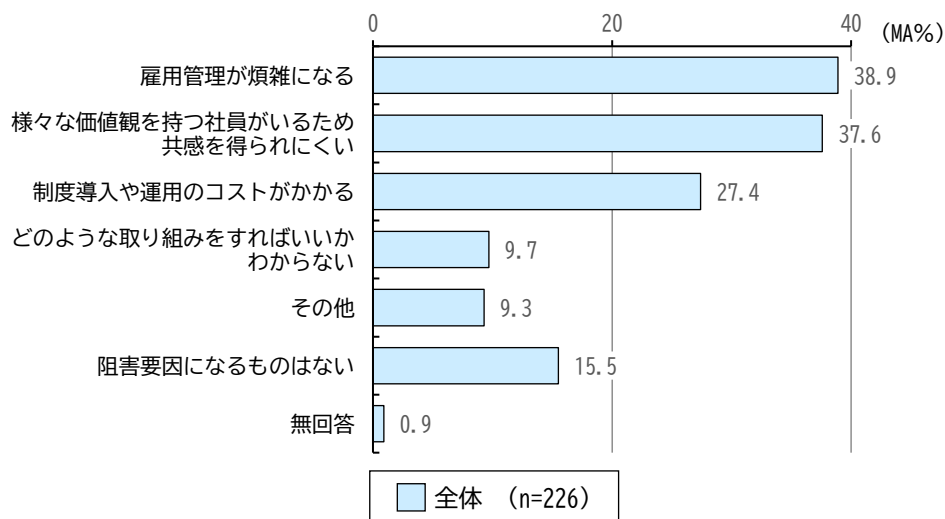
【図表 1-1-1 事業所規模別 仕事と生活の調和に関する取り組み状況】



(2) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の取り組みを進める上での阻害要因

問 6-1 貴事業所でのワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）への取り組み推進において、どのようなことが阻害要因になると思いますか。（〇はいくつでも）

【図表 1-2 仕事と生活の調和の取り組みを進める上での阻害要因】



<全体> (図表 1-2)

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の取り組みを推進する上での阻害要因は、「雇用管理が煩雑になる」が 38.9%で最も高く、「様々な価値観を持つ社員がいるため共感を得られにくい」が 37.6%と僅差が続いている。次いで、「制度導入や運用のコストがかかる」が 27.4%となっている。「阻害要因になるものはない」も 15.5%みられた。

<事業所規模別> (図表 1-2-1)

19人以下では「雇用管理が煩雑になる」、20～29人や30～49人では「様々な価値観を持つ社員がいるため共感を得られにくい」が最も高くなっている。50人以上では「雇用管理が煩雑になる」と「様々な価値観を持つ社員がいるため共感を得られにくい」がともに45.7%と高い。

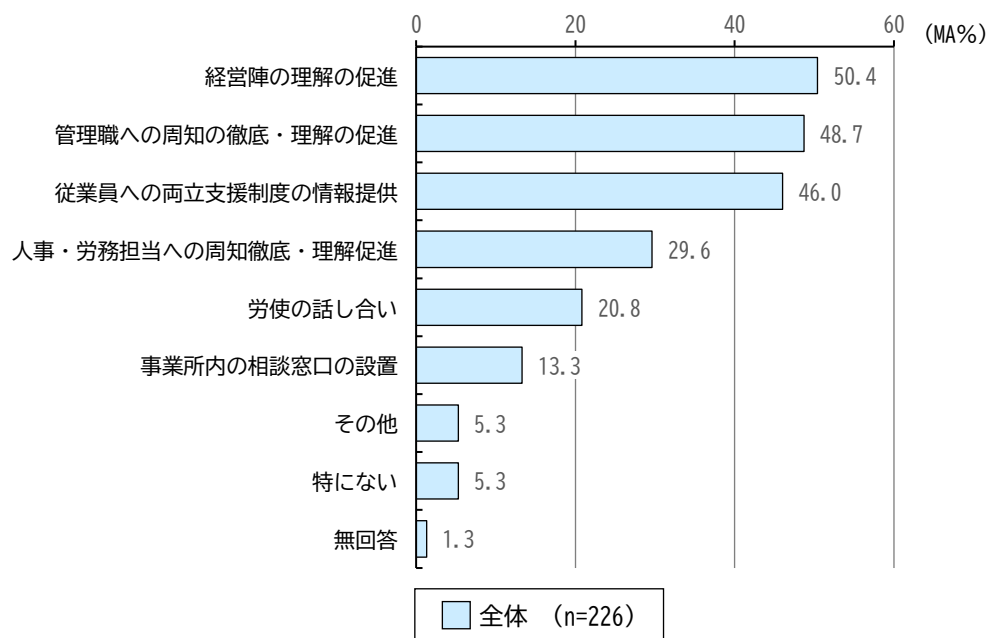
【図表 1-2-1 事業所規模別 仕事と生活の調和の取り組みを進める上での阻害要因】

	n	雇用管理が煩雑になる	様々な価値観を持つ社員がいるため共感を得られにくい	制約が導入や運用のコストがかかる	いすどのばよいか取り組みを	その他	ない阻害要因になるものは	無回答	
全体	上段/実数 下段/MA%	226 100.0	88 38.9	85 37.6	62 27.4	22 9.7	21 9.3	35 15.5	2 0.9
事業所規模別	19人以下	112 100.0	44 39.3	38 33.9	29 25.9	15 13.4	10 8.9	17 15.2	- -
	20～29人	44 100.0	14 31.8	16 36.4	9 20.5	4 9.1	6 13.6	6 13.6	1 2.3
	30～49人	32 100.0	12 37.5	13 40.6	12 37.5	- -	3 9.4	4 12.5	- -
	50人以上	35 100.0	16 45.7	16 45.7	11 31.4	3 8.6	2 5.7	8 22.9	1 2.9

(3) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の取り組みを進める上で重要だと思うこと

問 6-2 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の充実のために、重要だと思うものをすべてお選びください。（〇はいくつでも）

【図表 1-3 仕事と生活の調和の充実のために重要だと思うこと】



<全体> (図表 1-3)

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の充実のために重要だと思うことは、「経営陣の理解の促進」が50.4%で最も高く、「管理職への周知の徹底・理解の促進」(48.7%)、「従業員への両立支援制度の情報提供」(46.0%)と続いている。「人事・労務担当者への周知徹底・理解促進」と「労使の話し合い」は2割台となっている。

＜事業所規模別＞（図表 1-3-1）

「管理職への周知の徹底・理解の促進」は、従業員規模が大きくなるほど高くなっており、19人以下で38.4%なのに対し、50人以上では80.0%と、41.6ポイントの差がみられた。50人以上では、いずれの項目も高くなっており、「従業員への両立支援制度の情報提供」が62.9%、「人事・労務担当者への周知徹底・理解促進」が45.7%と、いずれも全体に比べて10ポイント以上高い。「経営陣の理解の促進」は、19人以下、20～29人、50人以上のいずれでも5割台となっている。

【図表 1-3-1 事業所規模別 仕事と生活の調和の充実のために重要だと思うこと】

		n	経営陣の理解の促進	管理職への周知の徹底	従業員への両立支援	人事・労務担当者への周知徹底	労使の話し合い	事業所内の相談窓口	その他	特にない	無回答
全体	上段/実数	226	114	110	104	67	47	30	12	12	3
	下段/MA%	100.0	50.4	48.7	46.0	29.6	20.8	13.3	5.3	5.3	1.3
事業所規模別	19人以下	112	57	43	46	26	25	10	8	7	-
		100.0	50.9	38.4	41.1	23.2	22.3	8.9	7.1	6.3	-
	20～29人	44	23	20	22	16	7	8	1	2	2
		100.0	52.3	45.5	50.0	36.4	15.9	18.2	2.3	4.5	4.5
	30～49人	32	13	19	14	9	9	6	1	1	-
		100.0	40.6	59.4	43.8	28.1	28.1	18.8	3.1	3.1	-
	50人以上	35	19	28	22	16	6	5	1	2	1
		100.0	54.3	80.0	62.9	45.7	17.1	14.3	2.9	5.7	2.9

(4) 育児休業・介護休業取得状況

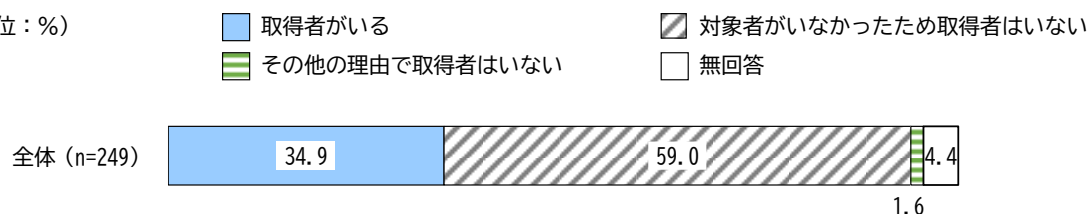
①取得状況

問7 貴事業所で、令和6年(2024年)4月～令和7年(2025年)3月の期間に育児休業(産前・産後休業を除きます)・介護休業を取得した従業員はいますか。

【図表 1-4① 取得状況】

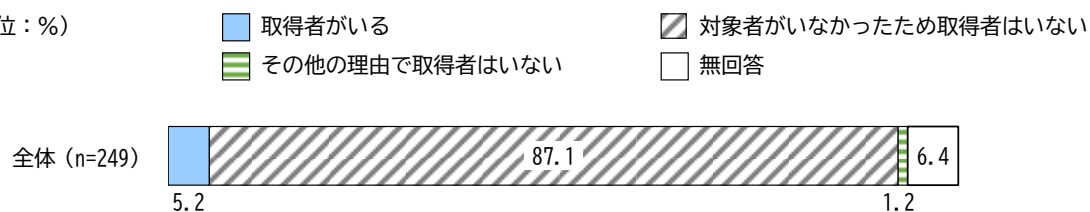
《育児休業》

(単位：%)



《介護休業》

(単位：%)



＜全体＞ (図表 1-4①)

育児休業の取得状況をみると、「取得者がいる」は34.9%であった。「対象者がいなかったため取得者はいない」が59.0%、「その他の理由で取得者はいない」が1.6%となっている。

介護休業については、「取得者がいる」は5.2%と少なく、「対象者がいなかったため取得者はいない」が87.1%を占めている。「その他の理由で取得者はいない」は1.2%となっている。

<事業所規模別> (図表 1-4①-1)

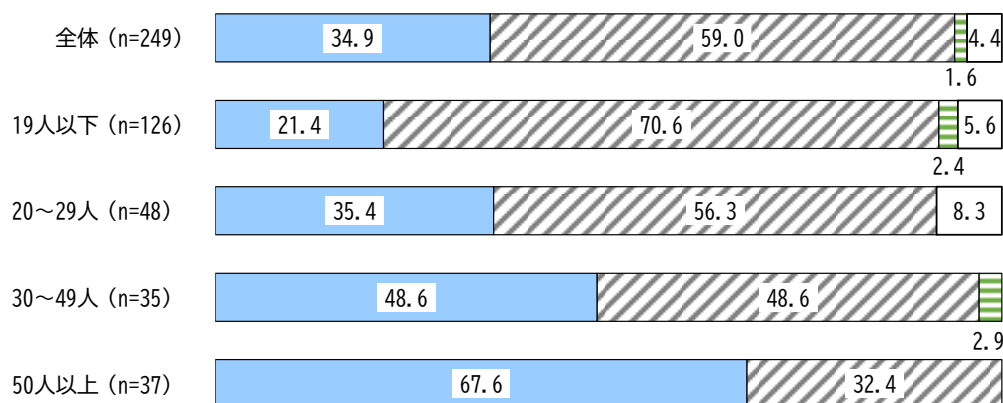
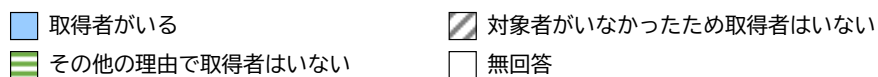
育児休業について、「取得者がいる」は、規模が大きいほど高くなっており、50人以上で67.6%である。30~49人で48.6%、20~29人で35.4%、19人以下で21.4%となっている。

介護休業について、「取得者がいる」は、概ね規模が大きいほど高くなっており、50人以上で13.5%である。30~49人で8.6%、20~29人で2.1%、19人以下で3.2%となっている。

【図表 1-4①-1 事業所規模別 取得状況】

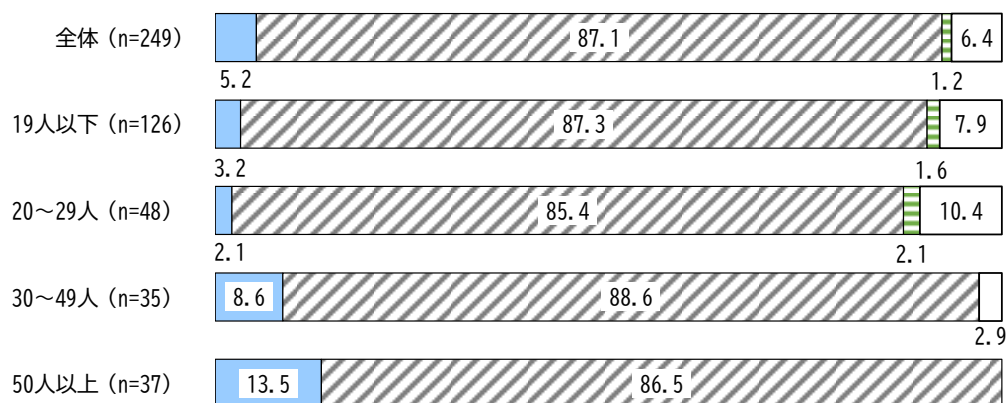
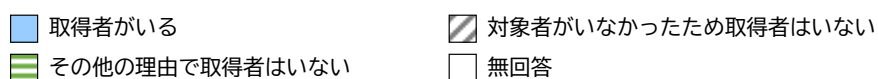
<<育児休業>>

(単位：%)



<<介護休業>>

(単位：%)



<課長職以上女性登用別> (図表 1-4①-2)

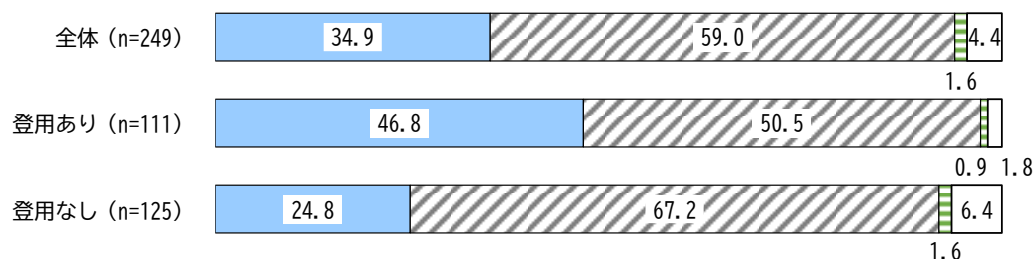
課長職以上で女性登用がある事業所とない事業所別に育児休業の取得状況を比較した。「取得者がいる」は、登用ありで46.8%、登用なしで24.8%と、22.0ポイントの差がみられた。

介護休業については、「取得者がいる」は、登用ありで7.2%、登用なしで4.0%と大きな差はみられない。

【図表 1-4①-2 課長職以上女性登用別 取得状況】

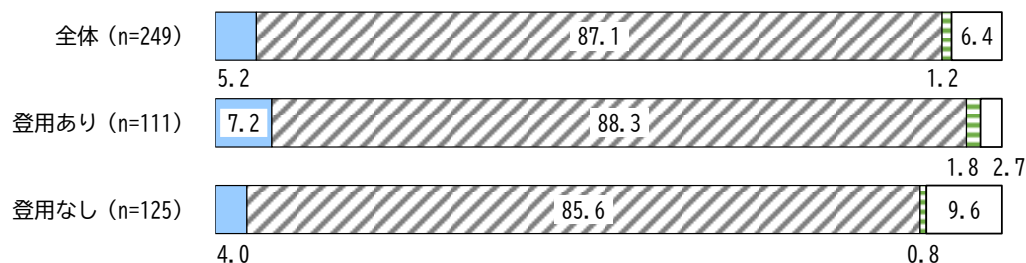
<<育児休業>>

(単位：%)



<<介護休業>>

(単位：%)



②育児休業取得者の性別構成

問7 申請中も含めて取得した人数を男女別に記入してください。

①育児休業

【図表 1-4② 育児休業取得者の性別構成】

(単位：%)



<全体> (図表 1-4②)

育児休業取得者がいる事業所 (87 件) における育児休業取得人数 190 名の性別の内訳は、「女性」が 78.4%、「男性」は 21.1%である。

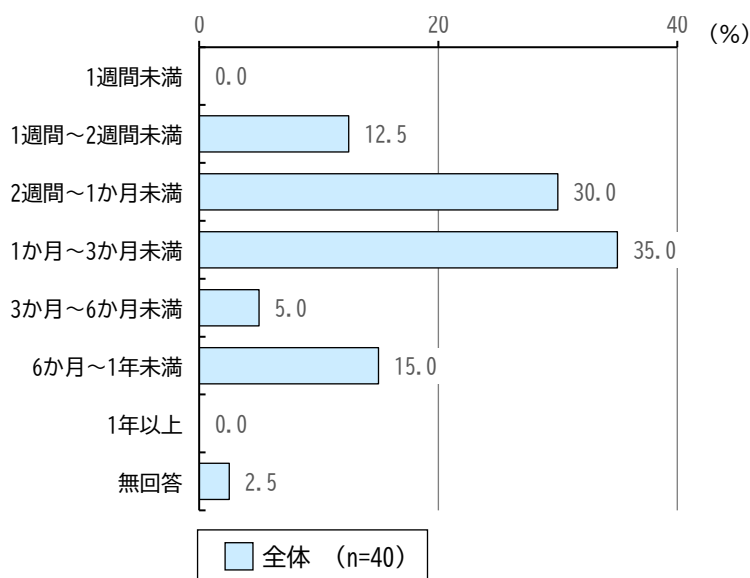
③男性従業員の育児休業取得期間

【問7で育児休業・介護休業を取得した男性従業員がいると答えた方にお聞きします。】

問8 育児休業や介護休業を取得した男性従業員の人数を、取得期間別にお聞かせください。

①育児休業

【図表 1-4③ 男性従業員の育児休業取得期間】



<全体> (図表 1-4③)

男性の育児休業取得者がいる事業所 (21 件) における育児休業を取得した男性 40 名の育児休業取得期間の内訳は、「1か月～3か月未満」が 35.0%で最も高く、「2週間～1か月未満」が 30.0%で続いている。

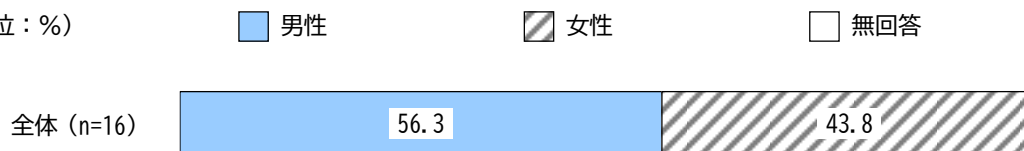
④介護休業取得者の性別構成

問7 申請中も含めて取得した人数を男女別に記入してください。

②介護休業

【図表 1-4④ 介護休業取得者の性別構成】

(単位：%)



<全体> (図表 1-4④)

介護休業取得者がいる事業所 (13 件) における介護休業取得人数は 16 名と少ないが、介護休業取得者の性別内訳は、「男性」が 56.3%、「女性」が 43.8%である。

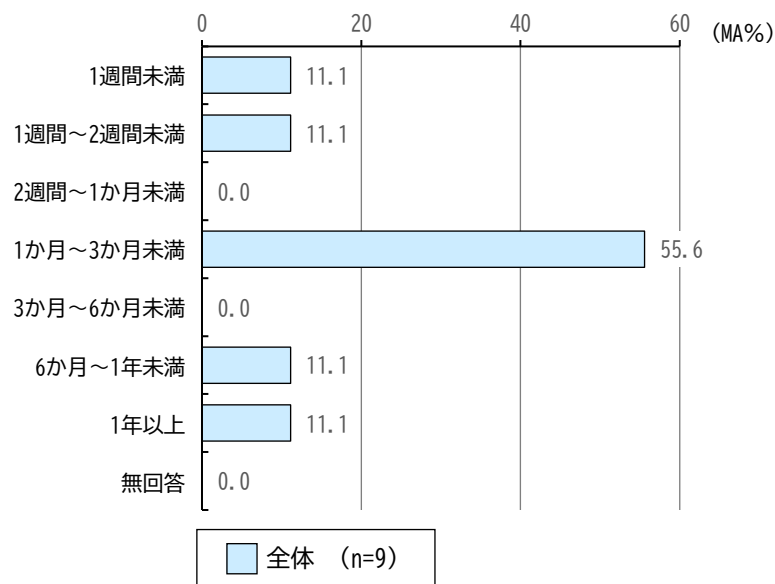
⑤男性従業員の介護休業取得期間

【問7で育児休業・介護休業を取得した男性従業員がいると答えた方にお聞きします。】

問8 育児休業や介護休業を取得した男性従業員の人数を、取得期間別にお聞かせください。

②介護休業

【図表 1-4⑤ 男性従業員の介護休業取得期間】



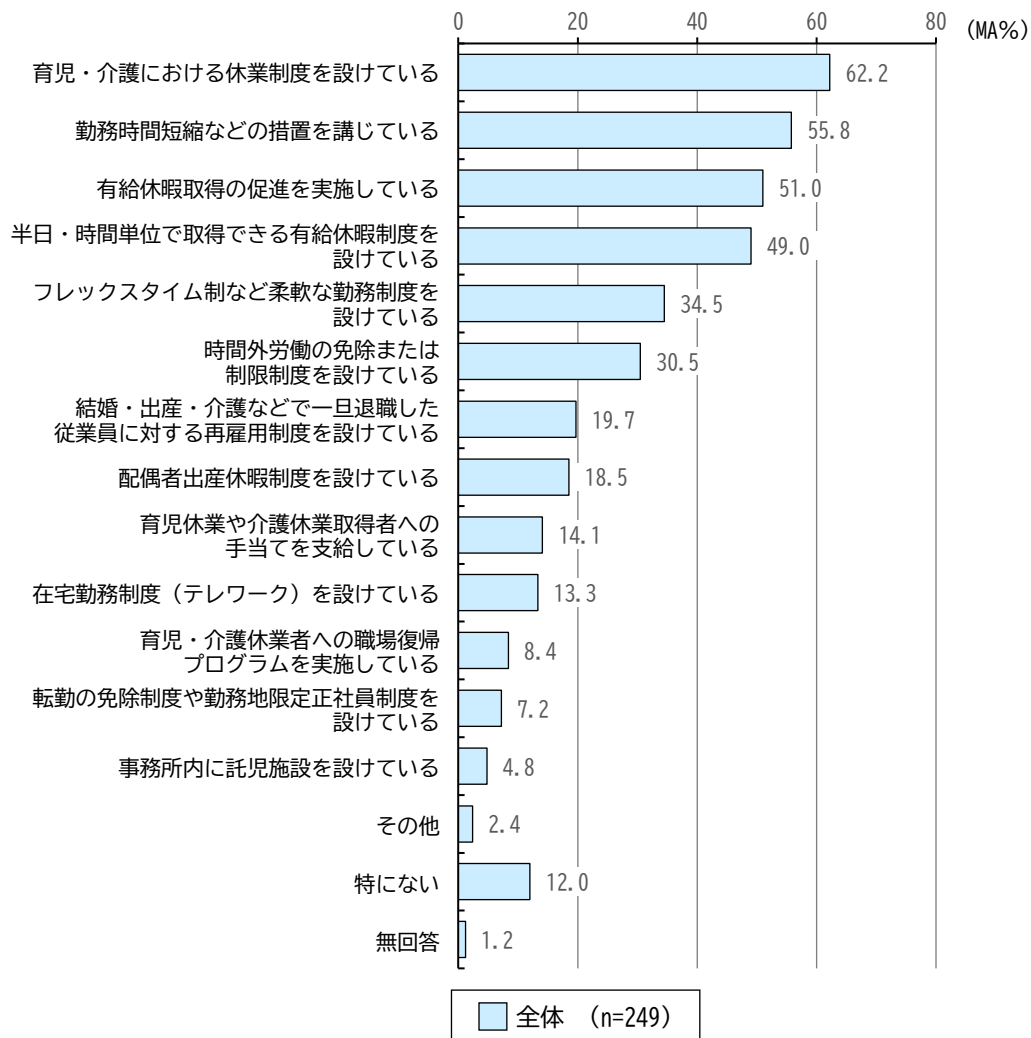
<全体> (図表 1-4⑤)

集計対象者数は 9 名と少ないが、男性の取得した介護休業取得期間の内訳は、「1 か月～3 か月未満」が 55.6%と最も高くなっている。

(5) 育児や介護と仕事の両立を支援するために取り組んでいること

問9 貴事業所において、従業員が育児や介護と仕事の両立を支援するために、取り組んでいることをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

【図表 1-5 育児や介護と仕事の両立を支援するために取り組んでいること】



<全体> (図表 1-5)

育児や介護と仕事の両立を支援するために取り組んでいることは、「育児・介護における休業制度を設けている」が 62.2%で最も高く、「勤務時間短縮などの措置を講じている」が 55.8%、「有給休暇取得の促進を実施している」が 51.0%、「半日・時間単位で取得できる有給休暇制度を設けている」が 49.0%で続いている。

<事業所規模別> (図表 1-5-1)

「育児・介護における休業制度を設けている」は、事業規模が大きくなるほど取組率が高くなっており、50人以上では81.1%と高いが、19人以下では54.8%にとどまる。全体的に、50人以上で割合が高くなっており、すべての項目で全体より5ポイント以上高くなっている。一方、19人以下では、ほとんどの項目で取組率が低く、「特にない」が19.8%と高い。20～29人と30～49人を比較すると、「半日・時間単位で取得できる有給休暇制度を設けている」では30～49人の方が取組率が高いが、その他の項目では、20～29人の方が取組率が高いか、30～49人と同等となっている。

<課長職以上女性登用別> (図表 1-5-1)

「育児・介護における休業制度を設けている」の割合は、登用ありで74.8%、登用なしで52.0%と22.8ポイントの差がみられた。登用なしでは「特にない」が18.4%と、登用ありの4.5%と比べて高くなっており、「育児・介護休業者への職場復帰プログラムを実施している」以外は、登用ありの方が高くなっている。

【図表 1-5-1 事業所規模別/課長職以上女性登用別

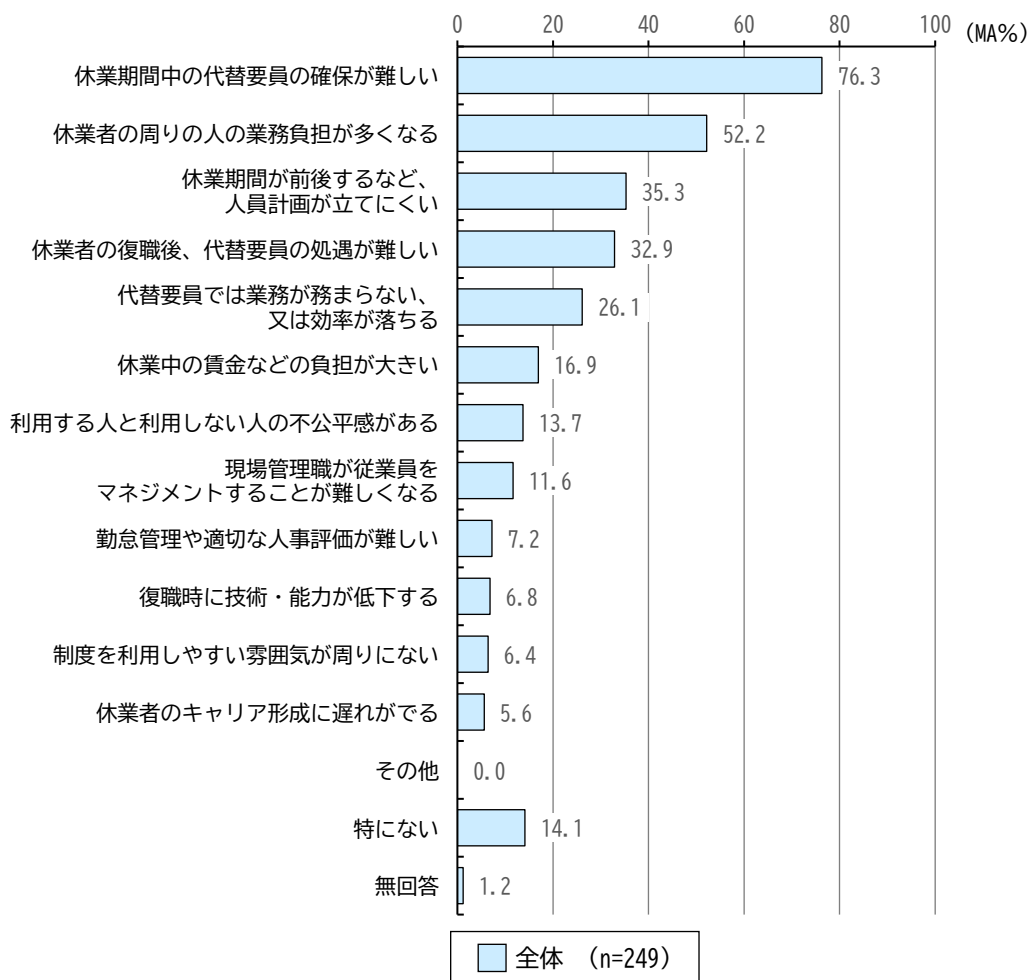
育児や介護と仕事の両立を支援するために取り組んでいること】

		n	育児・介護における休業制度を設けている	勤務時間短縮などの措置を講じている	有給休暇取得の促進を実施している	半日・時間単位で取得できる有給休暇制度を設けている	フレックスタイム制など柔軟な勤務制度を設けている	時間外労働の免除または制限制度を設けている	業務員に対する再雇用制度を設けている	結婚・出産・介護などで一旦退職した従業員に対する再雇用制度を設けている	配偶者出産休暇制度を設けている	育児休業や介護休業取得者への手当を支給している	在宅勤務制度(テレワーク)を設けている	育児・介護休業者への職場復帰プログラムを実施している	転勤の免除制度や勤務地限定正社員制度を設けている	事務所内に託児施設を設けている	その他	特にない	無回答
全体	上段/実数	249	155	139	127	122	86	76	49	46	35	33	21	18	12	6	30	3	
	下段/MA%	100.0	62.2	55.8	51.0	49.0	34.5	30.5	19.7	18.5	14.1	13.3	8.4	7.2	4.8	2.4	12.0	1.2	
事業所規模別	19人以下	126	69	57	55	55	34	22	18	16	12	12	8	5	5	2	25	1	
		100.0	54.8	45.2	43.7	43.7	27.0	17.5	14.3	12.7	9.5	9.5	6.3	4.0	4.0	1.6	19.8	0.8	
	20～29人	48	30	30	30	21	19	18	14	9	9	4	6	5	1	4	2	-	
		100.0	62.5	62.5	62.5	43.8	39.6	37.5	29.2	18.8	18.8	8.3	12.5	10.4	2.1	8.3	4.2	-	
30～49人	35	24	22	19	20	13	13	6	5	5	6	1	3	1	-	1	2		
	100.0	68.6	62.9	54.3	57.1	37.1	37.1	17.1	14.3	14.3	17.1	2.9	8.6	2.9	-	2.9	5.7		
50人以上	37	30	27	22	24	18	21	10	15	8	11	5	5	4	-	2	-		
	100.0	81.1	73.0	59.5	64.9	48.6	56.8	27.0	40.5	21.6	29.7	13.5	13.5	10.8	-	5.4	-		
女性相当職以上登用別	登用あり	111	83	71	64	60	42	41	22	20	21	18	8	9	6	6	5	1	
		100.0	74.8	64.0	57.7	54.1	37.8	36.9	19.8	18.0	18.9	16.2	7.2	8.1	5.4	5.4	4.5	0.9	
登用なし	125	65	60	56	55	38	30	23	22	11	14	11	8	4	-	23	2		
	100.0	52.0	48.0	44.8	44.0	30.4	24.0	18.4	17.6	8.8	11.2	8.8	6.4	3.2	-	18.4	1.6		

(6) 育児休業や介護休業を定着させる上での問題点

問 10 貴事業所において育児休業や介護休業制度を定着させるにあたり、どのようなことが問題になるとお思いますか。(〇はいくつでも)

【図表 1-6 育児休業や介護休業を定着させる上での問題点】



<全体> (図表 1-6)

育児休業や介護休業を定着させる上での問題点は、「休業期間中の代替要員の確保が難しい」が76.3%で最も高く、「休業者の周りの人の業務負担が多くなる」が52.2%で続いている。

<事業所規模別> (図表 1-6-1)

いずれの事業所規模でも、「休業期間中の代替要員の確保が難しい」が最も高く、49人以下ではいずれも7割台、50人以上では86.5%となっている。50人以上では、「休業者の周りの人の業務負担が多くなる」も70.3%と高い。

<課長職以上女性登用別> (図表 1-6-1)

登用の有無に関わらず「休業期間中の代替要員の確保が難しい」が最も高く、登用ありで82.0%、登用なしで72.0%となっている。

【図表 1-6-1 事業所規模別/課長職以上女性登用別 育児休業や介護休業を定着させる上での問題点】

		n	が休業期間中の代替要員の確保が難しい	が休業者の周りの人の業務負担が多くなる	員休業期間が前後するなど、人員計画が立てにくい	休業者の復職後、代替要員の処遇が難しい	代替要員では業務が落ちる、又は効率が落ちる	休業中の賃金などの負担が大きい	不利用する人と利用しない人の不公平感がある	現場管理職が従業員をマネジメントすることが難しくなる	勤怠管理や適切な人事評価が難しい	復職時に技術・能力が低下する	制度を利用しやすい雰囲気がない	休業者のキャリア形成に遅れがでる	その他	特になし	無回答
全体	上段/実数	249	190	130	88	82	65	42	34	29	18	17	16	14	-	35	3
	下段/MA%	100.0	76.3	52.2	35.3	32.9	26.1	16.9	13.7	11.6	7.2	6.8	6.4	5.6	-	14.1	1.2
事業所規模別	19人以下	126	92	57	41	44	33	23	17	11	11	9	9	7	-	22	2
		100.0	73.0	45.2	32.5	34.9	26.2	18.3	13.5	8.7	8.7	7.1	7.1	5.6	-	17.5	1.6
	20~29人	48	38	27	21	15	14	10	3	10	3	3	3	3	-	5	1
		100.0	79.2	56.3	43.8	31.3	29.2	20.8	6.3	20.8	6.3	6.3	6.3	6.3	-	10.4	2.1
30~49人	35	25	18	12	10	7	4	5	3	2	1	2	1	-	3	-	
	100.0	71.4	51.4	34.3	28.6	20.0	11.4	14.3	8.6	5.7	2.9	5.7	2.9	-	8.6	-	
50人以上	37	32	26	13	12	10	5	9	4	2	4	2	3	-	5	-	
	100.0	86.5	70.3	35.1	32.4	27.0	13.5	24.3	10.8	5.4	10.8	5.4	8.1	-	13.5	-	
女性相当職 課長以上 登用別	登用あり	111	91	58	49	35	36	18	12	11	6	11	5	7	-	10	2
		100.0	82.0	52.3	44.1	31.5	32.4	16.2	10.8	9.9	5.4	9.9	4.5	6.3	-	9.0	1.8
	登用なし	125	90	67	37	42	27	21	19	15	11	6	9	7	-	22	1
		100.0	72.0	53.6	29.6	33.6	21.6	16.8	15.2	12.0	8.8	4.8	7.2	5.6	-	17.6	0.8

2. LGBTをはじめとする性的少数者の人権問題について

(1) LGBTをはじめとする性的少数者の人権問題の認識状況

問 11 LGBTをはじめとする性的少数者に対する職場での人権問題があるということを知っていますか。(〇はひとつ)

【図表 2-1 LGBTをはじめとする性的少数者の人権問題の認識状況】

(単位：%)

■ 知っている

▨ 知らない

□ 無回答



<全体> (図表 2-1)

LGBTをはじめとする性的少数者の人権問題の認知状況は、「知っている」が88.4%である。

<事業所規模別> (図表 2-1-1)

いずれの事業所規模でも「知っている」が80%を超えており、30~49人で97.1%と高めである。

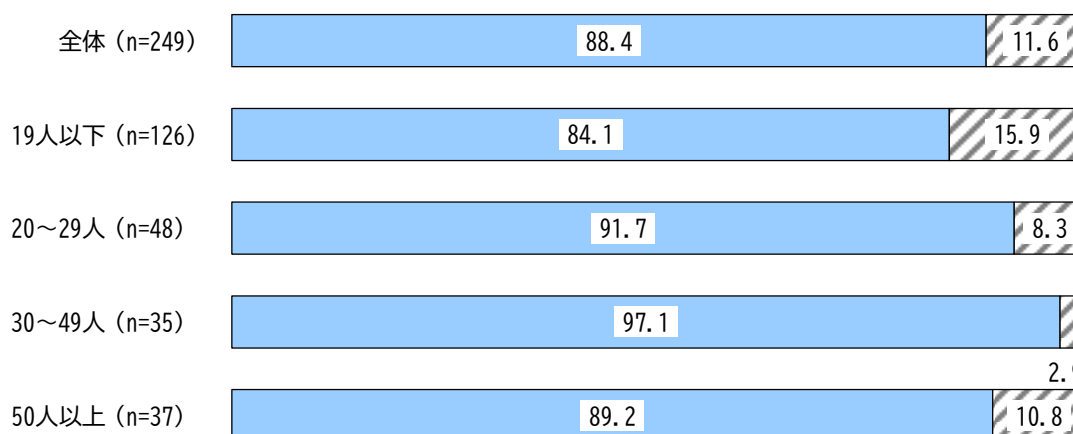
【図表 2-1-1 事業所規模別 LGBTをはじめとする性的少数者の人権問題の認識状況】

(単位：%)

■ 知っている

▨ 知らない

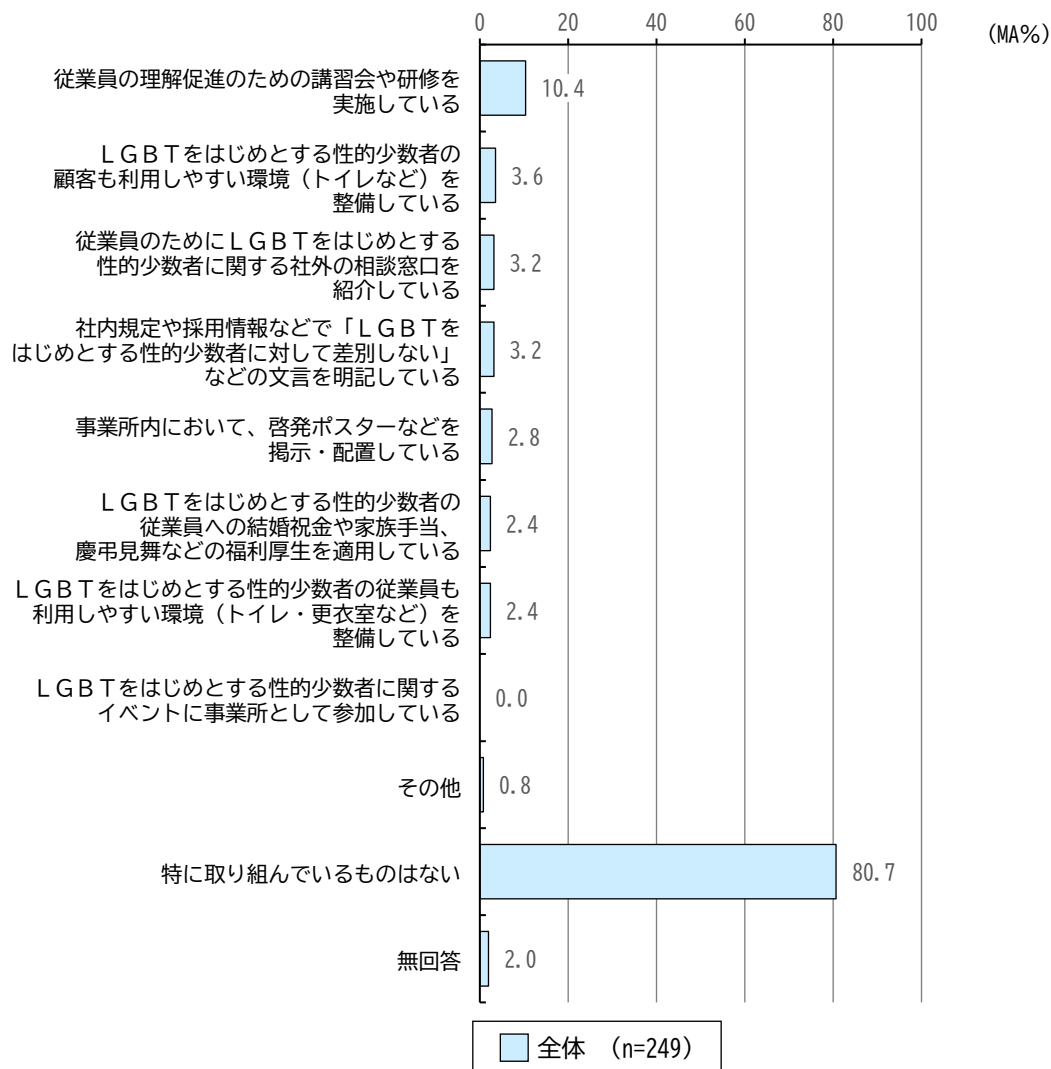
□ 無回答



(2) L G B Tをはじめとする性的少数者への配慮に関して取り組んでいること

問 12 L G B Tをはじめとする性的少数者への配慮に関して、貴事業所で取り組んでいるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

【図表 2-2 L G B Tをはじめとする性的少数者に関して取り組んでいること】



<全体> (図表 2-2)

L G B Tをはじめとする性的少数者への配慮に関して取り組んでいることは、「従業員の理解促進のための講習会や研修を実施している」が 10.4%で最も高く、その他の取り組みはいずれも 5%未満となっている。

また、「特に取り組んでいるものはない」が 80.7%である。

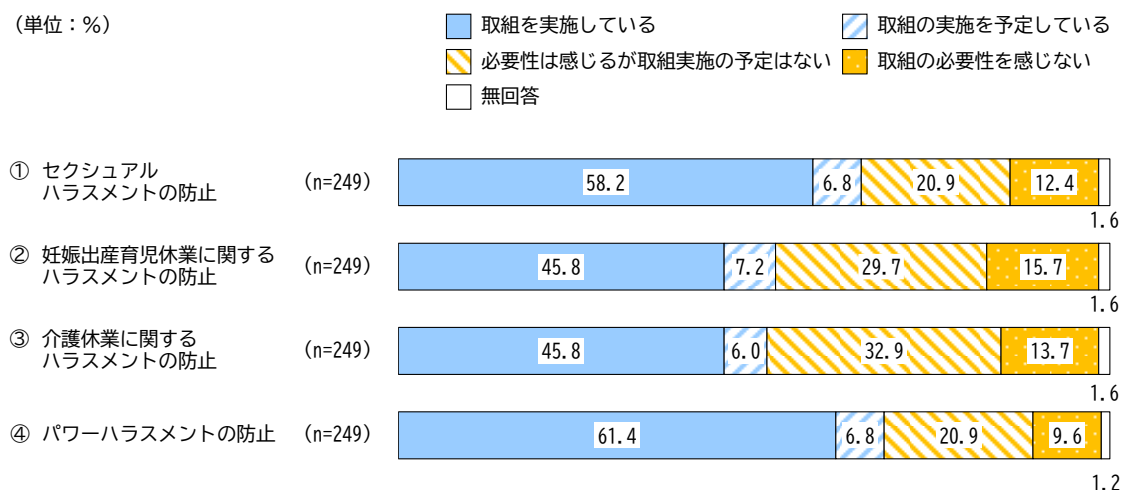
3. 各種ハラスメント（嫌がらせ）の対策について

(1) ハラスメント（嫌がらせ）対策実施状況

問 13 以下①～④のハラスメント防止の取り組みについて、貴事業所の状況をお聞かせください。（それぞれ〇はひとつずつ）

【図表 3-1 ハラスメント（嫌がらせ）対策実施状況】

(単位：%)



<全体> (図表 3-1)

ハラスメント対策の「取組を実施している」割合は、「④パワーハラスメントの防止」が61.4%で最も高く、「①セクシュアルハラスメントの防止」が58.2%、「②妊娠出産育児休業に関するハラスメントの防止」「③介護休業に関するハラスメントの防止」がともに45.8%で続いている。

<事業所規模別> (図表 3-1-1)

19 人以下は、いずれも取組率が 20 人以上の事業所に比べて低く、「①セクシュアルハラスメントの防止」「④パワーハラスメントの防止」では、他の事業所規模と 20 ポイント以上の差がみられる。

【図表 3-1-1 事業所規模別 ハラスメント（嫌がらせ）対策実施状況】

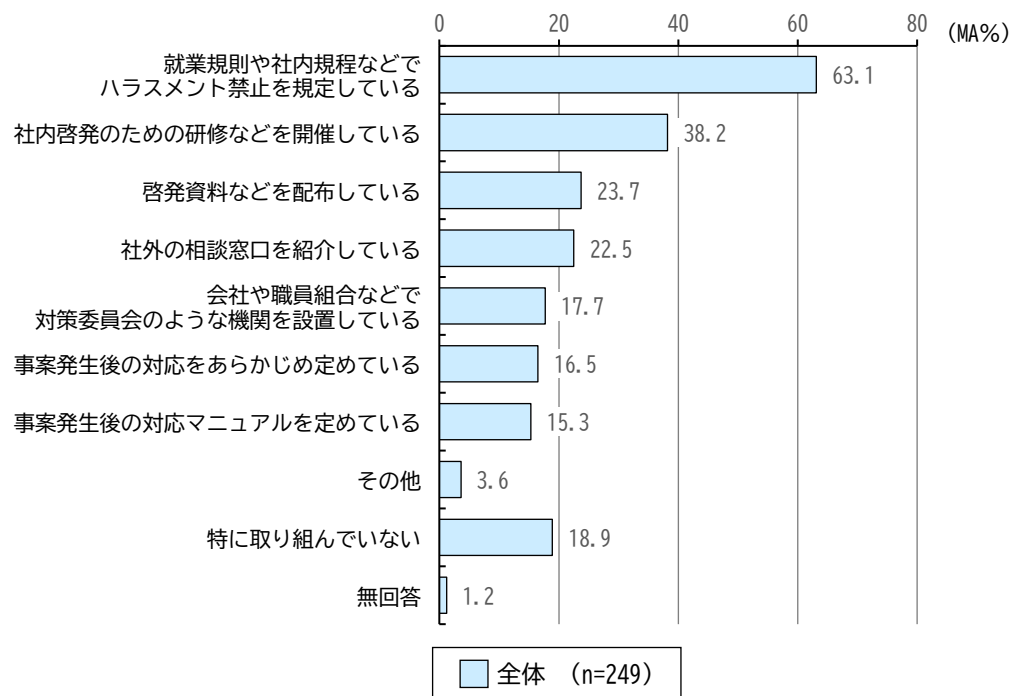
	n	①セクシュアルハラスメントの防止					②妊娠出産育児休業に関するハラスメントの防止					
		取組を実施している	て取組の実施を予定し	組必要性は予感定はるながい取	ない組の必要性を感じ	無回答	取組を実施している	て取組の実施を予定し	組必要性は予感定はるながい取	ない組の必要性を感じ	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	249 100.0	145 58.2	17 6.8	52 20.9	31 12.4	4 1.6	114 45.8	18 7.2	74 29.7	39 15.7	4 1.6
事業所規模別	19人以下	126 100.0	57 45.2	7 5.6	34 27.0	25 19.8	3 2.4	44 34.9	8 6.3	45 35.7	25 19.8	4 3.2
	20~29人	48 100.0	33 68.8	4 8.3	6 12.5	4 8.3	1 2.1	29 60.4	5 10.4	9 18.8	5 10.4	-
	30~49人	35 100.0	24 68.6	3 8.6	7 20.0	1 2.9	-	15 42.9	3 8.6	12 34.3	5 14.3	-
	50人以上	37 100.0	28 75.7	3 8.1	5 13.5	1 2.7	-	24 64.9	2 5.4	7 18.9	4 10.8	-

	n	③介護休業に関するハラスメントの防止					④パワーハラスメントの防止					
		取組を実施している	て取組の実施を予定し	組必要性は予感定はるながい取	ない組の必要性を感じ	無回答	取組を実施している	て取組の実施を予定し	組必要性は予感定はるながい取	ない組の必要性を感じ	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	249 100.0	114 45.8	15 6.0	82 32.9	34 13.7	4 1.6	153 61.4	17 6.8	52 20.9	24 9.6	3 1.2
事業所規模別	19人以下	126 100.0	45 35.7	8 6.3	50 39.7	20 15.9	3 2.4	61 48.4	10 7.9	34 27.0	19 15.1	2 1.6
	20~29人	48 100.0	31 64.6	3 6.3	9 18.8	5 10.4	-	37 77.1	2 4.2	6 12.5	3 6.3	-
	30~49人	35 100.0	16 45.7	1 2.9	12 34.3	5 14.3	1 2.9	25 71.4	2 5.7	6 17.1	1 2.9	1 2.9
	50人以上	37 100.0	20 54.1	3 8.1	10 27.0	4 10.8	-	27 73.0	3 8.1	6 16.2	1 2.7	-

(2) ハラスメント（嫌がらせ）対策として取り組んでいるもの

問 14 各種ハラスメント（嫌がらせ）の対策として、貴事業所で行っているものをすべてお選びください。（〇はいくつでも）

【図表 3-2 ハラスメント（嫌がらせ）対策として取り組んでいるもの】



<全体> (図表 3-2)

ハラスメント対策として取り組んでいるものは、「就業規則や社内規程などでハラスメント禁止を規定している」が 63.1%で最も高く、「社内啓発のための研修などを開催している」(38.2%)、「啓発資料などを配布している」(23.7%)、「社外の相談窓口を紹介している」(22.5%)と続いている。

また、「特に取り組んでいない」が 18.9%である。

<事業所規模別> (図表 3-2-1)

「就業規則や社内規定などでハラスメント禁止を規定している」「社内啓発のための研修などを開催している」「啓発資料などを配布している」は、概ね企業規模が大きくなるほど高くなっている。19人以下ではいずれの取組も割合が低めで、「特に取り組んでいない」が28.6%と全体に比べて高くなっている。

【図表 3-2-1 事業所規模別 ハラスメント（嫌がらせ）対策として取り組んでいるもの】

	n	就業規則や社内規定でハラスメント禁止を規定している	社内啓発のための研修などを開催している	啓発資料などを配布している	社外の相談窓口を紹介している	会社や職員組合など対策委員会のような機関を設置している	事業発生の後に対応をあらかじめ定めている	事業発生の後に対応するマニュアルを定めている	その他	特に取り組んでいない	無回答	
全体	上段/実数 下段/MA%	249 100.0	157 63.1	95 38.2	59 23.7	56 22.5	44 17.7	41 16.5	38 15.3	9 3.6	47 18.9	3 1.2
事業所規模別	19人以下	126 100.0	73 57.9	29 23.0	20 15.9	23 18.3	15 11.9	14 11.1	10 7.9	5 4.0	36 28.6	2 1.6
	20~29人	48 100.0	30 62.5	20 41.7	12 25.0	13 27.1	10 20.8	10 20.8	1 2.1	7 14.6	1 2.1	1 2.1
	30~49人	35 100.0	25 71.4	21 60.0	12 34.3	7 20.0	7 20.0	5 14.3	7 20.0	- 5.7	2 5.7	- -
	50人以上	37 100.0	26 70.3	22 59.5	14 37.8	11 29.7	11 29.7	12 32.4	9 24.3	2 5.4	2 5.4	- -

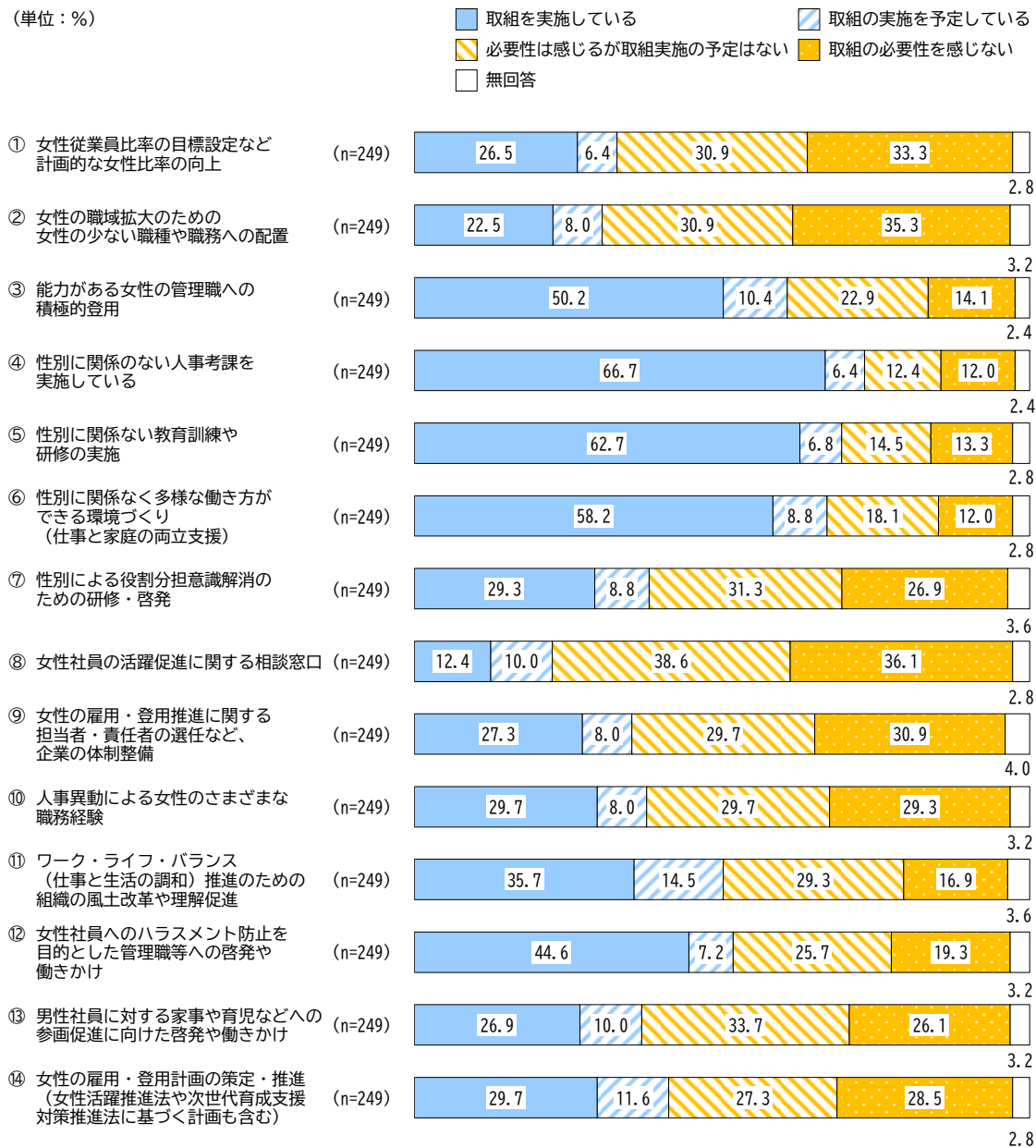
4. 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）について

(1) 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）に関する取り組み状況

問 15 以下①～⑭の女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）の取り組みについて、貴事業所の状況をお聞かせください。（それぞれ〇はひとつ）

【図表 4-1 女性社員の活躍推進に関する取り組み状況】

(単位：%)



<全体> (図表 4-1)

女性社員の活躍推進に関する取り組み状況をみると、「取組を実施している」は、「④性別に関係のない人事考課を実施している」が 66.7%で最も高く、「⑤性別に関係ない教育訓練や研修の実施」(62.7%)、「⑥性別に関係なく多様な働き方ができる環境づくり(仕事と家庭の両立支援)」(58.2%)、「③能力がある女性の管理職への積極的登用」(50.2%)が続いている。

「必要性を感じるが取組実施の予定はない」は、「⑧女性社員の活躍促進に関する相談窓口」が 38.6%で最も高く、「⑩男性社員に対する家事や育児などへの参画促進に向けた啓発や働きかけ」が 33.7%が続いている。

「取組の必要性を感じない」が最も高くなっている項目は、「⑧女性社員の活躍促進に関する相談窓口」(36.1%)である。

<事業所規模別> (図表 4-1-1)

① 女性従業員比率の目標設定など計画的な女性比率の向上

50人以上では「取組を実施している」が 40.5%で最も高く、30~49人では「必要性を感じるが取組実施の予定はない」が 37.1%で最も高い。20~29人では、「取組を実施している」(31.3%)と「必要性を感じるが取組実施の予定はない」(29.2%)が拮抗している。19人以下では「取組の必要性を感じない」が 41.3%で最も高い。

② 女性の職域拡大のための女性の少ない職種や職務への配置

「取組を実施している」は、20~29人、30~49人で3割台と高い。19人以下と50人以上では、「取組の必要性を感じない」が最も高い。

③ 能力がある女性の管理職への積極的登用

「取組を実施している」は、20人以上のすべての規模で6割台であり、20~29人で68.8%と高めである。19人以下では「取組を実施している」は 35.7%である。

④ 性別に関係のない人事考課を実施している

すべての規模で「取組を実施している」が最も高く、特に30人以上で8割台、20~29人でも79.2%と高くなっている。19人以下でも「取組を実施している」は 52.4%である。

⑤ 性別に関係ない教育訓練や研修の実施

すべての規模で「取組を実施している」が最も高く、特に30人以上で8割台、20~29人で72.9%と高くなっている。19人以下では「取組を実施している」は 47.6%である。

⑥ 性別に関係なく多様な働き方ができる環境づくり(仕事と家庭の両立支援)

すべての規模で「取組を実施している」が最も高くなっており、規模が大きくなるほど取組率も高い。最も取組率の高い50人以上で70.3%、取組率の低い19人以下で50.0%となっている。

⑦ 性別による役割分担意識解消のための研修・啓発

「取組を実施している」は、30人以上で4割台、20~29人で29.2%、19人以下で19.0%となっている。19人以下では、「必要性を感じるが取組実施の予定はない」(36.5%)が最も高く、「取組の必要性を感じない」(32.5%)も高い。

⑧ 女性社員の活躍促進に関する相談窓口

30人以上では「必要性を感じるが取組実施の予定はない」が最も高く、30～49人で48.6%、50人以上で37.8%となっている。20～29人では「必要性を感じるが取組実施の予定はない」と「取組の必要性を感じない」がともに35.4%、19人以下では「取組の必要性を感じない」が42.9%で最も高くなっている。

⑨ 女性の雇用・登用推進に関する担当者・責任者の選任など、企業の体制整備

「取組を実施している」は、30～49人で40.0%と高く、50人以上で32.4%。29人以下では「取組の必要性を感じない」が3割台で最も高くなっている。

⑩ 人事異動による女性のさまざまな職種体験

「取組を実施している」は、50人以上で45.9%と高く、20～29人、30～49人では3割台。19人以下では、「取組の必要性を感じない」が38.1%で最も高くなっている。

⑪ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）推進のための組織の風土改革や理解促進

「取組を実施している」は、30～49人で54.3%、50人以上で45.9%と高くなっている。20～29人では、「取組を実施している」「必要性を感じるが取組実施の予定はない」「取組の必要性を感じない」がいずれも27.1%と分散している。19人以下では、「必要性を感じるが取組実施の予定はない」が34.9%で最も高い。

⑫ 女性社員へのハラスメントの防止を目的とした管理職等への啓発や働きかけ

すべての規模で「取組を実施している」が最も高く、特に、30～49人で60.0%、50人以上で56.8%と高くなっている。

⑬ 男性社員に対する家事や育児などへの参画促進に向けた啓発や働きかけ

50人以上では「取組を実施している」が40.5%で最も高いが、その他の規模では「必要性を感じるが取組実施の予定はない」が3割台で最も高くなっている。

⑭ 女性の雇用・登用計画の策定・推進

（女性活躍推進法や次世代育成支援対策推進法に基づく計画も含む）

20人以上のすべての規模で「取組を実施している」が3割台で最も高い。19人以下では、「取組の必要性を感じない」が37.3%で最も高くなっている。

【図表 4-1-1 事業所規模別 女性社員の活躍推進に関する取り組み状況①】

	n	①女性従業員比率の目標設定など計画的な女性比率の向上					②女性の職域拡大のための女性の少ない職種や職務への配置					③能力がある女性の管理職への積極的登用					
		取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じるが取組はしない	ない組の必要性を感じ	無回答	取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じるが取組はしない	ない組の必要性を感じ	無回答	取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じるが取組はしない	ない組の必要性を感じ	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	249 100.0	66 26.5	16 6.4	77 30.9	83 33.3	7 2.8	56 22.5	20 8.0	77 30.9	88 35.3	8 3.2	125 50.2	26 10.4	57 22.9	35 14.1	6 2.4
事業所規模別	19人以下	126 100.0	24 19.0	6 4.8	40 31.7	52 41.3	4 3.2	17 13.5	9 7.1	42 33.3	53 42.1	5 4.0	45 35.7	15 11.9	34 27.0	27 21.4	5 4.0
	20~29人	48 100.0	15 31.3	5 10.4	14 29.2	12 25.0	2 4.2	16 33.3	4 8.3	14 29.2	12 25.0	2 4.2	33 68.8	4 8.3	8 16.7	2 4.2	1 2.1
	30~49人	35 100.0	10 28.6	2 5.7	13 37.1	9 25.7	1 2.9	12 34.3	2 5.7	11 31.4	10 28.6	-	21 60.0	4 11.4	8 22.9	2 5.7	-
	50人以上	37 100.0	15 40.5	3 8.1	10 27.0	9 24.3	-	10 27.0	5 13.5	8 21.6	13 35.1	1 2.7	24 64.9	3 8.1	7 18.9	3 8.1	-

	n	④性別に関係のない人事考課を実施している					⑤性別に関係ない教育訓練や研修の実施					⑥性別に関係なく多様な働き方ができる環境づくり（仕事と家庭の両立支援）					
		取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じるが取組はしない	ない組の必要性を感じ	無回答	取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じるが取組はしない	ない組の必要性を感じ	無回答	取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じるが取組はしない	ない組の必要性を感じ	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	249 100.0	166 66.7	16 6.4	31 12.4	30 12.0	6 2.4	156 62.7	17 6.8	36 14.5	33 13.3	7 2.8	145 58.2	22 8.8	45 18.1	30 12.0	7 2.8
事業所規模別	19人以下	126 100.0	66 52.4	10 7.9	21 16.7	24 19.0	5 4.0	60 47.6	9 7.1	24 19.0	27 21.4	6 4.8	63 50.0	10 7.9	26 20.6	22 17.5	5 4.0
	20~29人	48 100.0	38 79.2	2 4.2	5 10.4	2 4.2	2.1	35 72.9	3 6.3	6 12.5	3 6.3	2.1	29 60.4	4 8.3	8 16.7	5 10.4	2 4.2
	30~49人	35 100.0	29 82.9	-	3 8.6	3 8.6	-	28 80.0	1 2.9	3 8.6	3 8.6	-	24 68.6	3 8.6	6 17.1	2 5.7	-
	50人以上	37 100.0	30 81.1	4 10.8	2 5.4	1 2.7	-	30 81.1	4 10.8	3 8.1	-	-	26 70.3	5 13.5	5 13.5	1 2.7	-

	n	⑦性別による役割分担意識解消のための研修・啓発					⑧女性社員の活躍促進に関する相談窓口					⑨女性の雇用・登用推進に関する担当者・責任者の選任など、企業の体制整備					
		取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じるが取組はしない	ない組の必要性を感じ	無回答	取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じるが取組はしない	ない組の必要性を感じ	無回答	取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じるが取組はしない	ない組の必要性を感じ	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	249 100.0	73 29.3	22 8.8	78 31.3	67 26.9	9 3.6	31 12.4	25 10.0	96 38.6	90 36.1	7 2.8	68 27.3	20 8.0	74 29.7	77 30.9	10 4.0
事業所規模別	19人以下	126 100.0	24 19.0	9 7.1	46 36.5	41 32.5	6 4.8	9 7.1	10 7.9	48 38.1	54 42.9	5 4.0	27 21.4	4 3.2	42 33.3	47 37.3	6 4.8
	20~29人	48 100.0	14 29.2	7 14.6	12 25.0	13 27.1	2 4.2	6 12.5	6 12.5	17 35.4	17 35.4	2 4.2	13 27.1	7 14.6	11 22.9	15 31.3	2 4.2
	30~49人	35 100.0	17 48.6	2 5.7	8 22.9	7 20.0	2.9	7 20.0	4 11.4	17 48.6	7 20.0	-	14 40.0	4 11.4	10 28.6	6 17.1	1 2.9
	50人以上	37 100.0	16 43.2	4 10.8	12 32.4	5 13.5	-	7 18.9	4 10.8	14 37.8	12 32.4	-	12 32.4	4 10.8	11 29.7	9 24.3	1 2.7

【図表 4-1-1 事業所規模別 女性社員の活躍推進に関する取り組み状況②】

	n	⑩人事異動による女性のさまざまな職種体験					⑪ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）推進のための組織の風土改革や理解促進					⑫女性社員へのハラスメントの防止を目的とした管理職等への啓発や働きかけ					
		取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じているが取組はしていない	ない組の必要性を感じていない	無回答	取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じているが取組はしていない	ない組の必要性を感じていない	無回答	取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じているが取組はしていない	ない組の必要性を感じていない	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	249 100.0	74 29.7	20 8.0	74 29.7	48 19.3	8 3.2	89 35.7	36 14.5	73 29.3	42 16.9	9 3.6	111 44.6	18 7.2	64 25.7	48 19.3	8 3.2
事業所規模別	19人以下	126 100.0	27 21.4	7 5.6	39 31.0	48 38.1	5 4.0	37 29.4	16 12.7	44 34.9	23 18.3	6 4.8	44 34.9	7 5.6	39 31.0	31 24.6	5 4.0
	20～29人	48 100.0	16 33.3	7 14.6	11 22.9	12 25.0	2 4.2	13 27.1	7 14.6	13 27.1	13 27.1	2 4.2	22 45.8	5 10.4	10 20.8	9 18.8	2 4.2
	30～49人	35 100.0	12 34.3	3 8.6	12 34.3	7 20.0	1 2.9	19 54.3	5 14.3	8 22.9	2 5.7	1 2.9	21 60.0	1 2.9	8 22.9	4 11.4	1 2.9
	50人以上	37 100.0	17 45.9	2 5.4	12 32.4	6 16.2	-	17 45.9	8 21.6	8 21.6	4 10.8	-	21 56.8	5 13.5	7 18.9	4 10.8	-

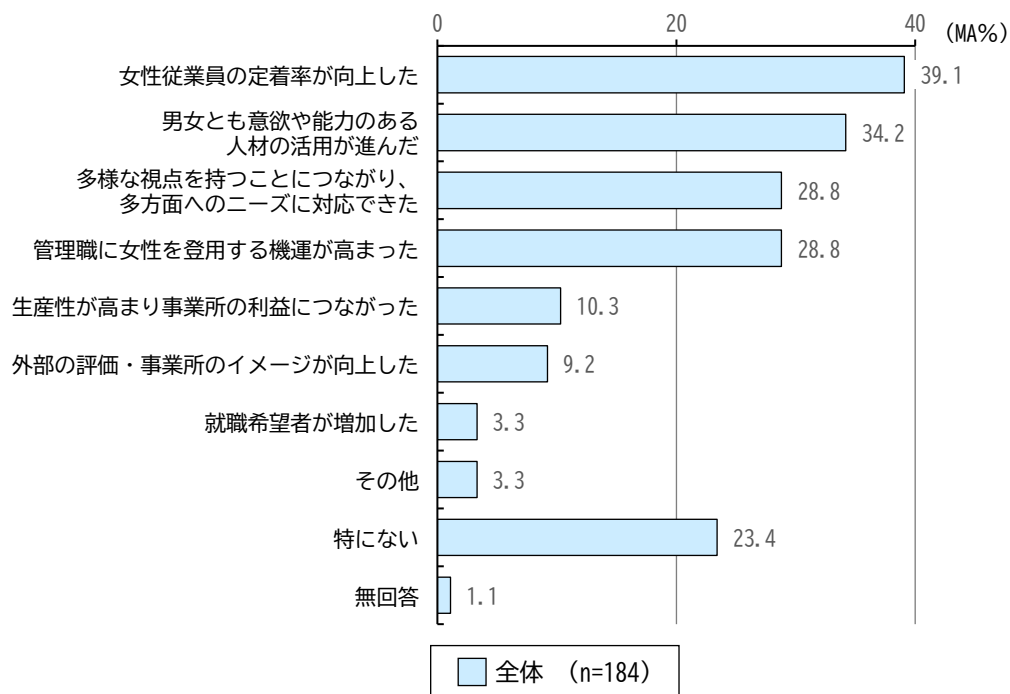
	n	⑬男性社員に対する家事や育児などへの参画促進に向けた啓発や働きかけ					⑭女性の雇用・登用計画の策定・推進（女性活躍推進法や次世代育成支援対策推進法に基づく計画も含む）					
		取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じているが取組はしていない	ない組の必要性を感じていない	無回答	取組を実施している	て取組の実施を予定している	組必要性は感じているが取組はしていない	ない組の必要性を感じていない	無回答	
全体	上段/実数 下段/%	249 100.0	67 26.9	25 10.0	84 33.7	65 26.1	8 3.2	74 29.7	29 11.6	68 27.3	71 28.5	7 2.8
事業所規模別	19人以下	126 100.0	27 21.4	9 7.1	44 34.9	41 32.5	5 4.0	28 22.2	8 6.3	39 31.0	47 37.3	4 3.2
	20～29人	48 100.0	14 29.2	6 12.5	15 31.3	11 22.9	2 4.2	19 39.6	9 18.8	8 16.7	10 20.8	2 4.2
	30～49人	35 100.0	9 25.7	5 14.3	12 34.3	8 22.9	1 2.9	12 34.3	6 17.1	9 25.7	7 20.0	1 2.9
	50人以上	37 100.0	15 40.5	4 10.8	13 35.1	5 13.5	-	13 35.1	5 13.5	12 32.4	7 18.9	-

(2) 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）に関する取り組みの成果

【問 15①～④のうちひとつでも「1. 取組を実施している」と答えた方にお聞きします。】

問 16 取り組みの結果、どのような成果がありましたか。(〇はいくつでも)

【図表 4-2 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）に関する取り組みの成果】



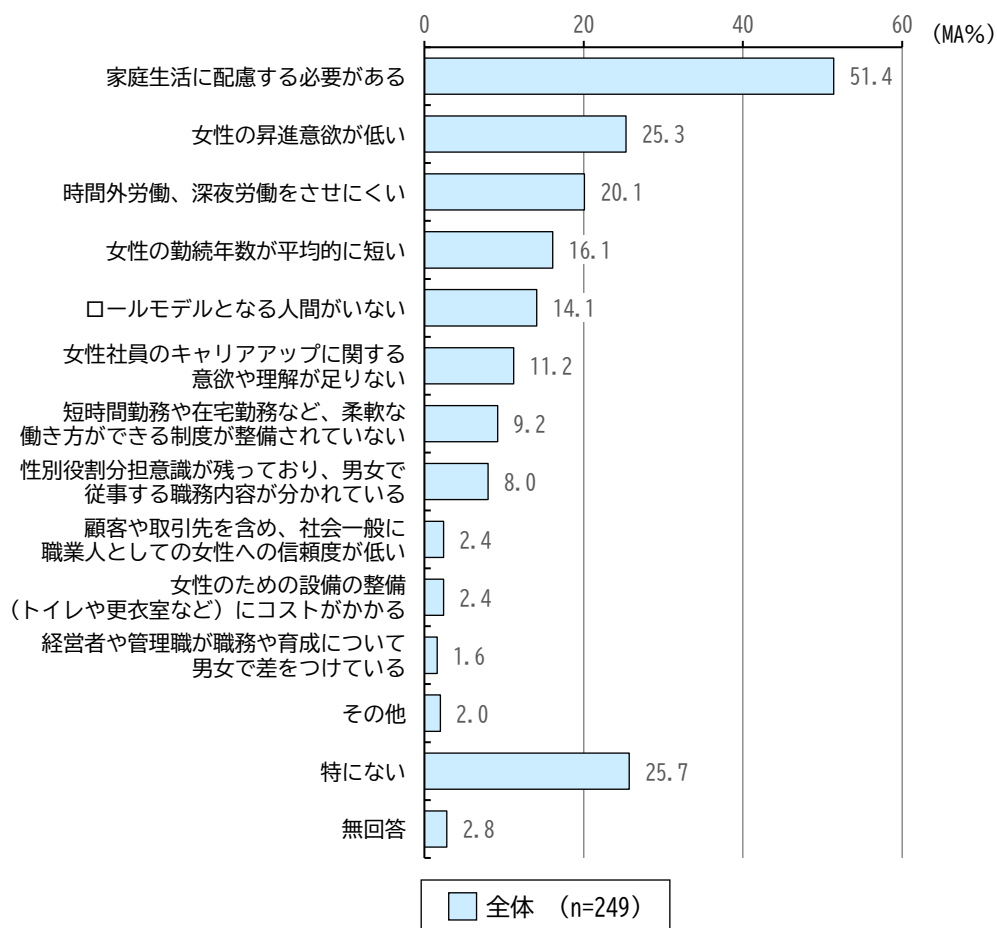
<全体> (図表 4-2)

女性社員の活躍推進に関する取り組みの成果は、「女性従業員の定着率が向上した」が39.1%で最も高く、「男女とも意欲や能力のある人材の活用が進んだ」(34.2%)、「多様な視点を持つことにつながり、多方面へのニーズに対応できた」「管理職に女性を登用する機運が高まった」(ともに28.8%)と続いている。また、「特にない」は23.4%みられた。

(3) 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）に関する取り組みにあたる問題点

問 17 貴事業所において女性社員の活躍を推進するにあたり、どのようなことが問題になると
 思いますか。（〇はいくつでも）

【図表 4-3 女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）に関する取り組みにあたる問題点】



<全体> (図表 4-3)

女性社員の活躍推進に関する取り組みにあたる問題点は、「家庭生活に配慮する必要がある」が51.4%で最も高く、「女性の昇進意欲が低い」(25.3%)、「時間外労働、深夜労働をさせにくい」(20.1%)と続いている。「特にない」も25.7%みられた。

<事業所規模別> (図表 4-3-1)

いずれの事業所規模でも「家庭生活に配慮する必要がある」が最も高いが、20～29人で60.4%と特に高い。30～49人では、「女性の昇進意欲が低い」も45.7%、50人以上で「女性社員のキャリアアップに関する意欲や理解が足りない」も24.3%と、他の規模に比べて高くなっている。

【図表 4-3-1 事業所規模別

女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）に関する取り組みにあたる問題点】

		n	あ家庭 生活に 配慮す る必要 が	女性 の昇進 意欲が 低い	せ時 間外 労働、 深夜 労働を さ	短女 性の 勤続 年数が 平均的 に	口ー ルモ デルと なる人 間が	な女 性社 員の キャリア アップ に関する 意欲や 理解が 足りない	制ど 柔軟な 働き方 がで きない	短時 間勤務 や在宅 勤務な る	内容 が分 かれて いる	お性 別役 割分 担意 識が 残つ て	へ一 般客 や取 引先 を含 めた 女性 社会	顧 客に 職業 人とし ての 女性 社会	コ スト がか かる （ト イレ や更 衣室 など） に	て成 につ いて 男女 で差 をつ け育	経 営者 や管 理職 が職 務を つけ	そ の他	特 に ない	無 回 答
全体	上段/実数 下段/MA%	249 100.0	128 51.4	63 25.3	50 20.1	40 16.1	35 14.1	28 11.2	23 9.2	20 8.0	6 2.4	6 2.4	4 1.6	5 2.0	64 25.7	7 2.8				
事業 所規 模別	19人以下	126 100.0	61 48.4	24 19.0	23 18.3	22 17.5	20 15.9	8 6.3	10 7.9	6 4.8	3 2.4	5 4.0	2 1.6	3 2.4	36 28.6	6 4.8				
	20～29人	48 100.0	29 60.4	11 22.9	12 25.0	9 18.8	6 12.5	4 8.3	4 8.3	6 12.5	1 2.1	-	2 4.2	-	11 22.9	-				
	30～49人	35 100.0	17 48.6	16 45.7	5 14.3	5 14.3	5 14.3	6 17.1	2 5.7	3 8.6	2 5.7	-	-	-	9 25.7	1 2.9				
	50人以上	37 100.0	20 54.1	12 32.4	9 24.3	4 10.8	4 10.8	9 24.3	7 18.9	4 10.8	-	1 2.7	-	1 2.7	7 18.9	-				

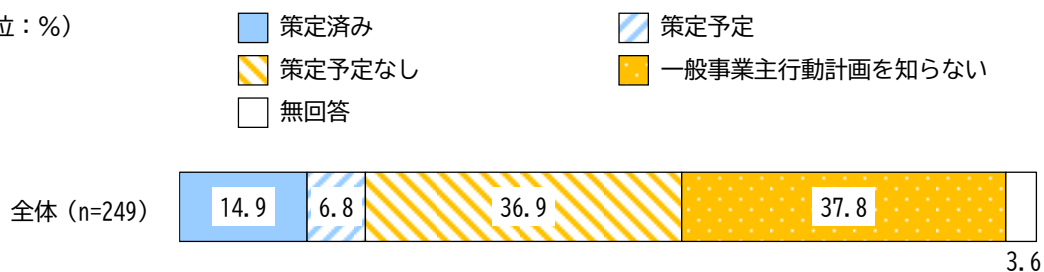
(4) 一般事業主行動計画策定状況

①策定状況

問 18 貴事業所では、女性活躍推進法における一般事業主行動計画を策定していますか。(〇はひとつ)

【図表 4-4① 策定状況】

(単位：%)



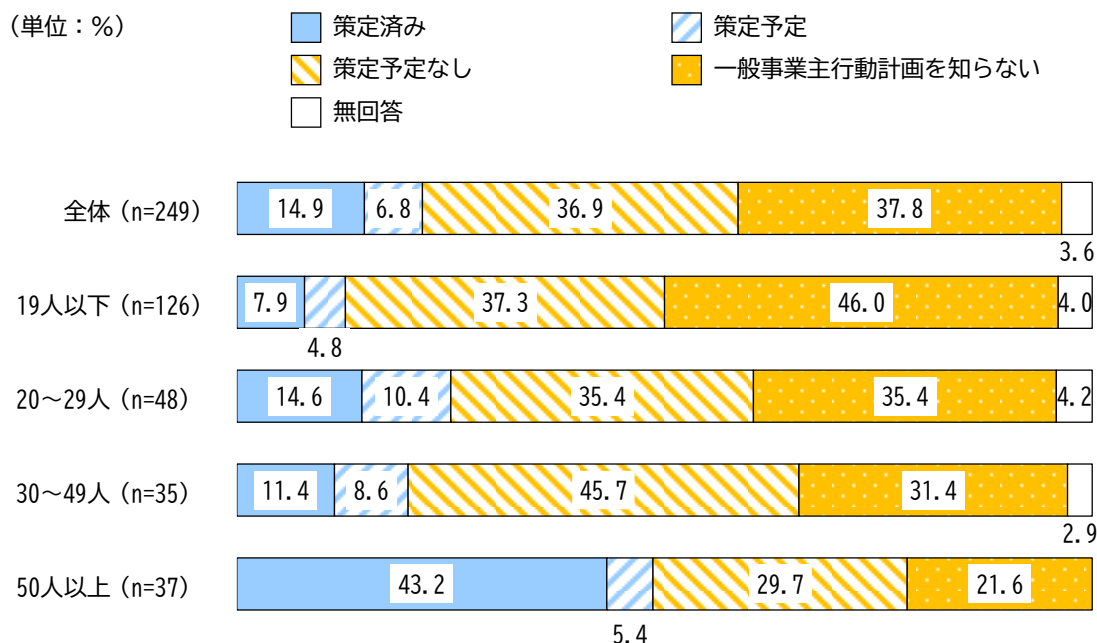
<全体> (図表 4-4①)

一般事業主行動計画の策定状況は、「一般事業主行動計画を知らない」が 37.8%で最も高く、次いで、「策定予定なし」が 36.9%で続いている、また「策定済み」は 14.9%みられた。

<事業所規模別> (図表 4-4①-1)

「策定済み」は、50人以上で43.2%と高く、その他の事業所規模では20%を下回る。規模が小さくなるほど「一般事業主行動計画を知らない」が高くなっており、19人以下では46.0%が知らないとしている。

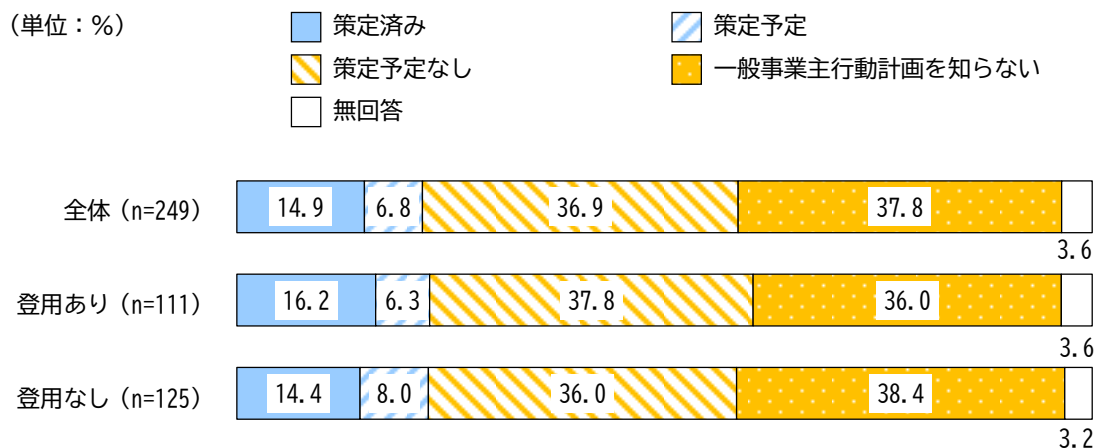
【図表 4-4①-1 事業所規模別 策定状況】



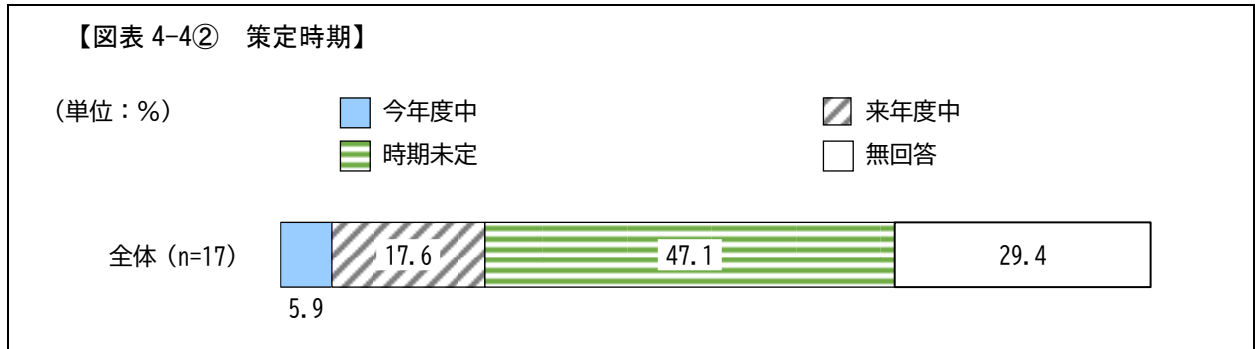
<課長職以上女性登用別> (図表 4-4①-2)

登用の有無では大きな差は見られない。

【図表 4-4①-2 課長職以上女性登用別 策定状況】



②策定時期

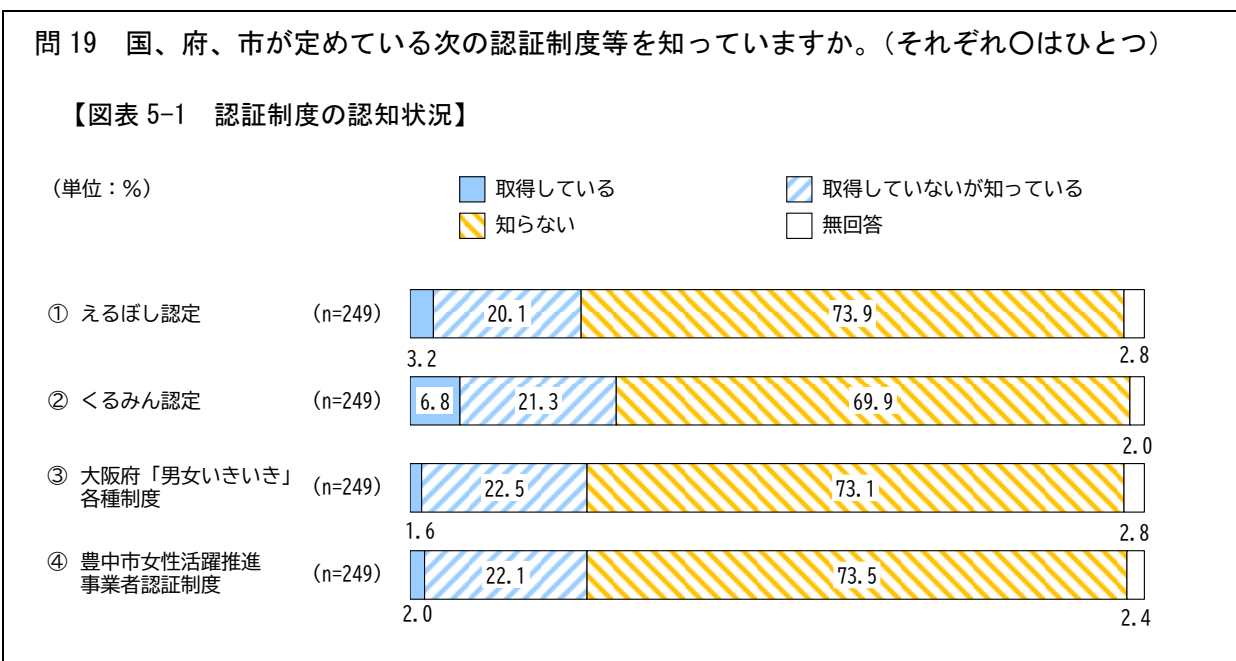


<全体> (図表 4-4②)

回答者数が 17 件と少ないが、策定時期は「時期未定」が 47.1%、「来年度中」が 17.6%、「今年度中」が 5.9%である。

5. 男女共同参画の推進について

(1) 認証制度の認知状況



<全体> (図表 5-1)

国、府、市が定めている認証制度の認知状況をみると、いずれも「知らない」が7割前後と高くなっている。「取得している」は、「②くるみん認定」で6.8%と最も高く、「①えるぼし認定」で3.2%、「④豊中市女性活躍推進事業者認証制度」で2.0%、「③大阪府『男女いきいき』各種制度」で1.6%となっている。「取得していないが知っている」はいずれも2割台。

<事業所規模別> (図表 5-1-1)

① えるぼし認定

「取得している」は50人以上で8.1%である。「取得していないが知っている」は規模が大きいくほど高くなっており、50人以上では43.2%である。29人以下では「知らない」が80%を超えている。

② くるみん認定

「取得している」は50人以上で18.9%である。「取得していないが知っている」は規模が大きいくほど高くなっており、30～49人で37.1%、50人以上では40.5%となっている。19人以下では「知らない」が80%を超えている。

③ 大阪府「男女いきいき」各種制度

「取得している」は30～49人で8.6%である。「取得していないが知っている」は、50人以上では45.9%と高いが、その他の規模では30%を下回る。19人以下では「知らない」が80%を超えている。

④ 豊中市女性活躍推進事業者認証制度

「取得している」は30～49人で8.6%である。「取得していないが知っている」は、50人以上では43.2%と高いが、その他の規模では30%を下回る。19人以下では「知らない」が80%を超えている。

【図表 5-1-1 事業所規模別 認証制度の認知状況】

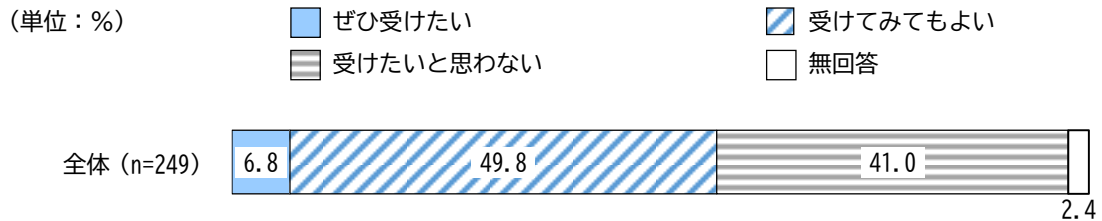
	n	①えるぼし認定				②くるみん認定				
		取得している	知取 つ得 てして いる ない が	知 ら な い	無 回 答	取得している	知取 つ得 てして いる ない が	知 ら な い	無 回 答	
全体	上段/実数 下段/%	249 100.0	8 3.2	50 20.1	184 73.9	7 2.8	17 6.8	53 21.3	174 69.9	5 2.0
事業所規模別	19人以下	126 100.0	3 2.4	14 11.1	104 82.5	5 4.0	6 4.8	15 11.9	101 80.2	4 3.2
	20~29人	48 100.0	- -	8 16.7	39 81.3	1 2.1	2 4.2	8 16.7	38 79.2	- -
	30~49人	35 100.0	2 5.7	10 28.6	22 62.9	1 2.9	2 5.7	13 37.1	19 54.3	1 2.9
	50人以上	37 100.0	3 8.1	16 43.2	18 48.6	- -	7 18.9	15 40.5	15 40.5	- -

	n	③大阪府「男女いきいき」 各種制度				④豊中市女性活躍推進 事業者認証制度				
		取得している	知取 つ得 てして いる ない が	知 ら な い	無 回 答	取得している	知取 つ得 てして いる ない が	知 ら な い	無 回 答	
全体	上段/実数 下段/%	249 100.0	4 1.6	56 22.5	182 73.1	7 2.8	5 2.0	55 22.1	183 73.5	6 2.4
事業所規模別	19人以下	126 100.0	- -	18 14.3	103 81.7	5 4.0	- -	16 12.7	106 84.1	4 3.2
	20~29人	48 100.0	- -	10 20.8	37 77.1	1 2.1	2 4.2	11 22.9	34 70.8	1 2.1
	30~49人	35 100.0	3 8.6	9 25.7	22 62.9	1 2.9	3 8.6	10 28.6	21 60.0	1 2.9
	50人以上	37 100.0	1 2.7	17 45.9	19 51.4	- -	- -	16 43.2	21 56.8	- -

(2) 男女共同参画に関する支援意向

問 20 男女共同参画に関する事業所向けの支援などがあれば受けたいと思いますか。
(○はひとつ)

【図表 5-2 男女共同参画に関する支援意向】



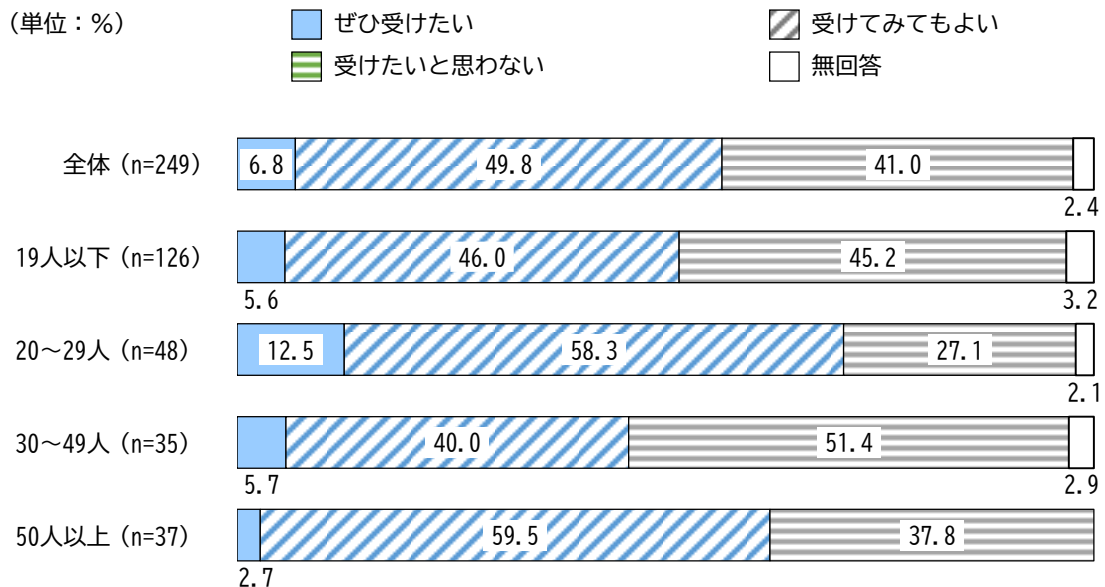
<全体> (図表 5-2)

男女共同参画に関する支援意向は、「ぜひ受けたい」は6.8%、「受けたいと思わない」が41.0%、「受けてみてもよい」が49.8%である。

<事業所規模別> (図表 5-2-1)

「ぜひ受けたい」は20～29人で最も高く、12.5%となっている。「受けてみてもよい」は、50人以上で59.5%、20～29人で58.3%と半数を超えている。

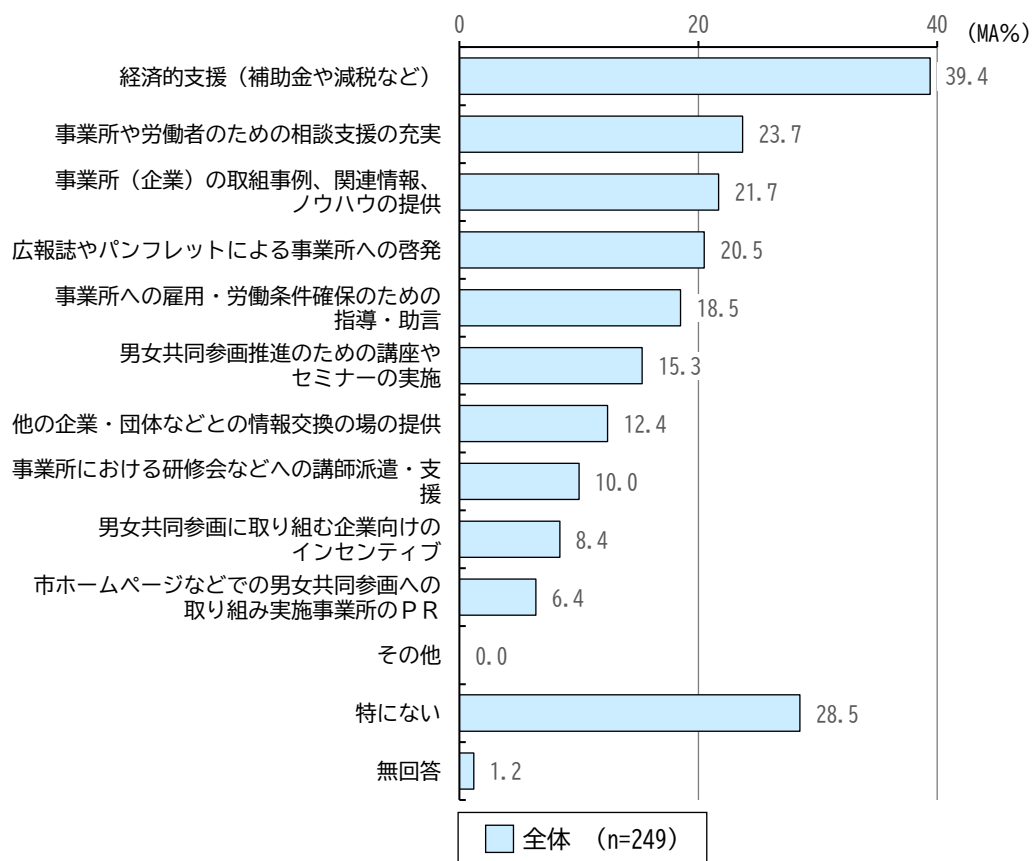
【図表 5-2-1 事業所規模別 男女共同参画に関する支援意向】



(3) 利用したい男女共同参画支援内容

問 21 豊中市が、事業所における男女共同参画推進のために以下のような取り組みを実施する
とした場合、利用したいと思うものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

【図表 5-3 利用したい男女共同参画支援内容】



<全体> (図表 5-3)

利用したい男女共同参画支援内容は、「経済的支援 (補助金や減税など)」が 39.4%で最も高く、以下、「事業所や労働者のための相談支援の充実」が 23.7%、「事業所 (企業) の取組事例、関連情報、ノウハウの提供」が 21.7%、「広報誌やパンフレットによる事業所への啓発」が 20.5%と続いている。また、「特にない」が 28.5%みられた。

<事業所規模別> (図表 5-3-1)

利用したい支援内容では、30～49人以外のすべての規模で「経済的支援(補助金や減税など)」が最も高く、特に50人以上で54.1%と全体に比べて高い。30～49人で「男女共同参画推進のための講座やセミナーの実施」「事業所における研修会などへの講師派遣・支援」の割合が全体に比べて10ポイント以上高くなっている。

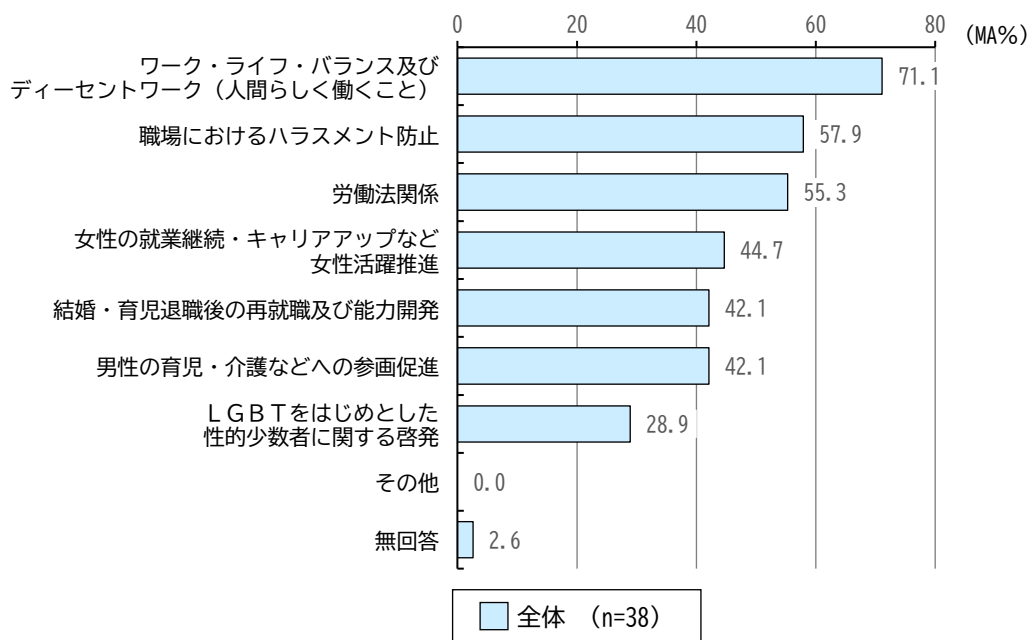
【図表 5-3-1 事業所規模別 利用したい男女共同参画支援内容】

	n	経済的支援(補助金や減税など)	事業所や労働者のための相談支援の充実	事例、事業所(企業)の提供(情報、ノウハウ)	広報誌やパンフレットによる事業所への啓発	事件業所への雇用指導・助言	男女共同参画推進のための講座やセミナーの実施	情報交換の場の提供	他の企業・団体などの講師派遣・研修会など	事業所における研修会など	企業向けセミナーの開催	男女共同参画推進のための講座やセミナーの実施	市ホームページなどでの掲載	その他	特になし	無回答
全体	上段/実数 下段/MA%	249 100.0	98 39.4	59 23.7	54 21.7	51 20.5	46 18.5	38 15.3	31 12.4	25 10.0	21 8.4	16 6.4	-	71 28.5	3 1.2	
事業所規模別	19人以下	126 100.0	47 37.3	28 22.2	28 22.2	22 17.5	17 13.5	15 11.9	13 10.3	10 7.9	8 6.3	9 7.1	-	46 36.5	2 1.6	
	20～29人	48 100.0	21 43.8	13 27.1	10 20.8	10 20.8	12 25.0	8 16.7	10 20.8	6 12.5	4 8.3	3 6.3	-	10 20.8	-	
	30～49人	35 100.0	8 22.9	7 20.0	10 28.6	10 28.6	8 22.9	9 25.7	4 11.4	7 20.0	3 8.6	2 5.7	-	9 25.7	1 2.9	
	50人以上	37 100.0	20 54.1	9 24.3	6 16.2	8 21.6	7 18.9	5 13.5	4 10.8	1 2.7	5 13.5	2 5.4	-	5 13.5	-	

(4) 関心のある講座・研修内容

【問 21 で「6. 男女共同参画推進のための講座やセミナーの実施」と答えた方にお聞きします。】
問 21-1 どのような内容の講座や研修会に興味・関心がありますか。(〇はいくつでも)

【図表 5-4 関心のある講座・研修内容】



<全体> (図表 5-4)

関心のある講座・研修内容は、「ワーク・ライフ・バランス及びディーセントワーク (人間らしく働くこと)」が71.1%で最も高く、「職場におけるハラスメント防止」が57.9%、「労働法関係」が55.3%で続いている。

(5) 自由回答一覧

問 22 男女共同参画社会の実現に向けたご意見、ご要望がありましたらお聞かせください。

(1) 男女共同参画実現に向けて必要なこと

男女共同参画の実現に向けて必要な取り組みや考え方に関する記述は計3件であった。

記述内容	回答数
会社や企業だけに整備を求めるのではなく女性に対しても教育の機会を行政が行うべきだと思う	1
制度が右往左往しないで欲しい	1
男女共同参画社会の実現は不必要	1
計	3

(2) 男女共同参画実現に対する所感・意見、その他所感・意見

男女共同参画の実現に対する所感や意見は計16件であった。

記述内容	回答数
実現に向けて取り組みを前向きに考えたい	3
男女と分けて考える考え方自体に問題がある	1
女性社員にだけ寄り添うような政策は長続きしないと思う	1
やりたくない男性に押し付けなくても、やりたい女性に補助金や制度を整えた方が早く、上手く社会が回る	1
福祉のお仕事で男女同じく役割分担して活躍している	1
意識が低い内容が多いことを改めて感じた。学ぶことが大切だと思いました	1
女性が多い職場で男性の方が肩身が狭い思いをしているケースも存在する事を知っておいて頂きたい	1
課題を感じることも少なくない。難しい時代だと常に感じています	1
女性職員の比率が高いが、環境整備が進んで責任ある立場に就こうとする方が増えてほしい	1
企業側の負担が大きく、中小企業にはハードルが高い	1
年齢や性別に関係なく、自分を大切にするように相手も重んじることだと考える	1
既に共同参画が確立している業種	1
みんながこれまでの枠組みや常識にとらわれず自由に生きれば良いと思う	1
現段階では、ある一定の理解はしておりますが直面したことがない	1
計	16

VIII. 調查票

■ 市民意識調査

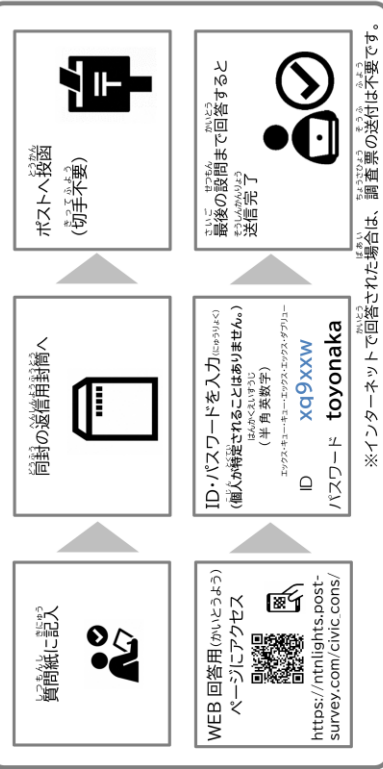
女性と男性がともに暮らしやすい豊中市をつくるためのアンケート

調査ご協力をお願い

白ごころは、市政にご協力いただき、誠にありがとうございます。
 豊中市では、「男女共同参画社会の実現」をめざし、令和4年度（2022年度）に第3次豊中市男女共同参画計画を策定し、取り組みを進めています。
 このたび、男女共同参画計画についてのこれまでの取り組みの成果や実態を把握し、今後の施策の検討の参考とさせていただきますため、アンケートを実施することとなりました。
 このアンケートは、市内にお住まいの18歳以上の市民の中から2,000人の方を無作為に選ばさせていただきます。ご記入いただいた内容はすべて統計的に処理いたしますので、回答者個人が特定されたり、それらの回答内容が公開されたりすることはありません。また、調査および施策研究の目的以外に使用することはありません。
 アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年（2025年）9月
 豊中市

アンケートの回答方法



※インターネットで回答された場合は、調査票の送付は不要です。

ご多忙のところ恐縮ではありますが、**9月26日(金)**までにご回答ください

〔アンケートに関するご質問・お問い合わせ先〕
 豊中市 市民協働部 人権政策課 女性支援係
 電話：06-6858-2654 FAX：06-6846-6003
 E-mail：danjokyoudoudou@city.toyonaka.osaka.jp

株式会社エムアールビジネス
 〒541-0051
 大阪市中央区備後町2-4-9 日本精化ビル6階

ご記入にあたってのお願い
 アンケートは封筒のあて名の方がお答えください。ご家族やご友人の方に代筆していただいても結構です。
 選択肢がある質問には、あてはまる番号に○をつけてください。
 回答できないうちや回答したくない場合は、次の質問に進みください。

はじめに、あなたご自身についてお聞きします。

- 問1 あなたの性別をお聞かせください。(○はひとつ)
- 1. 女性
 - 2. 男性
 - 3. その他・答えたくない
- 問2 あなたの年齢についてお聞かせください。(○はひとつ)
- 1. 18～19歳
 - 2. 20～29歳
 - 3. 30～39歳
 - 4. 40～49歳
 - 5. 50～59歳
 - 6. 60～69歳
 - 7. 70歳以上

問3 現在、あなたには配偶者・パートナー（事実婚などを含む/以下同じ）はいいますか。(○はひとつ)

- 1. 配偶者・パートナーがいる
- 2. 配偶者・パートナーはいない（離別・死別を含む）

問4 あなたと一緒に住んでいる方を、すべてお選びください。(○はいくつでも)

- 1. 配偶者・パートナー
- 2. 子ども
- 3. 孫
- 4. 父（配偶者・パートナーの父を含む）
- 5. 母（配偶者・パートナーの母を含む）
- 6. 祖父母（配偶者・パートナーの祖父母を含む）
- 7. 兄弟・姉妹（配偶者・パートナーの兄弟・姉妹を含む）
- 8. その他（具体的に）
- 9. 同居家族はいない

【問4で「子ども」と答えた方にお聞きします。】
 問4-1 二番下のお子さんについてお聞かせください。(○はひとつ)

- 1. 3歳未満
- 2. 3歳以上就学前
- 3. 小学生
- 4. 中学生
- 5. 高校生相当の年齢
- 6. 高校生相当の年齢より上

【すべての方にお聞きします。】

問5 あなたの職業をお聞かせください。(Oはひとつ)

1. 自営業主 (独立して自分で事業をしている人/経営者)
2. 家族従業者 (自営業主の家族でその自営業に従事している人)
3. 被雇用者 (会社・官公庁・個人商店などに雇われている人)
4. 家事専業 (主婦・主夫)
5. 無職 (年金生活を含む)
6. 学生
7. その他 (具体的に)

【問5で「3. 被雇用者」と答えだ方にお聞きします。】

問5-1 勤務形態をお聞かせください。(Oはひとつ)

1. 正社員・正職員
2. 派遣・契約・嘱託社員
3. パートタイム・アルバイト (週30時間以上)
4. パートタイム・アルバイト (週30時間未満)
5. その他 (具体的に)

【問3で「1. 配偶者・パートナーがいる」と答えだ方にお聞きします。】

問5-2 配偶者・パートナーの職業をお聞かせください。(Oはひとつ)

1. 自営業主 (独立して自分で事業をしている人/経営者)
2. 家族従業者 (自営業主の家族でその自営業に従事している人)
3. 被雇用者 (会社・官公庁・個人商店などに雇われている人)
4. 家事専業 (主婦・主夫)
5. 無職 (年金生活を含む)
6. 学生
7. その他 (具体的に)

【問5-2で「3. 被雇用者」と答えだ方にお聞きします。】

問5-3 配偶者・パートナーの勤務形態をお聞かせください。(Oはひとつ)

1. 正社員・正職員
2. 派遣・契約・嘱託社員
3. パートタイム・アルバイト (週30時間以上)
4. パートタイム・アルバイト (週30時間未満)
5. その他 (具体的に)

続いて、順番に質問にお答えください。

問6 一般的に、次の①～⑧の各分野で男女は平等になっていると思いますか。(それぞれOはひとつずつ)

	男性 この方 がいて いる	男性と 女性と この方 がいて いる	平均 になっ ている	女性と 男性と この方 がいて いる	女性 この方 がいて いる	わから ない
① 家庭生活で	→ 1	2	3	4	5	6
② 職場で	→ 1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場で(児童・生徒の立場から)	→ 1	2	3	4	5	6
④ 法律や制度で	→ 1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場で	→ 1	2	3	4	5	6
⑥ 地域活動・社会活動の場で (自治会、PTA、NPO、ボランティア など)	→ 1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・慣習・しきたりで	→ 1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体で	→ 1	2	3	4	5	6

問7 次の①～⑧の項目についてどのように感じますか。(それぞれOはひとつずつ)

	そう 思う	そう 思う	どちらか しつこ い	どちらか しつこ い	どちらか しつこ い	そう 思わ ない
① 妻や子どもを養うのは、男性の責任である	→ 1	2	3	4	5	6
② 結婚したら妻が夫の姓を名乗るのは当然だ	→ 1	2	3	4	5	6
③ 男の子は男らしく、女の子は女らしく 育てる方がよい	→ 1	2	3	4	5	6
④ 自分自身には、男女にかかわらず 同程度の教育や学歴を身につけさせたい	→ 1	2	3	4	5	6
⑤ 子どもが3歳くらいまでは 母親のもとで育てる方がよい	→ 1	2	3	4	5	6
⑥ 育児・介護休業は 男性より女性がとった方がよい	→ 1	2	3	4	5	6
⑦ 結婚しても 必ずしも子どもの自由であるから	→ 1	2	3	4	5	6
⑧ 結婚してもしなくてもどちらでもよい	→ 1	2	3	4	5	6

問8 「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どう思いますか。
(○はひとつ)

1. 賛成	問8-1へ
2. どちらかといえば賛成	
3. どちらかといえば反対	問8-2へ
4. 反対	
5. わからない	問9へ

【問8で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と答えた方にお聞きします。】

問8-1 その理由をお聞かせください。(○はいくつでも)

- 役割分担をした方が効率がよいと思うから
- 小さい頃からそう教えられてきたから
- 子どもの成長にとってよいと思うから
- 個人的にそうありたいと思うから
- 日本の伝統・美徳だと思うから
- 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
- 家事・育児・介護・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
- その他(具体的に)
- 理由を考えたことがない

【問8で「3. どちらかといえば反対」「4. 反対」と答えた方にお聞きします。】

問8-2 その理由をお聞かせください。(○はいくつでも)

- 男女平等に反すると思うから
- 小さい頃からそう教えられてきたから
- 男女がともに仕事と家庭に関わる方が、各個人や家庭にとってよいと思うから
- 女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから
- 少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事を必要があると思うから
- 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
- 妻が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとっていいと思うから
- 仕事に適した女性や、家事・育児に適した男性もいるから
- その他(具体的に)
- 理由を考えたことがない

問9 家庭での分担について、あなたはどのようなのが望ましいと思いますか。
また、実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。

(①～⑥の項目について、理想と現実それぞれ各項目に○はひとつずつ)

	理想 (全員お答えください)		現実 (配偶者・パートナーのお答えください)		現実 (配属者・パートナーのいる方のみ お答えください)	
	夫 ・ 主 ・ に 関 与 す る 活 動	妻 ・ 主 ・ に 関 与 す る 活 動	夫 ・ 主 ・ に 関 与 す る 活 動	妻 ・ 主 ・ に 関 与 す る 活 動	夫 ・ 主 ・ に 関 与 す る 活 動	妻 ・ 主 ・ に 関 与 す る 活 動
① 生活費を得る	→ 1	2 3 4	1	2 3 4	1	2 3 4 5
② 家計の管理	→ 1	2 3 4	1	2 3 4	1	2 3 4 5
③ 日常の家事(食事の したく、掃除、洗濯)	→ 1	2 3 4	1	2 3 4	1	2 3 4 5
④ 育児	→ 1	2 3 4	1	2 3 4	1	2 3 4 5
⑤ 高齢者、病人の介 護・看護	→ 1	2 3 4	1	2 3 4	1	2 3 4 5
⑥ 自治会、町内会など 地域活動への参加	→ 1	2 3 4	1	2 3 4	1	2 3 4 5

問10 次の地域活動について、①現在参加している活動と、②今後(または引き続き)参加したい活
動を、それぞれすべてお選びください。(それぞれ○はいくつでも)

自治会・町内会の活動	→ 1	2 3 4	5 6	7 8	9 10 11
P T A や子ども会の活動	→ 1	2 3 4	5 6	7 8	9 10 11
スポーツ・学識の活動	→ 1	2 3 4	5 6	7 8	9 10 11
地域におけるボランティア活動や N P O (非営利団体) や ボランティア活動など	→ 1	2 3 4	5 6	7 8	9 10 11
民生委員・市 民サービスなど公的 な立場での活動	→ 1	2 3 4	5 6	7 8	9 10 11
高齢者や障害者などのための 福祉活動	→ 1	2 3 4	5 6	7 8	9 10 11
消費生活問題など に関する市民活動	→ 1	2 3 4	5 6	7 8	9 10 11
環境保全のための活動 清掃・美化	→ 1	2 3 4	5 6	7 8	9 10 11
防犯活動や防災活動	→ 1	2 3 4	5 6	7 8	9 10 11
まちづくりに関する活動	→ 1	2 3 4	5 6	7 8	9 10 11
特になし	→ 1	2 3 4	5 6	7 8	9 10 11

【問10で、ひとつでも「1.1. 特にない」と答えた方にお聞きします。】

問10-1 それほどどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

1. 仕事が忙しいから
2. 家事・育児・介護で忙しいから
3. 健康状態がおもわしくないから
4. 活動に魅力がないから
5. 人間関係がわずらわしいから
6. 活動の情報が得られないから
7. 参加するきっかけがないから
8. あまり関心がないから
9. 一緒に参加する仲間がないから
10. 配偶者・パートナーなどが進んで参加しており、自分が参加する必要はないと考えるから
11. その他 (具体的に)

【すべての方にお聞きします。】

問11 今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと感じますか。(〇はいくつでも)

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する
5. 社会の中で男性による家事・子育て・介護・地域活動についてもその評価を高める
6. 職場の上司や同僚が、男性の家事・子育て・介護・地域活動に理解を示す
7. 労働時間短縮や休暇制度の普及で、仕事以外の時間をより多く持つようにする
8. 男性が家事・子育て・介護・地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
9. 国や地方自治体の研修などにより、男性の家事・子育て・介護などの技能を高める
10. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめる
11. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける
12. その他 (具体的に)
13. 特に必要なことはない

問12 あなたは、女性の働き方についてどのような考えですか (〇はいくつ)

1. 結婚や出産に関わらず、仕事を続ける方がよい
2. 結婚するまでは仕事をもち、結婚後は家事に専念する方がよい
3. 子どもができてから仕事をもち、子どもができた後家事や育児に専念する方がよい
4. 育児の時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい
5. 育児の時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい
6. 仕事にはつけない方がよい
7. その他 (具体的に)
8. わからない

【問13は、「収入を得る仕事をしている」方にお聞きします。】

問13 ご自身の職場において、次の①～⑧の項目について男女は平等になっていると思えますか。(それぞれ〇はひとつずつ)

	優男 遇性 の 方 が い る	優男 性 の 方 が い る と い え ば	平 等 に な っ て い る	優女 と 優男 性 の 方 が い る と い え ば	優女 遇性 の 方 が い る	わ か ら な い	
① 採用・募集	→	1	2	3	4	5	6
② 仕事の内容・仕事の負担	→	1	2	3	4	5	6
③ 昇給や賞金水準	→	1	2	3	4	5	6
④ 能力評価 (業績評価・人事考課など)	→	1	2	3	4	5	6
⑤ 昇進・昇格・管理職への登用	→	1	2	3	4	5	6
⑥ 研修の機会・内容	→	1	2	3	4	5	6
⑦ 働き続けやすい雰囲気	→	1	2	3	4	5	6
⑧ 出産・育児・介護休暇のとりやすさ	→	1	2	3	4	5	6

【問14は、現在「収入を得る仕事をしていない」方にお聞きします。】

問14 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思えますか。(〇はひとつ)

1. ぜひ仕事につきたい
2. できれば仕事につきたい
3. 仕事につきたいと思わない
4. わからない

【問14-1・問14-2は、問14で「ぜひ・できれば」仕事につきたい方にお聞きします。】

問14-1 仕事につきたいのに、仕事についていけない理由をお聞かせください。(〇はいくつでも)

1. やりたい仕事がないから
2. 応募しても断られるから
3. 家事や育児をしているから
4. 介護や看護をしているから
5. 定年退職したから
6. 健康上の理由で
7. 学生だから
8. その他 (具体的に)

問14-2 仕事につく上で、不安を感じることや困ることはありませんか。(〇はいくつでも)

1. 自分のしたい仕事につけるか
2. 自分の資格や能力が通用するか
3. 職場の人間関係がうまくいくか
4. 賞金や通勤距離など、望む労働条件が得られるか (具体的に)
5. 自分の健康状態や体力
6. 家事・育児・介護との両立ができるか
7. こども園・学童保育などを利用できるか
8. 年齢制限に適合するか
9. その他 (具体的に)
10. 特にない

【すべての方にお聞きします。】

問15 もし、あなたが働き続けたい、あるいは働き始めたいと考えた場合、どのようなことが大切だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 男女が協力して家事や育児・介護などをする
2. 保育所・幼稚園・こども園や学童保育などの保育環境が整っている
3. 働きながら介護ができるようにホームヘルパーや施設などのサービスが充実している
4. 労働者の権利に関する情報提供や相談窓口が充実している
5. 再就職を希望する女性のための講座やセミナーが充実している
6. 生活状況に応じて柔軟な働き方を選ぶことができる
7. 社会保険が整っている(厚生年金など)
8. 職場での男女間の格差がない(募集・採用や配属・昇進など)
9. 残業がない、あるいは少ない
10. 職場に介護・育児休業制度がある
11. 介護・育児休業がとりやすい職場の雰囲気がある
12. その他(具体的に)

問16 1日のうちで、あなたが仕事(在宅勤務を含む)や、家事・育児・介護などをしている平均時間は、平日、休日それぞれどのくらいですか。(それぞれ〇はひとつずつ)

(1) 仕事(在宅勤務を含む) ※通勤時間を含めた時間を記載してください。

① 平日 (〇はひとつ)	② 休日 (〇はひとつ)
1. なし	1. なし
2. 4時間未満	2. 4時間未満
3. 4時間～6時間未満	3. 4時間～6時間未満
4. 6時間～8時間未満	4. 6時間～8時間未満
5. 8時間～10時間未満	5. 8時間～10時間未満
6. 10時間～12時間未満	6. 10時間～12時間未満
7. 12時間以上	7. 12時間以上

(2) 家事・育児・介護など

① 平日 (〇はひとつ)	② 休日 (〇はひとつ)
1. ほとんどない	1. ほとんどない
2. 30分未満	2. 30分未満
3. 30分～1時間未満	3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 1時間～2時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 2時間～3時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 3時間～4時間未満
7. 4時間～5時間未満	7. 4時間～5時間未満
8. 5時間以上	8. 5時間以上

問17 あなたは、希望として、どのような暮らし方をしたいと思いますか。(〇はひとつ)

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活(*)」を優先したい (*)地域活動、学習・趣味・付き合いなど
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8. その他(具体的に)

問18 あなたの理想の生活に最も近いものはどれですか。(〇はひとつ)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8. その他(具体的に)

問19 配偶者・パートナー・交際相手からの暴力(なぐる・ける・無視するなどの身体的・精神的な暴力など)について、あなたが知っている相談窓口をすべてお選びください。(〇はいくつでも)

1. 豊中市配偶者暴力相談支援センター
2. 大阪府女性相談センター
3. 大阪府子ども家庭センター
4. 警察署、交番
5. 民間の専門家や専門機関(弁護士・カウンセリング機関・民間シェルターなど)
6. 民生・児童委員
7. 人権擁護委員、法務局
8. その他(具体的に)
9. 具体的な名称は知らないが、相談窓口があることは知っている
10. 相談できる窓口があることを知らなかった

【すべての方にお聞きします。】

問20 配偶者・パートナー・交際相手から①～⑳のようなことが行われた場合、暴力にあたると思いますか。それぞれについてお聞かせください。(縦方向にそれぞれ〇はひとつずつ)
また、あなたが配偶者・パートナー・交際相手から実際にされたことがあるものを、すべてお選びください。(縦方向に〇はいくつでも)

	暴力にあたると思いますか	ない場合	暴力にあたることは	あなたがた
	1	2	3	あつた
① 何を言っても長期間無視される	→	1	2	3
② 大声でとどめられる	→	1	2	3
③ あなたが大切にしているものを、わざと壊したり盗られたりする	→	1	2	3
④ あなたの交友関係や電話・メール・SNSを監視されたり、外出を制限される	→	1	2	3
⑤ 実家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがられたり禁止されたりする	→	1	2	3
⑥ 十分な生活費を渡さない	→	1	2	3
⑦ お金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされたり、借金を強要されたりする	→	1	2	3
⑧ 「たれののおかげで、お前は食われるんだ」「かいじょうなし」などと言われる	→	1	2	3
⑨ げんこつや身体を傷つける可能性があるもので、なぐるふりをして、おどされ、押したり、つかんだり、つねったり、こついたりされる	→	1	2	3
⑩ 骨折させられたり、鼓膜をやぶられたりする	→	1	2	3
⑪ 命の危険を感じるようなことをされる	→	1	2	3
⑫ あなたが肩たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	→	1	2	3
⑬ 性的な画像などをばらまかれる	→	1	2	3
⑭ 避妊に協力しない	→	1	2	3
⑮ あなたの意に反して性的な行為を強要される	→	1	2	3
⑯ 子どもが見ている前であなたに暴力をふるう	→	1	2	3
⑰ あなたを脅すために子どもに暴力をふるう	→	1	2	3
⑱ 子どもと仲良くするのを嫌う	→	1	2	3
⑳ 子どもを取り上げようとする	→	1	2	3

【問20で、ひとつでもされたことがあったと答えた方にお聞きします。】
問20-1 そのことをだれかに相談しましたか。(〇はいくつでも)

1. 家族や親族
2. 友人・知人
3. とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ
4. 学校関係者(教員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなど)
5. 配偶者暴力相談支援センター・DV 専門相談機関
(大阪府女性相談センター・豊中市配偶者暴力相談支援センターなど)
6. 子どもに関する機関(子ども家庭センター・市役所子育て担当・保育所など)
7. 警察、交番
8. 公的機関(市役所など)の相談窓口・電話相談など
9. 保健所・保健センター(保健師・精神保健福祉士など)
10. 民間の専門家や専門機関(弁護士・カウンセリング機関・民間シェルターなど)
11. 医療関係者
12. 民生・児童委員
13. 人権擁護委員、法務局
14. その他(具体的に)
15. 相談したかったが、しなかつた(できなかつた)
16. 相談しようと思わなかつた

問20-3へ

【だれかに相談したことがある方にお聞きします。】

問20-2 相談してよかつたと感じたことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

1. 具体的な対応や方法の提示をしてくれた
2. 自分に何が起きているのかが理解できた
3. DVや暴力による支配についての理解がすすんだ
4. 相談先があることがわかつた
5. 一人ではないと感じられた
6. 自分が悪いのではないと理解ができた
7. 安全について対応できた
8. 相手からの暴力が弱くなった
9. 相手からの暴力がなくなつた
10. 気持ちが楽になつた
11. 経済的な不安が緩和した
12. いざというときに相談できることを知つた
13. 相手から離れようと思ふ気持ちが強くなつた
14. 自分の強さに気付いたり、強い人間だと思えるようになった
15. その他(具体的に)
16. 相談してよかつたことはない

【問20-1で「15. 相談したかったが、しなかった（できなかった）」「16. 相談しようと思わなかった」と答えた方にお聞きします。】

問20-3 相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。（〇はいくつでも）

1. どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられたから
4. 他人を巻き込みたくないから
5. そのことについて思い出しにくかったから
6. 相談することで自分が傷つきたくないから
7. 相手の仕返しが怖かったから（暴力・仕返し・いやがらせなど）
8. 世間体が悪いと思ったから
9. 知られると仕事や学校などで今まで通りのつきあいができなくなると思ったから
10. 「誰にも言うな」と脅されたから
11. 監視が厳しく連絡や相談ができなかった
12. 相談してもむだだと思ったから
13. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
14. 自分にも悪いところがあると思ったから
15. 相談するほどのことではないと思ったから
16. 自分が受けている行為が暴力とは認識していなかったから
17. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
18. その他（具体的に）

【すべての方にお聞きします。】

問21 配偶者・パートナー・交際相手に①～⑳のような行為をすることは、暴力にあたると思いますか。それぞれについてお聞かせください。（縦方向にそれぞれ〇はひとつずつ）

また、あなたが配偶者・パートナー・交際相手に実際にしたことがあるものを、すべてお選びください。（縦方向に〇はいくつでも）

	暴力にあたると思う	ないと思う	暴力にあたると思わない	暴力にあたると思わない	とあなたが感じるもの
① 何を言われても長期無視する	→ 1	2	3	→ 1	1
② 大声でどなる	→ 1	2	3	→ 1	2
③ 配偶者やパートナーが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする	→ 1	2	3	→ 1	3
④ 交友関係や電話・メール・SNSを監視したり、外出を制限する	→ 1	2	3	→ 1	4
⑤ 美家の親・きょうだい・友人との付き合いをいやがったり禁止する	→ 1	2	3	→ 1	5
⑥ 十分な生活を渡さない	→ 1	2	3	→ 1	6
⑦ お金を取り上げたり、預貯金を勝手におろしたり、借金を強要する	→ 1	2	3	→ 1	7
⑧ 「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしようなし」などのことを言う	→ 1	2	3	→ 1	8
⑨ げんこつや身体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをして、おどす	→ 1	2	3	→ 1	9
⑩ 押しついたり、つかんだり、つねったり、こついたりする	→ 1	2	3	→ 1	10
⑪ 骨折させたり、鼓膜をやぶったりする	→ 1	2	3	→ 1	11
⑫ 命の危険を感じさせるようなことをする	→ 1	2	3	→ 1	12
⑬ 配偶者やパートナーが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	→ 1	2	3	→ 1	13
⑭ 性的な画像などをばらまく	→ 1	2	3	→ 1	14
⑮ 避妊に協力しない	→ 1	2	3	→ 1	15
⑯ 配偶者やパートナーの意に反して性的な行為を強要する	→ 1	2	3	→ 1	16
⑰ 子どもが居る前で配偶者やパートナーに暴力をふるう	→ 1	2	3	→ 1	17
⑱ 配偶者やパートナーを辱すために子どもに暴力をふるう	→ 1	2	3	→ 1	18
⑲ 子どもと仲良くするのを嫌う	→ 1	2	3	→ 1	19
⑳ 子どもを取り上げる	→ 1	2	3	→ 1	20
					21 どれも ない

【男性の方のみにお聞きします。】

問26 あなたが「男性はつらい」と感じるのは、どのような時ですか。(〇はいくつでも)

1. なにかにつけ「男だから」「男のせせせ」と言われる
2. 「妻子を養うのは男の責任だ」と言われる
3. 「男なのに酒が飲めないのか」とからかわれる
4. 「力が弱い」「運動が苦手だ」とバカにされる
5. 仕事の責任が大きい、仕事ができて当たり前だとされる
6. 自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある
7. 衣食住のことが十分にできなくて生活が不便である
8. 家族とのコミュニケーションがうまくいかない
9. その他(具体的に)
10. 「男性はつらい」と感じたことはない

【すべての方にお聞きします。】

問27 男女共同参画社会(※)を推進していくために、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 市の政策・事業に対して、市民の声を聞く場や制度を充実させる
2. 民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むように支援する
3. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実させる
4. 職場において男女の均等な取扱いが図られるよう企業などに働きかけ
5. 男女共同参画に努力している企業を市民に対して紹介したり表彰したりする
6. 女性の能力開発や就労支援を充実させる
7. 男性の育児や介護への参加、地域活動などが進むように取組みを充実させる
8. 労働時間短縮や在宅勤務の普及・啓発を行う
9. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
10. 子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
11. 保育の施設・サービスを充実させる
12. 高齢者の施設や介護サービスを充実させる
13. 市民が、身近なこととして男女共同参画について考える社会教育の機会を増やす
14. 若年層からの男女共同参画に関する教育を充実させる
15. お互いの性を尊重し、男女とも生涯を通じた健康づくりのための支援をする
16. 女性に対する暴力の防止や被害者への支援を充実させる
17. その他(具体的に)
18. 男女共同参画社会を推進すべきではない

※男女共同参画社会：男女が性別にかかわらず個性と能力を發揮し、等しく参加できる社会

問28 防災・災害対応において、性別に配慮した対応が必要だと思うものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

1. 避難所の設備(男女別のトイレ・更衣室・授乳室・洗濯干場など)
2. 避難所運営責任者に男女がともに配置され、運営や被災者対応に両方の視点が入ること
3. 災害時の救援医療体制(乳幼児・高齢者・障害者・妊産婦のサポート体制)
4. 公的施設の備蓄品のニーズ把握や災害時に支給する際の配慮
5. 被災者に対する相談体制
6. 自治会などの地域における防災訓練に男女がともに参画し両方の視点が入ること
7. その他(具体的に)
8. 特にない

問29 あなたは、豊中市の男女共同参画推進の拠点施設「とよなか男女共同参画推進センター」について(豊中駅前)を利用したことがありますか。(〇はひとつ)

1. 利用したことがある
2. 利用したことはないが知っている
3. 知らない

問30 豊中市の男女共同参画推進の拠点施設「とよなか男女共同参画推進センター」について(豊中駅前)を利用したいと思うものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

1. 男女共同参画に関する幅広い情報・書籍・資料の提供サービス
2. 調査・研究サービス
3. 相談サービス
4. 学習活動・NPO・ボランティアの活動支援
5. 交流の場
6. 講演会・シンポジウム・フォーラム
7. 男性向け講座
8. 女性の就業支援(再就職に向けてのパソコン講座など)
9. 女性の人材育成
10. その他(具体的に)
11. わからない

【すべての方にお聞きします。】

問31 あなたは、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律(女性支援新法)が施行されたことを知っていますか。(〇はひとつ)

1. 知っている
2. 知らない

※この法律の支援対象は、性的な被害、家庭の状況、地域との関係性その他様々な事情により日常生活又は社会生活を円滑に営む上で困難な問題のある女性(そのおそれのある女性を含む。)となります。
(困難な問題の例)性暴力や性被害の被害、生活困難、デートDV、DV被害の被害

問 32 困難な問題を抱えている状況から回復するためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

1. 困難な状況に気づいてくれる人の存在
2. 安心してすごせる場所(家・職場・学校以外の場所)
3. 経済的な自立
4. 実際に支援制度や相談窓口に助けを求めるためのサポート
5. 弁護士や医師、カウンセラーなどの専門的な知識を持っている人からのサポート
6. 相談支援の充実(SNSによる相談、電話相談、相談窓口等)
7. その他(具体的に)
8. 特に必要なことはない

問33 男女共同参画社会の実現に向けたあなたのご意見、ご要望をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

女性と男性がともに暮らしやすい 豊中市をつくるためのアンケート

調査ご協力をお願い

日ごろは、市政にご協力いただき、誠にありがとうございます。
豊中市では、「男女共同参画社会の実現」をめざし、令和4年度（2022年度）に第3次豊中市男女共同参画計画を策定し、取り組みを進めています。

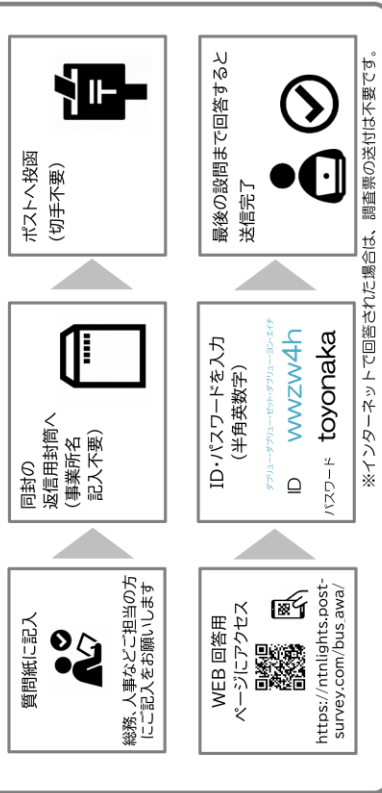
このたび、市内の事業所における男女共同参画及び女性の活躍推進に関する取組状況や課題などを把握し、今後の施策の検討の参考とさせていただきます。アンケートを実施することとなりました。

このアンケートは、豊中市内の従業員10人以上の事業所から900事業所を無作為に選ばせていただき実施するものです。ご記入いただいた内容はすべて統計的に処理いたしますので、事業所名やそれぞれの回答内容が公開されることはありません。

また、調査および施策研究の目的以外に使用することはありません。
アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和7年（2025年）9月
豊中市

アンケートの回答方法



※インターネットで回答された場合は、調査票の送付は不要です。

ご多忙のところ恐縮ではありますが、**9月26日（金）**までにご回答ください

(アンケートに関するご質問・お問い合わせ先) 豊中市 市民協働部 人権政策課 女性支援係 TEL：06-6858-2654 FAX：06-6846-6003 E-mail：danjokyoudou@city.toyonaka.osaka.jp	(調査実施委託先) 株式会社エムアールシス 〒541-0051 大阪市中央区備後町2-4-9 日本精ビル6階
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------

はじめに、貴事業所の概要についてお聞きします。

問1 貴事業所の業種をお聞かせください。(主なものをひとつに○)

1. 農林水産業
2. 建設業（土木・建築・設備工事など）
3. 製造業
4. 電気・ガス・熱供給・水道業
5. 情報通信業（電話・放送・インターネットなど）
6. 運輸業・郵便業
7. 卸売業・小売業
8. 金融業・保険業
9. 不動産業・物品賃貸業
10. 学術研究・専門・技術サービス業
11. 宿泊業・飲食サービス業
12. 生活関連サービス業・娯楽業
13. 教育・学習支援業
14. 医療・福祉
15. その他のサービス業
16. その他（具体的に)

問2 貴事業所の法人形態をお聞かせください。(○はひとつ)

1. 法人（株式会社・有限会社・合資会社など）
2. 上記以外の法人（財団法人・社団法人・学校法人・社会福祉法人・医療法人など）
3. 個人営業者
4. NPO法人（特定非営利活動法人）
5. その他（具体的に)

問3 貴事業所の事業所形態をお聞かせください。(○はひとつ)

1. 単独事業所（他の場所に本社、支社などを持たない事業所）
2. 本社・本店（他の場所に支社などを持ち、それらを統括する事業所）
3. 支社・支店・営業所などの支所・工場（他の場所にある本社などの統括を受けている事業所）

問4 貴事業所の常時雇用者数を雇用形態別、男女別に記入してください。該当する方がいない場合は「0（ゼロ）」と記入してください。

① 正規雇用（正社員・正職員）		② 正時雇用以外（パート・アルバイト・嘱託・派遣職員など）	
男性	女性	男性	女性
人	人	人	人

問5 貴事業所の管理職などの人数を男女別に記入してください。管理職は、従業員を指揮・監督する立場にある課長以上の役職とします。該当する方がいない場合は「0（ゼロ）」と記入してください。

① 部長以上相当職		② 課長相当職		③ 係長相当職	
男性	女性	男性	女性	男性	女性
人	人	人	人	人	人

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についておたずねします。

問6 貴事業所における、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）への取り組みについて、あてはまるものをすべてお選びください。（〇はいくつでも）

1. 積極的に取り組んでいる（労働関係などで定められた範囲以上に）
2. 労働関係などで定められた範囲で取り組んでいる
3. 現在は取り組んでいないが、今後の取り組み実施を予定している
4. 必要性は感じるが、取り組み実施の予定はない
5. 取り組みに反対しないが、必要性は感じない
6. ワーク・ライフ・バランスへの取り組みに反対だ → 問7へお進みください
7. ワーク・ライフ・バランスを知らない

問6-1 貴事業所でのワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）への取り組み推進において、どのようなことが阻害要因になると思いますか。（〇はいくつでも）

1. 制度導入や運用のコストがかかる
2. 雇用管理が複雑になる
3. 様々な価値観を持つ社員がいるため共感を得られにくい
4. どのような取り組みをすればいいかわからない
5. その他（具体的に）
6. 阻害要因になるものはない

問6-2 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の充実のために、重要だと思うものをすべてお選びください。（〇はいくつでも）

1. 経営陣の理解の促進
2. 管理職への周知の徹底・理解の促進
3. 人事・労務担当への周知徹底・理解促進
4. 従業員への面立支援制度の情報提供
5. 事業所内の相談窓口の設置
6. 労使の話し合い
7. その他（具体的に）
8. 特にない

問7 貴事業所で、令和6年（2024年）4月～令和7年（2025年）3月の期間に育児休業（産前・産後休業を除きます）・介護休業を取得した従業員はいいますか。申請中も含めて取得した人数を男女別に記入してください。

- ① 育児休業（〇はひとつ）
1. 取得者がいる（ ）人 男性（ ）人 女性（ ）人
 2. 対象者がいなかったため取得者はない
 3. その他の理由で取得者はいない→（具体的な理由）
- ② 介護休業（〇はひとつ）
1. 取得者がいる（ ）人 男性（ ）人 女性（ ）人
 2. 対象者がいなかったため取得者はない
 3. その他の理由で取得者はいない→（具体的な理由）

【問7で育児休業・介護休業を取得した男性従業員がいると答えた方にお聞きします。】

問8 育児休業や介護休業を取得した男性従業員の人数を、取得期間別にお聞かせください。

	1週間未満	1週間～2週間未満	2週間～1か月未満	1か月～3か月未満	3か月～6か月未満	6か月～1年未満	1年以上
① 育児休業	人	人	人	人	人	人	人
② 介護休業	人	人	人	人	人	人	人

問9 貴事業所において、従業員が育児や介護と仕事の両立を支援するために、取り組んでいることをすべてお選びください。（〇はいくつでも）

1. 育児・介護における休業制度を設けている
2. 育児休業や介護休業取得者への手当てを支給している
3. 配偶者出産休暇制度を設けている
4. 転勤の免除制度や勤務地限定正社員制度を設けている
5. フレックスタイム制など柔軟な勤務制度を設けている
6. 勤務時間短縮などの措置を講じている
7. 時間外労働の免除または制限制度を設けている
8. 在宅勤務制度（テレワーク）を設けている
9. 有給休暇取得の促進を実施している
10. 半日・時間単位で取得できる有給休暇制度を設けている
11. 結婚・出産・介護などで一旦退職した従業員に対する再雇用制度を設けている
12. 育児・介護休業者への職場復帰プログラムを実施している
13. 事務所内に託児施設を設けている
14. その他（具体的に）
15. 特にない

問10 貴事業所において育児休業や介護休業制度を定着させるにあたり、どのようなことが問題になると思いますか。（〇はいくつでも）

1. 休業期間中の代替要員の確保が難しい
2. 休業者の復帰後、代替要員の処遇が難しい
3. 休業期間が前後するなど、人員計画が立てにくい
4. 休業者の周りの人の業務負担が多くなる
5. 代替要員では業務が務まらない、又は効率が落ちる
6. 復帰時に技術・能力が低下する
7. 休業者のキャリア形成に遅れがでる
8. 現場管理職が従業員をマネジメントすることが難しくなる
9. 勤怠管理や適切な人事評価が難しい
10. 休業中の賞金などの負担が大変大きい（介護休業の場合は社会保険料等の負担あり）
11. 制度を利用しやすい雰囲気作りがない
12. 利用する人と利用しない人の不公平感がある
13. その他（具体的に）
14. 特にない

女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）についておたずねします。

問 15 以下①～⑭の女性社員の活躍推進（ポジティブ・アクション）の取り組みについて、貴事業所の状況をお聞かせください。（それぞれ○はひとつ）

	取組を実施している	取組の実施を予定している	取組の必要性を感じない	取組の必要性を感じない
① 女性従業員比率の目標設定など計画的な女性比率の向上	→ 1	2	3	4
② 女性の職域拡大のための女性の少ない職種や職務への配置	→ 1	2	3	4
③ 能力がある女性の管理職への積極的登用	→ 1	2	3	4
④ 性別に関係のない人事考課を実施している	→ 1	2	3	4
⑤ 性別に関係ない教育訓練や研修の実施	→ 1	2	3	4
⑥ 性別に関係なく多様な働き方ができる環境づくり（仕事と家庭の両立支援）	→ 1	2	3	4
⑦ 性別による役割分担意識解消のための研修・啓発	→ 1	2	3	4
⑧ 女性社員の活躍促進に関する相談窓口	→ 1	2	3	4
⑨ 女性の雇用・登用推進に関する担当者・責任者の選任など、企業の体制整備	→ 1	2	3	4
⑩ 人事異動による女性のさまざまな職務経験	→ 1	2	3	4
⑪ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）推進のための組織の風土改革や理解促進	→ 1	2	3	4
⑫ 女性社員へのハラスメント防止を目的とした管理職等への啓発や働きかけ	→ 1	2	3	4
⑬ 男性社員に対する家事や育児などへの参画促進に向けた啓発や働きかけ	→ 1	2	3	4
⑭ 女性の雇用・登用計画の策定・推進（女性活躍推進法や次世代育成支援対策推進法に基づく計画も含む）	→ 1	2	3	4

【問 15①～⑭のうちひとつでも「1. 取組を実施している」と答えた方にお聞きします。】

問 16 取り組みの結果、どのような成果がありましたか。（○はいくつでも）

1. 多様な視点を持つことにつながり、多方面へのニーズに対応できた
2. 女性従業員の定着率が向上した
3. 男女とも意欲や能力のある人材の活用が進んだ
4. 管理職に女性を登用する機会が高まった
5. 生産性が高まり事業所の利益につながった
6. 外部の評価・事業所のイメージが向上した
7. 就職希望者が増加した
8. その他（具体的に）
9. 持にない

問 17 貴事業所において女性社員の活躍を推進するにあたり、どのようなことが問題になると感じますか。（○はいくつでも）

1. 女性の勤続年数が平均的に短い
2. 時間外労働、深夜労働をさせにくい
3. 家庭生活に配慮する必要がある
4. 女性の昇進意欲が低い
5. 女性社員のキャリアアップに関する意欲や理解が足りない
6. ロールモデルとなる人間が少ない
7. 性別役割分担意識が強っており、男女で従事する職務内容が分かれている
8. 顧客や取引先を含め、社会一般に職業者としての女性への信頼度が低い
9. 短時間勤務や在宅勤務などができる制度が整備されていない
10. 女性のための設備の整備（トイレや更衣室など）にコストがかかる
11. 経営者や管理職が職務や育成について男女で差をつけている
12. その他（具体的に）
13. 持にない

問 18 貴事業所では、女性活躍推進法における一般事業主行動計画を策定していますか。（○はひとつ）

1. 策定済み
2. 策定予定（時期：今年度中 / 来年度中 / 時期未定）
3. 策定予定なし
4. 一般事業主行動計画を知らない

男女共同参画の推進についておたずねします。

問19 国、府、市が定めている次の認証制度等を知っていますか。(それぞれ○はひとつ)

	取得している	取得していないが知っている	知らない
1. えるぼし認定※1	→ 1	2	3
2. くるみん認定※2	→ 1	2	3
3. 大阪府「男女いきいき」各種制度※3	→ 1	2	3
4. 豊中市女性活躍推進事業者認証制度※4	→ 1	2	3

※1 女性の活躍に関する取組の実施状況が優良である事業者を厚生労働大臣が認定するもの
 ※2 次世代育成支援対策推進法に基づき「子育てサポート企業」である事業者を厚生労働大臣が認定するもの
 ※3 男性も女性も働きやすい職場づくりに取り組む事業者を応援する大阪府の制度。男女いきいき・元気宣言事業者登録制度、男女いきいき事業者認証制度、男女いきいき表彰制度の3つがある。
 ※4 女性活躍推進に積極的に取り組んでいる市内事業者等を「女性活躍推進事業者」として認証する制度

問20 男女共同参画に関する事業所向けの支援などがあれば受けたいと思いませんか。

(○はひとつ)

1. ぜひ受けたい
 2. 受けてみてよい
 3. 受けたいと思わない

問21 豊中市が、事業所における男女共同参画推進のために以下のような取り組みを実施するとした場合、利用したいと思うものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1. 事業所や労働者のための相談支援の充実
 2. 事業所への雇用・労働条件確保のための指導・助言
 3. 事業所（企業）の取組事例、関連情報、ノウハウの提供
 4. 他の企業・団体などの情報交換の場の提供
 5. 事業所における研修会などへの講師派遣・支援
 6. 男女共同参画推進のための講座やセミナーの実施
 7. 広報誌やハンドレットによる事業所への啓発
 8. 経済的支援（補助金や減税など）
 9. 男女共同参画に取り組む企業向けのインセンティブ
 例）市ホームページでの企業の紹介や入札における加算評価など
 10. 市ホームページなどでの男女共同参画への取り組み実施事業所のPR
 11. その他（具体的に
 12. 特にない

【問21で「6. 男女共同参画推進のための講座やセミナーの実施」と答えた方にお聞きします。】

問21-1 どのような内容の講座や研修会に興味・関心がありますか。(○はいくつでも)

1. 女性の就業継続・キャリアアップなど女性活躍推進
 2. 結婚・育児退職後の再就職及び能力開発
 3. 男性の育児・介護などへの参画促進
 4. ワーク・ライフ・バランス及びディー・セーネットワーク（人間らしく働くこと）
 5. 職場におけるハラスメント防止
 6. LGBTをはじめとした性的少数者に関する啓発
 7. 労働法関係
 8. その他（具体的に)

問22 男女共同参画社会の実現に向けたご意見、ご要望がありましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

女性と男性がともに暮らしやすい豊中市をつくるためのアンケート

結果報告書

発行 令和8年（2026年）3月

豊中市市民協働部人権政策課

〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1 TEL : 06-6858-2654